

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

**平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 東海大学 2 大学名 東海大学

3 研究組織名 マイクロ・ナノ研究開発センター

4 プロジェクト所在地 神奈川県平塚市北金目 4 丁目 1-1

5 研究プロジェクト名 高分子超薄膜から創成する次世代医用技術

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
喜多 理王	理学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 8 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
岡村 陽介	応用化学科・准教授	高分子超薄膜の創製	高分子超薄膜の設計と創製 (テーマ1代表)
樋谷 和義	精密工学科・教授	精密工学によるバイタル評価装置開発	超薄膜を用いた生体用微小センサ開発 (テーマ2代表)
喜多 理王	物理学科・教授	高分子と超薄膜の分子物性解析	分子物性解析と統括 (テーマ3代表、研究代表者)
木村 啓志	機械工学科・准教授	機能集積型マイクロ流体デバイスの開発	超薄膜を用いたデバイス開発による医用応用の具現化
砂見 雄太	機械工学科・講師	超薄膜の界面構造制御技術の開発	超薄膜のバルク化技術開発と応用展開
大友 麻子	医学部・助教	超薄膜を用いた細胞培養技術開発	細胞培養と細胞病理への医学応用展開
樺山 一哉	大阪大学・准教授	超薄膜を用いたライブセルイメージング	細胞および薬剤スクリーニングへの応用
中川 草	医学部・講師	細胞状態評価のためのゲノム解析	薄膜と細胞との相互作用評価法確立と医学応用
(共同研究機関等)			

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

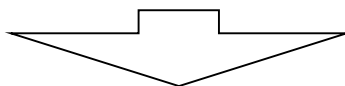
<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

職名以外は変更なし。

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
高分子と超薄膜の分子物性解析	理学部・准教授	喜多理王	分子物性解析と統括 (テーマ3代表、研究代表者)

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



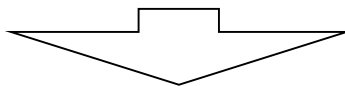
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
理学部・准教授	理学部・教授	喜多理王	分子物性解析と統括 (テーマ3代表、研究代表者)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
精密工学によるバイタル評価装置開発	工学部・准教授	樋谷和義	超薄膜を用いた生体用微小センサ開発 (テーマ2代表)

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



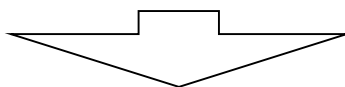
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
工学部・准教授	工学部・教授	樋谷和義	超薄膜を用いた生体用微小センサ開発 (テーマ2代表)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
高分子超薄膜の創製	創造科学技術研究機構・講師	岡村陽介	高分子超薄膜の設計と創製 (テーマ1代表)

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



新

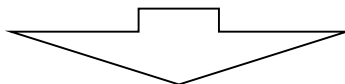
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
創造科学技術研究機構・講師	工学部・准教授	岡村陽介	高分子超薄膜の設計と創製 (テーマ1代表)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
機能集積型マイクロ流体デバイスの開発	工学部・講師	木村啓志	超薄膜を用いたデバイス開発による医用応用の具現化

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



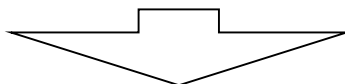
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
工学部・講師	工学部・准教授	木村啓志	超薄膜を用いたデバイス開発による医用応用の具現化

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
超薄膜の界面構造制御技術の開発	工学部・助教	砂見雄太	超薄膜のバルク化技術開発と応用展開

(変更の時期:H28 年 4 月 1 日)



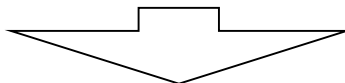
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
工学部・助教	工学部・講師	砂見雄太	超薄膜のバルク化技術開発と応用展開

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
細胞状態評価のためのゲノム解析	医学部・助教	中川 草	薄膜と細胞との相互作用評価法確立と医学応用

(変更の時期:H29 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学部・助教	医学部・講師	中川 草	薄膜と細胞との相互作用評価法確立と医学応用

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【目的・意義】

本研究プロジェクト「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」は、総合大学である特色を生かし、また若手を中心とした研究者による知と技とエネルギーを集結することで、東海大学の新たな研究拠点(マイクロ・ナノ研究開発センター)を形成し、科学・技術の発展への貢献と、健康で安全な社会形成のための要素技術構築を目的とする。

具体的には、機能性高分子超薄膜(膜厚が 100 ナノメートル以下)に着目する。高分子を超薄膜に加工することで顕在化する「面をもつ構造」ならではのユニークな特性を利用し、これを医学・理学・工学連携の研究体制により医用技術へ応用していく。基礎研究とそれに関連する応用研究を実施するために、各研究者が密に協調しなければ成し遂げられない研究テーマを設定した。その具体的なアウトプットとして、

- ①針と糸いらずの次世代絆創膏(ナノ厚の創傷被覆材)
- ②動物実験いらずの疾患モデル(神経・血管の疾患モデルデバイス)
- ③手術いらずのピンポイント血栓クリーナー(血栓溶解ディスク状超薄膜)

の実現を目指す。

研究交流を活発化させるための小規模ではあるがオープンな研究会を 2 カ月毎に開催し、また年次報告会を毎年開催する。これらにより、頻繁な研究交流と最先端の研究活動を支えつつ、マイクロ・ナノをキーワードとして基礎研究から医用応用に展開するための本プロジェクトの目的を共有した共同研究を推進し、かつ若手研究者育成を可能とする活動を実施する。ポストドクターには外国人を積極的に採用しグローバル化を図る。そして企業との産学連携共同研究に積極的に取り組み、研究成果を社会実装することを目指す。

【計画の概要】

本研究プロジェクトの体制として、「テーマ 1 創る」、「テーマ 2 試す」、「テーマ 3 知る」を有機的に連携させて研究を実施する。各参画研究者は 1 名ずつの博士研究員(または 2 名のリサーチアシスタント)を随時採用する。また、参画研究者に加えて、総合医学研究所、糖鎖科学研究所(現 先進生命科学研究所)などの学内機関とも密に連携を図り、経験豊かで実績のある様々な分野の研究者、そして若手研究者達が集う研究体制を敷く。過去に採択された戦略的研究基盤形成支援事業に携わっている学内シニア教員をプロジェクトアドバイザーとして迎え、必要な助言を得る体制とする。

初年度に研究施設の改修を実施して活動場所を整備し研究に着手する。同時に 2 年目までに必要な実験設備を順次導入していく。3 年目には外部評価委員会からの評価を受け、必要があれば方向性を是正する。4、5 年目は成果を取りまとめつつ、5 年目以降の発展性を見込んだ研究を推進する。5 年経過時には外部の有識者(外部評価者)から総合的な評価を受ける。4 年目には海外から関連研究者を招待し国際シンポジウムを開催する。

このようにして、上記3つのアウトプットを目指す研究に軸足を置きつつ、国際研究交流、若手研究者育成、産学連携研究などを目指す実践的な教育・研究を実施する拠点である「マイクロ・ナノ研究開発センター」を形成し運営することが本研究プロジェクトの計画である。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

(2) 研究組織

■ マイクロ・ナノ研究開発センター(東海大学附置研究所)

所長 稲津 敏行 【本プロジェクトアドバイザー】
 事務 藤原しずむ 【研究推進部から本研究プロジェクトへの専属職員】
 事務 熊田 もも子 【研究推進部から本研究プロジェクトへの専属(H30年11月転出)】
 事務 笠利 由香 【本プロジェクト雇用職員 (H27年11月転出)】
 事務 米澤 綾乃 【本プロジェクト雇用職員 (H29年3月転出)】

■ マイクロ・ナノ研究開発センター「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」

研究代表者 喜多 理王 【本プロジェクトの総括】

■ 創るチーム 【サイズ・界面構造を制御した高分子超薄膜の創製と医用展開】

岡村 陽介 参加研究者 【チーム1 創るチーム代表】
 木村 啓志 参加研究者
 砂見 雄太 参加研究者
 Hong Zhang 本プロジェクト雇用 ポストドクター 5年間
 Zhang Sheng 本プロジェクト雇用 ポストドクター 2年間
 中川 篤 本プロジェクト雇用 ポストドクター (H29年3月転出、企業研究者)
 大学院生 各年度およそ20名が本プロジェクトの研究に参加

■ 試すチーム 【高分子超薄膜を用いた評価系の確立と医用展開】

樋谷 和義 参加研究者 【チーム2 試すチーム代表】
 大友 麻子 参加研究者
 木村 啓志 参加研究者
 岡村 陽介 参加研究者
 Ganesh Kumar Mani 本プロジェクト雇用 ポストドクター 3.5年間
 黄 文敬 本プロジェクト雇用 ポストドクター 1年間
 Yang Lu 本プロジェクト雇用 ポストドクター (H27年3月転出、大学研究者)
 横山 奨 本プロジェクト雇用 ポストドクター (H30年3月転出、大学教員)
 望月 明子 本プロジェクト雇用 実験補助員
 高橋 博美 本プロジェクト雇用 実験補助員
 大学院生 各年度およそ20名が本プロジェクトの研究に参加

■ 知るチーム 【高分子超薄膜の高機能化に係る物性・挙動解析】

喜多 理王 参加研究者 【チーム3 知るチーム代表】
 砂見 雄太 参加研究者
 樺山 一哉 参加研究者
 中川 草 参加研究者
 上田 真帆子 本プロジェクト雇用 ポストドクター4年間
 Isala Dueramae 本プロジェクト雇用 ポストドクター4年間
 佐々木 海渡 本プロジェクト雇用 RA2年間、ポストドクター3年間
 大学院生 各年度およそ10名が本プロジェクトの研究に参加

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

【組織概要と連携体制および支援体制】

参画研究者や RA、ポスドクは、「創る」、「試す」、「知る」のうち 1 つまたは複数のチームに所属し、チーム内またはチーム間にて研究テーマを設定し推進した。このようにして 3 チームを有機的に連携させ、各研究者が密に協調する体制とすることで、本プロジェクトの目的達成のための役割や責任の明確化がなされた。進捗状況等は研究交流会等で相互チェックが為された。その実際の例として研究テーマの相関図を示す(図 1)。

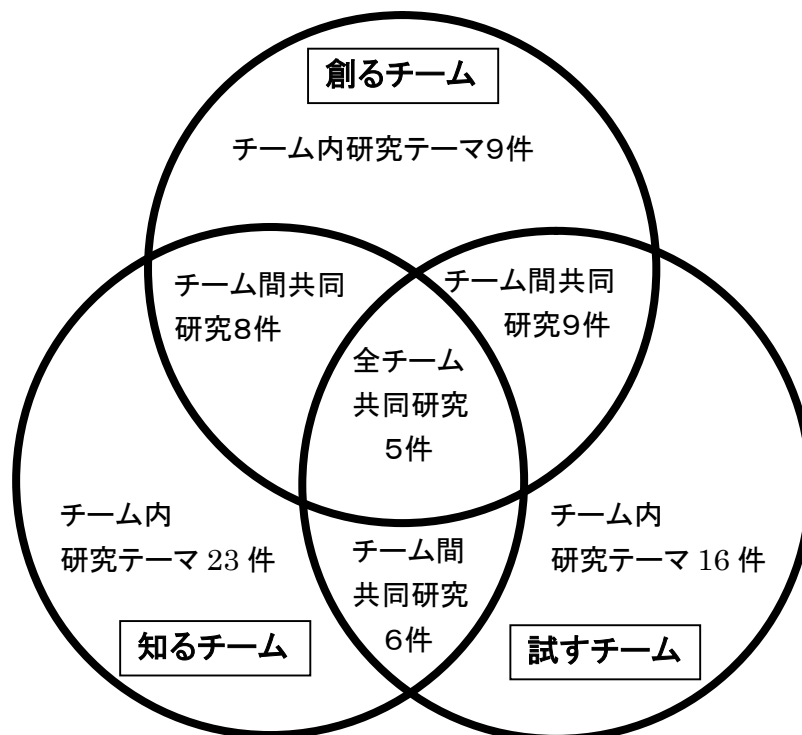


図1. 各チーム内、チーム間のテーマ配置図(相関図)。ここでは 5 年間で実施した研究テーマの件数のみを示したが、年次報告書では各テーマについて進捗や成果を詳細に記載した。

研究支援体制として、経験豊かなアドバイザー(稲津敏行所長)と事務職員の配置による本プロジェクトの運営支援体制が得られた。また、東海大学イメージング研究センター(後述 ニコングループとの共同利用施設)開設にあたり全学的な支援が得られた。さらに、特許申請や企業共同研究においては、本学担当部署(研究推進部)から十分な支援が得られ、これにより大学発ベンチャー企業「株式会社チューン」(後述)の設立へと繋がった。

【外部評価者】

谷下 一夫 氏	早稲田大学 教授	ナノ・ライフ創新研究機構
石野 史敏 氏	東京医科歯科大学 教授	難治疾患研究所 所長
石原 一彦 氏	東京大学 教授	大学院工学研究科

3名の外部評価者には、3年目および5年目に本プロジェクトを評価していただいた。その結果は後述する。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

(3) 研究施設・設備等

■ 研究施設 「マイクロ・ナノ研究開発センター」 東海大学湘南キャンパス(平塚市)

12号館1階の面積 約 390 m² (11 m×35 m)を改修し、研究装置として「クリーンルーム(終日稼働)」と「恒温恒湿室(終日稼働)」,さら施設整備として「研究・コミュニケーションエリア」、「化学実験室」、「細胞培養室」をその近傍に配置し、マイクロ・ナノ研究開発センターとして構想調書通りに整備した(図2)事務機能とポスドクのデスクに加え教員のデスクも備える。卒研生や院生など利用登録者数は年間 150 名~200 名である。コミュニケーションエリアは 50 人規模の講演会(後述)や研究室単位のゼミ、企業との打ち合せ等に活用されている。

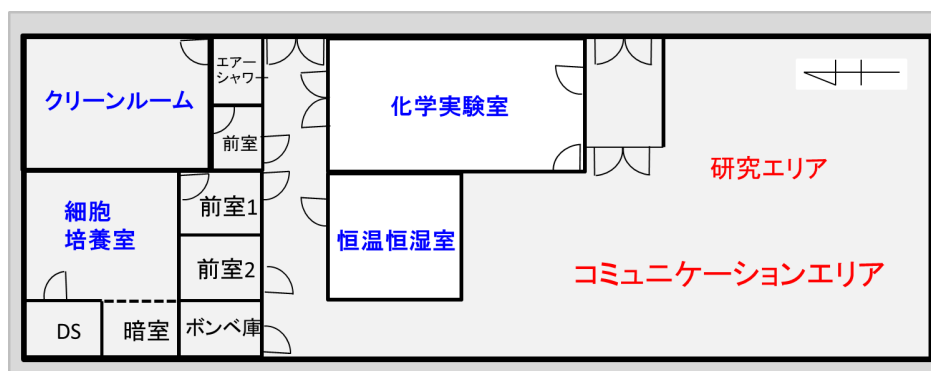


図2. マイクロ・ナノ研究開発センター平面図(約 390 m²).

東海大学伊勢原キャンパスは(伊勢原市)は本プロジェクトの医学部教員の本務先であり、本プロジェクトは湘南及び伊勢原の 2 キャンパスに渡って実施された。よって伊勢原キャンパスにも設備の一部(次世代 DNA シーケンサ MiSeq および オールインワン顕微鏡システム)を設置し運用した。

■ 主な研究設備

構想調書に則り設備を整備し研究に活用した (数値は稼働時間/稼働回数)。

ミューコーター (マイクログラビア印刷機)	350 時間/年
オールインワン顕微鏡システム	1500 時間/年 (720 回/年)
レーザー描画装置	200 時間/年
反応性イオンエッチング (RIE) 装置	300 時間/年
次世代 DNA シーケンサ MiSeq	DNA 読取り 104 回
全反射照明顕微鏡 (TIRF)	200 時間/年
ナノファイバ紡糸装置	300 時間/年
水槽システム	終日稼働
クリーンベンチ、細胞培養器、遠心機、ディープフリーザなど	

■ 東海大学イメージング研究センター(12号館1階 約 300m²)内の設置機器

本プロジェクトをきっかけとするニコングループとの包括協定締結に基づき、産学連携共同利用施設を大学主導にて整備した(詳細は後述する)。当該イメージングセンターを併用し、企業各社との「高分子超薄膜の高機能化」に係る共同研究を実施している。主な設置機器と平面図(図3)は以下のとおりである。

X線CTシステム、卓上SEM、白色干渉顕微鏡、共焦点レーザースキャン顕微鏡
正立・倒立顕微鏡×3、実体顕微鏡×4、クリーンベンチ、細胞培養器、
ステージインキュベータ、解析用PCなど

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010



図3. 東海大学湘南キャンパス 12号館 1階 東海大学イメージングセンター(300 m²)およびマイクロ・ナノ研究開発センター(390 m²)の平面図.
ホームページ <https://www.ticar.u-tokai.ac.jp/>

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

掲げた3つのアウトプット

- ① 針と糸いらずの次世代絆創膏(ナノ厚の創傷被覆材*¹)
- ② 動物実験いらずの疾患モデル(神経・血管の疾患モデルデバイス*²)
- ③ 手術いらずのピンポイント血栓クリーナー(血栓溶解ディスク状超薄膜*³)

はいずれも、研究は順調に推移し目的通りの成果が得られた。

これら研究成果と進捗状況は、5年目終了時点(2019年2月23日(土))に、公開評価「最終年度報告会(東海大学湘南校舎 19号館)」にて、3名の外部評価者から審査を受けた。研究内容や研究実施体制、ポスドクの雇用状況、競争的資金(科研費、委託研究費など)獲得状況、研究成果に加え、バーチャルではなく実際の医理工連携研究が進んでいることに高い評価を得た*⁴。また、当プロジェクトをきっかけに多くの副次的な共同研究テーマが生まれ、それらの研究にも高い評価が得られた*⁵。

論文や学会発表等の詳細な成果は後述するが、主な業績について数値をまとめたものを図4に示す。年度毎に主な業績数(原著論文、国際会議発表、科研費採択数、獲得研究費額)は増加傾向にある。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

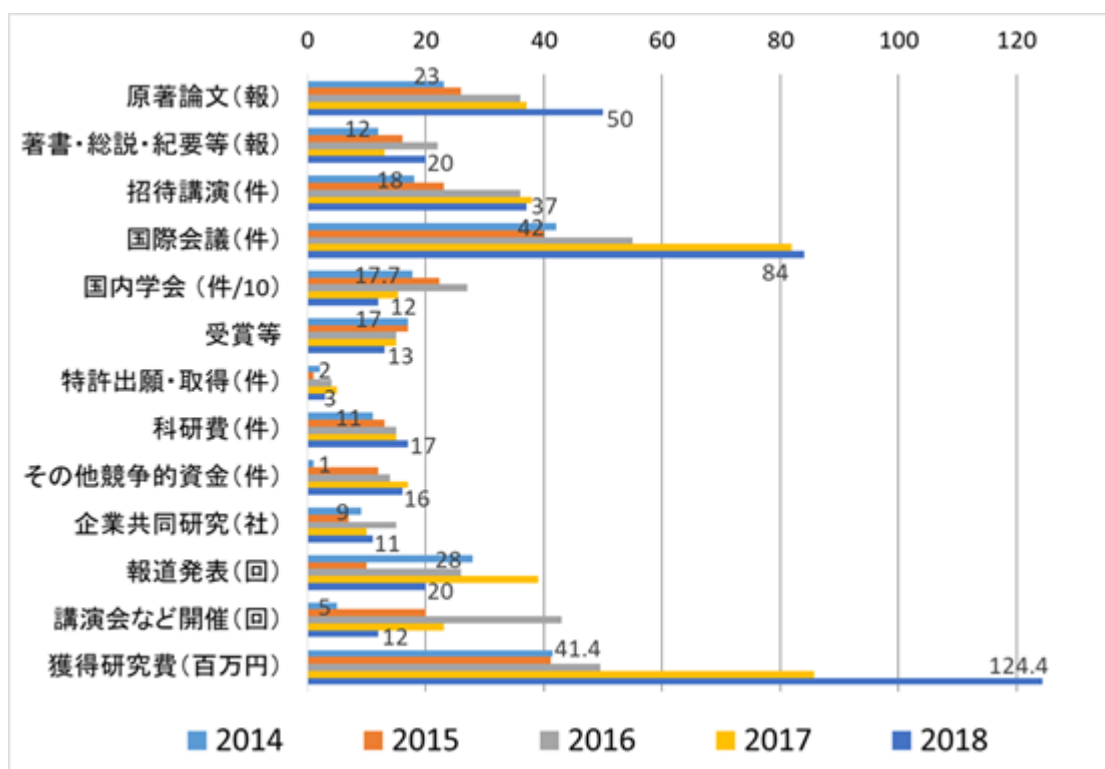


図4. 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センターの各年度の主な業績数(金額)。

<優れた成果が上がった点>

産学連携の一環として、ニコングループと共同で産学連携共同利用施設「東海大学イメージングセンター」を2016年に開設し、当該施設を用いた共同研究および講演会等を実施している*6。また、当該センターは本学とニコングループとの包括協定により共同利用施設として運営が続けられている。

本プロジェクトの研究成果の社会還元として、大学発ベンチャー企業「株式会社チューン」を設立した*7(2018年11月 代表取締役 喜多理王)。これは、高分子超薄膜の高機能化技術の成果として開発した、浮遊細胞を撮像するための新システム「(仮称)ナノラッピング法」が学会などから高い評価を得たことから、研究成果の社会実装ために市場展開を開始したものである。

本プロジェクト参画メンバーが、AMEDの採択を受ける(木村啓志(代表1件・分担2件)、岡村陽介(代表1件))など、大型研究費の獲得につながったことは、本プロジェクトの重要な成果と考えている。

新聞・テレビなど報道発表や企業共同研究など特筆すべき成果が多数あり13. および14. を参照されたい。

<課題となった点>

大学主導の研究拠点形成という観点では特筆すべき課題は見当たらないと考えている。本プロジェクトで整備した研究基盤(ヒト、施設、設備など)を本プロジェクト終了後に有効に活用する体制づくりに着手している。

<自己評価の実施結果と対応状況>

本学に13ある附置研究所の所長と副学長らから構成される研究所運営委員会にて、費用対効果や研究業績等の観点からレビューがなされ、本プロジェクト(本研究センター)は毎年S評価(13研究所中1~2件)が得られている。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

最終評価(5年目)は、中間評価(3年目)と同じ、バイオメカニクス、医学、材料の各分野において世界的に著名な3名の外部評価者から、6項目【1.研究組織、2.研究施設等、3.研究の進捗状況・研究成果等、4.その他(特記事項があれば)、5.総合評価、6.今後への助言】について3基準【A 着実な進捗がみられる、B 進捗がみられるが改善すべき点がある、C 進捗があまり見られない】にて評価していただいた。評価者の氏名は(2)研究組織で示した。その評価結果を記す。

最終評価実施日

2019年2月23日(土) 公開評価「最終年度報告会(湘南校舎19号館)にて」

●最終外部評価の結果

- | | | | | |
|-------------------|-----|-------|-------|-------|
| 1. 研究組織 | ・・・ | 評価 A、 | 評価 A、 | 評価 A |
| 2. 研究施設等 | ・・・ | 評価 A、 | 評価 A、 | 評価 A+ |
| 3. 研究の進捗状況・研究成果等 | ・・・ | 評価 A、 | 評価 A、 | 評価 A+ |
| 4. その他 (特記事項があれば) | | | | |
| ・新規性の高い結果を出している | ・・・ | 評価 A | | |
| ・将来への発展性 | ・・・ | 評価 A | | |

■高分子超薄膜の高機能化技術を軸としたベンチャー企業チューンを立ち上げた。*⁷

■高分子超薄膜の製造・販売だけでなく、これを応用した新技術の指導や他研究機関との共同研究促進など、大学の社会貢献にも大きく貢献すると期待される。また、学生教育支援、医理工連携研究/QOL関連研究の支援を含めている点も高く評価できる。^{*4*7}

- | | | |
|----------|-----|------|
| ・科学領域の創出 | ・・・ | 評価 A |
|----------|-----|------|

■マイクロ・ナノ科学の分野に新しい研究領域を創出するための設備の整備がなされ、これに伴い研究が活発に展開された。高分子超薄膜・技術の先進性、独創性が際立って認められる成果となっている。^{*4*5}

- | | | | | |
|--------------|-----|-------|-------|------|
| 5. 総合評価とコメント | ・・・ | 評価 A、 | 評価 A、 | 評価 A |
|--------------|-----|-------|-------|------|

■日本では、異分野融合を実行するのは、困難である事例が多い中で、東海大学マイクロ・ナノ研究開発センターでは、見事に成功されています。*⁴この理由の一つは、プロジェクトの検討の段階から、喜多先生を中心に有志の優れた研究者が集まって、理想に燃えた議論を重ねた結果からとされます。異分野融合の成功例や経験を、広く国内外に広めて頂いて、これから異分野融合の教育研究を目指す方々に励みとなるようにして頂きたいと思います。

■人材育成も、事業の重要な課題とされていますが、結果として多くの方が、様々なアカデミアや研究機関でキャリアアップをされています。これも若い大学院生や研究者に励みになるのではないのでしょうか。

■新しい発想やアイデアが、多く生まれています。それらを保護する配慮を是非ともお願い致します。例えば、大学内の発表会や講演会でも、公開と見なされますので、出来れば参加者全員に包括的なNDAに署名をして頂く事も検討して頂ければと思います。

■次世代医用技術を標榜されておられるので、是非とも医療機器開発を実行して頂きたいと思います。医療機器開発で成果が出ていない事例の多くは、基盤的研究が弱いという事が散見されます。東海大学のセンターでは、基盤研究を着実に取り組まれておられるので、優れた革新的医療機器開発に繋がる可能性が高いと思われます。最近では、AMEDを始めとして、医療機器開発に大きな補助金が支出されていますので、是非とも活用されて下さい。東海大学医学部との連携、特に臨床の先生方との連携がますます重要になります。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

つづき（総合評価とコメント）

■文理融合にも配慮されている点が重要です。岡山大学では、2018年4月に開設した医工学の大学院も文理融合を含めています。これから大事になるヘルスケア、緩和医療、認知症などの精神疾患などでは、理学の学問のみならず、芸術（既に実行されています）、人文科学、心理学、倫理、宗教的な面も必要になるのではと思います。患者や高齢者に寄り添う高品質の医療やヘルスケアが実現できるのではないのでしょうか。最近、九州飯塚病院の会長をされている麻生泰氏が、セル医療という新しい医療を実行されて、患者に寄り添う時間を増やすように仕組みを変えたら、看護師の方々の労働負担が減り、帰宅時間が早くなったという事例があります。高品質の医療やヘルスケアを実行するためには、文理融合を基にして広い視野から考える事によって、優れたアイデアが生まれるのではないのでしょうか。これからの高齢化社会で、現在の仕組みのままで進んだら、医療者が疲労困憊し、医療現場が崩壊するのは目に見えています。そのような新しい医療、介護、ヘルスケアを、センターの文理融合のコンセプトから生まれるのではと期待しております。

■株式会社チューンを立ち上げた事に感銘を受けます。^{*7} 利益を生み出すのは、簡単ではありませんが、利益を奨学金や研究費に回せるようにするという発想は、極めて未来的で、日本的ではなく、日本の新しいアカデミアの最先端を牽引する発想だと思います。最近大学発ベンチャーが増えておりますが、奨学金や研究費のためという考えを聞いた事はありません。企業ですから、社員の利益になる事が最優先されるという価値観となりますが、それを次世代の若者のための奨学金や研究費のためという発想は、凄いという一言に尽きます。ぜひ、そのような考えで起業されたことを、広く広めて頂いては如何でしょうか。自己の利益のためにはないという事を多くの方が知る事によって、経営の仕方や利益の出し方など、多くのビジネスの経験者からの助言が集まるのではないのでしょうか。逆に研究者だけの経営は極めて危険かと思えます。優れた経営の経験のある方にも参加して頂く事が重要かと思えます。

■東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」は、数ある戦略的研究基盤形成支援事業でも、最も成功した例となる優れたプロジェクトであると評価する。医用技術としてだけでなく、浮遊細胞のナノラッピング法やカバーガラスフリー生体深部イメージングなど生物学・医学基礎研究にも大きく貢献できるアイデアが多数生み出されており、真にイノベティブなプロジェクトであったことがわかる。^{*7}

■成功の原因は、高分子超薄膜という新素材のユニークな特性に注目し、具体的な医用技術としての応用、有効性を明らかにするという優れたアイデアにくわえ、これを、「創る」「試す」「知る」という3つのチームの連携による計画的な共同研究体制を構築した企画力、そしてこれらの提案をやり遂げた実行力が挙げられる。^{*4} これらは意欲的な若い研究員によるボトムアップの計画であったこと、その計画の先進性を見抜いて申請に踏み切った大学執行部の先見性があったことも指摘しておく必要がある。

■何よりも研究者が情熱と夢を持ってこの企画を進めたことが見て取れる。その成果のおかげで高分子超薄膜とは関係しないチーム間の共同研究プロジェクト（リポゾームにおけるラフト構造の可視化、イソフルランの作用機作の解明、トリチウムの分離法、ナノポアシーケンスによる微生物同定法など^{*5}）にも、数多くの目を見張る成果を生み出している。

■研究設備、施設の整備、高分子超薄膜の製造法の確立、加工法の確立を含めて、初期の想定された目標の達成が認められる。また、この過程において新しい機能発現や応用展開に至り、プロジェクトが極めて高いレベルで進められている。研究分野間の融合に伴う科学領域の創出にも成果が出ており、先進的な科学領域の実現が見込まれる。今後、研究成果・技術あるいは情報を社会実装するための仕組みが形成され、広い範囲での応用が可能であると考えられる。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

6. 本事業終了後の本センターへの助言

■これだけの結果を出された事に敬意を表したいと思います。これからは、正式な附置研究所として活動を継続される事で本当に良かったと思います。研究員も増やすという事で、研究所のこれからの大きな発展が期待できます。ただ、是非とも注意していただきたいのは、研究所の規模が大きくなり、研究員も増えてきますと、センターを始めた時の熱い思いが、どこかに消失してしまい、次第に色あせて来て、東海大学ならではの特色が無くなってしまうという事もあるかもしれません。是非ともスタート時に、議論を重ね、大きな理想の基で熱い思いを語ったときの事を忘れないようにして下さい。優れたアイデアや研究は、熱い思いを持つ人から生まれます。スタート時の方々が、熱い思いを持って、これからも牽引されていけば、必ず熱い思いを持つ次世代の若者がついてくるかと思えます。そして、そのような若者が、研究所を繋げていくのではと思います。この4月からの研究所の益々のご発展を心よりお祈り致します。

■研究センターとしての機能は、教育・研究のみならず、分野の異なる研究者の交流、科学情報を発信することが大切である。来年度以降も大学の支援を継続できるとのことであるが、さらに産業界との連携も深め、将来的には分野展開が独自にできる組織やシステムの構築、技術情報の社会実装に向けての組織形成なども期待したい。

■このプロジェクトの成果の特許化や企業などに売り込みの場合、大学の産官学連携センターなどの専門部署が、その研究内容を深く理解した上で、それに当たる必要がある。研究者には研究に打ち込める環境を提供することが必要であり、他の業務負担を減らすことが、大学全体としての効率化と本センターの発展の両者に繋がると思えます。

■本来は、すべての学問が文理融合にむかうべきなのですが、このプロジェクトがそのさきげになってほしいと期待しています。

(外部評価者からのコメントは以上)

<研究期間終了後の展望>

構想調書に謳った、医理工連携による研究推進や学術的交流、若手研究者育成、産学連携、グローバル化などについては一定の成果を挙げたと判断している。今後の展望として、これまでの研究成果を基盤とする発展的研究を推進すると同時に、総合大学という特色を生かした、文理融合、健康体育融合、福祉融合による QOL(生活の質)向上、さらには QOS (Quality of Society) 向上を目的に多角的な研究を実施するための基盤として本事業で整備した施設を活用していく構想である。そのために、これまでの8名の研究参加者を軸に、新たに約30名の分野横断的な研究者を本研究センターに迎え、学際的な共同研究を推進していく。

<研究成果の副次的効果>

ニコングループと開設した、イメージング機器を多数配置した「東海大学イメージング研究センター」は、プロジェクト推進に必要な機材が整備できたという意味に加え、ニコングループとの共同研究を実践することで、ベンチャー企業設立へと発展した。今後も、当該イメージング研究センターは学内の研究者および学外・企業研究者へも共同利用施設として公開し運営していく。

研究成果の社会還元の方法としてベンチャー企業を設立したが、将来的には奨学生基金および研究支援基金を設立する構想である。また、グローバル化の推進による、海外機関との MOU 締結も実施できことから、研究者相互派遣、学生相互受け入れを継続していく。特許申請は積極的に行っており、これら成果の実用化にも取り組んでいくための体制が出来ている。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 高分子 (2) 医用応用 (3) 医理工連携
 (4) 材料 (5) センサ (6) デバイス
 (7) 疾患モデル (8) 産学連携研究

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

本プロジェクトでは、3チーム(3テーマ)の体制で研究を実施したが、各チームは有機的に密に連携しているため、その成果を各チーム別に振り分けることはせず、論文・紀要等、図書、学会(招待講演、国際会議、国内学会)として年度ごとに取りまとめた。下線は本プロジェクトの参画研究者、RA、ポスドクを示す。

2018年度(論文・紀要等)

- 1) I. Dueramae, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita, "Thermal diffusion of aqueous solution of acetylated dextran: The effect of hydrophobicity using optical beam deflection technique", *International Journal of Heat and Mass Transfer* **132**, 997-1003 (2019). *⁵
- 2) K. Sasaki, M. Takatsuka, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, "Enthalpy and dielectric relaxation of poly(vinyl methyl ether)", *Macromolecules* **51**, 5806-5811 (2018).
- 3) S. Yagihara, R. Kita, N. Shinyashiki, M. Fukuzaki, K. Shoji, T. Saito, T. Aoyama, K. Matsumoto, H. Masuda, T. Kawaguchi, H. Saito, Y. Maruyama, S. Hiraiwa, and K. Asami, "Physical meanings of fractal behaviors of water in aqueous and biological systems", *12th International Conference on Electromagnetic Wave Interaction with Water and Moist Substances, ISEMA 2018*. Article number 8442299 (2018).
- 4) K. Sasaki, D. Sakagami, H. Zhang, Y. Okamura, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, "Development of capacitive dilatometry for evaluation of aging kinetics of ultra-thin polymer film", *Journal of ehealth technology and application* **16**, 70-73 (2019). *⁵
- 5) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, "Dielectric and calorimetric study of the dynamics of polyvinylpyrrolidone", *Journal of ehealth technology and application* **16**, 74-76 (2019).
- 6) H. Saito, S. Kato, K. Matsumoto, Y. Umino, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, and M. Tokita, "Dynamic behaviors of solvent molecules restricted in poly(acryl amide) gels analyzed by dielectric and diffusion NMR spectroscopy", *Gels* **4**, 56-1 – 56-17 (2018).
- 7) J. Fujimura, M. Sugisaki, E. Nishiyama, M. Takatsuka, K. Sasaki, N. Shinyashiki, and I. Tsukushi, "Evaluation of the relaxation time for the amorphous styrene oligomer PSA-500 obtained from various measurement methods near the glass-transition temperature", *Thermochimica Acta* **672**, 101-106 (2019).
- 8) V. Mounasamy, G.K. Mani, D. Ponnusamy, K. Tsuchiya, and S. Madanagurusamy, "Template free synthesis of vanadium sesquioxide (V₂O₃) nanosheets and its room temperature sensing performance", *Journal of Materials Chemistry A* **6**, 6402-6413 (2018). *⁵

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 9) Y. Uetsuji, T. Wada, and K. Tsuchiya, “Multiscale numerical study on origin of magnetoelectric effect in view of localization of microstructural strain field for multiferroic compositematerials”, *Computational Materials Science*, **158**, 159-169 (2019).
- 10) Y. Yasoda, and K. Tsuchiya, “Study on improvement of piezoelectricity in perovskite thin Films using the first-principles calculations”, *Journal of Nanoelectronics and Optoelectronics* **13**, 1-6 (2019). *⁵
- 11) H. Zhang, and *Y. Okamura, “Elongated phase separation domains in spin-cast polymer blend thin films characterized with a panoramic image”, *Soft Matter* **14**, 1050-1055 (2018). *⁵
- 12) H. Zhang, T. Aoki, K. Hatano, K. Kabayama, M. Nakagawa, K. Fukase, and *Y. Okamura, “Porous nanosheet wrapping for live imaging of suspension cells”, *Journal of Materials Chemistry B* **6**, 6622-6628 (2018). *⁵*⁷
- 13) C. Umeda, B. Suleimenova, T. Naruemon, S. Koguchi, Y. Okamura, and *Y. Nagase, “Surface modification of highly gas permeable membrane by nanosheets composed of ionic-functionalized polyimides”, *Transactions of the Materials Research Society of Japan* **43**, 279-282 (2018).
- 14) Y. Murahashi, F. Yano, H. Nakamoto, Y. Maenohara, K. Iba, T. Yamashita, S. Tanaka, K. Ishihara, *Y. Okamura, *T. Moro, and *T. Saito, “Multi-layered PLLA-nanosheets loaded with FGF-2 induce robust bone regeneration with controlled release in critical-sized mouse femoral defects”, *Acta Biomaterialia* **85**, 172-179 (2019). *⁵
- 15) J. Kobayashi, T. Misawa, C. Umeda, T. Isono, S. Ono, H. Naruke, Y. Okamura, S. Koguchi, M. Higuchi, Y. Nagase, and *T. Ito, “Controlled introduction of metal cations into polymerizable ionic liquid-polyoxomolybdate hybrid crystals”, *CrystEngComm*, *in press*.
- 16) J. Sianturi, Y. Manabe, HS. Li, LT. Chiu, TC. Chang, K. Tokunaga, K. Kabayama, M. Tanemura, S. Takamatsu, E. Miyoshi, SC. Hung, and *K. Fukase, “Development of α -Gal Antibody Conjugates for Increasing Immune Response by Recruiting Natural Antibodies”, *Angewandte Chemie - International Edition*, *in press*.
- 17) W. Nihei, M. Nagafuku, H. Hayamizu, Y. Odagiri, Y. Tamura, Y. Kikuchi, L. Veillon, H. Kanoh, K.I. Inamori, K. Arai, K. Kabayama, K. Fukase, and *J. Inokuchi, “NPC1L1-dependent intestinal cholesterol absorption requires ganglioside GM3 in memAZzzzbrane microdomains”, *Journal of Lipid Research* **59**, 2181-2187 (2018). *⁵
- 18) *J. Ono, S. Fushimi, S. Suzuki, K. Ameno, H. Kinoshita, G. Shirakami, and *K. Kabayama, “Effect of the volatile anesthetic agent isoflurane on lateral diffusion of cell membrane proteins” *FEBS Open Bio* **8**, 1127-1134 (2018). *⁵
- 19) *K. Kabayama, “Function and structure analysis of glycolipid microdomains.” *Trends in Glycoscience and Glycotechnology* **174**, E47-E53 (2018).
- 20) T.C. Chang, Y. Manabe, Y. Fujimoto, S. Ohshima, Y. Kametani, K. Kabayama, Y. Nimura, C.C. Lin, and *K. Fukase, “Syntheses and immunological evaluation of self-adjvanting clustered N-acetyl and N-propionyl sialyl-Tn combined with a T-helper cell epitope as antitumor vaccine candidates”, *Angewandte Chemie - International Edition* **57**, 8219-8224 (2018).
- 21) Q. Feng, K. Kabayama, Y. Manabe, A. Miyamoto, Y. Kametani, and *K. Fukase, “Synthesis and functional studies of self-adjvanting cancer vaccine containing B cell epitope derived from HER2”, *Peptide Science* **2017**, 56-57 (2018).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 22) Y. Arai, K. Yokoyama, Y. Kawahara, Q. Feng, I. Ohta, A. Shimoyama, S. Inuki, K. Fukase, *K. Kabayama, and *Y. Fujimoto, “Time-lapse monitoring of TLR2 ligand internalization with newly developed fluorescent probes”, *Organic & Biomolecular Chemistry* **16**, 3824-3830 (2018).
- 23) *J.I. Inokuchi, K.I. Inamori, K. Kabayama, M. Nagafuku, S. Uemura, S. Go, A. Suzuki, I. Ohno, H. Kanoh, and F. Shishido, “Biology of GM3 ganglioside”, *Progress in Molecular Biology and Translational Science* **156**, 151-195 (2018).
- 24) T. Hiraiwa, Y. Nakai, T. G Yamada, R. Tanimoto, H. Kimura, Y. Matsumoto, N. Miki, N. Hiroi, and A. Funahashi, “Quantitative analysis of sensitivity to a Wnt3a gradient in determination of the pole-to-pole axis of mitotic cells by using a microfluidic device”, *FEBS Open Bio*, *in press*.
- 25) M. Nishikawa, S. Yuri, H. Kimura, N. Yanagawa, M. Hamon, P. Hauser, O. Jo, L. Zhao, and N. Yanagawa, “Comprehensive analysis of chromatin signature and transcriptome uncovers functional lncRNAs expressed in nephron progenitor cells”, *Biochimica et Biophysica Acta - Gene Regulatory Mechanisms* **1862**, 58-70 (2019).
- 26) K. Kojima, H. Nakamura, M. Komeya, H. Yamanaka, Y. Makino, Y. Okada, T. Sato, T. Fujii, H. Kimura, and T. Ogawa, “Neonatal testis growth recreated in vitro by two-dimensional organ-spreading”, *Biotechnology and bioengineering*, **115**, 3030-3041 (2018).
- 27) H. Kimura, M. Nishikawa, N. Yanagawa, H. Nakamura, S. Miyamoto, M. Hamon, P. Hauser, L. Zhao, O. Jo, M. Komeya, T. Ogawa, N. Yanagawa, “Effect of fluid shear stress on in vitro cultured ureteric bud cells in a pumpless microfluidic device”, *Biomicrofluidics* **12**, 044107 (2018).
- 28) H. Yamanaka, M. Komeya, H. Nakamura, H. Sanjo, T. Sato, M. Yao, H. Kimura, T. Fujii, and T. Ogawa, “A monolayer microfluidic device supporting mouse spermatogenesis with improved visibility”, *Biochemical and Biophysical Research Communications* **500**, 885-891 (2018).
- 29) K. Haneda, T. Oishi, H. Kimura, and *T. Inazu, “Development of a microreactor for glycoconjugate synthesis”, *Bioorganic & Medicinal Chemistry* **26**, 2092-2098 (2018).
- 30) M. Nishikawa, H. Kimura, N. Yanagawa, M. Hamon, P. Hauser, L. Zhao, O. Jo, and N. Yanagawa, “An optimal serum-free defined condition for in vitro culture of kidney organoids”, *Biochemical and Biophysical Research Communications* **501**, 996-1002 (2018).
- 31) W. Huang, Y. Sunami, H. Kimura, and S. Zhang, “Applications of Nanosheets in Frontier Cellular Research”, *Nanomaterials (Basel)* **8**, 519 (2018). *¹
- 32) H. Yamanaka, M. Komeya, H. Nakamura, H. Sanjo, T. Sato, M. Yao, H. Kimura, T. Fujii, and T. Ogawa, “A monolayer microfluidic device supporting mouse spermatogenesis with improved visibility”, *Biochemical and Biophysical Research Communications* **500**, 885-891 (2018).
- 33) S. Yokoyama, A. Otomo, S. Hadano and H. Kimura, “Effect of fluid shear stress on in vitro cultured ureteric bud cells in a pumpless microfluidic device”, *Biomicrofluidics*, *in press*. *²
- 34) *M. D. Ibrahim, *N. Marusman, Y. Sunami, S. N. A. Amran, S.S. Musa, M. Ochiai, and S.S. Lam, “Characteristics modified spiral thrust bearing through geometries and dimension modification”, *Tribology Online* **13**, 334-339 (2018).
- 35) *†S. Zhang, Y. Feng, T. Li, W. Huang, Y. Gong, and *†Y. Sunami, “Micro-textured stainless steel material towards enhancement for adhesion of red blood cell”, *Microsystem Technologies* **24**, 1-6 (2018). *⁵
- 36) †T. Li, *†S. Zhang, *†G.W. Lu, and Y. Sunami, “Vibro-perception of optical bio-inspired fiber-skin”, *Sensor* **8**, 1-7 (2018).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 37) *†T. Li, *Y. Sunami, and *†S. Zhang, “Perceptual surgical knife with wavelet denoising”, *Micromachines* **9**, 79 (2018).
- 38) *S. Zhang, *Y. Sunami, and H. Hashimoto, “Deformation behavior of dragonfly-inspired nodus structured wing in gliding flight through experimental visualization approach”, *Scientific Reports* **8**, 1-7 (2018). *⁵
- 39) *S. Zhang, Y. Kai, and *Y. Sunami, “Tactile sliding behavior of R2R mass-produced PLLA nanosheet towards biomedical device in skin applications”, *Nanomaterials* **8**, 1-9 (2018). *1*⁵
- 40) K. Kryukov*, M.T. Ueda, S. Nakagawa, and T. Imanishi, “Nucleotide Archival Format (NAF) enables efficient lossless reference-free compression of DNA sequences.” *Bioinformatics*, *in press*. *⁵
- 41) S. Kai, *Y. Matsuo, S. Nakagawa, K. Kryukov, S. Matsukawa, H. Tanaka, T. Iwai, T. Imanishi, and K. Hirota, “Rapid bacterial identification by direct PCR amplification of 16S rRNA genes using the MinION™ nanopore sequencer.” *FEBS Open Bio*, **9**, 548-557 (2019). *⁵
- 42) K. Kryukov, M. T. Ueda, T. Imanishi, and *S. Nakagawa, “Systematic survey of non-retroviral virus-like elements in eukaryotic genomes”, *Virus Research*, **262**, 30–36 (2019).
- 43) R. Koide, R. Yoshikawa, *M. Okamoto, S. Sakaguchi, J. Suzuki, T. Isa, S. Nakagawa, H. Sakawaki, T. Miura, and *T. Miyazawa, “Experimental infection of Japanese macaques with simian retrovirus 5.” *Journal of General Virology*, **100**, 266-277 (2019).
- 44) †Y. Konno, †S. Nagaoka, †I. Kimura, M.T. Ueda, R. Kumata, J. Ito, S. Nakagawa, T. Kobayashi, Y. Koyanagi, and *K. Sato, “A naturally occurring feline APOBEC3 variant that loses anti-lentiviral activity by lacking two amino acid residues.” *Journal of General Virology* **99**, 704-709 (2018).
- 45) Y. Konno, S. Nagaoka, I. Kimura, K. Yamamoto, Y. Kagawa, R. Kumata, , H. Aso, M.T. Ueda, S. Nakagawa, T. Kobayashi, Y. Koyanagi, and *K. Sato, “New world feline APOBEC3 potently controls inter-genus lentiviral transmission.” *Retrovirology* **15**, 31 (2018).
- 46) M. Watanabe, K. Kryukov, S. Nakagawa, J.S. Takeuchi, M. Takeshita, Y. Kirimura, S. Mitsushashi, T. Ishihara, H. Aoki, S. Inokuchi, T. Imanishi, and *S. Inoue, “Detection of pathogenic bacteria in the blood from sepsis patients using 16S rRNA gene amplicon sequencing analysis.” *PLOS ONE*, **13**, e0202049, (2018). *⁵
- 47) K. Sato, A. Otomo, M.T. Ueda, Y. Hiratsuka, K. Suzuki-Utsunomiya, J. Sugiyama, S. Murakoshi, S. Mitsui, S. Ono, S. Nakagawa, HF. Shang, and S. Hadano, “Altered oligomeric states in pathogenic ALS2 variants associated with juvenile motor neuron diseases cause loss of ALS2-mediated endosomal function”, *Journal of Biological Chemistry* **293**,17135-17153. (2018). *²
- 48) K. Fujimori, M. Ishikawa, A. Otomo, N. Atsuta, R. Nakamura, T. Akiyama, S. Hadano, M. Aoki, H. Saya, G. Sobue, and H. Okano, “Modeling sporadic ALS in iPSC-derived motor neurons identifies a potential therapeutic agent”, *Nature Medicine* **24**, 1579-1589 (2018). *⁵
- 49) K. Imaizumi, K. Fujimori, S. Ishii, A. Otomo, Y. Hosoi, H. Miyajima, H. Warita, M. Aoki, S. Hadano, W. Akamatsu, and H. Okano, “Rostrocaudal areal patterning of human PSC-derived cortical neurons by FGF8 signaling”, *eNeuro* **5**, e0368-17.2018 1-9 (2018).
- 50) S. Mitsui, A. Otomo, M. Nozaki, S. Ono, K. Sato, R. Shirakawa, H. Adachi, M. Aoki, G. Sobue, HF. Shang, and S. Hadano, “Systemic overexpression of SQSTM1/p62 accelerates disease onset in a SOD1H46R-expressing ALS mouse model”, *Molecular Brain* **11**, 30 (2018).
- 51) 槌谷和義, 梶原景正, 木村穰, “痛みの評価と注射針の設計技術”, *設計工学*, **53** (11), 802-807 (2018). *⁵

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 52) 岡村陽介, 張宏, “生分解性ナノシートの創製と新規医療技術への挑戦”, 整形・災害外科, **61** (6), 753-757 (2018). *¹
- 53) 岡村陽介, “高分子ナノ薄膜の創製とバイオイメージング”, 生物工学会誌, 印刷中 (2019). *¹
- 54) 樺山一哉, “糖脂質マイクロドメインの機能および構造解析”, Trends in Glycoscience and Glycotechnology, **174**, J25-J30 (2018).
- 55) 木村啓志, “Organ-on-a-chip と in vitro 腎臓モデルへの応用”, 先端医療の現状と腎疾患への応用, 腎と透析, 東京医学社, 41-45 (2018). *²
- 56) 土肥浩太郎, 木村啓志, 南学正臣, 藤井輝夫, “第 I 編 技術動向 (基礎編) 第 2 章 細胞利用の基盤技術 5. 蛋白尿治療薬研究における podocyte 培養技術の展望と課題”, 創薬のための細胞利用技術の最新動向と市場, 株式会社シーエムシー出版, 76-80 (2018).
- 57) 木村啓志, “海外の研究室から”, NEWS LETTER, バイオテクノロジー部会, 日本化学会, 26-29 (2018).
- 58) 木村啓志, “創薬に向けた Microphysiological System の現状と課題”, MEDCHEM NEWS, 日本薬学会医薬化学部会, **29** (1), 29-32 (2019).
- 59) 木村啓志, “Organ-on-a-chip と細胞計測系の集積化”, ファルマシア, 日本薬学会, 印刷中 (2019).
- 60) 中川草, 今西規, “ナノポアセンサーを活用した感染症細菌叢ゲノムの迅速解析”, バイオサイエンスとインダストリー(B&I), **76** (3), 234-235 (2018). *⁵
- 61) 今西規, 中川草, “新しいゲノム解析システムによる細菌感染症診断”, 医学のあゆみ, **267** (4), 299-300 (2018).
- 62) 佐々木海渡, 新屋敷直木, “純水および部分的に氷結した水溶液中の氷の誘電緩和”, 熱測定, **45**, 214 (2018).

2017 年度 (論文・紀要等)

- 63) T. Fukai, N. Shinyashiki, S. Yagihara, *R. Kita, and F. Tanaka, “Phase Behavior of Co-Nonsolvent Systems: Poly(N-isopropylacrylamide) in Mixed Solvents of Water and Methanol”, *Langmuir* **34**, 3003-3009 (2018).
- 64) T. Kawaguchi, R. Kita, N. Shinyashiki, *S. Yagihara, and M. Fukuzaki, “Physical properties of tofu gel probed by water translational/rotational dynamics”, *Food Hydrocolloids* **77**, 474 (2018).
- 65) D. Niether, T. Kawaguchi, J. Hovancová, K. Eguchi, J.K.G. Dhont, *R. Kita, and *S. Wiegand, “Role of Hydrogen Bonding of Cyclodextrin-Drug Complexes Probed by Thermodiffusion”, *Langmuir* **33**, 8483-8492 (2017).
- 66) I. Dueramae, S. Fukuzawa, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and *R. Kita, “Dynamics of amyloid-like aggregation and gel formation of hen egg-white lysozyme in highly concentrated ethanol solution”, *Journal of Biorheology* **31**, 21-28 (2017).
- 67) T. Yasuda, K. Sasaki, R. Kita, *N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric Relaxation of Ice in Gelatin-Water Mixtures” *The Journal of Physical Chemistry B* **121**, 2896-2901 (2017).
- 68) Veena Mounasamy, Ganesh Kumar Mani, Dhivya Ponnusamy, Kazuyoshi Tsuchiya and Sridharan Madanagurusamy”, Template Free Synthesis of Vanadium Sesquioxide (V₂O₃) Nanosheets and Its Room Temperature Sensing Performance”, *Journal of Materials Chemistry A* (2018) in press.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 69) R. Sankar Ganesh, Ganesh Kumar Mani, R. Elayaraja, E. Durgadevi, M. Navaneethan, S. Ponnusamy, K. Tsuchiya, C. Muthamizhchelvan, Y. Hayakawa, “Surfactant free controllable synthesis of 2D – 1D ZnO hierarchical nanostructure and its gas sensing properties”, *Applied Surface Science* (2018) *in press*.
- 70) R. Sankar Ganesh, Ganesh Kumar Mani, R. Elayaraja, E. Durgadevi, M. Navaneethan, S. Ponnusamy, K. Tsuchiya, C. Muthamizhchelvan, Y. Hayakawa, “ZnO hierarchical 3D-flower like architectures and their gas sensing properties at room temperature”, *Applied Surface Science* (2018) *in press*.
- 71) Vijayakumar Y, Ganesh Kumar Mani, Dhivya Ponnusamy, Prabakaran Shankar, Arockia Jayalatha Kulandaisamy, Kazuyoshi Tsuchiya, John Bosco Balaguru Rayappan; Ramana Reddy M. V., “V₂O₅ Nanofibers: Potential Contestant for High Performance Xylene Sensor”, *Journal of Alloys and Compounds*, **731**, 15, Pages 805–812(2018). *⁵
- 72) Yasutomo Uetsuji, Takeshi Wada, Kazuyoshi Tsuchiya, “Statistical investigation of homogenized physical properties of polycrystalline multiferroic composites”, *Acta Mechanica*, pp 1–15(2017).
- 73) Ganesh Kumar Mani, Kousei Miyakod, Asuka Saito, Yutaka Yasoda, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, and Kazuyoshi Tsuchiya, “Microneedle pH Sensor: Direct, Label-Free, Real-Time Detection of Cerebrospinal Fluid and Bladder pH”, *Applied materials & Interfaces*, **9** (26), pp 21651–21659(2017).
- 74) T. Komachi, H. Sumiyoshi, Y. Inagaki, S. Takeoka, Y. Nagase, and *Y. Okamura, “Adhesive and robust multi-layered poly(lactic acid) nanosheets for hemostatic dressing in liver injury model”, *Journal of Biomedical Materials Research Part B: Applied Biomaterials* **105**, 1747-1757 (2017). *¹
- 75) H. Zhang, A. Masuda, R. Kawakami, K. Yarinome, R. Saito, Y. Nagase, T. Nemoto, and *Y. Okamura, “Fluoropolymer nanosheet as a wrapping mount for high quality tissue imaging”, *Advanced Materials* **29**, 1703139 (2017). *⁵
- 76) K.C. Huang, F. Yano, Y. Murahashi, S. Takano, Y. Kitaura, S.H. Chang, S.W.N. Ueng, S. Tanaka, K. Ishihara, *Y. Okamura, *T. Moro, and *T. Saito, “Sandwich-type PLLA-nanosheets loaded with BMP-2 induce bone regeneration in critical-sized mouse calvarial defects”, *Acta Biomaterialia* **59**, 12-20 (2017).
- 77) 樋口晃司, 佐々木海渡, 岩野篤, 森田浩平, 新屋敷直木, 岡村陽介, *長瀬裕, 「ホスホリルコリン基含有セグメント化ポリウレタンの合成と誘電緩和挙動」 *高分子論文集* **74**, 334-345 (2017).
- 78) *Y. Nagase, B. Suleimenova, C. Umeda, K. Taira, T. Oda, S. Suzuki, Y. Okamura, and S. Koguchi, “Syntheses of aromatic polymers containing imidazolium moiety and the surface modification of a highly gas permeable membrane using the nanosheets”, *Polymer* **135**, 142-153 (2018).
- 79) H. Zhang, and *Y. Okamura, “Elongated phase separation domains in spin-cast polymer blend thin films characterized with a panoramic image”, *Soft Matter* **14**, 1050-1055 (2018). *¹
- 80) Kazuya Kabayama, “Function and structure analysis of glycolipid microdomains”, *Trends in Glycoscience and Glycotechnology*, *in press*
- 81) Jin-ichi Inokuchi, Kei-ichiro Inamori, Kazuya Kabayama, Masakazu Nagafuku, Satoshi Uemura, Shinji Go, Akemi Suzuki, Isao Ohno, Hirota Kanoh, Fumi Shishido, “Biology of GM3 Ganglioside”, *Progress in Molecular Biology and Translational Science*, *in press*
- 82) Kazuya Kabayama and Ryugo Tero, “Optical Microscopy”, *Compendium of Surface and Interface Analysis*, *in press*
- 83) Kazuya Kabayama and Ryugo Tero, “Super-Resolution Microscopy”, *Compendium of Surface and Interface Analysis*, *in press*
- 84) K. Haneda, T. Oishi, H. Kimura, *T. Inazu, “Development of a microreactor for glycoconjugate synthesis”, *Bioorganic & Medicinal Chemistry*, (2018) *in press*.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 85) M. Komeya, K. Hayashi, H. Nakamura, H. Yamanaka, H. Sanjo, K. Kojima, T. Sato, M. Yao, H. Kimura, T. Fujii, *T. Ogawa, “Pumpless microfluidic system driven by hydrostatic pressure induces and maintains mouse spermatogenesis in vitro”, *Scientific Reports*, 7(1),15459(2017).
- 86) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, *木村啓志, “ルードヴィヒ・ソレー効果を利用した重水分離システムの構築”, *化学とマイクロ・ナノシステム学会会誌*, 16(1), 47-48(2017). *5
- 87) 高橋翼, 中村寛子, *木村啓志, “精子選別機能集積型受精卵作出デバイスの開発”, *日本機械学科論文集*, 83(850), 16-00560(2017).
- 88) L. Tao, Y. Sunami, S. Zhang, “Perceptual Surgical Knife with Wavelet Denoising”, *Micromachiness*, 9 (2), 79, (2018).
- 89) S. Zhang, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Deformation behavior of dragonfly-inspired nodus structured wing in gliding flight through experimental visualization approach”, *Scientific Reports*, (2018), *in press*. *5
- 90) S. Zhang, Y. Kai, Y. Sunami, “Tactile sliding behavior of R2R mass-produced PLLA nanosheet towards biomedical device in skin applications”, *nanomaterials*, (2018), *in press*. *5
- 91) 井上陽子, 大友 麻子, 高橋 千果, 森屋 宏美, 大貫 優子, 谷口 泰史, 和泉 俊一郎, 秦野 伸二, “高大連携による高校生のための分子生物学実験の実践 - 「遺伝子」の, 深い理解を求めて-” *日本生物教育学会*, 58, 98-113, (2017).
- 92) K. Kryukov, M. T. Ueda, T. Imanishi, and *S. Nakagawa, “Systematic survey of non-retroviral virus-like elements in eukaryotic genomes.” *Virus Research*, *in press*.
- 93) †Y. Konno, †S. Nagaoka, †I. Kimura, M.T. Ueda, R. Kumata, J. Ito, S. Nakagawa, T. Kobayashi, Y. Koyanagi, and *K. Sato, “A naturally occurring feline APOBEC3 variant that loses anti-lentiviral activity by lacking two amino acid residues.” *Journal of General Virology*, *in press*.
- 94) †*Y. Kurosaki, †M.T. Ueda, Y. Nakano, J. Yasuda, Y. Koyanagi, K. Sato, and *S. Nakagawa, “Different effects of two mutations on the infectivity of Ebola virus glycoprotein in nine mammalian species.” *Journal of General Virology*, 99, 181-186 (2018).
- 95) *S. Mitsuhashi, S. Nakagawa, M. T. Ueda, T. Imanishi, M. C. Frith, and H. Mitsuhashi, “Nanopore-based single molecule sequencing of the D4Z4 array responsible for facioscapulohumeral muscular dystrophy.” *Scientific Reports*, 7, 14789 (2017).
- 96) T. Sakurai, S. Nakagawa, H. Bai, R. Bai, K. Kusama, A. Ideta, Y. Aoyagi, K. Kaneko, K. Iga, J. Yasuda, T. Miyazawa and *K. Imakawa, “Novel endogenous retrovirus-derived transcript expressed in the bovine placenta is regulated by WNT signaling.” *Biochemical Journal*, 474, 3499-3512 (2017).
- 97) †S. Mitsuhashi, †K. Kryukov, †S. Nakagawa, J. S. Takeuchi, Y. Shiraishi, K. Asano, and *T. Imanishi. “A portable system for rapid bacterial composition analysis using a nanopore-based sequencer and laptop computer.” *Scientific Reports*, 7, 5657 (2017).
- 98) *A. Oka, Y. Asano, M. Hasegawa, M. Fujimoto, O. Ishikawa, M. Kuwana, Y. Kawaguchi, T. Yamamoto, H. Takahashi, D. Goto, H. Endo, M. Jinnin, S. Mano, K. Hosomichi, T. Mabuchi, M. T. Ueda, S. Nakagawa, S. Beck, S. Bahram, K. Takehara, S. Sato, and H. Ihn, “RXRB is a MHC-encoded susceptibility gene associated with anti-topoisomerase I antibody-positive systemic sclerosis.” *Journal of Investigative Dermatology*, 137, 1878-1886 (2017).
- 99) *S. Nakagawa, Y. Niimura and T. Gojobori, “Comparative genomic analysis of translation initiation mechanisms for genes lacking the Shine–Dalgarno sequence in prokaryotes.” *Nucleic Acids Research*, 45, 3922-3931 (2017).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 100) *茂呂徹, 岡村陽介, 齋藤琢, 矢野文子, 石原一彦. 「多層構造を有する rhBMP-2 担持 PLLA ナノシートの骨形成促進効果」, *バイオマテリアル* **36** (1), 58-61 (2018). *5
- 101) *岡村陽介, 張宏. “生分解性ナノシートの創製と新規医療技術への挑戦”, 整形・災害外科, 印刷中 (2018). *1
- 102) S. Zhang, Y. Sunami, H. Hashimoto, Nanoseet Technology towards Biomedical Application, *Nanomaterials*, **7** (9), 246, (2017).
- 103) *H. Kimura, Y. Sakai, T. Fujii, “Organ/Body-on-a-chip Based on Microfluidic Technology for Drug Discovery, *Drug Metabolism and Pharmacokinetics*, **33**(1), 43-48 (2018). *2
- 104) *M. T. Ueda, S. Nakagawa, “Transcription Factor Genes.” Evolution of the Human Genome I: The Genome and Genes. Springer Japan KK. (2018).
- 105) *三橋里美, 中川草, 上田真保子, 今西規, Martin C Frith, 三橋弘明, “リピート数が関与する疾患の診断に向けてーサブテロメア領域の D4Z4 マクロサテライトリピートを読む”, 実験医学 Vol.36 No.1, p. 44 - 48. (2018).
- 106) *中川草, 三橋里美, Kryukov Kirill, 今西規, “迅速な細菌種の組成解析”, 実験医学 Vol.36 No.1, p. 32 - 37. (2018). *5

2016 年度 (論文・紀要等)

- 107) K. Sasaki, A. Panagopoulou, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, A. Kyritsis, and P. Pissis, “Dynamics of Uncrystallized Water, Ice, and Hydrated Protein in Partially Crystallized Gelatin-Water Mixtures Studied by Broadband Dielectric Spectroscopy”, *Journal of Physical Chemistry B* **121**, 265-272 (2017).
- 108) M. Miyara, I. Takashima, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihar, “Dynamics of Uncrystallized Water in Partially Crystallized Poly(ethylene glycol)-Water Mixtures Studied by Dielectric Spectroscopy”, *Polymer Journal*, (in press. doi:10.1038/pj.2017.15).
- 109) F. Abe, A. Nishi, H. Saito, M. Asano, S. Watanabe, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, S. Sudo, and Y. Suzuki, “Dielectric study on hierarchical water structures restricted in cement and wood materials”, *Meas. Sci. Technol.* **28**, 044008 (9pp) (2017).
- 110) I. Dueramae, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita, “Self-assembly of acetylated dextran with various acetylation degrees in aqueous solutions: Studied by light scattering”, *Carbohydrate Polymers* **159**, 171-177 (2017).
- 111) J. Sakamoto, R. Kita, I. Dueramae, M. Kunitake, M. Hirano, D. Yoshihara, T. Yamamoto, T. Noguchi, B. Roy, and S. Shinkai, “Cohelical crossover network by supramolecular polymerization of □-4,6-acetalized β-1,3-glucan macromer”, *ACS Macro Letters* **6**, 21-26 (2017).
- 112) K. Sasaki, Y. Matsui, M. Miyara, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Glass transition and dynamics of the polymer and water in the poly(vinylpyrrolidone)-water mixtures studied by dielectric relaxation spectroscopy”, *Journal of Physical Chemistry B* **120**, 6882-6889 (2016).
- 113) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric relaxation time of ice-ih with different preparation”, *Journal of Physical Chemistry B* **120**, 3950-3953 (2016).
- 114) K. Eguchi, D. Niether, S. Wiegand, and R. Kita, “Thermophoresis of cyclic oligosaccharides in polar solvents” *European Physical Journal E* **39**, 86-1 – 86-8 (2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 115) T. Kawaguchi, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, “The Bi-modality Diffusion of Water Molecules in Liposome/Water Dispersion Systems Analyzed by Pulsed Field Gradient Spin Echo NMR Method”, *Transactions of the Materials Research Society of Japan* **41**, 359-362 (2016).
- 116) Ganesh Kumar Mani, M. Morohoshi, Y. Yasoda, S. Yokoyama, H. Kimura, and K. Tsuchiya, “ZnO Based Microfluidic pH Sensor: A Versatile Approach for Quick Recognition of Circulating Tumor Cells in Blood”, *ACS Applied Materials and Interfaces* **9**, 5193-5203 (2017). *2
- 117) Y. Hayakawa, R. S. Ganesh, N. M, Ganesh Kumar Mani, S. Ponnusamy, K. Tsuchiya, C. Muthamizhchelvan, and S. Kawasaki, “Influence of Al doping on the structural, morphological, optical, and gas sensing properties of ZnO nanorods”, *Journal of Alloys and Compounds* **698**, 555-564 (2016).
- 118) K. Tsuchiya, A. S. Mohammad, D. Kaneko, K. Kajiwara, and M. Kimura, “Development of one electrode type pH sensor measuring in microscopic region”, *The International Journal of Applied Electromagnetics and Mechanics* **52**, 1417-1424 (2016). *5
- 119) Y. Uetsuji, T. Wada, and K. Tsuchiya, “Multiscale numerical investigation on effective physical properties of multiferroic BaTiO₃/CoFe₂O₄ composites”, *The International Journal of Applied Electromagnetics and Mechanics* **52**, 1245-1250 (2016).
- 120) Arockia Jayalatha Kulandaisamy, Vignesh Elavalagan, Prabakaran Shankar, Ganesh Kumar Mani, K. Jayanth Babu, and John Bosco Balaguru Rayappan, “Nanostructured Cerium-doped ZnO thin film – A breath sensor,” *Ceramics International* **42**, 18289–18295 (2016).
- 121) Manju Bhargavi Gumpu, Ganesh Kumar Mani, Noel Nesakumar, Arockia Jayalatha Kulandaisamy, K. Jayanth Babu, and John Bosco Balaguru Rayappan, “Electrocatalytic nanocauliflower structured fluorine doped CdO thin film as a potential arsenic sensor”, *Sensors and Actuators B: Chemical* **234**, 426–434 (2016).
- 122) Jagatheeswaran Kothandapani, Asaithampi Ganesan, Ganesh Kumar Mani, Arockia Jayalatha Kulandaisamy, John Bosco Balaguru Rayappan, and Subramaniapillai Selva Ganesan, “Zinc oxide surface: a versatile nanopatform for solvent-free synthesis of diverse isatin derivatives”, *Tetrahedron Letters* **57**, 3472–3475 (2016).
- 123) T. Komachi, H. Sumiyoshi, Y. Inagaki, S. Takeoka, Y. Nagase, and Y. Okamura, “Adhesive and robust multi-layered poly(lactic acid) nanosheets for hemostatic dressing in liver injury model”, *J. Biomed. Mater. Res. B: Applied Biomaterials*, in press. DOI: 10.1002/jbm.b.33714. *1
- 124) H. Zhang, M. Fujii, Y. Okamura, L. Zhang, and S. Takeoka, “Massive fabrication of polymer microdiscs by phase separation and freestanding process”, *ACS Appl. Mater. Interfaces* **8**, 16296-16302 (2016). *1
- 125) 浅尾幸平, 荻野真里, 岩野篤, 岡村陽介, 武岡真司, 長瀬裕, “ホスホリルコリン基を有するポリイミドの合成と生体適合性ナノシートの作製”, *高分子論文集* **73**, 76-86 (2016).
- 126) M. Horayama, K. Shinha, K. Kabayama, T. Fujii, and H. Kimura, “Spatial Chemical Stimulation Control in Microenvironment by Microfluidic Probe Integrated Device for Cell-Based Assay”, *PLOS ONE* **11**, e0168158 (2016). *2
- 127) S. Yokoyama, T. S. Matsui, and S. Deguchi, “Microcontact Peeling: A Cell Micropatterning Technique for Circumventing Direct Adsorption of Proteins to Hydrophobic PDMS”, *Current Protocols in Cell Biology* **75**, 10.21.1-10.21.8 (2017).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 128) S. Yokoyama, T. S. Matsui, and S. Deguchi, “New Wrinkling Substrate Assay Reveals Traction Force Fields of Leader and Follower Cells Undergoing Collective Migration”, *Biochemical and Biophysical Research Communications* **482**, 975-979 (2017).
- 129) 鈴木大介, 小玉翔伍, 落合成行, 砂見雄太, 橋本巨, “ドライガスシールにおける気体流れの可視化実験”, *J. Adv. Sci.*, **28**, 11005-1-11005-5 (2017).
- 130) S. Hadano, S. Mitsui, L. Pan, A. Otomo, M. Kubo, K. Sato, S. Ono, W. Onodera, K. Abe, X.P. Chen, M. Koike, Y. Uchiyama, M. Aoki, E. Warabi, M. Yamamoto, T. Ishii, T. Yanagawa, H.-F. Shang, and F. Yoshii, “Functional links between SQSTM1 and ALS2 in the pathogenesis of ALS: Cumulative impact on the protection against mutant SOD1-mediated motor dysfunction in mice”, *Hum. Mol. Genet.*, **25**, 3321-3340 (2016).
- 131) K. Sato, K. Suzuki-Utsunomiya, Y. Hiratsuka, S. Ono, A. Otomo, and S. Hadano, “Alteration of oligomeric states and subcellular localization of ALS2 mutants underlie the pathogenesis of ALS2-linked motor neuron diseases”, *Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Degeneration*, **17**, 118-119 (2016).
- 132) S. Mitsui, A. Otomo, M. Nozaki, S. Ono, K. Sato, R. Shirakawa, H. Adachi, M. Aoki, G. Sobue, H.-F. Shang, and S. Hadano, “Systemic overexpression of sqstm1 accelerates age of disease onset and reduces survival in SOD1H46R mice”, *Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Degeneration*, **17**, 154 (2016).
- 133) M.T. Ueda, Y. Kurosaki, T. Izumi, Y. Nakano, O.K. Oloniniyi, J. Yasuda, Y. Koyanagi, K. Sato, and S. Nakagawa, “Functional mutations in spike glycoprotein of Zaire ebolavirus associated with an increase in infection efficiency”, *Genes to Cells*, **22**, 148-159 (2017). *⁵
- 134) S. Nakagawa and M.U. Takahashi, “gEVE: a genome-based endogenous viral element database provides comprehensive viral protein-coding sequences in mammalian genomes”, *Database (Oxford)*, baw087 (2016).
- 135) Y. Suzuki, A. Okano, K. Kabayama, A. Nishina, M. Tanigawa, K. Nishimura, and Y. Kushi, “Purification of Pyridylaminated Oligosaccharides Using 1,2-Dichloroethane Extraction” *Anal. Sci.*, **32**, 487-490 (2016).
- 136) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能集積型受精卵作出デバイスの開発”, *日本機械学科論文集*, 印刷中.
- 137) Y. Nakano, S. Sachie, H. Sumiyoshi, K. Mikami, Y. Tanno, M. Sueoka, D. Kasahara, H. Kimura, T. Moro, A. Kamiya, K. Hozumi, and Y. Inagaki, “Identification of a Novel Alpha-Fetoprotein-Expressing Cell Population Induced by Jagged1/Notch Signal in Murine Fibrotic Liver”, *Hepatology Communications* **1**, 215-229 (2017).
- 138) 宮良政彦, 高島いける, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光法による Poly(ethylene glycol) 水溶液の不凍水の分子ダイナミクス”, *東海大学紀要 理学部* **51**, 39-50 (2016).
- 139) 槌谷和義, “鍍金による金属製マイクロ針の開発”, *精密工学会* **82**, 1010-1013 (2016).
- 140) 槌谷和義, “MEMS 用圧電材料の創製技術”, *機械の研究* **68**, 1011-1023 (2016).
- 141) 槌谷和義, “精密工学をベースとした医用工学への展開”, *超音波テクノ* **29**, 93-99 (2017).
- 142) 岡村陽介, “高分子ナノシートの設計と貼る医用材料への展開”, *ケミカルエンジニアリング* **61**, 58-64 (2016). *¹

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 143) 岡村陽介, 砂見雄太, 喜多理王, “厚み 100 nm 以下の高分子超薄膜の不思議 ~調製法・物性から医用展開まで~”, 第 59 回プラスチックフィルム研究会講座, 19-22 (2016). *¹
- 144) 岡村陽介, “生分解性超薄膜の創製と貼るナノ材料としての医用展開”, *バイオマテリアル* **35**, 14-15 (2007). *¹
- 145) 木村啓志, 酒井康行, 藤井輝夫, “創薬を加速するツールとしての Organ-on-a-chip の進展”, *薬剤学* **76**, 238-242 (2016). *²
- 146) 荒木良介, 大友麻子, 和田純希, 石田智行, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの開発”, *東海大学紀要 工学部* **54**, 67-74 (2016). *²
- 147) 笠原大瑚, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, “微小環境制御による肝小葉モデルの構築”, *東海大学紀要 工学部* **54**, 75-82 (2016).
- 148) 矢崎亮, 槌谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップ型マイクログルコースセンサの高性能化に関する検討”, *東海大学紀要 工学部* **54**, 83-88 (2016). *²
- 149) 砂見雄太, 橋本巨, “ロール・ツー・ロール・プリンテッドエレクトロニクス技術への期待”, *シミュレーション* **35**, 2 (2016).
- 150) K. Imakawa, S. Nakagawa “The Phylogeny of Placental Evolution Through Dynamic Integrations of Retrotransposons” *Progress in Molecular Biology and Translational Science*, **145**, 89-109 (2017).
- 151) 宮沢孝幸, 下出紗弓, 中川草, “RD-114 物語: ネコの移動の歴史を探るレトロウイルス”, *ウイルス* **66**, 21-30 (2016). *⁵
- 152) 今川和彦, 中川草, 草間和哉, “胎盤と内在性レトロウイルス”, *ウイルス* **66**, 1-10 (2016).
- 153) 樺山一哉, “糖脂質関連分子の機能および構造解析 ~蛍光顕微鏡と質量分析装置を効果的に利用して~”, *FBC Lett.* **51** (2016).
- 154) 樺山一哉, “ガングリオシドと膜タンパク質の静電的相互作用”, *生化学* **88**, 782-785 (2016).
- 155) 木村啓志, “創薬に向けた Organ/Body-on-a-chip の現状”, *HAB News Letter* **23**, 9-11 (2017).
- 156) 木村啓志, 南学正臣, 藤井輝夫, “Organ-on-a-chip の潮流と in vitro 腎臓モデルへの応用”, *月刊「腎臓内科・泌尿器科」*, 科学評論社, in press (2017)
- 157) 木村啓志, 酒井康行, 藤井輝夫, “Organ-on-a-Chip: マイクロ流体アプローチが拓く新展開”, *日本内科学会雑誌*, in press (2017)

2015 年度 (論文・紀要等)

- 158) K. Maeda, N. Shinyashiki, S. Yagihara, S. Wiegand, and R. Kita, Ludwig-Soret effect of aqueous solutions of ethylene glycol oligomers, crown ethers, and glycerol: Temperature, molecular weight, and hydrogen bond effect, *J. Chem. Phys.* **143**, 124504-1 – 124504-7 (2015).
- 159) S. Sato, Y. Maruyama, H. Kamata, S. Watanabe, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Egawa, and N. Kunizawa, *Trans. Mater. Res. Soc. Jpn.* **40**, 133-136 (2015).
- 160) S. K. Kundu, S. Choe, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, *Phys. Chem. Chem. Phys.* **17**, 18449-18455 (2015).
- 161) Y. Ohnishi, R. Kita, K. Tsuchiya, and S. Iwamori, “Optical characteristics of poly(tetrafluoroethylene) thin film prepared by a vacuum evaporation” *Jpn. J. Appl. Phys.* **55**, 02BB04 (2016).
- 162) 槌谷和義, 今井尚, 大恵克俊, 上辻靖智, 人工喉頭における PZT 圧電振動体設計および音響特性評価, *スマートプロセス学会誌*, Vol. 5, No. 1, p.53-58(2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 163) 榎谷和義, 滝田力也, 上辻靖智 PZT 圧電性向上に関する Au-Pt 複合バッファ層の開発, *スマートプロセス学会誌*, Vol. 5, No. 1, p.16-22(2016).
- 164) 和田剛, 上辻靖智, 榎谷和義, マルチフェロイック複合材料の電気磁気特性に及ぼす非軸分極処理の影響, *スマートプロセス学会誌*, Vol. 5, No. 1, p.9-15(2016).
- 165) Y. Uetsujia, T. Hata, T. Oka, H. Kuramae, and K. Tsuchiya, “Multiscale simulation of domain switching behavior in polycrystalline ferroelectric materials”, *Computational Materials Science*, Volume 106, Pages 100–110(2015).
- 166) Yang Lu, Yosuke Okamura, Hiroshi Kimura, “Surface modification on polydimethylsiloxane-based microchannels with fragmented poly(L-lactic acid) nanosheets”, *Biomicrofluidics* **9**, 064108 (2015). *1*2
- 167) H. Kojima, Y. Suzuki, M. Ito, K. Kabayama, “Structural Characterization of Neutral Glycosphingolipids from 3T3-L1 Adipocytes”, *Lipids* **50**, 913-917 (2015).
- 168) YH. Lee, DH. Seo, JH. Park, K. Kabayama, J. Opitz, KH. Lee,; HS. Kim, TJ. Kim, “Effect of *Oenothera odorata* Root Extract on Microgravity and Disuse-Induced Muscle Atrophy”, *Evid. Based Complement Alternat. Med.* **2015**, 130513 (2015).
- 169) H. Kimura, T. Ikeda, H. Nakayama, Y. Sakai, T. Fujii, "An On-chip Small Intestine-Liver Model for Pharmacokinetic Studies", *Journal of Laboratory Automations* **20**, 265-273 (2015).
- 170) L. Yang, Y. Okamura, H. Kimura, “Surface Modification on Polydimethylsiloxane-based Microchannels with Fragmented Poly(L-lactic acid) Nanosheets”, *Biomicrofluidics* **9**, 064108 (2015). *2
- 171) M. Komeya, H. Kimura, H. Nakamura, T. Yokonishi, T. Sato, K. Kojima, K. Hayashi, K. Katagiri, H. Yamanaka, H. Sanjo, M. Yao, S. Kamimura, K. Inoue, N. Ogonuki, A. Ogura, T. Fujii, T. Ogawa, “Long-term ex vivo maintenance of testis tissues producing fertile sperm in a microfluidic device”, *Scientific Reports* **6**, 21472, DOI: 10.1038/srep21472, (2016).
- 172) H. Kimura, T. Ikeda, H. Nakayama, Y. Sakai, T. Fujii, "An On-chip Small Intestine-Liver Model for Pharmacokinetic Studies", *Journal of Laboratory Automations* **20**, 265-273 (2015).
- 173) K. Fujitani, A. Otomo, M. Wada, N. Takamatsu, and M. Ito, “Sexually dimorphic expression of *Dmrt1* and \square H2AX in germ stem cells during gonadal development in *Xenopus laevis*”, *FEBS Open Bio.* **6**, 276–284 (2016).
- 174) Akihito Akishinonmiya, Y. Ikeda, M. Aizawa, S. Nakagawa, Y. Umehara, T. Yonezawa, S. Mano, M. Hasegawa, T. Nakabo, T. Gojobori, “Speciation of two gobioid species, *Pterogobius elapoides* and *Pterogobius zonoleucus* revealed by multi-locus nuclear and mitochondrial DNA analyses”, *Gene* **576**, 593-602 (2015).
- 175) M. Ochiai, H. Sasaki, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Experimental and Theoretical Verification of Impact Response on Air Thrust Bearing with Topological Optimized Groove”, *Tribology Online*, **10**, 115-120 (2015).
- 176) H. Hashimoto and Y. Sunami, “Optimization of Winding Conditions Considering Web Thickness Variation in Width Direction and Experimental Verification”, *Mechanical Engineering Journal* **6**, 1-12 (2015).
- 177) H. Hashimoto and Y. Sunami, “Optimization of Winding Conditions for Preventing Roll Defects Caused by Thermo-viscoelastic Property and Its Experimental Verification”, *Mechanical Engineering Journal* **6**, 1-14 (2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 178) R.N. Miyaho, S. Nakagawa, A. Hashimoto-Gotoh, Y. Nakaya, S. Shimode, S. Sakaguchi, R. Yoshikawa, M.U. Takahashi, T. Miyazawa, “Susceptibility of domestic animals to a pseudotype virus bearing RD-114 virus envelope protein”, *Gene* **567**, 189-195 (2015).
- 179) M. Kawamura, S. Watanabe, Y. Odahara, S. Nakagawa, Y. Endo, H. Tsujimoto, K. Nishigaki, “Genetic diversity in the feline leukemia virus gag gene”, *Virus Research* **204**, 74-81(2015).
- 180) R. Yoshikawa, M. Okamoto, S. Sakaguchi, S. Nakagawa, T. Miura, H. Hirai, T. Miyazawa, “Simian Retrovirus 4 Induces Lethal Acute Thrombocytopenia in Japanese Macaques”, *Journal of Virology* **89**, 3965-3975 (2015).
- 181) 八木原晋, 喜多理王, 新屋敷直木, 福崎稔, 水溶液の誘電緩和—高分子と水の広帯域ダイナミクスからの物性・生体評価—, 第 37 回高分子と水・分離に関する研究会講座 **37**, 17-20 (2015).
- 182) 宮良政彦, 高島いける, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電分光法による Poly(ethylene glycol) 水溶液の不凍水の分子ダイナミクス, *東海大学紀要 理学部* **51**, 39-50 (2016).
- 183) 喜多理王, ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析, *文部科学省新学術領域 ゆらぎと構造の協奏「非平衡系における普遍法則の確立」H27 年度研究成果報告書*, 64-65 (2016).
- 184) 榎谷和義, 解説「C 型形状圧電アクチュエータを用いたユニットモデルの開発」, *超音波テクノ*, **28**, 91-98 (2016).
- 185) 榎谷和義, 解説「溝付加による中空管マイクロポンプ用アクチュエータ性能向上」, *超音波テクノ*, **28**, 54-64 (2016).
- 186) 榎谷和義, 解説「痛み治療に関わるドラッグデリバリーシステム ナノテクノロジーから生まれる未来の注射針の開発」, *麻酔*, **64**, 1166-1174 (2015).
- 187) Y. Okamura, Y. Nagase, S. Takeoka. “Patchwork coating of fragmented ultra-thin films and their biomedical applications in burn therapy and antithrombotic coating”, *Materials* **8**, 7604-7614 (2015). *1
- 188) 岡村 陽介, 長瀬 裕, “裁断化高分子超薄膜の創製と水性表面改質材としてのパッチワークコーティング”, *塗装工学* **50** (9), 310-315 (2015).
- 189) 岡村 陽介. 生分解性高分子からなる超薄膜の医用展開. *化学工業* **67** (3), 48-54 (2016).
- 190) 岡村 陽介, 石原 一彦監修, “高分子超薄膜を用いた未活性浮遊細菌固定技術“ナノラッピング”の確立と機能解明”, *文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型) ナノメディシン分子科学 平成 27 年度研究成果報告書*, 64-67 (2016). *5
- 191) 桑畑周司, 山口健志, 小島寿夫, 榎山一哉, “大気圧プラズマジェット照射によるリン脂質の分解”, *表面科学* **36**, 257-262 (2015).
- 192) T.J. Kim, YH. Lee, DH. Seo, Jh. Park, H. Kim, K. Kabayama, J. Opitz, K. Lee, “Effect of *Oenothera Odorata* Root Extract on Microgravity and Disuse-Induced Muscle Atrophy”, *evidence-Based Complementary and Alternative Medicine* **130513** (2015).
- 193) 木村啓志, 酒井康行, 藤井輝夫, “マイクロ流体デバイス技術による Organ/Body-on-a-chip の実現に向けた取り組み”, *月刊「細胞」ニュー・サイエンス社*, **48**, 148-151 (2016).
- 194) S. Ono, A. Otomo, W. Onodera, K. Sato, S. Mitsui, M. Fukuda, S. Hadano, “The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2 in recycling endosomes”, *ALS/FTD* **16**, Supplement 1, 182 (2015).
- 195)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 196) K. Imakawa, S Nakagawa, and T. Miyazawa, “Baton pass hypothesis: Successive incorporation of unconserved endogenous retroviral genes for placentation during mammalian evolution”, *Genes to Cells* **20**, 771-788 (2015).
- 197) 宮沢孝幸、中川草、”レトロウイルスの起源と進化”、*実験医学増刊* **33**, 117-126 (2015).
- 198) 坂口翔一、小出りえ、中川草、宮沢孝幸、”猫モルビリウイルス研究の最前線”、*Felis* **07**, 110-116 (2015).

2014 年度 (論文・紀要等)

- 199) W. Sirithep, K. Morita, A. Iwano, T. Komachi, Y. Okamura, Y. Nagase, “Syntheses and properties of elastic copoly(ester-urethane)s containing a phospholipid moiety and the fabrication of nanosheets”, *Journal of Biomaterials Science, Polymer Edition* **25**, 1540-1557 (2014).
- 200) A. Iwano, K. Morita, W. Sirithep, Y. Okamura, Y. Nagase, “Synthesis of biocompatible elastic polyurethane containing phospholipid moiety” *Transactions of the Materials Research Society of Japan* **39**, 411-414 (2014).
- 201) Y. Okamura, Y. Nagase, “Fabrication of bio-friendly polymer nanosheets for biomedical applications”, *Transactions of the Materials Research Society of Japan* **39**, 379-384 (2014).
- 202) 岡村陽介、”高分子超薄膜の不思議 ～新規医用材料への挑戦～”、*化学と工業* **67**, 705-706 (2014).
- 203) Y. Nagase, Y. Okamura, “Synthesis of new biocompatible polymers and fabrication of nanosheets”, *Biomedical Engineering*, published by Intech **1**, 3-20 (2015).
- 204) Y. Uetsuji, T. Hata, H. Kuramae, K. Tsuchiya, “Homogenization modeling of domain switching in ferroelectric materials”, *ACTA MECHANICA* **225**, 2969-2986 (2014).
- 205) 植谷和義、梶原景正、木村穰、「痛みの定量化に基づく新規低侵襲針の開発」、*臨床麻酔* **38**, 8, 通巻 461 号(2014).
- 206) K. Tsuchiya, “The Painless Injection Tube: From Bio-mimetic Technology to Medical Engineering”, *Thought-Evoking Approaches in Engineering Problems*, Springer, 71-94 (2014).
- 207) 植谷和義、無痛針を有する糖尿病センサの開発、*バイオセンサの先端科学技術と新製品への応用開発*, 技術情報協会, 272-279 (2014).
- 208) K. Maeda, N. Shinyashiki, S. Wiegand, S. Yagihara, R. Kita, “How does thermodiffusion of aqueous solutions depend on concentration and hydrophobicity?”, *European Physical Journal E* **37**, 94-100 (2014).
- 209) W. Yamamoto, K. Sasaki, R. Kita, S. Yagihara, N. Shinyashiki, “Dielectric study on temperature-concentration superposition of liquid to glass in fructose-water mixtures”, *Journal of Molecular Liquids* **206**, 39-46 (2015).
- 210) K. Sasaki, M. Miyara, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, “Dynamics of water in the partially crystallized gelatin water mixture”, *Journal of Advanced Science* **24**, 41-44 (2014).
- 211) 喜多理王、田中文彦、“C プログラミングによる分子シミュレーション”、*高分子物理学特論 2 増補版 2014 年度*, 1-181, (2014).
- 212) 川口翼、斉藤宏伸、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、“誘電分光法と PFG-SE NMR 法を用いた豆腐ゲルの水構造ダイナミクス”、*東海大学理学部紀要* **50**, 111-119 (2015) .
- 213)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 214) 喜多理王, 佐野雅己監修, “ゆらぎと構造の協奏-非平衡系における普遍法則の確立-“, 文部科学省科研費 新学術領域研究報告書 2502, (2015).
- 215) H. Nakayama, H. Kimura, T. Fujii, Y. Sakai, “Image-based evaluations of distribution and cytotoxicity of Irinotecan (CPT-11) in a multi-compartment micro-cell coculture device”, *J. Biosci. Bioeng.* **117**, 756–762, (2014).
- 216) M. Shinohara, H. Kimura, K. Montagne, K. Komori, T. Fujii, Y. Sakai, “Combination of microwell structures and direct oxygenation enables efficient and size-regulated aggregate formation of an insulin-secreting pancreatic beta-cell line”, *Biotechnol. Prog.* **30**, 178-187 (2014).
- 217) P.V. Hauser, M. Nishikawa, H. Kimura, T. Fujii, N. Yanagawa, “Controlled Tubulogenesis from Dispersed Ureteric Bud-derived Cells Using a Micropatterned Gel”, *Journal of Tissue Engineering and Regenerative Medicine*, DOI: 10.1002/term.1871, (2014).
- 218) H. Tozawa, T. Maekawa, H. Kimura, T. Fujii, “A novel effect of parylene-based surface coating on HepG2 cell function”, *Materials Science and Engineering C*, **46**, 190-194 (2014).
- 219) H. Kimura, T. Ikeda, H. Nakayama, Y. Sakai, T. Fujii, “An On-chip Small Intestine-Liver Model for Pharmacokinetic Studies”, *Journal of Laboratory Automations*, **20**, 265-273 (2015).
- 220) H. Hashimoto, Y. Sunami, H. Fujita, “Effect of Static Electricity on Static Friction Force between Plastic Film and Steel Roller”, *IMEchE Journal of Engineering Tribology* **228**, 1008-1014 (2014).
- 221) M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Study on Angular Displacement Characteristics on Topological Optimum Design of Hydrodynamic Thrust Air Bearing”, *IMEchE Journal of Engineering Tribology* **228**, 997-1007 (2014).
- 222) M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Vibration Response Characteristics against the Radial and Axial Shocks on Small Size Hard Disk Drive Spindle Supported by Oil Film Bearings”, *Journal of Mechanics Engineering and Automation* **4**, 547-554 (2014).
- 223) 落合成行, 成瀬祐太, 砂見雄太, 橋本巨, “ジャーナル油膜軸受の安定性に及ぼす供給油量の影響とそのヒステリシス特性”, *トライボロジスト* **59**, 437-444 (2014).
- 224) 砂見雄太, “トライボロジストとしての過去・現在・未来”, *トライボロジスト* **60**, 126-131, (2015).
- 225) K. Suyama, M. Watanabe, K. Sakabe, A. Otomo, Y. Okada, H. Terayama, T. Imai, J. Mochida, “GRP78 suppresses lipid peroxidation and promotes cellular antioxidant levels in glial cells following hydrogen peroxide exposure”, *PLoS One.* e86951 (2014).
- 226) SH. Son, S. Daikoku, A. Ohtake, K. Suzuki, K. Kabayama, Y. Ito, O. Kanie, “Syntheses of Lactosyl Ceramide Analogues Carrying Novel Bifunctional BODIPY Dyes Directed towards the Differential Analysis of Multiplexed Glycosphingolipids by MS/MS using iTRAQ”, *Chem. Commun.* **50**, 3010-3013 (2014).
- 227) H. Kuwahata, T. Yamaguchi, H. Kojima, K. Kabayama, “Atmospheric-Pressure Plasma Jet Irradiation onto Main Components of the Cell Wall and Membrane of *Escherichia Coli.*”, *e-Journal of Surface Science and Nanotechnology* **12**, 400-403 (2014).
- 228) WJ. Kim, HS. Kim, J. Opitz, K. Kabayama, TJ Kim, “Effect of Cymbidium Root Extracts on Oxidative Stress-induced Myoblasts Damage”, *Journal of Life Science* **24**, 1019-1024 (2014).
- 229) S. Sakaguchi, S. Nakagawa, R. Yoshikawa, C. Kuwahara, H. Hagiwara, K. Asai, K. Kawakami, Y. Yamamoto, M. Ogawa, and T. Miyazawa, “Genetic diversity of feline morbilliviruses isolated in Japan”, *Journal of General Virology* **95**, 1464-1468 (2014).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<雑誌論文つづき>

- 230) R. Yoshikawa, S. Nakagawa, M. Okamura, T. Miyazawa, “Construction of an infectious clone of simian foamy virus of Japanese macaque (SFVjm) and phylogenetic analyses of SFVjm isolates”, *Gene* **548**, 149-154 (2014).
- 231) S. Shimode, S. Nakagawa, T. Miyazawa, “Multiple invasions of infectious retrovirus in cat genomes”, *Scientific Reports* **5**, 8164 (2015).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<図書>

2018 年度 (図書)

- 1) 手老龍吾, *樺山一哉, “光学顕微鏡”, 表面分析図鑑, 日本表面科学会, 印刷中 (2019).
- 2) *K. Kabayama, and R. Tero, “Optical Microscopy”, Compendium of Surface and Interface Analysis, Springer, 413-417 (2018).
- 3) *K. Kabayama, and R. Tero, “Super-Resolution Microscopy”, Compendium of Surface and Interface Analysis, Springer, 651-656 (2018).
- 4) 木村啓志, 藤井輝夫, “第II編 要素技術 第1章 臓器チップ開発のための微細加工技術”, 臓器チップの技術と開発動向, 株式会社シーエムシー出版, 31-36 (2018).
- 5) 木村啓志, “第III編 臓器チップ 第5章 腎臓機能を再現するKidney-on-a-chip”, 臓器チップの技術と開発動向, 株式会社シーエムシー出版, 180-185 (2018).
- 6) 木村啓志, “第III編 臓器チップ 第16章 臓器由来細胞を集積化したBody-on-a-chip”, 臓器チップの技術と開発動向, 株式会社シーエムシー出版, 260-266 (2018).
- 7) 木村啓志, “第4章 細胞培養に関連した技術研究 (1) 生体機能チップ実現にむけたマイクロ流体デバイスを利用した細胞培養技術”, 三次元培養における培養手法と周辺技術動向, 株式会社情報機構, 印刷中 (2019).
- 8) 宮沢孝幸, 中川草, “レトロウイルス”, 獣医微生物学 第4版, 437-444 (2018).

2017 年度 (図書)

- 9) 木村啓志, 藤井輝夫, “第II編 要素技術 第1章 臓器チップ開発のための微細加工技術”, 臓器チップの技術と開発動向(仮), 株式会社シーエムシー出版, (2018) 【予定】
- 10) 木村啓志, “第III編 臓器チップ 第5章 腎臓機能を再現するKidney-on-a-chip”, 臓器チップの技術と開発動向(仮), 株式会社シーエムシー出版, (2018) 【予定】
- 11) 木村啓志, “第III編 臓器チップ 第16章 臓器由来細胞を集積化したBody-on-a-chip”, 臓器チップの技術と開発動向(仮), 株式会社シーエムシー出版, (2018) 【予定】
- 12) 酒井康行, 木村啓志, “in vitro臓器モデルを基盤とした個体応答理解に向けて”, 腎と透析, 84(2), 339-342 (2018).
- 13) 木村啓志, 酒井康行, 藤井輝夫, “Organ-on-a-Chip: マイクロ流体アプローチが拓く新展開”, 日本内科学会雑誌, 106(9), 1783-1788, (2017).
- 14) 木村啓志, 南学正臣, 藤井輝夫, “Organ-on-a-chipの潮流とin vitro腎臓モデルへの応用”, 月刊「腎臓内科・泌尿器科」, 科学評論社, 5(5), 504-508 (2017).

2016 年度 (図書)

- 15) 喜多理王, “第3章 温度勾配がある系におけるレーザ干渉法を用いた分子拡散測定”, 第28回散乱研究会テキスト, 大塚電子株式会社, 3-1-3-16 (2016).
- 16) 岡村陽介, 長瀬 裕, “第4章 生体親和性高分子からなる超薄膜の設計と臓器閉鎖材への応用”, 手術用シーラント材・癒着防止剤の利便性向上を目指した製品開発, 技術情報協会, 296-299 (2016).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 17) 岡村陽介, “第 6 章 裁断化超薄膜の調製法と水性表面改質材への応用 ～熱傷治療・血液適合界面の提供～”, *生体適合性高分子材料の最前線 -医療用バイオマテリアルの研究開発-*, シーエムシー出版, 237-245 (2017).
- 18) 中川草, UJA (海外日本人研究者ネットワーク) 編, *カガクシャ・ネット編集協力, 研究留学のすゝめ!*, 羊土社 (2016).

2015 年度 (図書)

- 19) R. Kita and T. Dobashi, Eds. *Nano/Micro Science and Technology in Biorheology: Principle, Methods, and Applications*, Springer, Tokyo, (2015).
- 20) K. Tsuchiya, The Painless Injection Tube: From Bio-mimetic Technology to Medical Engineering. *In Yoshimo Ito Ed., Thought-Evoking Approaches in Engineering Problems.* pp. 71- 94. Springer, Switzerland (2014).
- 21) Y. Nagase, Y. Okamura, Synthesis of new biocompatible polymers and fabrication of nanosheets. *Advances in Bioengineering, 2nd ed.*, Andrea Serra, P.A., Eds. InTech: Rijeka, Croatia, 1, pp.3-20 (2015) (分担執筆).

2014 年度 (図書)

- 22) K. Kabayama, H. Kojima, Y. Suzuki, Glycolipid Raft, *Glycoscience: Biology and Medicine*. Springer (2014).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<学会発表>

【招待講演等】

2018年度（招待講演）

- 1) 喜多理王, “ソフトマテリアルの熱的非平衡系の物性基礎論”, 九州大学大学院集中講義, 福岡市, 2018年11月16-17日. *⁵
- 2) 喜多理王, “東海大学マイクロ・ナノ研究開発センターの現在と未来”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第9回学術講演会, 東海大学熊本キャンパス, 熊本市, 2018年8月24日. *⁴
- 3) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “高分子水溶液の分子ダイナミクスとガラス転移に関する誘電的研究”, 第67回高分子討論会, 北海道大学札幌キャンパス, 札幌市, 2018年9月13日.
- 4) K. Sasaki, “Enthalpy and dielectric relaxation of polymer and its aqueous solution”, Seminar in The Hebrew University of Jerusalem, Jerusalem, Israel, December 20 (2018).
- 5) K. Sasaki, “Dynamics of the secondary relaxation before and after liquid-liquid transition”, Seminar in The Hebrew University of Jerusalem, Jerusalem, Israel, December 27 (2018).
- 6) 槌谷和義, “プレフィルドシリンジ・キット製剤穿刺時の痛みの評価”, 技術情報協会 セミナールーム, プレフィルドシリンジ/キット製剤穿刺時の痛みの評価と針の開発, 2018年7月6日.
- 7) 岡村陽介, “超薄膜ラッピング法による細胞・組織の高解像度イメージング”, 18-1 超分子研究会・高分子学会, 中央大学後楽園キャンパス, 文京区, 2018年6月1日. *^{5*6}
- 8) 岡村陽介, “2次元ナノ薄膜の不思議 ～貼る医用材料への応用展開～”, 高分子同友会勉強会, 高分子学会事務局会議室, 中央区, 2018年7月3日.
- 9) 岡村陽介, 張宏, 青木拓斗, 鎗野目健二, 高橋泰伽, 川上良介, 根本知己, “ナノ界面としての高分子超薄膜の設計と高解像度バイオイメージングツールへの応用”, 第67回高分子討論会, 北海道大学札幌キャンパス, 札幌市, 2018年9月12日. *^{5*6}
- 10) 岡村陽介, “2次元ナノ材料としての高分子超薄膜 ～調製法・物性・応用展開～”, ウェブハンドリング技術研究会 2018年度勉強会, 東海大学山中湖セミナーハウス, 南都留郡山中湖村, 2018年10月20日. *⁶
- 11) Y. Okamura, H. Zhang, Y. Yarinome, K. Otomo, R. Kawakami, and T. Nemoto, “Fabrication of Fluoropolymer Nanosheets as a Wrapping Mount for High Quality Tissue Imaging”, International Meeting on Bioimaging for Young Researchers, Okinawa/Japan, October 30, 2018.
- 12) 岡村陽介, “ナノ薄膜ラッピング技術 ～細胞・組織をぶれずにイメージングする～”, ダイナミックアライアンスG3公開シンポジウム/ニコンイメージングセンター学術講演会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス, 横浜市, 2018年11月27日. *⁵
- 13) Y. Okamura, “Freestanding Bio-friendly Nanosheets for Biomedical Applications”, China-Japan Joint Symposium on Biomaterials 2018, Changchun/China, November 29, 2018.
- 14) 岡村陽介, 張宏, 青木拓斗, 鎗野目健二, 白鳥瑚乃羽, 鈴木智雅, “超薄膜ラッピング技術 ～組織・細胞をぶれずにイメージングするために～”, 東海大学イメージング研究センター研究成果講演会, 東海大学湘南キャンパス, 平塚市, 2018年12月21日. *^{4*6}
- 15) Y. Okamura, “Fabrication of Freestanding Biofriendly Nanosheets for Biomedical Applications”, KUMP International Symposium, Osaka/Japan, January 25, 2019.
- 16) 岡村陽介, “生体適合性高分子超薄膜の創製と医用展開”, 日本学術振興会薄膜第131委員会第293回研究会, 港区, 2019年2月28日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 17) 岡村陽介, “2次元バイオマテリアルの設計と医工学展開”, 第69回医用高分子研究会・高分子学会主催, 東京理科大学葛飾キャンパス, 葛飾区, 2019年3月1日.
- 18) 樺山一哉, “インスリン抵抗性の発症要因を顕微鏡で探る”, 筑波大医学部糖尿病内科特別講義, 筑波大学, つくば市, 2019年2月18日.
- 19) K. Kabayama, “Live cell imaging analyses by input control system” Institute for Protein Research International Seminar Frontiers in Peptide Science 2018, Suita, December 8 (2018).
- 20) 樺山一哉, “メタボの原因を顕微鏡で探る～研究者に興味がある若者たちへ～”, 宮崎西高校特別講義, 宮崎西高校, 宮崎市, 2018年11月17日.
- 21) K. Kabayama, “Live cell imaging of fluorescence labeled ligands and antibodies”, 2018 GRS-OU bilateral symposium, Toyonaka, October 4-5 (2018).
- 22) K. Kabayama, “Live cell imaging by input control system”, Keio University International Symposium on Advanced Technologies for Mechano-biology and Regenerative Medicine, Hiyoshi, September 20-22 (2018).
- 23) K. Kabayama, “Preparation of novel anticancer drugs using At-211”, Naposaka 2nd workshop, Naples, Italy, June 25 (2018).
- 24) H. Kimura, “Organs-on-a-Chip Mimicking Physiological Parameters for Pharmacokinetic Studies”, Organ-on-a-Chip World Congress and 3D-Bioprinting 2018, Coronado Island Marriott Resort & Spa, San Diego, USA, October 5 (2018).
- 25) H. Kimura, “Organ(s)-on-chips mimicking physiological parameters”, 2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Ishikawa Ongakudo, October 2 (2018).
- 26) 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを技術基盤とするOrgan(s)-on-a-chip”, 27th I2plus Seminar, 東京理科大学葛飾キャンパス, 葛飾区, 2018年7月12日.
- 27) H. Kimura, “Microfluidic Technologies toward Pharmacokinetics on a Chip”, The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, Kyoto International Conference Center, July 6 (2018).
- 28) 木村啓志, “Organ/Body-on-a-chip技術の基礎と実用化への展望”, 情報機構, 大田区産業プラザ, 2018年6月19日.
- 29) 木村啓志, 南学正臣, 藤井輝夫, “マイクロ流体デバイスを技術基盤とするOrgan-on-a-chipと腎臓研究への応用”, 第61回日本腎臓学会学術総会, 朱鷺メッセ/ホテル日航新潟, 新潟市, 2018年6月9日.
- 30) 砂見雄太, “ウェブの力学的特性とトライボロジー特性”, フィルムのウェブハンドリングと不具合防止技術, 株式会社技術情報協会セミナールーム, 東京, 2018年12月18日.
- 31) 砂見雄太, “ウェブハンドリング技術の基礎と搬送および巻取り時におけるトラブルと原因の対策”, 東京・大井町きゅりあん5階第3講習室, 東京, 2018年12月7日.
- 32) 砂見雄太, “ウェブハンドリング技術の基礎とスリップ抑止技術および巻取り張力最適化技術への応用”, 日本テクノセンター小田急第一生命ビル22階, 東京, 2018年11月22日.
- 33) 砂見雄太, “ウェブ搬送のしわ防止と巻取りにおけるトラブルの原因と対策”, 高砂ビル2FCMC+And Tech FORUM セミナールーム, 東京, 2018年10月16日.
- 34) 砂見雄太, “ウェブ搬送のしわ防止と巻取りにおけるトラブルの原因と対策”, 江東区産業会館第6展示室, 東京, 2018年8月27日.
- 35) 中川草, “ポータブルDNA/RNA シークエンサーMinIONを災害時医療にどのように活用するか”, 災害感染症対策セミナー in SHIZUOKA2018, 静岡県立総合病院, 静岡, 2018年12月1日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 36) 中川草, “ナノポアシークエンサーを活用した迅速感染症診断システムの開発”, 第 21 回日本レトロウイルス研究会夏セミナー (SRC), 東京スポーツ文化会館, 新木場, 東京, 2018 年 7 月 13 日.
- 37) 中川草, “大規模塩基配列解析による機能ゲノム進化解析”, 芝浦工業大学 システム理工学部 生命科学科 第 4 回生化学セミナー, 芝浦工業大学大宮キャンパス, 大宮, 埼玉, 2018 年 6 月 29 日.

2017年度 (招待講演)

- 38) 喜多理王, 「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」プロジェクトについて, 医工連携におけるエンジニアリングの新たな潮流 ~ 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター編, 神奈川県立産業技術総合研究所(KISTEC), 川崎市高津区, 2017年2月27日. *4*6
- 39) R. Kita, “Characterizations of PNIPAM solution in equilibrium and nonequilibrium state”, Seminar in Technische Universitaet Muenchen, Muechen, Germany, December 6 (2017).
- 40) R. Kita, “Equilibrium and nonequilibrium behavior of PNIPAM solution”, Seminar in Forschungszentrum Juelich GmbH, Juelich, Germany, November 21 (2017).
- 41) 新屋敷直木, 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 八木原晋, “溶液中の高分子鎖のガラス転移と水とアルコールの多様な誘電緩和”, 高分子の物性測定と応用, 京都, 2018年3月2日.
- 42) K. Sasaki, T. Yasuda, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Glass Transition and Dynamics of Uncrystallized Water, Ice and Hydrated Gelatin Studied by Broadband Dielectric Spectroscopy”, 8th International Discussion Meeting on Relaxation in Complex Systems, Wisla, Poland, Jul. 26 (2017).
- 43) N. Shinyashiki, K. Bandai, M. Takatsuka, K. Sasaki, R. Kita, and S. Yagihara, “The non-Arrhenius-Arrhenius transition in polymer solution is the unique to water or not”, 8th International Discussion Meeting on Relaxation in Complex Systems, Wisla, Poland, Jul. 25 (2017).
- 44) 榎谷和義, 電気通信大学, 東海大学, 豊橋技科大学, Fabrication of PZT thin film actuator and microneedle pH sensor by RF magnetron sputtering method, The IRAGO conference 2017, 2017年11月02日, 電気通信大学, 調布
- 45) 岡村陽介. “高分子超薄膜の開発とユニークな特性を利用した医療分野への応用展開”, 日本ゴム協会配合技術研究分科会, 東部ビル (港区), 2017 年 5 月 12 日.
- 46) 岡村陽介. “面をもつユニークなナノ構造体の設計と医用展開 ~ナノシート・ナノディスク・ナノリボン~”, 城西大学薬学部特別講演会, 城西大学坂戸キャンパス (坂戸市), 2017 年 5 月 16 日.
- 47) 岡村陽介. “生体親和性を有する 2 次元ナノ材料の設計とユニークな特性 ~調製法・物性から医用展開まで~”, 富士フイルム先端コア技術研究所講演会, 富士フイルム先進研究所 (足柄上郡開成町), 2017 年 6 月 27 日.
- 48) 岡村陽介. “高分子超薄膜の創製と貼るナノ材料としての応用展開”, 砥粒加工学会第 14 回研究会, 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター (平塚市), 2017 年 7 月 28 日.
- 49) Y. Okamura. “Freestanding Bio-friendly Nanosheets for Biomedical Applications”, MNTC International Symposium 2017 (MNTCIS2017), Kanagawa/Japan, August 26, 2017.
- 50) Y. Okamura, and H. Zhang. “Fabrication of Biocompatible Polymer Nanosheets for Biomedical Applications”, The Irago Conference 2017, Tokyo/Japan, November 1st, 2017.
- 51) 岡村陽介, 張宏, 青木拓斗, 鎗野目健二, 波多野香奈枝, 樺山一哉, 川上良介, 根本知己. “生体組織・浮遊細胞の超薄膜ラッピング法の確立と高解像度イメージングへの貢献”, 第 24 回日本血液代替物学会年次大会, 早稲田大学西田早稲田キャンパス (新宿区), 2017 年 12 月 7 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 52) 岡村陽介, “2次元ナノ薄膜の不思議 ～貼って使う医用材料、イメージング材料への応用展開～”, 愛媛大学医学部 TRC セミナー, 愛媛大学重信キャンパス (東温市), 2018年1月22日.
- 53) 岡村陽介, “高分子超薄膜の設計と貼る医療材料としての応用展開”, 医工連携におけるエンジニアリングの新たな潮流 ～ 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター編, 神奈川県立産業技術総合研究所(KISTEC), 川崎市高津区, 2017年2月27日. *4*6
- 54) Y. Sunami, Fabrication of Nanosheets Using Micro Gravure Printing and Its Evaluation, KMITL Joint Seminar 2017, 東海大学 (平塚市), 2017年5月30日.
- 55) 砂見雄太, “高機能フィルムの大量生産に必須なウェブハンドリング技術”, (公社) 砥粒加工学会 研削・研磨盤の高度化専門委員会 第14回 研究会 「マイクロ・ナノ研究の最新技術と難加工材研磨」, 東海大学 (平塚市), 2017年7月28日.
- 56) Y. Sunami, Mass Production of Nanosheets Using R2R and Its Evaluation, The Irago Conference 2017, 電気通信大学 (調布市), 2017年11月1日.
- 57) Kazuya Kabayama, BER2018 (International Workshop on the Biological Effects of Radiation), Nakanoshima, Osaka, Preparation of novel anticancer drugs using At-211, 2018.3.19
- 58) 樺山一哉, タイムラプスから始めるライブセルイメージング
プレミアムハンズオントレーニング、ライフテクノロジーズジャパン株式会社本社、東京、2017.12.18
- 59) 樺山一哉, 蛍光標識リガンドおよび抗体のライブセルイメージング, 成蹊大学 大学院特別講義、成蹊大学2017.10.20
- 60) 樺山一哉, タイムラプスから始めるライブセルイメージング, プレミアムハンズオントレーニング、ライフテクノロジーズジャパン株式会社本社、東京、2017.8.8
- 61) Kazuya Kabayama, Live cell imaging of fluorescence labeled ligands and antibodies, Naposaka workshop, Naples, Italy, 2017.7.10
- 62) 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を基盤とするOrgan / Body-on-chips”, 日本化学会 第98春季年会, 日本大学 (船橋市), 2018年3月20日-23日.
- 63) 木村啓志, “マイクロ流体デバイスの医療・バイオ応用に関する研究”, 学校法人東海大学 2017年度松前重義賞, 東海大学 (霞ヶ関), 2018年1月17日. *4
- 64) H. Kimura, “Microfluidic Technology for Medical and Biological Applications”, MNTC International Symposium 2017, Tokai University, Hiratsuka, Aug. 26-27, 2017.
- 65) H. Kimura, “Organ(s)-on-chips mimicking physiological environment and parameters”, Organ-on-a-chip World Congress 2017, Boston, MA, USA, Jul. 10-11, 2017.
- 66) 大友麻子, “「医工連携におけるエンジニアリングの新たな潮流～東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター編」, 医療機器産業参入のための基礎」アドバンストコース・第9回, 神奈川サイエンスパーク (川崎市), 2018年2月27日. *4*6
- 67) S. Nakagawa, “Dynamic eukaryotic genome evolution by endogenous viral elements (EVEs)”, Invited Seminar at Department of Life Sciences, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan, 3/13, 2018.
- 68) S. Nakagawa, “Development of a genomic diagnostic system for various infectious diseases using a MinION sequencer”, Nanopore Day, Kyoto University, Kyoto, 3/8, 2018.
- 69) 中川草, “迅速感染症ゲノム診断に向けたシステム開発”神奈川県立産業技術総合研究所 (KISTEC) 「医工連携におけるエンジニアリングの新たな潮流」セミナー, かながわサイエンスパーク内 KSP ホール, 川崎, 神奈川, 2/27, 2018. *4*6

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 70) S. Nakagawa, “Development of a genomic diagnostic system for various infectious diseases using a nanopore-based sequencer”, The 3rd J-GRID International Symposium, Center for Zoonosis Control, Hokaido University, Sapporo, 2/2, 2018.
- 71) S. Nakagawa, “Genome-Wide Analyses of Endogenous Viral Elements in Mammalian Genomes Using the gEVE Database and Next-generation DNA Sequencing Data”, 29th International Conference of the Korean Society for Molecular and Cellular Biology (KSMCB), COEX, Seoul (Korea), 9/12-14, 2017.
- 72) 中川草, “分子進化・集団遺伝学を背景にしたバイオインフォマティクス解析の事例紹介”, 日本生物工学会 バイオインフォマティクス相談部会 第一回勉強会, 名古屋大学、名古屋、8/10, 2017.
- 73) 中川草, “大規模配列解析が明らかにする哺乳類ゲノムに内在化したウイルス由来の配列の機能・疾患と進化”, 都医学研セミナー, 東京都医学総合研究所、東京、6/15, 2017.
- 74) 中川草, “ウイルスが宿主ゲノムに内在化し、宿主で獲得した新規機能と進化”, 慶應義塾大学医学部微生物学免疫学教室特別セミナー, 慶應義塾大学信濃町キャンパス、6/16, 2017.
- 75) 中川草, “分子進化学・生命情報学の手法を用いたダイナミックなゲノム進化の解明”, 東京大学医科学研究所 学友会セミナー, 東京大学医科学研究所、4/14, 2017.

2016年度（招待講演）

- 76) 喜多理王, “「事業概略説明」および「知る／高分子の分子物性解析、レオロジー解析」”, 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター 平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 中間報告会, 東海大学（平塚市）, 2017年2月25日.
- 77) 喜多理王, 園田晴久, “東海大学イメージング研究センターにおける産学連携について”, 第5回 SAS技術講演会, 東海大学（平塚市）, 2017年2月16日. *6
- 78) R. Kita, “Thermal diffusion of aqueous solutions of polymers”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.
- 79) 喜多理王, “温度勾配がある系におけるレーザ干渉法を用いた分子拡散測定”, 第28回散乱研究会（大塚電子株式会社）, ヒューリック浅草橋ビル（台東区）, 2016年11月25日.
- 80) 喜多理王, “東海大学マイクロ・ナノ研究開発センターの取り組みおよび非平衡系の高分子溶液物性”, WEB ハンドリング技術研究会 11 月度特別合宿勉強会, 東海大学山中湖セミナーハウス（山中湖村）, 2016年11月18-19日.
- 81) 喜多理王, “分子溶液の温度勾配下における輸送現象”, 第28回液体の化学 夏の学校, 大学セミナーハウス（八王子市）, 2016年8月29-31日.
- 82) K. Tsuchiya, “Development of mobile hospital with painless micro needles”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.
- 83) 槌谷和義, “バイオメティクスとナノテクノロジー”, 痛みの数値化法に基づく新しい機能性注射針の開発, 2016 ナノ理工学セミナー, 大阪大学豊中キャンパス（豊中市）, 2016年10月25日.
- 84) 槌谷和義, “蚊からうまれた無痛針のお話”, ウェブハンドリング技術研究会 10 月度特別合宿勉強会, 東海大学山中湖セミナーハウス（山中湖村）, 2016年10月14日.
- 85) 槌谷和義, “蚊からうまれた無痛針のお話”, 平成 28 年度茨城県立図書館共催放送大学ライブラリー講演会, 茨城県立図書館（水戸市）, 2016年8月27日.
- 86) Ganesh Kumar Mani, “Micro needles & Micro fluidics based sensors: State of art and future prospects”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 87) Ganesh Kumar Mani, “Chemical Sensors for Food Quality & Bio-Medical Applications”, International Conference on Materials Research and Applications (ICMRA 2016), CMR Technical Campus, Hyderabad, India, March 11-13, 2016.
- 88) Ganesh Kumar Mani, “Chemical Sensors for Food Quality & Bio-Medical Applications”, International Conference on Recent Trends in Engineering and Material Sciences(ICEMS-2016), Jaipur National University, Jaipur, India, March 17-19, 2016.
- 89) Ganesh Kumar Mani, “Chemical Sensors”. Graduate School of Engineering, Fukuoka Institute of Technology, December 20, 2016.
- 90) 岡村陽介, “面をもつナノ材料(シート・ディスク)の設計と医用展開”, 東京大学第 1 回バイオマテリアル若手セミナー, 東京大学本郷キャンパス (文京区), 2016 年 7 月 20 日.
- 91) Y. Okamura, Y. Nagase, “Fabrication of freestanding bio-friendly nanosheets and their biomedical applications”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 92) Y. Nagase, Y. Okamura, “Surface modification by nanosheets-coating composed of novel functional polymers”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 93) 岡村陽介, “受賞講演: 生分解性超薄膜の創製と貼るナノ材料としての医用展開”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016 年 11 月 21 日. *1
- 94) 岡村陽介, 砂見雄太, 喜多理王, “厚み 100 nm 以下の高分子超薄膜の不思議 ～調製法・物性から医用展開まで～”, 第 59 回プラスチックフィルム研究会講座, 東京工業大学大岡山キャンパス (目黒区), 2016 年 12 月 2 日.
- 95) 岡村陽介, “高分子ナノシートの設計と貼るナノ材料としての医用応用”, 日本機械学会情報・知能・精密機器部門, 日本機会学会本部 (新宿区), 2017 年 1 月 20 日.
- 96) 岡村陽介, “高分子ナノシートの創製と貼るナノ材料としての医用展開”, 日本機会学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 15 日.
- 97) H. Kimura, “Microfluidic Spatiotemporal Control Technology for Organ-on-a-Chip”, Organ-on-a-chip World Congress 2016, Boston, MA, USA, July 7-8.
- 98) 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用した Organ-on-a-Chip の試み”, 川島カンファレンス (各務原市), 内藤記念くすり博物館, 2016 年 10 月 22-23 日.
- 99) 木村啓志, “Organ/Body-on-a-Chip 実現に向けた試み”, CBI 学会 2016 年大会, タワーホール船越 (江戸川区), 2016 年 10 月 25-27 日.
- 100) 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用した in vitro モデル～医工連携の試み～”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原校舎 (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 101) Y. Sunami, “Web handling technology for thin plastic films”, One Day Indo-Japan Joint Seminar on Micro/ Nano Technologies, SASTRA University, Thanjavur, India, Jan. 9, 2017.
- 102) 砂見雄太, “ロール・ツー・ロールを駆使した高分子ナノシートの作製”, 日本機械学会 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 柔軟媒体ハンドリング技術及び応用プロセスに関する調査研究分科会(3)第 2 回事例報告会, 日本機械学会 (新宿区), 2017 年 1 月 20 日.
- 103) 中川草, “大規模配列解析が明らかにする哺乳類ゲノムに内在化したウイルス由来の配列の機能獲得と進化”, 琉球大学ゲノミクス研究セミナー, 琉球大学医学部 (沖縄), 2017 年 1 月 6 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 104) S. Nakagawa, “Dynamic evolution of genes derived from endogenous viral elements in mammalian species”, Okinawa Institute of Science and Technology Seminar, Onna, Okinawa, January 5, 2017.
- 105) 中川草, “大規模配列解析が明らかにする哺乳類ゲノムに内在化したウイルス由来の配列の機能獲得と進化”, 慶應 Bioinformatics Community・分子生物学教室共催セミナー, 慶應義塾大学信濃町キャンパス (東京), 2016年10月27日.
- 106) 中川草, “私のキャリア開発～アカデミックポディションを取るために～”, 東京医科歯科大学 生命理工学系 OB/OG キャリアセミナー2, 東京医科歯科大学 (東京), 2016年7月23日.
- 107) S. Nakagawa, “gEVE, genome-scale endogenous viral element database, and its applications”, 1st Korea-Japan International Symposium for Transposable Elements, Pusan National University, Pusan, Korea, June 10, 2016.
- 108) 樺山一哉, “ケミカルバイオロジーによる細胞膜糖鎖関連分子の機能解析”, 難治性疾患治療開発のための革新的イメージ脂質生物学の確立 平成 27 年度研究成果発表会特別講演, 私立大学戦略的研究基礎成形事業「脂質ワールドの臨床応用を目指す研究拠点形成」(金沢), 2016年5月23日.
- 109) 樺山一哉, “イメージング技術と質量分析技術を用いた糖鎖関連分子の機能解析に向けて”, 第7回グライコバイオリジクス研究会, 大阪大学銀杏会館 (大阪), 2016年10月25日.
- 110) 樺山一哉, “Meet the EXPERT: プレミアムハンズオントレーニング”, タイムラプスから始めるライブセルイメージング ハンズオントレーニング講師, サーモフィッシャーサイエンティフィック (田町), 2016年12月20日.
- 111) 樺山一哉, “ α 線内用療法を志向した抗体の細胞内動態解析”, 和光純薬 社内セミナー, 和光純薬本社 (淀屋橋), 2017年3月14日.

2015年度 (招待講演)

- 112) 喜多理王, マイクロ・ナノ研究開発センターにおける先行事例紹介, 異分野融合研究プログラム“研究の峰”オープン・フォーラム, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2015年6月17日. *4*6
- 113) 喜多理王, 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」, 医療機器産業参入セミナー, KSP ホール (川崎市), 2015年7月2日. *4*6
- 114) 喜多理王, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会の取り組みについて, 東海大学環境・エネルギー研究会 第1回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016年3月31日.
- 115) 榎谷和義, マイクロ加工研究会主催第五十二回:マイクロ加工懇談会, 「痛みの数値化法に基づく新しい注射針と極微小領域センサの開発」, 理研板橋連携研究センター, 2015年9月3日
- 116) 榎谷和義, 公益財団法人 横浜企業経営支援財団横浜医療機器ビジネス研究会 第2回医療ニーズセミナー「痛みの客観的評価法に基づく新しい注射針と携帯型健康監視システムの開発」, 公益財団法人 横浜企業経営支援財団 2015年8月31日
- 117) 岡村 陽介, 生分解性高分子からなる超薄膜(ナノシート)の創製と新規医用材料への展開. 大阪大学化学・高分子化学専攻講演会, 大阪大学豊中キャンパス (豊中市), 2015年4月21日.
- 118) 岡村 陽介, 生分解性超薄膜(ナノシート)の創製と新規医用材料への応用展開. 第19回 NMMS セミナー, 東京大学本郷キャンパス (文京区), 2015年5月12日.
- 119) 岡村 陽介, ナノ厚に加工した高分子超薄膜の不思議 ～新規医用材料への挑戦～. 日本接着学会粘着研究会5月度例会, 東京大学弥生キャンパス (文京区), 2015年5月15日.
- 120) 岡村 陽介, 高分子ナノ・マイクロディスク ～新規製造法の提案と医療分野への挑戦～. イノベーションジャパン 2015 -大学見本市, 東京ビックサイト (江東区), 2015年8月27-28日. *

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 121) 岡村 陽介. 高分子超薄膜の開発とユニークな特性を利用した医療領域への応用展開. 第 351 回ゴム技術フォーラム月例会, 日本ゴム協会東部ビル (港区), 2015 年 9 月 10 日.
- 122) 岡村 陽介. 面をもつ生体適合性ナノ材料の創製とユニークな特性 ~新規医用材料への挑戦~. 東海医学会講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 10 月 29 日.
- 123) 岡村 陽介. マテリアルの厚みで組織接着性を制御する ~高分子超薄膜の創製と医用展開~. 日本接着学会生体材料接着研究会, 東京医科歯科大学 (文京区), 2016 年 2 月 1 日.
- 124) 樺山 一哉. 細胞膜分子イメージングの新たな試み, 金沢医科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業中間成果発表会特別講演, 金沢医科大学 (2015 年 4 月 14 日)
- 125) 樺山 一哉. 細胞膜分子イメージングの医用応用に向けて, 東海大医学会例会, 伊勢原 (2015 年 5 月 27 日)
- 126) 樺山 一哉. スフィンゴミエリン合成酵素欠損細胞を用いた細胞膜分子の機能解析, ERATO 村田脂質活性構造プロジェクト 夏のセミナー, 滋賀 (2015 年 8 月 26 日)
- 127) 樺山 一哉. 脂質ラフトの構造および機能解明における新規アプローチ 細胞機能科学セミナー, 札幌 (2015 年 10 月 30 日)
- 128) 樺山 一哉. 顕微鏡と質量分析を用いた糖脂質の機能および構造解析 第 18 回 生命化学研究会, 長崎 (2016 年 1 月 8 日~9 日)
- 129) 樺山 一哉. ライブセルイメージングの活用 第 87 回表面科学研究会 平成 27 年度中部表面科学シンポジウム, 名古屋 (2016 年 1 月 23 日)
- 130) 樺山 一哉. 糖脂質の機能を『知る』『観る』『使う』ために 蛋白研セミナー, 吹田 (2016 年 3 月 3 日~4 日)
- 131) H. Kimura, "Microfluidic Spatial Control Technologies for Organ/Body-on-a-chip", Organ-on-a-chip World Congress, Boston, MA, USA, July 8-9, 2015
- 132) H. Kimura, "Microfluidic Environmental Control Technologies for Organ-on-a-chip", Lab-on-a-Chip Asia, Singapore, Nov.19-20, 2015
- 133) 木村啓志, 大友麻子, 榎谷和義 “『高分子超薄膜から創成する次世代医用技術』: 試すチーム”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, 東海大学清水校舎, 2016 年 2 月 19-20 日
- 134) 中川草, NGS を活用して宿主で機能するウイルス由来の遺伝子を探索する、NGS 現場の会 第四回研究会、筑波 (つくば国際会議場)、7/1-3, 2015

2014年度 (招待講演)

- 135) 岡村 陽介, ユニークな特性を発現するナノ構造体と医用応用~医工連携体制における共同研究~. 東海大学総合医学研究所第 10 回研修会, 山水楼 (湯河原), 2014 年 10 月.
- 136) 岡村 陽介, ユニークな特性を発現する高分子超薄膜の開発と医用応用. 2014 年度 SAS 技術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014 年 11 月.
- 137) 岡村 陽介, 止血能を発現するナノ粒子(人工血小板)の設計と特徴. (一社)日本粉体工業技術協会 2014 年度第 2 回造粒分科会 技術討論会, ライオン(株)伊豆高原研修センター (伊豆高原), 2015 年 3 月.
- 138) K. Tsuchiya, MAPT2015, Development of functional microtube by thin film process, International Conference on Materials Processing Technology 2015, January 29-30, 2015, Bangkok, Thailand.
- 139) 榎谷和義, 株式会社 電子ジャーナル, 無痛針を用いた糖尿病センサ★徹底解説, Electronic Journal 第 2494 回 Technical Seminar, 2014 年 10 月 21 日, 連合会館(東京・御茶ノ水).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 140) 榎谷和義, 株式会社大塚製薬工場 ナノテクノロジーが拓く近未来の医療, 第 12 回 周術期体液・代謝・侵襲研究会, 2014 年 08 月 02 日 品川プリンスホテル アネックスタワー5 階「プリンスホール」.
- 141) 喜多理王, 水溶性高分子の温度勾配下における熱物質拡散現象, 14-1 高分子と水・分離に関する研究会 - 2014 年度界面動電現象研究会, 筑波大学東京キャンパス文京校舎 (文京区), 2015 年 3 月 6 日.
- 142) 喜多理王, 温度勾配による濃度勾配形成現象の測定と解析, 北海道大学第 364 回高分子談話会, 北海道大学 (札幌市), 2014 年 9 月 11 日.
- 143) 喜多理王, 高分子溶液における温度勾配による濃度勾配形成現象の測定と解析, 群馬大学理工学府公開セミナー (ファイブバイオ工学セミナー), 群馬大学 (桐生市), 2014 年 8 月 15 日.
- 144) 喜多理王, ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析, ゆらぎと構造の協奏 News Letter Vol. 3, 8 (2014).
- 145) 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いたバイオ環境操作”, 表面技術協会関東支部第 88 回講演会「バイオインターフェイスとしてのマテリアル・デバイス」, 東京医科歯科大学 湯島キャンパス, 2014 年 10 月 24 日
- 146) 樺山一哉, 糖質科学における自我作古, 第 33 回糖質学会年会ワークショップ『糖質科学の横展開』・名古屋 8 月 10 日 (2014). *ワークショップ世話人.
- 147) 樺山一哉, 蛍光顕微鏡と質量分析装置から探る脂質ラフトの構造と機能, ERATO 村田脂質活性構造プロジェクト 夏のセミナー・淡路 8 月 29 日 (2014).
- 148) 樺山一哉, ライブセルイメージングをいろんな所で活用するために, ニコンサイエンスカフェ・みなとみらい 11 月 26 日 (2014) .
- 149) 樺山一哉, タイムラプスから始めるライブセルイメージング, ライフテクノロジーズジャパン プレミアムハンズオントレーニング・田町, 12 月 16 日 (2014).
- 150) 樺山一哉, 糖鎖関連分子を見る ~ 蛍光顕微鏡を駆使した解析法~, 神奈川科学技術アカデミー (KAST) 教育講座「糖鎖科学・糖鎖工学への招待コース」, 川崎 1 月 22 日 (2015).
- 151) 中川草, 博士の魅力シリーズ: 私の海外研究生活体験談と海外日本人研究者ネットワーク (UJA) の紹介, 東京医科歯科大学大学院 生命理工学系専攻「疾患予防科学コース」ミニシンポジウム, 東京医科歯科大学 (千代田区), 2014 年 7 月.
- 152) 中川草, ウイルス研究のためのバイオインフォマティクス - 分子系統解析から NGS データ解析まで, 京都大学ウイルス研究所生物情報解析研修会, ラフォーレ琵琶湖 (滋賀), 2015 年 3 月.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

【国際会議発表】

2018 年度 (国際会議)

- 153) I. Dueramae, K. Sasaki, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita. “Dielectric relaxation process of dextran film: Effect of acetylation degree”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 154) I. Dueramae, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita. “Investigation on thermal diffusion behavior of acetylated dextran solution with optical beam deflection”, 13th International Meeting in Thermodiffusion (IMT13), Imperial College London, England, September 11-14 (2018).
- 155) K. Eguchi, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita. “Effect of changing guest molecule on thermodiffusion of cyclodextrin inclusion complex”, 13th International Meeting in Thermodiffusion (IMT13), Imperial College London, England, September 11-14 (2018).
- 156) T. Sugai, S. Doi, K. Eguchi, N. Sasagawa, S. Nakagawa, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita. “Soret coefficient of λ -DNA aqueous solution with changing guanine-cytosine content”, 13th International Meeting in Thermodiffusion (IMT13), Imperial College London, England, September 11-14 (2018).
- 157) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Secondary relaxation in D-mannitol under liquid-liquid transition”, 10th Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, the Université libre de Bruxelles, Brussels, Belgium, September 27th (2018).
- 158) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Enthalpy Relaxation of Aqueous Polymer Solution”, Irago Conference 2018, Whashington hotel, Tokyo, Japan, October 11th (2018).
- 159) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric and Calorimetric Study of the Dynamics of Polyvinylpyrrolidone”, Tokyo - Moscow International Medical Forum 2018, National Graduate Institute for Policy Studies, Tokyo, Japan, November 25th (2018).
- 160) K. Sasaki, D. Sakagami, H. Zhang, Y. Okamura, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Development of Capacitive Dilatometry for Evaluation of Aging Kinetics of Ultra-Thin Polymer Film”, Tokyo - Moscow International Medical Forum 2018, National Graduate Institute for Policy Studies, Tokyo, Japan, November 25th (2018).
- 161) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Liquid to liquid transition and molecular dynamics of D-mannitol”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 162) M. Fujii, Y. Matsui, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Broadband dielectric spectroscopy of partially crystallized poly(vinyl pyrrolidone)-water mixtures”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 163) I. Dueramae, K. Sasaki, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita. “Dielectric relaxation process of dextran film: Effect of acetylation degree”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 164) I. Dueramae, K. Sasaki, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita. “Dielectric relaxation process of water in hydrogel materials”, The 9th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune) Program & Proceedings, Kumamoto campus, Tokai University, Kumamoto,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Japan, August 24-25 (2018).
- 165) Y. Ito, G.K. Mani, Y. Yasoda, K. Tsuchiya, “Measurement of changes in oral pH during stress” 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 166) G.K. Mani, D. Ponnusamy, Y. Sunami, K. Tsuchiya, “Ultrafast Fabrication of Microneedle Array for Transdermal Ion Detection” 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 167) H. Harazaki, G.K. Mani, K. Tsuchiya, “Development of Nanosheet Based pH Sensor for Heatstroke Detection” 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 168) S. Doi, G.K. Mani, T. Matsubara, K. Matsubara, K. Tsuchiya, “Microneedle Sensor for Single Cell pH Effectiveness” 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 169) Y. Ando, G.K. Mani, K. Tsuchiya, Y. Okamura, “Development of Pyroelectric Nanosheet Using Tourmaline Powder”, Sixth Asian Conference on Mechanics of Functional Materials and Structures (ACMFMS 2018), National Cheng Kung University, Taiwan, October 26-29 (2018).
- 170) Y. Yamanouchi, G.K. Mani, K. Tsuchiya, Y. Uetsuji, “Design and Development of Valveless Pump for Artificial Auxiliary Heart Using C shaped PZT Unit” Sixth Asian Conference on Mechanics of Functional Materials and Structures (ACMFMS 2018), National Cheng Kung University, Taiwan, October 26-29 (2018).
- 171) G.K. Mani, D. Ponnusamy, Y. Yasoda, K. Tsuchiya, “Design and development of single microneedle sensor for pH and temperature detection”, Microneedles 2018, University of British Columbia, Vancouver, Canada May 29-June 1 (2018).
- 172) K. Miyachi, G.K. Mani, K. Tsuchiya, “Fabrication of painless microneedle with square cross-section using sputtering method”, Microneedles 2018, University of British Columbia, Vancouver, Canada May 29-June 1 (2018).
- 173) G.K. Mani, D. Ponnusamy and K. Tsuchiya, “Ultrafast Fabrication of Microneedle Array for Transdermal Ion Detection” IEEE 2018 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS), Nagoya University, Japan 9-12 December, (2018).
- 174) V. Mounasamy, G.K. Mani, S. Sukumaran, D. Ponnusamy, K. Tsuchiya, Arun K Prasad and Sridharan Madanagursamy, “Vanadium Oxide Nanoparticles for Dimethylamine Vapour Detection”, IEEE 2018 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS), Nagoya University, Japan 9-12 December, (2018).
- 175) Y. Nimura, G.K. Mani, D. Ponnusamy, K. Tsuchiya, “Skin Adhesive Type pH Sensor for Heatstroke Detection”, IEEE 2018 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS), Nagoya University, Japan 9-12 December, (2018).
- 176) Y. Isono, G.K. Mani, D. Ponnusamy, K. Tsuchiya, “Development of Intranasal Sensor for Lung Cancer Detection”, IEEE 2018 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS), Nagoya University, Japan 9-12 December, (2018).
- 177) Y. Kumakiri, G.K. Mani, K. Tsuchiya, “Development of Pasted Sheet Sensor using P(VDF-TrFE)”, IEEE 2018 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science (MHS), Nagoya University, Japan 9-12 December, (2018).
- 178) P. Mekwatanakarn, S. Yoshida, Y. Okamura, “Fabrication of Antibiotic-coated Biodegradable

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Microparticles Carrying Antibiotics for Pulmonary Administration”, ENGINEERING EXPO 2018, Bangkok, Thailand, October 11-13th (2018).
- 179) Y. Okamura, H. Zhang, Y. Yarinome, K. Otomo, R. Kawakami, and T. Nemoto, “Fabrication of Fluoropolymer Nanosheets as a Wrapping Mount for High Quality Tissue Imaging”, International Meeting on Bioimaging for Young Researchers, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST), Japan, October 29-30th (2018).
- 180) H. Zhang, Y. Yarinome, R. Kawakami, K. Otomo, T. Nemoto, and Y. Okamura, “Using nanosheet instead of coverslip for facilitating deep tissue imaging”, International Meeting on Bioimaging for Young Researchers, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST), Japan, October 29-30th (2018).
- 181) Y. Okamura, “Freestanding Bio-friendly Nanosheets for Biomedical Applications”, China-Japan Joint Symposium on Biomaterials 2018, Changchun Institute of Applied Chemistry, China, November 29-30th (2018).
- 182) S. Yoshida, A. Nakagawa, S. Yokoyama, H. Kimura, and Y. Okamura, “Fabrication and evaluation of biodegradable disc-shaped particles with thrombolytic ability”, The 12th SPSJ International Polymer Conference (IPC2018), International Conference Center Hiroshima, Japan, December 4-7th (2018).
- 183) K. Ishikura, D. Sogabe, A. Nakagawa, and Y. Okamura, “Fabrication of polymer disc-shaped particles as novel carriers for turbidimetric assay”, The 12th SPSJ International Polymer Conference (IPC2018), International Conference Center Hiroshima, Japan, December 4-7th (2018).
- 184) S. Takimoto, T. Komachi, H. Sumiyoshi, Y. Inagaki, and Y. Okamura, “Fabrication of a multi-layered porous nanosheet as adhesive plasters their pressing-type drug release”, The 12th SPSJ International Polymer Conference (IPC2018), International Conference Center Hiroshima, Japan, December 4-7th (2018).
- 185) K. Nagashima, A. Nakagawa, T. Hatanaka, H. Ozawa, T. Kanemaru, M. Uchida, H. Natsume, and Y. Okamura, “Fabrication and evaluation of biodegradable disc-shaped particles encapsulated phenobarbital for nasal administration”, The 12th SPSJ International Polymer Conference (IPC2018), International Conference Center Hiroshima, Japan, December 4-7th (2018).
- 186) T. Takahashi, H. Zhang, K. Yarinome, R. Kawakami, Y. Okamura, and T. Nemoto, “Novel fluoropolymer PEO-CYTOP nanosheets facilitating open skull method for in vivo two-photon imaging of living mouse brain”, 12th International symposium on nanomedicine, Yamaguchi University, Japan, December 6-8th (2018).
- 187) T. Takahashi, H. Zhang, K. Yarinome, R. Kawakami, Y. Okamura, and T. Nemoto, “Novel fluoropolymer nanosheets "PEO-CYTOP" improving open skull window for in vivo imaging of living mouse brain”, The 19th RIES-HOKUDAI International Symposium, Hokkaido University, Japan, December 11-12th (2018).
- 188) H. Zhang, K. Yarinome, and Y. Okamura, “Looking deeper into a tissue using nanosheet wrapping”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 189) S. Yoshida, A. Nakagawa, S. Yokoyama, H. Kimura, and Y. Okamura, “Fabrication of Biodegradable Discs with Thrombolytic Ability”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 190) K. Nagashima, A. Nakagawa, T. Hatanaka, H. Ozawa, T. Kanemaru, M. Uchida, H. Natsume, and Y. Okamura, “Fabrication and Evaluation of Biodegradable Particles Encapsulated Phenobarbital for

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Nasal Administration”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 191) S. Tsuchiya, A. Nakagawa, T. Matsumoto, and Y. Okamura, “Fabrication of Polysaccharide Nanosheets for Controlled Release of Odor Molecules”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 192) Y. Okamura, H. Zhang, T. Aoki, Y. Yarinome, R. Kawakami, and T. Nemoto, “Polymer Nanosheet Wrapping for High Quality Imaging of Tissues and Cells”, 1st Glowing Polymer Symposium in KANTO, Waseda University, Japan, December 15th (2018).
- 193) K. Kabayama, Q. Feng, Y. Manabe, A. Miyamoto, Y. Kametani, K. Fukase, “Synthesis and functional studies of self-adjuvanting cancer vaccine containing B cell epitope derived from HER2”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, Dec. 14, 2018.
- 194) K. Fukase, Y. Manabe, K. Kabayama, T.C. Chang, F. Qi, Y. Nimura, Y. Fujimoto, Y. Kametani, S. Ohshima, A. Miyamoto, C.C. Lin, “Synthetic Studies of Immunostimulating Peptide-Glycan Conjugates: Development of New Adjuvants and Application to New Cancer Immunotherapies”, 10th International Peptide Symposium, ROHM Theatre Kyoto and Miyakomesse, Kyoto, Dec. 3-7, 2018.
- 195) Y. Nimura, K. Kabayama, Y. Asahina, S. Hanashima, H. Hojo, M. Murata, K. Fukase, “Analysis of Electrostatic Interaction of Transmembrane Peptide of Insulin Receptor with Ganglioside GM3”, 10th International Peptide Symposium, ROHM Theatre Kyoto and Miyakomesse, Kyoto, Dec. 3-7, 2018.
- 196) Y. Manabe, T.C. Chang, Q. Feng, Y. Fujimoto, S. Ohshima, Y. Kametani, K. Kabayama, Y. Nimura, C.C. Lin, K. Fukase, “Synthesis and immunological evaluation of self-adjuvanting anticancer vaccine candidate”, 10th International Peptide Symposium, ROHM Theatre Kyoto and Miyakomesse, Kyoto, Dec. 3-7, 2018.
- 197) Y. Nimura, K. Kabayama, Y. Asahina, S. Hanashima, H. Hojo, M. Murata, K. Fukase, “Analysis of Electrostatic Interaction between Ganglioside GM3 and Transmembrane Peptide”, Irago Conference 2018, Shinjuku Washington Hotel, Tokyo, Nov. 1, 2018.
- 198) K. Arai, K. Kabayama, J. Ono, H. Nakamura, H. Kimura, K. Fukase, “Elucidation of mechanism of isoflurane on surgical diabetes using microfluidic device”, Irago Conference 2018, Shinjuku Washington Hotel, Tokyo, Nov. 1, 2018.
- 199) K. Kabayama, K. Kaneda-Nakashima, Y. Manabe, A. Shimoyama, A. Toyoshima, A. Shinohara, K. Fukase, “Preparation of novel anticancer drugs using At-211”, 5th Asian Chemical Biology Conference (ACBC-5), Xi'an, China, Aug. 20-22, 2018.
- 200) K. Fukase, Y. Manabe, K. Kabayama, H. Ichikawa, S. Miyake, H. Shomura, T. Yamaji, K. Hanada, S.C. Hung, “Reconstruction of glycan environments”, 5th Asian Chemical Biology Conference (ACBC-5), Xi'an, China, Aug. 20-22, 2018.
- 201) K. Fukase, T.C. Chang, Y. Manabe, Y. Fujimoto, S. Ohshima, Y. Kametani, K. Kabayama, “Reconstruction of glycan environments”, 5th Asian Chemical Biology Conference (ACBC-5), Xi'an, China, Aug. 20-22, 2018.
- 202) Y. Nimura, K. Kabayama, Y. Asahina, S. Hanashima, H. Hojo, M. Murata, K. Fukase, “Analysis of electrostatic interaction of ganglioside GM3 with transmembrane peptide of insulin receptor” , 29th International Carbohydrate Symposium (ICS 2018), Lisboa, Portugal, Jul. 14-19, 2018.
- 203) K. Fukase, T.-C. Chang, Y. Manabe, Y. Fujimoto, S. Ohshima, Y. Kametani, K. Kabayama,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- “Synthesis and immunological evaluation of self-adjuvanting anticancer vaccine candidates using *N*-modified tri sialyl-Tn antigen”, 29th International Carbohydrate Symposium (ICS 2018), Lisboa, Portugal, Jul. 14-19, 2018.
- 204) K. Arai, K. Kabayama, Y. Kanie, O. Kanie, K. Fukase, “Live cell imaging analysis with BODIPY labeled lactosylceramide”, 29th International Carbohydrate Symposium (ICS 2018), Lisboa, Portugal, Jul. 14-19, 2018.
- 205) K. Kabayama, K. Hatano, Y. Okamura, K. Fukase, “Live cell imaging by nano-wrapping system”, 29th International Carbohydrate Symposium (ICS 2018), Lisboa, Portugal, Jul. 14-19, 2018.
- 206) W. Huang, H. Kimura, “A Microphysiological System for Exposure of Fluidic Shear Stress to Human Renal Proximal Tubule Epithelial Cells”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 207) S. Yokoyama, Y. Ikeda, T. Okawara, Y. Sunami, H. Kimura, “Development of Cell Micropatterning Techniques on a Soft Substrates with Ink-jet printing Technology”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 208) K. Shinha, H. Kimura, “Spatiotemporal Control of Cell Culture Maicroenvironment by Microfluidic Probe Integrated Device”, 2018 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science, Nagoya, Japan, December 10th (2018).
- 209) H. Kimura, “Cytotoxicity Assay Using Kidney Tubule-On-A-Chip Integrated with Trans-Epithelial Electrical Resistance Measurement System”, μ TAS2018, Kaohsiung Exhibition Center, Taiwan, November 14th (2018).
- 210) H. Kimura, “Exposure to Fluid Shear Stress Enriches Tip Cell Populations in In Vitro Cultured Ureteric Bud Cells”, American Society of Nephrology (ASN), San Diego Convention Center, USA, October 25th (2018).
- 211) T. Suzuki, K. Komori, H. Kimura, “Development of a Glucose Sensor Integrated Microfluidic Device for Cell-Based Assay”, International Microfluidics Congress (Microfluidics 2018), San Diego, USA, August 14th (2018).
- 212) T. Nishida, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Experimental Study on Temperature Dependence of Young’s Modulus Using PET Film”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 213) Y. Kashiwabara, L.B. Roslan, M. D. Ibrahim, M. Ochiai, H. Hashimoto, Y. Sunami, “Study of Defects Using Both X-ray CT and Simulation in Die Casting”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 214) Y. Ikeda, H. Hashimoto, Y. Sunami, “Fundamental Study on Fabrication of Flexible Devices”, Tokyo-Mocow International Medical Forum 2018, National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS), Soukairou Hall, Japan, November 25th (2018).
- 215) S. Tajima, G. Kamimura, S. Zhang, H. Hashimoto, Y. Sunami, “Experimental Study for Mass Production of Porous Nanosheets”, Tokyo-Mocow International Medical Forum 2018, National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS), Soukairou Hall, Japan, November 25th (2018).
- 216) T. Nishida, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Experimental Study on Temperature Dependence of Young's Modulus Using PET Film and Study on Winding Roll”, Irago Conference 2018, Washington Hotel, Shinjuku, Japan, Novmber 1th (2018).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 217) Y. Kashiwabara, Y. Sunami, M. Ochiai, H. Hashimoto, “Prediction of Defects Using Both X-ray CT and Simulation in Die Casting”, Irago Conference 2018, Washington Hotel, Shinjuku, Japan, Novmber 1th (2018).
- 218) M. Tamada, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Evaluation of Physical Properties of Poly-DL-Lactic Acid Ultra-Thin Film”, Irago Conference 2018, Washington Hotel, Shinjuku, Japan, Novmber 1th (2018).
- 219) T. Suwa, M. Ochiai, Y. Sunami, “Analysis of Oil Film Distribution on Roller Surface by Using Two-Phase Flow Analysis”, ASIATRIB2018, Hilton Kuching, Sarawak, Malaysia, September 17th (2018).
- 220) M. Tamada, S. Nakano, S. Zhang, H. Hashimoto, Y. Sunami, “Evaluation of Physical Properties of Poly-DL-Lactic Acid Ultra-Thin Film (Nanosheet)”, ASME-JSME 2018 Joint International Conference on Information Storage and Processing Systems and Micromechatronics for Information and Precision Equipment, Hilton San Francisco Financial District, San Francisco, California, USA, August 29th (2018).
- 221) G. Kamimura, K. Tsuchiya, H. Hashimoto, Y. Sunami, “Study on Fabrication of Porous Nanosheets by Roll Nanoimprint”, ASME-JSME 2018 Joint International Conference on Information Storage and Processing Systems and Micromechatronics for Information and Precision Equipment, Hilton San Francisco Financial District, San Francisco, California, USA, August 29th (2018).
- 222) S. Nakano, S. Zhang, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Tactile Sliding Behavior on Biomedical Devices in Skin Application of PLLA Nanosheet Produced by R2R Production System”, ASME-JSME 2018 Joint International Conference on Information Storage and Processing Systems and Micromechatronics for Information and Precision Equipment, Hilton San Francisco Financial District, San Francisco, California, USA, August 29th (2018).
- 223) Y. Sunami and H. Hashimoto, “Optimization of Thin-film Winding Conditions Considering Viscoelastic Property and Thickness Variation and Its Experimental Verification”, ASME-JSME 2018 Joint International Conference on Information Storage and Processing Systems and Micromechatronics for Information and Precision Equipment, Hilton San Francisco Financial District, San Francisco, California, USA, August 29th (2018).
- 224) S. Nakagawa “gEVE database provides possibly protein-coding sequences that are similar to viruses in 20 mammalian genomes”, The Third Annual Meeting of the European Virus Bioinformatics Center, The McIntyre building, University of Glasgow, March 28th (2019).
- 225) M.T. Ueda, Y. Kurosaki, Y. Nakano, T. Izumi, O.K. Oloninyi, J. Yasuda, Y. Koyanagi, K. Sato, S. Nakagawa “Two functional amino acid mutations in Ebola virus glycoprotein that affect viral infectivity”, Influenza and Other Infections, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Shirokane, Tokyo, Febrary 19th (2019).
- 226) S. Nakagawa, K. Kryukov, A. Ohno, M. Ueda, T. Imanishi, “A Portable Computational System for Rapid Microbiome Analyses”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 227) M. Ueda, A. Otomo, Y. Okamura, A. Hasebe, T. Fujie, S. Hadano, S. Nakagawa, “Evaluation of grooved nanosheets for neural cell culture by gene expression”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (T□ne10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 228) S. Nakagawa, K. Kryukov, A. Ohno, M. Sudo, T. Imanishi, “A portable system for rapid bacterial composition analysis using a nanopore-based sequencer and laptop computer.”, The 17th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Hyogo, 9/4-7, 2018

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 229) M. Ueda, S. Mitsuhashi, H. Mitsuhashi, T. Imanishi, S. Nakagawa, “Transcriptome analysis to identify genes derived from endogenous retrovirus that mediate cell-cell fusion during differentiation of mouse myoblasts.”, The Society for Molecular Biology & Evolution 2018 (SMBE2018), Yokohama, Japan, July 8, 2018.
- 230) K. Kryukov, M.T. Ueda, T. Imanishi, S. Nakagawa, “Non-retroviral virus-like elements in eukaryotic genomes.”, The Society for Molecular Biology & Evolution 2018 (SMBE2018), Yokohama, Japan, July 8, 2018.
- 231) S. Nakagawa, M.T. Ueda, Y. Kurosaki, Y. Nakano, T. Izumi, O.K. Oloniniyi, J. Yasuda, Y. Koyanagi, K. Sato, “Molecular evolutionary analysis of Ebola virus glycoprotein identified two amino acid mutations that affect viral infectivity.”, The Society for Molecular Biology & Evolution 2018 (SMBE2018), Yokohama, Japan, July 8, 2018.
- 232) Y. Kurosaki, M.T. Ueda, Y. Nakano, J. Yasuda, Y. Koyanagi, K. Sato, S. Nakagawa, “Different effects of two mutations on the infectivity of Ebola virus glycoprotein in nine mammalian species”, The Negative Strand Virus 2018 (NSV2018), Verona, Italy, June 17, 2018.
- 233) S. Sakaguchi, R. Koide, S. Nakagawa, T. Miyazawa, T. Mizutani, “Epidemiologic survey of the feline paramyxovirus infection in Japan.”, 12th China-Japan International Conference of Virology, Wuhan, China May 19, 2018.
- 234) K. Sato, A. Otomo, M.T. Ueda, Y. Hiratsuka, K.S. Utsunomiya, J. Sugiyama, S. Murakoshi, S. Mitsui, S. Ono, S. Nakagawa, H.F. Shang, S. Hadano, “Altered oligomeric states in pathogenic ALS2 variants associated with juvenile motor neuron diseases cause loss of ALS2-mediated endosomal function” (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 235) S. Ono, A. Otomo, M. Fukuda, S. Hadano, “ALS2/Alsin regulates the intracellular localization of Rab17” (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).
- 236) S. Mitsui, M. Ishiyama, A. Otomo, S. Hadano, “Neural cell-specific SQSTM1 deficiency accelerates the onset of disease in an ALS mouse model” (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018).

2017 年度（国際会議）

- 237) I. Dueramae, F. Tanaka, N. Shinyashiki, S. Yagihara, R. Kita, “Study of Equilibrium Swelling and Swelling Kinetics Network Parameter of Chitosan-pNiPAM Interpenetrating Polymer Network”, International Conference on Smart Materials Applications 2018, National University of Singapore, Singapore, Jan. 28 (2018).
- 238) I. Dueramae, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, R. Kita, “Effect of acetylation degree on thermal diffusion behavior of dextran”, The Irago Conference 2017, Tokyo, Japan, Nov. 2 (2017).
- 239) I. Dueramae, K. Sasaki, N. Shinyashiki, S. Yagihara, R. Kita, “Effect of Film Thickness and Acetylation Degree on Glass Transition Temperature of Dextran”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 240) M. Takatsuka, K. Bandai, M. Fujii, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Glass Transition and Dynamics of Polymer and Solvents in Poly (vinyl pyrrolidone) Solutions Studied by Broadband Dielectric Spectroscopy.”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 241) S. Inoue, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dynamics in Poly (ethylene imine) -

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Water Mixtures at Subzero Temperatures Studied by Broadband Dielectric Spectroscopy”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 242) M. Miyara, I. Takashima, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dynamics of water and ice in poly(ethylene glycol)-water mixtures studied by dielectric spectroscopy”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 243) K. Sasaki, D. Sakagami, H. Zhang, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, Y. Okamura, “Dielectric Study of Cooperative Polymer Chain Dynamics in Poly(L-lactic acid) Thin Film”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 244) K. Sasaki, D. Sakagami, H. Zhang, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, Y. Okamura, “Aging Kinetics of Poly(styrene) Thin Film Studied by Temperature Scanning Capacitometry”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 245) M. Miyara, I. Takashima, K. Sasaki, T. Yasuda, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara “Dielectric Relaxation of Water and Ice in Partially Crystallized Poly (ethylene glycol)-Water Mixtures”, 8th International Discussion Meeting on Relaxation in Complex Systems, Wisla, Poland, Jul. 24-25 (2017).
- 246) M. Takatsuka, K. Sasaki, N. Shinyashiki, R. Kita, and S. Yagihara, “Glass Transition of Water and Polymer in Poly (vinyl methyl ether)-Water Mixtures by Broadband Dielectric Spectroscopy”, 8th International Discussion Meeting on Relaxation in Complex Systems, Wisla, Poland, Jul. 26-27 (2017).
- 247) Gaku Tsuruzoe, Mani Ganesh Kumar and Kazuyoshi Tsuchiya, “Mouthpiece pH Sensor to Monitor Athletes Dehydration”, International Conference on Materials Processing Technology 2017, 30 November-1 December 2017.
- 248) Soichi Doi, Kousei Miyakoda, Yutaka Yasoda, Ganesh Kumar Mani, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura and Kazuyoshi Tsuchiya, “Vibration Assisted Microneedle Sensor for Single Cell pH Detection” International Conference on Materials Processing Technology 2017, 30 November-1 December 2017.
- 249) Yutaka Yasoda, Ganesh Kumar Mani, Yasutomo Uetsuji and Kazuyoshi Tsuchiya, “Development of Quantitative Additive Element Evaluation Method to Improve Perovskite Material Piezoelectricity by Using First-principles Calculation”, International Conference on Materials Processing Technology 2017, 30 November-1 December 2017.
- 250) Yushi Yamanochi, Ganesh Kumar Mani, Yutaka Yasoda and Kazuyoshi Tsuchiya, “Design and Development of Micropump for Artificial Auxiliary Heart: A Novel Approach”, International Conference on Materials Processing Technology 2017, 30 November-1 December 2017.
- 251) Asuka Saito, Yutaka Yasoda, Ganesh Kumar Mani, Kazuyoshi Tsuchiya, “Creating of Microfluidic Device Based pH Sensor for Detecting Circulating Tumor Cells in the Blood”, International Conference on Materials Processing Technology 2017, 30 November-1 December 2017.
- 252) Ganesh Kumar Mani, Dhivya Ponnusamy, Yutaka Yasoda and Kazuyoshi Tsuchiya, “Freestanding Nanosheets: A Novel Material for Highly Sensitive Chemiresistive Sensors”, International Conference on Materials Processing Technology 2017, 30 November-1 December 2017.
- 253) Ganesh Kumar Mani, Dhivya Ponnusamy, Yutaka Yasoda, Asuka Saito and Kazuyoshi Tsuchiya, “Microneedles Based Biosensor for Living Cells: A Novel Approach”, IEEE 2017 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS) , 4-6 December 2017, Nagoya University (2017)
- 254) Ganesh Kumar Mani, Saito Asuka, Tsuchiya Kazuyoshi, Yutaka Yasoda, “Design and Development of Microfluidic pH Sensor Created Using RF Sputtering Technique”, SPIE Micro

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Technology, 8-10 May 2017, Barcelona, Spain
- 255) Y. Okamura. “Freestanding Bio-friendly Nanosheets for Biomedical Applications”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 26 (2017).
- 256) Y. Okamura, A. Nakagawa, D. Sogabe, K. Ishikura, K. Nagashima, and S. Yoshida. “Deformation of Micro-/Nano-spheres to Disk-shaped Particles and Their Two-Dimensional Interactions”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 257) H. Zhang, and Y. Okamura. “Polymer Thin Films Adsorbed on Patterned Solid Substrate”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 258) T. Aoki, H. Zhang, and Y. Okamura. “Fabrication of Porous Polymer Nanosheets for a Live Imaging Tool of Floating Cells”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 259) A. Igarashi, H. Sumiyoshi, Y. Inagaki, and Y. Okamura. “Surface Properties of Composite of Collagen Nanosheets and Artificial Dermis”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 260) D. Sakagami, H. Zhang, and Y. Okamura. “Analyses on Adhesiveness, Followability, and Young's Modulus of Polymer Nanosheets”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 261) K. Yarinome, H. Zhang, T. Aoki, R. Kawakami, T. Nemoto, and Y. Okamura. “Surface Modification of Water-Repellent Nanosheets for In Vivo Tissue Imaging”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 262) S. Tsuchiya, A. Nakagawa, and Y. Okamura. “Fabrication and Evaluation of Polysaccharide Nanosheets Carrying Cyclic Oligosaccharides”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 263) B. Suleimenova, C. Umeda, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Surface Modification of Highly Gas Permeable Membrane Using Nanosheets of Aromatic Polymers Containing Ionic Liquid Moiety”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 264) T. Isono, T. Suzuki, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Synthesis of Polyamide/PEO Block Copolymers and The Application to CO₂ Separation Membrane Using Nanosheet Coating”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 265) H. Oka, R. Matsunaga, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Synthesis of Biocompatible Polyimides and The Fabrication of Nanosheets as Coating Agents”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 266) C. Umeda, T. Oda, B. Suleimenova, S. Koguchi, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Improvement of Gas Separation Property for Highly Permeable Membrane by Nanosheet Coating”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 267) M.Q.H. Ishak, R. Kumagai, S. Kinoshita, P. Shanker, S.A. Kulinich, Y. Okamura, and S. Iwamori. “Zinc-incorporated Polymer Nanosheet with Antimicrobial Properties for Wound Healing”, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017, Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).
- 268) Y. Okamura and H. Zhang. “Fabrication of Biocompatible Polymer Nanosheets for Biomedical Applications”, The Irago Conference 2017, Tokyo, Japan, Nov. 1 (2017).
- 269) H. Zhang, and Y. Okamura. “Formation of Elongated Phase Separation Domains in Spin-Cast Polymer Blend Thin Films”, The Irago Conference 2017, Tokyo, Japan, Nov. 1 (2017).
- 270) T. Takahashi, K. Yarinome, H. Zhang, R. Kawakami, Y. Okamura, and T. Nemoto. “Novel open

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- skull method for in vivo two-photon imaging of living mouse brain by utilizing fluoropolymer CYTOP nanosheets”, The 18th RIES-HOKUDAI International Symposium, Sapporo, Japan, Nov. 30 (2017).
- 271) T. Takahashi, K. Yarinome, H. Zhang, R. Kawakami, Y. Okamura, and T. Nemoto. “In vivo two-photon imaging of living mouse brain by utilizing novel fluoropolymer PEO-CYTOP nanosheets”, 11th Internatinal Symposium on Nanomedicine 2017 (ISNM2017), Sendai, Japan, Dec. 14 (2017).
- 272) Y. Nagase, C. Umeda, B. Suleimenova, K. Ando, T. Suzuki, T. Oda, S. Koguchi, and Y. Okamura. “Improvement of separation property of highly gas permeable membrane by surface modification using polymer nanosheets”, The 15th pacific Polymer Conference (PPC-15), Xiamen, China, Dec. 10-14 (2017).
- 273) C. Umeda, T. Oda, B. Suleimenova, S. Koguchi, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Surface modification of PDMS-graft polyimide membrane by nanosheets composed of imidazolium-functionalized polymers”, The 15th pacific Polymer Conference (PPC-15), Xiamen, China, Dec. 10-14 (2017).
- 274) H. Miyashita, A. Iwano, Y. Nogami, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Syntheses of biocompatible segmented poly(ester-urethane) containing phosphorylcholine group”, The 15th pacific Polymer Conference (PPC-15), Xiamen, China, Dec. 10-14 (2017).
- 275) T. Isono, T. Suzuki, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Synthesis of polymers containing PEO chains in the main chain and the application to CO₂ separation membrane”, The 15th pacific Polymer Conference (PPC-15), Xiamen, China, Dec. 10-14 (2017).
- 276) H. Oka, Y. Okamura, and Y. Nagase. “Syntheses of biocompatible polyimides containing phosphorylcholine group”, The 15th pacific Polymer Conference (PPC-15), Xiamen, China, Dec. 10-14 (2017).
- 277) Julinton Sianturi, Yoshiyuki Manabe, Kazuya Kabayama and Koichi Fukase (oral) , Efficient Synthesis of α -Gal Using One-Pot and Microfluidic Approaches for Development of a Novel Cancer Immunotherapy., The First International Conference on Automated Flow and Microreactor Synthesis (ICAMS-1) , Hoteru Hankyu Expo Park, Suita, Osaka, 2018.1.18-20.
- 278) Hiroya Tsuchida, Atsushi Shimoyama, Kazuya Kabayama, Katsunori Tanaka, Koichi Fukase (poster) , Development of quantitative detection method for acrolein based on [4+4]cycloaddition reaction of conjugated imine, 2nd ISBC symposium, Kihada Hall, Uji Campus, Kyoto University, 2017.12.14-15.
- 279) Yoshiyuki Manabe, Shuto Miyake, Hiroaki Shomura, Masahiro Nagasaki, Hiroki Ichikawa, Kazuya Kabayama, Koichi Fukase (oral), Reconstructing glycan environments using synthesized glycans, 6th Gratama Workshop Groningen, Groningen, Netherlands, 2017.10.29-31.
- 280) Kanae HATANO, Kazuya KABAYAMA, Yosuke OKAMURA, Koichi FUKASE (poster, short talk), Live cell imaging analysis of floating cells using ultra-thin polymer film, MNTC International Symposium 2017, 2017.8.26-27.
- 281) Kenta ARAI, Yoshimi KANIE, Osamu KANIE, Kazuya KABAYAMA, Koichi FUKASE (poster, short talk), Behavior analysis of cell membrane lipid using BODIPY-labeled lactosyl ceramide, MNTC International Symposium 2017, 2017.8.26-27.
- 282) H. Kimura, Y. Tanaka, “Development Of On-Chip Kidney Tubule Model Integrated With Trans-Epithelial Electrical Resistance System”, MMB 2018, Monterey Plaza Hotel & Spa, USA, Mar. 26-28, 2018.
- 283) T. Ono, S. Sugiura, T. Fujii, Y. Sakai, H. Kimura, “Development of Multi-Organs-on-a-chip Mimicking Physiological Parameters: Evaluation of the Function Using Prodrug CPT-11”, 28th 2017

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human science, Nagoya University, Nagoya, Dec. 3-6, 2017
- 284) S. Yokoyama, H. Kimura, “Viscosity Control Method of PDMS for Microfluidic Device and Its Application”, The Irago Conference 2017, University of Electro-Communications Tokyo, Chofu, Nov. 1-2, 2017.
- 285) S. Miyamoto, K. Eguchi, R. Kita, H. Kimura, “Development Of Liquid Component Separation Device For Separation Of Water Molecule Isotope Using Ludwig Soret Effect”, MicroTAS 2017, Savannah International Trade & Convention Center, USA, Oct. 22-26, 2017.
- 286) S. Yokoyama, S. Yoshida, Y. Okamura, H. Kimura, “In Vitro Thrombus Model Based on Microfluidics for Nano Disc DDS Evaluation”, MicroTAS 2017, Savannah International Trade & Convention Center, USA, Oct. 22-26, 2017.
- 287) T. Kushida, S. Yokoyama, T. Ishida, A. Otomo, S. Hadano, H. Kimura, “Open-type Neuron Cell Assay Device for Efficient Quantitative Analysis of Axonal Transport” MNTC International Symposium 2017, Tokai University, Hiratsuka, Aug. 26-27, 2017.
- 288) M. Takagi, M. Nukaga S.H. Kim, K. Yahata, T. Fujii, O. Kaneko, H. Kimura, “Estimation of Electrodynamics Forces on Microdevice for Deformability Measurement of Cells”, MNTC International Symposium 2017, Tokai University, Hiratsuka, Aug. 26-27, 2017.
- 289) T. Ono, S. Sugiura, T. Fujii, Y. Sakai, H. Kimura, “An On-chip Metabolism Model Replicating Physiological Parameters for Pharmacokinetic Study”, MNTC International Symposium 2017, Tokai University, Hiratsuka, Aug. 26-27, 2017.
- 290) S. Miyamoto, K. Eguchi, R. Kita, H. Kimura, “Development of Liquid Component Separation Device using Thermophoresis Effect”, MNTC International Symposium 2017, Tokai University, Hiratsuka, Aug. 26-27, 2017.
- 291) Y. Tanaka, K. Sasaki, H. Kimura, “Development of Trans-Epithelial Electric Resistance (TEER) Measurable Kidney-on-a-chip”, MNTC International Symposium 2017, Tokai University, Hiratsuka, Aug. 26-27, 2017.
- 292) S. Yokoyama, S. Yoshida, Y. Okamura, H. Kimura, “Development of Thrombosis Model for Nano Disc DDS Evaluation Under High Shear Conditions”, MNTC International Symposium 2017, Tokai University, Hiratsuka, Aug. 26-27, 2017.
- 293) T. Suwa, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, development of the Traction Experimental Device and Visualization of Oil Film, The 7th International Conference on Manufacturing, Machine Design and Tribology2017 (ICMDT2017), Korea, April 20, 2017.
- 294) T. Suwa, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, CFD Analysis of Oil Film Distribution on Roller Surface in Traction Drive: Study on Model Improvement for Reducing Calculation Cost, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 295) R. Odagiri, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Experimental Study on Characteristics of Thrust Foil Gas Bearing Using Bump Metal Mesh Foil, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 296) Y. Aketo, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Visualization Experiment on Dry Gas Seals using PIV, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 297) F. Sakai, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, CFD analysis of Small-Bore Journal Bearing with Oil Supply Groove Considering Two Phase-Flow, Micro/Nano Technology Center International

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 298) M. Kinoshita, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Visualization of The Internal Multilayered Lubricating Oil Flow on Journal Bearing Having Two Filler Port by RGB, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 299) B. Kuramoto, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Visualization of Oil Film Velocity Distribution and Boundary Surface in the Journal Oil Film Bearing, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 300) N. Kato, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Study on Laser Processing Condition in Gas Bearing Groove for Inner Rotor Type Spindles, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 301) S. Tajima, S. Nakano, Y. Kai, Y. Okamura, H. Hashimoto, Y. Sunami, Fabrication of Nanosheets Using Water-Soluble Film, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 302) Y. Ikeda, M. Ochiai, H. Hashimoto, Y. Sunami, Hydrophilic Control for Flexible Device Manufacture Using Print Technology, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 303) S. Nakano, S. Tajima, Y. Kai, Y. Okamura, H. Hashimoto, M. Ochiai, Y. Sunami, Evaluation of Physical Properties of Poly-DL-Lactic Acid Ultra Thin Film, Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017 (mntcis2017), Japan, August 27, 2017.
- 304) T. Suwa, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Two-phase Flow Analysis of Oil Film Distribution on Roller Surface in Traction Drive, 5th Malaysia-Japan Tribology Symposium (MJTS2017), Malaysia, August 29, 2017.
- 305) B. Kuramoto, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Visualization of Velocity Distribution and Cavitation Area in Journal Oil Film Bearing, 5th Malaysia-Japan Tribology Symposium (MJTS2017), Malaysia, August 29, 2017.
- 306) F. Sakai, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, RGB Sensitivity Measurement Experiment of Oil Flow in Journal Bearing, 5th Malaysia-Japan Tribology Symposium (MJTS2017), Malaysia, August 29, 2017.
- 307) Y. Ikeda, H. Hashimoto, Y. Sunami, Hydrophilic Control for Flexible Device Manufacture Using Print Technology, International Conference on Flexible and Printed Electronics (ICFPE2017), Korea, September 7, 2017.
- 308) S. Tajima, S. Nakano, Y. Kai, Y. Okamura, H. Hashimoto, Y. Sunami, Fabrication of Poly (L-lactic acid) Nanosheets Using Micro Gravure Printing, International Conference on Flexible and Printed Electronics (ICFPE2017), Korea, September 7, 2017.
- 309) Y. Kai, Y. Okamura, K. Tsuchiya, H. Hashimoto, Y. Sunami, Fabrication of Poly (L-lactic acid) Nanosheets Using Micro Gravure Printing and Microstructure, The 4th International Conference on Design Engineering and Science (ICDES2017), Germany, September 18, 2017.
- 310) A. Otomo, "Transcriptome analysis of the ALS2 patient-derived iPSCs and neural stem cells" The 5th Exchanging Research Meeting NSFC and JSPS Bilateral Joint Research Project, Chengdu, CHINA, May 14, 2016
- 311) R. Shirakawa, M. Nozaki, Y. Hama, K. Sato, S. Mitsui, S. Ono, A. Otomo, H.F. Shang, .S. Hadano, "Localization of ALS-linked SQSTM1 mutants in neuronal cells and effects of its expression on autophagy and cell viability." Micro/Nano Technology Center International Symposium 2017,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

Kanagawa, Japan, Aug. 27 (2017).

- 312) A. Otomo, “Loss of ALS2 causes mislocalization of Rab30, a binding protein of ALS2, which might lead to abnormal morphology of the Golgi apparatus” The 6th Exchanging Research Meeting NSFC and JSPS Bilateral Joint Research Project, Hakone, JAPAN, Sep. 28, 2017.
- 313) S. Nakagawa, “Genome-Wide Analyses of Endogenous Viral Elements in Mammalian Genomes Using the gEVE Database and Next-generation DNA Sequencing Data”, 29th International Conference of the Korean Society for Molecular and Cellular Biology (KSMCB), Seoul, 9/12-14, 2017.
- 314) S. Nakagawa, M.T. Ueda, “Transcriptome analysis to identify expressed sequences derived from endogenous viral elements”, IUMS Congresses 2017, Singapore, 7/17-21, 2017.
- 315) S. Shimode, S. Nakagawa, T. Miyazawa, “Tracing the ancient cat's migration by analyzing retroviral integration sites”, IUMS Congresses 2017, Singapore, 7/17-21, 2017.
- 316) M.T. Ueda, Y. Kurosaki, T. Izumi, Y. Nakano, O.K. Oloniniyi, J. Yasuda, Y. Koyanagi, K. Sato, S. Nakagawa, “Functional mutations in spike glycoprotein of Zaire ebolavirus associated with an increase in infection efficiency”, SMBE 2017, Austin, Texas, 7/1-6, 2017.
- 317) S. Mitsuhashi, K. Kryukov, S. Nakagawa, T. Imanishi, “A portable system for rapid bacterial composition analysis using a nanopore-based sequencer”, 12th International Workshop on Advanced Genomics, Tokyo, 6/27-29, 2017.
- 318) Nakagawa, “gEVE, genome-scale endogenous viral element database, and its applications”, NIG International Symposium 2017 Commemorating the 30th Anniversary of DDBJ, Mishima, 5/27-29, 2017.

2016 年度（国際会議）

- 319) S. Yagihara, T. Saito, K. Shoji, R. Kita, N. Shinyashiki, and M. Fukuzaki, “Characterization of Open-End Coaxial Electrodes for Broadband Dielectric Spectroscopy Measurements as Non-Destructive Test of Various Molecular Complex Systems”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.
- 320) K. Shoji, T. Saito, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, T. Ouzono, S. Nishimura, M. Hayashi, and H. Tanaka, “Study of Molecular Dynamics and Aggregation Structuring with Water for Edible Oil by Dielectric Spectroscopy”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.
- 321) Y. Hori, T. Kawaguchi, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara, M. Fukuzaki, S. Sudo, and Y. Suzuki, “Anisotropic Diffusion and Relaxation of Water Molecules in Wood Observed by PFG-NMR”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.
- 322) T. Saito, H. Asano, H. Saito, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Evaluate the Effects of Blood in the Biological Tissue Measured by Non-Invasive Dielectric Spectroscopy”, 26th Annual Meeting of MRS-J 2016, Port Opening Plaza, Yokohama, Dec. 20, 2016.
- 323) T. Yasuda, Y. Matsui, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric Relaxation Time of Ice-Ih in Partially Crystallized polymer Aqueous Mixtures”, The 11 th SPSJ International Polymer Conferende (IPC2016), Fukuoka International Congress Center, Fukuoka, Dec. 13-16, 2016.
- 324) M. Takatsuka, T. Maeda, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Glass transition of water and polymer in poly (vinyl methyl ether) –water mixtures”, The 11 th SPSJ International Polymer Conferende (IPC2016), Fukuoka International Congress Center, Fukuoka, Dec. 13-16, 2016.
- 325) R. Kita, M. Yamamoto, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and F. Tanaka, “Thermodiffusion of Aqueous

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- and Non-aqueous Solutions of Poly(isopropylacrylamide)”, The 11 th Asian Thermophysical Properties Conference, Pasifico YOKOHAMA, Yokohama, Oct. 2- 6, 2016.
- 326) K. Sasaki, T. Yasuda, Y. Matsui, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric relaxation time of ice Ih in partially crystallized aqueous polymer mixtures”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 2016.
- 327) H. Saito, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihar, M. Fukuzaki, and M. Tokita, “Dynamic behaviors of aqueous solutions restrected with the volume phase transition of poly(acryl amide) gels”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 2016.
- 328) M. Miyara, I. Takashima, K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Dielectric study of water in partially crystallized poly (ethylene glycol)-water mixtures”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 12, 2016.
- 329) N. Shinyashiki, K. Sasaki, R. Kita, and S. Yagihara, “Dynamics of water, solute, and ice in partially crystallized aqueous solutions studied by broadband dielectric spectroscopy”, 9th International Conference on Broadband Dielectric Spectroscopy and its Applications, Pisa, Italy, Sep. 2016.
- 330) K. Eguchi, D. Niether, S. Wiegand, and R. Kita, “Thermophoresis of cyclic and linear oligosaccharides in water”, 4th International Soft Matter Conference, Grenoble, France, Sep. 13, 2016.
- 331) T. Kawaguchi, R. Kita, N. Shinyashiki, S. Yagihara and M. Fukuzaki, “Observation and Complementary Analysis for Water Dynamics of Tofu Gel using PFG-NMR and Dielectric Spectroscopy”, 11th International Conference on Electromagnetic Wave Interaction with Water and Moist Substanc, Italy, May 2016.
- 332) S. Yagihara, F. Abe, N. Nishi, H. Saito, M. Asano, S. Watanabe, R. Kita, N. Shinyashiki, M. Fukuzaki, S. Sudo, and Y. Suzuki, “Dielectric Study on Dynamics of Water Molecules and Ions Restricted in Cement and Wood Materials”, 11th International Conference on Electromagnetic Wave Interaction with Water and Moist Substanc, Italy, May 2016.
- 333) K. Eguchi, N. Shinyashiki, Shin Yagihara, and R. Kita, “Thermal diffusion of cyclodextrin in water and in aprotic polar solvent”, 12th International Meeting on Thermodiffusion, Madrid, Spain, May 2016.
- 334) K. Nakayama, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, “Thermophoretic Forces Measured by Single Particle Tracking”, 12th International Meeting on Thermodiffusion, Madrid, Spain, May 2016.
- 335) M. Yamamoto and R. Kita, “Development of Concentration Gradient under a Large Temperature Gradient for Aqueous Solution of PNIPAM”, 12th International Meeting on Thermodiffusion, Madrid, Spain, May 2016.
- 336) Ganesh Kumar Mani, Yutaka Yasoda, Hiroshi Kimura and Kazuyoshi Tsuchiya, “Ag/AgIO₃ : A Novel and Promising Electrode Material for Thin Film Type Microfluidic pH Sensor”, The 16th International Meeting on Chemical Sensors, Jeju Korea, July 10, 2016.
- 337) Ganesh Kumar Mani, Prabakaran Sankar, Arockia Jayalatha Kulandaisamy, Madeshwari Ezhilan, Pathasarathy Srinivasan, Dhivya Ponnusamy, Kazuyoshi Tsuchiya and John Bosco Balaguru Rayappan, “ZnO Nanoarchitectures: Ultrahigh Sensitive Room Temperature Sensors for Meat Quality Discrimination”, The 16th International Meeting on Chemical Sensors, Jeju Korea, July 10, 2016.
- 338) Yutaka Yasoda, Yasutomo Uetsuji, Kazuyoshi Tsuchiya, “Piezoelectricity Improvement of BaTiO₃ Thin Film by Additive Element Search Method Using First-Principles Calculation”, 2016 International Conference on Precision Engineering (ICPE), Hamamatsu, November 14-16, 2016.
- 339) Ganesh Kumar Mani, Yutaka Yasoda, Gaku Tsuruzoe, Fumio Eura and Kazuyoshi Tsuchiya, “A

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Novel Electrolyte Free Solid State pH Sensor for Bio-MEMS Applications”, 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS), Nagoya, November 28-30, 2016.
- 340) Gaku Tsuruzoe, and Kazuyoshi Tsuchiya, “Development of the pH Measurement Sensor to be Mounted on the Oral Measurement Device”, 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS), Nagoya, November 28-30, 2016.
- 341) Y. Okamura, T. Komachi, H. Sumiyoshi, Y. Inagaki, S. Takeoka, Y. Nagase, “Fabrication of biodegradable multi-layered nanosheets to reinforce the bursting strength and maintain high adhesiveness for a wound dressing in partial hepatectomy”, 10th World Biomaterials Congress (WBC2016), Montreal/Canada, May 19, 2016.
- 342) Y. Nagase, Y. Okamura, K. Asao, A. Iwano, M. Ogino, “Preparation of nanosheets composed of phosphorylcholine-containing polymers and the application to biocompatible coating materials”, 10th World Biomaterials Congress (WBC2016), Montreal/Canada, May 18, 2016.
- 343) M. Ogino, K. Asao, H. Oka, R. Matsunaga, Y. Okamura, Y. Nagase, “Syntheses of biocompatible polyimide and poly(amide-imide) containing phosphorylcholine moiety and the coating ability of the nanosheets”, 10th World Biomaterials Congress (WBC2016), Montreal/Canada, May 18, 2016.
- 344) Y. Okamura, Y. Nagase, “Fabrication of freestanding bio-friendly nanosheets and their biomedical applications”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 345) Y. Nagase, Y. Okamura, “Surface modification by nanosheets-coating composed of novel functional polymers”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 346) B. Suleimenova, T. Oda, C. Umeda, Y. Okamura, Y. Nagase, “Syntheses of aromatic polymers containing imidazolium group and the application to gas separation membrane”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 14, 2016.
- 347) R. Matsunaga, H. Oka, A. Iwano, Y. Okamura, Y. Nagase, “Fragmented biocompatible polymer ultra-thin film and the application to medical device”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 14, 2016.
- 348) H. Oka, M. Ogino, R. Matsunaga, Y. Okamura, Y. Nagase, “Synthesis of biocompatible polyimide containing phosphorylcholine and the effect of spacer structures on hemocompatibility of polymers”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 349) T. Suzuki, K. Ando, Y. Okamura, Y. Nagase, “Gas Permeability of Composite Membranes Consisting Highly Permeable PDMS Graft Copolyimide Coated with Nanosheets of PEO Graft Copolyamide”, International Symposium on Integrated Molecular/Materials Science and Engineering (IMSE2016), Qingdao/China, October 15, 2016.
- 350) P. Charatsrisakun, K. Ando, Y. Okamura, Y. Nagase, “Surface modification on PDMS graft copolyimide membrane by using nanosheets composed of poly(ethylene imine) for CO₂ separation”, The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC2016), Fukuoka/Japan, December 15, 2016.
- 351) B. Suleimenova, T. Oda, C. Umeda, Y. Okamura, Y. Nagase, “Surface modification of PDMS graft copolyimide membrane with aromatic polymers containing imidazolium group to improve gas separation property”, The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC2016), Fukuoka/Japan, December 15, 2016.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 352) H. Oka, M. Ogino, R. Matsunaga, Y. Okamura, Y. Nagase, “Effect of spacer structures on biocompatibility of polyimides containing phosphorylcholine group”, The 11th SPSJ International Polymer Conference (IPC2016), Fukuoka/Japan, December 14, 2016.
- 353) S. Yokoyama, J. Wada, T. Kushida, R. Araki, A. Otomo, S. Hadano and H. Kimura, “Development of a Novel Device with High-Throughout Axonal Transport Quantification”, Micro TAS 2016, 932-933, Ireland, Oct. 9-13, 2016.
- 354) S. Deguchi, S. Yokoyama, T. S. Matsui and T. Ohnishi, “New Traction Force Microscopy Suggests a Mechanism of Local Geometry Sensing by Individual Cell Adhesions”, International Conference on Flow Dynamics 2016, Japan, Oct. 10-12, 2016.
- 355) S. Deguchi, S. Yokoyama, T. S. Matsui and T. Ohnishi, “Local Geometry Sensing by Individual Focal Adhesions”, 2017 Cellular and Molecular Bioengineering Annual Conference, Hapuna Beach Prince Hotel, USA, Jan. 3-7, 2017.
- 356) K. Shinha, M. Horayama, T. Fujii and H. Kimura, “Development of a Microfluidic Probe Integrated Device toward Cell-Based Assays”, Micro TAS 2016, 932-933, Ireland, Oct. 9-13, 2016.
- 357) K. Shinha, M. Horayama, T. Fujii and H. Kimura, “Development of a Microfluidic Probe Integrated Device for High Resolution Spatial Chemical Stimulation Control”, 29th International Microprocesses and Nanotechnology Conference, Japan, Nov. 8-11, 2016.
- 358) T. Ono, T. Fujii, Y. Sakai and H. Kimura, “Development of Organs-on-a-chip with Metabolism Model “, 27th 2016 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human science (MHS2016) , 76-77, Japan, Nov. 28-30, 2016.
- 359) Y. S. Yunos, M.D. Ibrahim, N. Watanabe, N. A. A. Mothtadzar, S. H. H Semait, Y. Sunami, “Integration of Polygonal Inner Channel of Microneedle with Micropump for Improved Blood Deliveries”, The Malayasia Technology Expo 2017, MTE 2017, Malaysia, Feb. 2017.
- 360) Y. Kai, H. Hashimoto, Y. Okamura, Y. Sunami, “Fabrication of Poly (L-lactic acid) Nanosheets Using Micro Gravure Printing”, The International Conference on Flexible and Printed Electronics 2016 (ICFPE2016), Yamagata, Sep. 6, 2016.
- 361) Y. S. Yunos, M.D. Ibrahim, A. R. H. Rigit, N. A. A. Mothtadzar, S. H. H Semait, Y. Sunami, “Micro-needle with Modified Inner Structure Integrated with Micropump for Improved Blood Deliveries”, The Innovation Technology Expo 2016, InTEX 2016, Malaysia, May 2016.
- 362) N. Marusman, M.D. Ibrahim, Y. Sunami, “Modified Spiral Bearings with Seals Effects for High Precision Rotating Machineries”, The Innovation Technology Expo 2016, InTEX 2016, Malaysia, May 2016.
- 363) N. Marusman, M.D. Ibrahim, Y. Sunami, M. Rahmat, W. L. Kwang, Y. S. Yunos, “Improved Stiffness Of Modified Spiral Fluid Dynamic Bearing Design For High Precision Engineering Equipment”, The International Engineering Invention and Innovation Exhibition 2016, i-ENVEX 2016, Malaysia, Apr. 2016.
- 364) S. Hadano, S. Mitsui, A. Otomo, K. Sato, S. Ono, X. Chen, M. Aoki, E. Warabi, M. Yamamoto, T. Ishii, T. Yanagawa, H.F. Shang, F. Yoshii, “Loss of Sqstm1/p62 but not Nfe2l2/Nrf2 exacerbates motor neuron degeneration in a mutant SOD1-expressing mouse ALS model”, 15th AOCN, AOCN-0118, Malaysia, Aug 18-21, 2016.
- 365) S. Yokoyama, J. Wada, T. Kushida, R. Araki, T. Ishida, A. Otomo, S. Hadano, H. Kimura, “Development of a novel device with high throughout axonal transport quantification” , MicroTAS 2016, M013a, Ireland, Oct 10-13, 2016.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 366) K. Sato, K. Suzuki-Utsunomiya, Y. Hiratsuka, S. Ono, A. Otomo, S. Hadano “Alteration of oligomeric states and subcellular localization of ALS2 mutants underlie the pathogenesis of *ALS2*-linked motor neuron diseases”, 27th ALS/MND international meeting, P56, Ireland, Dec 7-9, 2016.
- 367) S. Mitsui, A. Otomo, M. Nozaki, S. Ono, K. Sato, R. Shirakawa, H. Adachi, M. Aoki, G. Sobue, H.-F. Shang and S. Hadano “Systemic overexpression of *sqstm1* accelerates age of disease onset and reduces survival in SOD1H46R mice”, 27th ALS/MND international meeting, C115, Ireland, Dec 7-9, 2016.
- 368) A. Otomo, R. Araki, T. Ishida, R. Shirakawa, S. Mitsui, K. Sato, S. Ono, S. Yokoyama, H. Kimura, S. Hadano, “Analysis of axonal transport in cultured neurons derived from an ALS mouse model by using the microfluidic cell culture system”, 27th ALS/MND international meeting, BW21, Ireland, Dec 7-9, 2016.
- 369) S. Nakagawa, and M.U. Takahashi, “Transcriptome analysis to identify expressed sequences derived from endogenous viral elements”, 28th International Workshop on Retroviral Pathogenesis, New Orleans, USA, Dec 5-9, 2016.
- 370) S. Nakagawa, and M.U. Takahashi, “gEVE: a genome-based endogenous viral element database provides open reading frame sequences derived from viruses in 20 mammalian genomes”, International Congress on Transposable Elements (ICTE) 2016, San Malo (Saint-Malo’s Convention Center), France, Apr 16-19, 2016.
- 371) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, H. Shomura, “Functional analysis of glycolipid and glycoprotein using synthetic glycans”, Frontiers in Sialic Acid Research Conference, Bad Lauterberg (Germany), April 23-25, 2016.
- 372) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, T. Yamaji, K. Hanada, K. Fukase, “Functional evaluation of membrane glycolipids using synthetic glycans”, the 1st Korea-Japan Lipid Biology symposium, Jeju (Korea), May 11-13, 2016.
- 373) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, T. Yamaji, K. Hanada, K. Fukase, “Functional evaluation of membrane glycolipids using synthetic glycans”, GlycoT2016, Tronto (Canada), June 19-21, 2016.
- 374) K. Kabayama, S. Miyake, T. Yamaji, K. Hanada, Y. Manabe, K. Fukase, “Functional evaluation of membrane glycolipids using HaloTag system”, ICS28, New Orleans (USA), July 17-21, 2016.
- 375) K. Kabayama, K. Yokoyama, Y. Arai, Q. Feng, Y. Kawahara, A. Shimoyama, S. Inuki, Y. Fujimoto, K. Fukase, “Intracellular trafficking analysis of innate immunity ligands”, IEIIS2016, Hamburg (Germany), September 22-24, 2016.
- 376) K. Kabayama, S. Miyake, Y. Manabe, H. Shomura, T. Yamaji, K. Hanada, K. Fukase, “Functional analysis of glycolipid and glycoprotein using synthetic glycans”, Sialoglyco2016, Santa Barbara (USA), November 14-17, 2016.
- 377) Y. Suzuki, K. Noda, J. Aisu, S. Hara, K. Kabayama, H. Ikake, S. Shimizu, Y. Kushi, “Glycolipid purification using ionic liquid”, 7th International Conference on Science and Engineering (ICSE), Yangon (Myanmar), December 10-11, 2016.

2015 年度 (国際会議)

- 378) R. Kita, Thermodiffusion of Poly(N-isopropylacrylamide) Solutions, International Symposium on Fluctuation and Structure out of Equilibrium 2015 (SFS2016), Kyoto, August 22, 2015.
- 379) K. Sasaki, R. Kita, N. Shinyashiki, and S. Yagihara, Dynamics of supercooled water in partially crystallized gelatin-water mixture studied by broadband dielectric spectroscopy, The International

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015, Waikiki/USA, Dec 19, 2015.
- 380) R. Kita, Effect of solvation for the Ludwig-Soret effect of poly(N-isopropylacrylamide) studied in various solvents, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015, Waikiki/USA, Dec 16, 2015.
- 381) Y. Ohnishi, T. Nagashima, R. Kita, K. Tsuchiya, A. Iwamori, "Optical characteristics of polytetrafluoroethylene thin film prepared by a vacuum evaporation", The 5th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Materials and Related Nanotechnologies, Niigata June 2016.
- 382) Hideaki KIMOTO and Kazuyoshi TSUCHIYA, Development of The Local Deposition Techniques for The Purpose of Creation Micro Painless Needle Having Polygonal Cross Section, International Conference on Materials Processing Technology 2016, Tokyo/Japan, 28-29 March 2016
- 383) Hideaki KIMOTO and Kazuyoshi TSUCHIYA, Search for Local Sputtering for the Purpose of Creation of Ultra Fine Painless Needle with Polygonal Cross Section, ICFMA International conference on Functional Materials and Applications 2015, p.25.28, Ritsumeikan University, (Best Paper Award),27-29 November 2015
- 384) Kento Kawata, Yosuke Okamura, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, Surface modification of injection needle inside surface of a pipe by polymer macromolecule super-thin film, International Conference on Materials Processing Technology 2016, Tokyo/Japan, 28-29 March 2016
- 385) Hideaki Kimoto, Kazuyoshi Tsuchiya, Stiff consideration of a micro painless needle with polygon section, IEEE, 2015 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS) P.231-234, Nagoya University, 23-25 November 2015.
- 386) Yosuke Okamura, Takuya Komachi, Ami Masuda, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Fabrication of bio-friendly nanosheets for biomedical applications. The 5th Asian Biomaterials Congress, Taipei/Taiwan, May 8, 2015.
- 387) Yosuke Okamura, Ami Masuda, Riku Saito, Hong Zhang. Water-repellent ultra-thin films to protect from drying and blurring for tissue imaging. 3rd International Symposium on Nanomedicine Molecular Science, Tokyo/Japan, Nov. 25, 2015.
- 388) Yosuke Okamura, Ami Masuda, Kazuki Okuyama, Ai Kotani, Yu Nagase. Fabrication of water-repellent nanosheets to provide abilities of water retentivity and fixation for tissue imaging. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 15, 2015.
- 389) Takuya Komachi, Hideaki Sumiyoshi, Yutaka Inagaki, Shinji Takeoka, Yu Nagase, Yosuke Okamura. Development of biodegradable multi-layered nanosheets as a wound dressing in partial hepatectomy. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 390) Daiki Sogabe, Yu Nagase, Yosuke Okamura. Fabrication of disk-shaped particles induced by hot-press process and their two-dimensional interactions for biomedical applications. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 391) Kazuya Kabayama, Hisao Kojima, Yusuke Suzuki, and Masahiro Ito. Structural Characterization of Neutral Glycosphingolipids from 3T3-L1 Adipocytes. The 56th ICBL, Argentina, Sep. 22-26 (2015).
- 392) Kazuya Kabayama, Shuto Miyake, Siyu Chen, Yoshiyuki Manabe, and Koichi Fukase. Functional evaluation of membrane glycolipids using synthetic glycans. ICCEOCA-10 / ARN-CEOCA-1, Taiwan,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Nov. 2-5 (2015).
- 393) Kazuya Kabayama, Hisao Kojima, Yusuke Suzuki, and Masahiro Ito. Structural Characterization of Neutral Glycosphingolipids from 3T3-L1 Adipocytes. The 7th ACGG, Matsushima, Nov. 12-15 (2015).
- 394) Shuta Takano, Hideaki Sumiyoshi, Yutaka Inagaki, Hiroshi Kimura, Yosuke Okamura. Spray-nanocoating of fragmented biodegradable nanosheets for biomedical applications. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 395) Atsushi Nakagawa, Yosuke Okamura. Fabrication of biodegradable spherical particles and fibers by SPG membrane emulsification technique. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 396) Yu Nagase, Yosuke Okamura, Kohei Asao, Atsushi Iwano. Preparation of polymer nanosheets containing phosphorylcholine group and the application to coating biomaterials. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 397) Atsushi Iwano, Kohei Morita, Kohei Asao, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Synthesis of biocompatible polyurethane and fabrication of nanosheet as a coating agent. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 398) Motofumi Tezuka, Atsushi Iwano, Kohei Morita, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Synthesis of biocompatibility of polyurethane containing phosphorylcholine and alkyl groups. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 399) Mari Ogino, Kohei Asao, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Synthesis of biocompatible polyamide containing PC groups and fabrication of nanosheet as a coating agent. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 16, 2015.
- 400) Tatzuma Oda, Kosuke Taira, Masayuki Watanabe, Shinichi Koguchi, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Improvement of separation property of PDMS graft polyimide membrane by nanosheet coating of polymers containing imidazolium group. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 17, 2015.
- 401) Kana Ando, Akira Abeta, Yosuke Okamura, Yu Nagase. Gas separation properties of composite membrane based on PDMS graft copolyimide coated with nanosheet PEO graft copolyamide. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM2015), Honolulu/USA, Dec. 17, 2015.
- 402) Yosuke Okamura, Ami Masuda, Riku Saito, Hong Zhang. Nano-wrapping of water-repellent nanosheets for tissue imaging. The 7th Taiwan-Japan Symposium on Nanomedicine, Kyoto/Japan, Jan. 21, 2016.
- 403) M. Nukaga, S.H. Kim, K. Yahata, T. Fujii, O. Kaneko, H. Kimura, “On-chip Deformability Measurement of Malaria Parasite-Infected Red Blood Cells by Dielectrophoretic Force”, μ TAS2015, pp.484-486, Korea, Oct 25-29, 2015.
- 404) Suzuka Ono, Asako Otomo, Wakana Onodera, Kai Sato, Shun Mitsui, Mitsunori Fukuda, Shinji Hadano, The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2 in recycling endosomes. 2015 (26th International Symposium on ALS/MND), Orland/USA, 11 – 13 December, 2015.
- 405) Yuta Sunami and Hiromu Hashimoto, Friction Characteristics between Thin Plastics Film and Steel Roller”, Thirteenth International Conference on Web Handling 2015 (IWEB2015), Oklahoma/USA, June

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

9, 2015.

- 406) Kazuyoshi Yoshida, Hiromu Hashimoto, Shinji Hikita, Shogo Matsumoto, Yuko Kobayashi, Yoshimitsu Goto, Yuta Sunami, The Future of Flexible Sheet Media Handling Technology, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 407) Kei Harada, Masayuki Ochiai, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, Development of Air Spindle Motor for Hard Disk Drives, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 408) Hiromu Hashimoto and Yuta Sunami, Internal Stress Analysis of Wound Roll Considering Thermal-Viscoelastic Property and Experimental Verification, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 409) Hiromu Hashimoto and Yuta Sunami, Optimization of Winding Conditions for Preventing Roll Defects Caused by Thermal-Viscoelastic Property, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 410) Yuta Sunami and Hiromu Hashimoto, Measurement of Internal Stress Distribution of Wound Roll in Axial Direction, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 411) Yuta Sunami and Hiromu Hashimoto, Tribological Characteristics between Thin Plastic Film and Steel Roller, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2015), Kobe/Japan, June 15, 2015.
- 412) Yuta Sunami, Yasushi Fujiwara, Hiromu Hashimoto, Tribological Characteristics between Plastic Film and Steel Roller, International Tribology Conference, Tokyo 2015 (ITC2015), Tokyo/Japan, September 16, 2015.
- 413) Yusuke Kotobuki, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, Preventing Method of Web Defects during Transportation by Image Recognition Technique, International Tribology Conference, Tokyo 2015 (ITC2015), Tokyo/Japan, September 16, 2015.
- 414) Daisuke Suzuki, Masayuki Ochiai, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, Experimental Verification of Sealing Characteristics on Grooved Dry Gas Seals with Visualization of Gas Flow, International Tribology Conference, Tokyo 2015 (ITC2015), Tokyo/Japan, September 16, 2015.
- 415) So Nakagawa, Mammalian endogenous viral element database, SMBE 2015, Vienna, Austria Jul 12-16, 2015
- 416) Sayumi Shimode, So Nakagawa, Takayumi Miyazawa, Identification of endogenous retrovirus in the fixation process to cat genomes, SMBE 2015, Vienna, Austria Jul 12-16, 2015.
- 417) So Nakagawa, Mahoko U Takahashi, Tadashi Imanishi, Comprehensive identification of endogenous viral elements in 20 mammalian genomes, The 11th International Workshop on Advanced Genomics, Tokyo, May 20-22, 2015.

2014 年度 (国際会議)

- 418) Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Development of Fragmented Nanosheets and Patchwork Coating as Aqueous Surface Modifiers for Biomedical Applications. COLL-139. 248th American Chemical Society National Meeting, Moscone Center/San Fransisco, Aug. 2014.
- 419) Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Development of Size-controlled Biodegradable

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- Polymer Nanosheets and Their Biomedical Applications. B1-O26-004, YS-007. International Union of Materials Research Societies -International Conference in Asia 2014 (IUMRS-ICA2014), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 2015.
- 420) Fabrication conditions of a the micro painless needle Having polygonal cross section sputtering method, Hideaki Kimoto, Tomoya Syudou, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, International Conference on Materials Processing Technology 2014, International Conference on Materials Processing Technology 2015, Abstract book, P.58-62, 29-30 January 2015.
- 421) Observation of the Permeation on the Subcutaneous during the Administration of Drug and Development of a Needle, Kento Kawata, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, International Conference on Materials Processing Technology 2014, International Conference on Materials Processing Technology 2015, Abstract book, P.52-57, 29-30 January 2015.
- 422) Growth Prediction Method for New Biocompatible Piezoelectric Thin Films, Yutaka Yasoda, Yasutomo Uetsuji, Kazuyoshi Tsuchiya, IEEE, Proceedings Conference on Optoelectronic and Microelectronic Materials & Devices (COMMAD) 2014, P. 136-137, 14-17 December 2014, The University of Western Australia, Perth, Australia.
- 423) EVALUATION OF ADDITIVE ELEMENT FOR BARIUM TITANATE BY USING FIRST-PRINCIPLES CALCULATION, Yutaka Yasoda, Yasutomo Uetsuji, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022241-1 - 1570022241-4(2014).
- 424) DEFORMATIONAL CONTROL BY MULTIPLEX GEOMETRY OF C SHAPED PZTS, Takashi Torigata, Kazuyoshi Tsuchiya, Yasutomo Uetsuji, MJJIS Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022235-1 - 1570022235-4(2014).
- 425) DEPOSITION OF INTERLAYER FOR PAINLESS MICRO NEEDLE AND STRESS ANALYSIS, Katsuhiro Fukaya, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022239-1 - 1570022239-4(2014).
- 426) DEVELOPMENT OF MICRO PH SENSOR USING SPUTTERING METHOD, Daiki Kaneko, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, P.1570022233-1 - 1570022233-4(2014).
- 427) BIOCMPATIBILITY EVALUATION OF CARBON NANOTUBES BASED ON CHIRALITY, Sachiko Iimori, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570024667-1 - 1570024667-4(2014).
- 428) PREDICTION OF ACTION OF VARIATION OF THIN FILM BY A LATTICE MISMATCH SIMULATION, K. Ito, K. Tsuchiya and Y. Uetsuji, MJJIS, Proceedings of the MJIT-JUC Joint International Symposium 2014 Malaysia, p. 1570022237-1 - 1570022237-4(2014).
- 429) Evaluation of Additive Element in B site to Improve BaTiO₃ Piezoelectricity by Using First-principles Calculation, Y. Yasoda, Y. Uetsuji and K. Tsuchiya, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.297-298(2014).
- 430) Development of the c shaped piezoelectric actuator for the blood circulation assistance mechanism, T. Torigata and K. Tsuchiya and Y. Uetsuji, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.233-234(2014).
- 431) THE PERFORMANCE ASSESSMENT OF THE TRENCH ADDITION TYPE PZT ACTUATOR USING A HOLLOW TUBE MICRO PUMP, H. SUZUKI, K. TSUCHIYA and Y. UETSUJI, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.237-238(2014).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 432) Prediction of the crystal growth by a simulation K. Ito, K. Tsuchiya and Y. Uetsuji, ACMFMS, Proceedings of ACMFMS 2014, p.309-310(2014).
- 433) Observation of the Permeation on the Subcutaneous during the Administration of Drug and Development of a Needle, Kento Kawata, Kazuyoshi Tsuchiya, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, IEEE, 2014 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS) P.36-39(2014).
- 434) Selection of the Best Shape for A Micro Painless Needle Hideaki Kimoto, Takehiko Inoue, Kazuyoshi Tsuchiya, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, IEEE, 2014 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science(MHS) P.40-43(2014).
- 435) Observation of the Permeation on the Subcutaneous Pigment the Administration of Drug, Kento Kawata, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014).
- 436) Development of the Micro Region pH Sensor Applying Ag/AgIO₃ Electrode Method , Daiki KANEKO and Kazuyoshi TSUCHIYA, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014)
- 437) The Performance Evaluation of the Slot Addition Type PZT Actuator in a Hollow Tube Micro Pump, Hiromasa SUZUKI, Yasutomo UETSUJI and Kazuyoshi TSUCHIYA, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014).
- 438) Best Creation of a Conditions Micro Painless Needle Having Polygonal Cross Section, Hideaki Kimoto, Tomoya Syudou, Kagemasa Kajiwara, Minoru Kimura and Kazuyoshi Tsuchiya, ICPT 2014, Proceedings of ICPT 2014(2014).
- 439) Kousaku Maeda, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Thermal Diffusion Behavior of Aqueous Solutions of Ethylene Glycol Oligomers, Crown Ethers, and Glycerol, 11th International Meeting on Thermodiffusion (IMT11), Bayonne/France, June 5, 2014.
- 440) Yohei Nakayama, Rio Kita, Masaki Sano, Ludwig-Soret effect of colloidal particles in polymer solution, 11th International Meeting on Thermodiffusion (IMT11), Bayonne/France, June 5, 2014.
- 441) Kousaku Maeda, Haruka Shinohara, Yuki Kishikawa, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Temperature and Molecular Weight Effects for Thermal Diffusion of Aqueous Solutions of Saccharides, 11th International Meeting on Thermodiffusion (IMT11), Bayonne/France, June 5, 2014.
- 442) Tsubasa Kawaguchi, Shunsuke Sato, Ayaka Kurose, Yuko Tanaka, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Minoru Fukuzaki, Molecular Dynamics of Tofu Analyzed by PFG-SE NMR and Broadband Dielectric Spectroscopy, The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 443) Shin Yagihara, Shunsuke Sato, Fumio Abe, Tsubasa Kawaguchi, Yuko Maruyama, Yasuhiro Kishi, Hayato Kamata, Seiei Watanabe, Yasuyuki Hosoi, Megumi Asano, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Minoru Fukuzaki, Koji Asami, Nondestructive Measurements of Aqueous Materials by Broadband Dielectric Spectroscopy with Open-Ended Probes, The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 444) Tsubasa Kawaguchi, Yasuyuki Hosoi, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Shin Yagihara, Minoru Fukuzaki, Diffusion of Water in Liposome/Water Dispersion by PFG-SE NMR, The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 445) Shin Yagihara, Yuko Maruyama, Hironobu Saito, Yosuke Miyamoto, Tsubasa Kawaguchi, Rio Kita, Naoki Shinyashiki, Minoru Fukuzaki, New Analytical Method of Water Structures by Fractal Concept,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- The 15th IUMRS-ICA (International Union of Materials Research Societies, International Conference in Asia), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 24-30, 2014.
- 446) T. Hiraiwa, T. Kimura, Y. Takenaka, R. Tanamoto, H. Ota, H. Kimura, Y. Taguchi, N. Miki, Y. Matsumoto, K. Oka, A. Funahashi, and N. Hiroi, “Fabrication Method To A High Resolution Control In The Space Of Cell Culturing Environment With Microfluidic System”, MEMS2014, pp.264-267, San Francisco, USA, Jan 26-30, 2014.
- 447) M. Horayama, T. Ohkubo, K. Arai, K. Kabayama, T. Fujii, H. Kimura, “Pinpoint Chemical Stimulation Control By An Integrated Microfluidic Probe For Cell- Based Assays”, μ TAS2014, pp.1482-1484, USA, Oct 26-31, 2014.
- 448) T. Ohkubo, H. Kinoshita, T. Maekawa, H. Kimura, S. Kuroda, T. Fujii, “Microfluidic Cell Culture System For Dynamic Cell Signaling Study”, μ TAS2014, pp.558-560, USA, Oct 26-31, 2014.
- 449) H. Kimura, S. Senda, T. Yoshimura, Y. Sato, T. Fujimori, T. Fujii, “A High-Throughput Antibody Screening Platform Toward Embryology”, μ TAS2014, pp.536-538, USA, Oct 26-31, 2014.
- 450) M. Horayama, T. Ohkubo, K. Arai, K. Kabayama, T. Fujii, H. Kimura, “Pinpoint Chemical Stimulation at a Single-cell Scale by Microfluidic Technology”, Micro-Nano Mechatronics and Human Science 2014, pp.109-110, Japan, Nov 9-12, 2014.
- 451) R. Yazaki, S. Shimasaki, K. Tsuchiya, T. Fujii, H. Kimura, “Evaluation of Enzyme Immobilization Methods on Microglucose Sensors Integrated to a Microfluidic Device”, Micro-Nano Mechatronics and Human Science 2014, pp.107-108, Nagoya, Japan, Nov 9-12, 2014.
- 452) M. Horayama, T. Ohkubo, K. Arai, K. Kabayama, T. Fujii, H. Kimura, “Pinpoint Chemical Stimulation Control by an Integrated Microfluidic Probe for Cell-based Assay”, μ TAS2014, pp.558-560, USA, Oct 26-31, 2014.
- 453) Yuta Sunami, Yasushi Fujiwara, Yusuke Kotobuki, Hiromu Hashimoto, “Experimental Study on Friction Characteristics Between Plastic Film and Steel Roller”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 160-163, (2014)
- 454) Masayuki Ochiai, Hayato Sasaki, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Topological Optimization of Dry Gas Seals for Improving Seal Characteristics”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 196-202, (2014).
- 455) Hisayoshi Naka, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Development of the Artificial Wing Suitable for Flapping Micro Air Vehicle Based on Dragonfly Wing”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 78-83, (2014).
- 456) Yutaro Kawamura, Hisayoshi Naka, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Effects of Micro Spike Structure on Flow Around Plate”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 96-100, (2014).
- 457) Masayuki Ochiai, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Topological Optimization of Dry Gas Seals for Improving Seal Characteristics”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 196-200, (2014)
- 458) PAN, L., OTOMO, A., KOIKE, M., UCHIYAMA, Y., AOKI, M., ABE., K., ISHII, T., YANAGAWA, T., SHANG, H.F., YOSHII, F., HADANO, S., 62/SQSTM1 DEFICIENCY ACCELERATES MOTOR NEURON DEGENERATION IN SOD1H46R TRANSGENIC MICE 5 - 7 December 2014, Belgium, Oral presentation
- 459) Hae-Sim Cha, Ji-Hyung Park, Dong-Hyun Seo, Han-Sung Kim, Kazuya Kabayama, Tack-Joong Kim, Preventive Effect And Mechanism of the Mirae406 against Muscle Atrophy Induced by

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 3D-Clinostat in C2C12 Myoblasts, 10th Asian Microgravity Symposium, Korea, Oct 28-31 (2014)
- 460) Kenta Arai, Hiroshi Kimura, Kazuya Kabayama, Osamu Kanie
A study toward understanding cellular dynamics of glycosphingolipid based on chemical engineering approach
SFG & JSCR 2014 Joint Annual Meeting, Hawaii, Nov 16-19 (2014)
- 461) Yusuke Suzuki, Kazuya Kabayama, Yasunori Kushi, Rapid glycoconjugate purification with organic solvent, “エネルギー・環境及び人間工学”に関する第二回国際学術会議 ミャンマー Dec 30 (2014).
- 462) Nakagawa, S. RNA-seq analysis of endogenous retroviral elements in bovine conceptuses during the period of placentation. ASHG2014, CA, USA, Oct. 2014.
- 463) Shimode, S., Nakagawa S, Miyazawa T Serological survey and characterization of feline morbillivirus in Japan. IFRRS & ISCAID 2014, ON, Canada, Oct. 2014.
- 464) Nakagawa, S. TRANSCRIPTOME ANALYSIS OF ERV-DERIVED GENES IN BOVINE CONCEPTUSES DURING THE PERIOD OF PLACENTATION. Workshop on Endogenous Retroviruses, VA, USA, Aug. 2014.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

【国内学会発表】

2018年度（国内学会等発表）

- 465) 稲津敏行, 喜多理王, 「マイクロ・ナノ研究開発センターの紹介」, 東海大学産学連携フェア, 高輪キャンパス 2018年8月8日.
- 466) 稲津敏行, 喜多理王, 「マイクロ・ナノ研究開発センターの紹介」, 2018年度研究交流会"学部間の連携で研究活動を加速する, 湘南キャンパス 2018年10月6日.
- 467) 江口和也, Isala Dueramae, 砂見雄太, 岡村陽介, 喜多理王 “ポリ乳酸裁断化超薄膜分散液の粘性率測定と評価”, 第41回日本バイオレオロジー学会年会, 名古屋, 2018年6月16,17日.
- 468) 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “ポリビニルメチルエーテルのエンタルピー緩和と誘電緩和”, ガラス転移と関連分野の最先端研究, 千葉, 2018年5月10日.
- 469) 藤井慎季, 萬代健太, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(vinyl pyrrolidone)アルコール溶液と水溶液における溶質と溶媒の誘電緩和とガラス転移”, ガラス転移と関連分野の最先端研究, 千葉, 2018年5月10日.
- 470) 高塚将伸, 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法によるPoly (ethylene imine)水溶液の液体からガラス状態における高分子と水の分子ダイナミクス”, ガラス転移と関連分野の最先端研究, 千葉, 2018年5月11日.
- 471) 新屋敷直木, 萬代 健太, 高塚 将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 八木原晋, “高分子溶液中の水とアルコールの誘電緩和とガラス転移”, ガラス転移と関連分野の最先端研究, 千葉, 2018年5月12日.
- 472) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “高分子水溶液のエンタルピー緩和と誘電緩和”, H2Oを科学する・2018, 北海道, 2018年12月10日.
- 473) 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “高分子水溶液の誘電緩和とエイジングによるエンタルピー緩和”, 高分子の物性測定と応用, 京都, 2018年3月2日.
- 474) 藤井慎季, 萬代健太, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “Poly(vinylpyrrolidone)アルコール溶液における液体からガラス状態までの高分子およびアルコールの誘電緩和”, 第55回高分子と水に関する討論会, 東京, 2017年11月30日.
- 475) 藤井慎季, 萬代健太, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “誘電分光法によるPoly(vinyl pyrrolidone)アルコール溶液における分子ダイナミクス”, '17 SAS Symposium (29th), 神奈川, 2017年11月23,24日.
- 476) 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光測定によるPoly(vinyl methyl ether)水溶液の水と高分子の分子運動とガラス転移”, '17 SAS Symposium (29th), 神奈川, 2017年11月23,24日.
- 477) 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “ポリビニルメチルエーテル水溶液のエイジングと分子ダイナミクス”, 熱測定討論会, 福岡, 2017年11月5日.
- 478) Ganesh Kumar Mani, Dhivya Ponnusamy, Anuroop Srivastava, Yutaka Yasoda, Kazuyoshi Tsuchiya, "Freestanding ZnO Nanosheets: A Unique Flexible Material for Highly Sensitive Chemiresistive Sensors", 2018 JSPE Fall Conference, Hakodate, Japan 5-7 September (2018).
- 479) Soichi Doi, Ganesh Kumar Mani, Keiji Matsubara, Tadahiko Matsubara, Kazuyoshi Tsuchiya, "Development of Microneedle Based pH Sensor and Its Precise Puncture Control", 2018 JSPE Fall Conference, Hakodate, Japan 5-7 September (2018).
- 480) Haruka Harasaki, Ganesh Kumar Mani, Kazuyoshi Tsuchiya, "PNIPAM Nanosheet Based Multifunctional Sensor", 2018 JSPE Fall Conference, Hakodate, Japan 5-7 September (2018).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 481) Yuya Kumakiri, Ganesh Kumar Mani, Kazuyoshi Tsuchiya, "Development of Implantable Type P(VDF-TrFE) Nanosheet Sensor", 2018 JSPE Fall Conference, Hakodate, Japan 5-7 September (2018).
- 482) Yuki Ito, Ganesh Kumar Mani, Kazuyoshi Tsuchiya, "Development of Intraoral Saliva pH Based Stress Measurement", 2018 JSPE Fall Conference, Hakodate, Japan 5-7 September (2018).
- 483) Asuka Saito, Ganesh Kumar Mani, Satoshi Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, "High Functionalization of Microfluidic pH Electrode for Detection of CTCs in Blood", 2018 JSPE Fall Conference, Hakodate, Japan 5-7 September (2018).
- 484) Ganesh Kumar Mani, Saito Asuka, Yutaka Yasoda, Kazuyoshi Tsuchiya, "Fabrication of Single Cell Sensor to Monitor Cell Metabolites", 2018 JSPE Spring Conference, Chuo University, Japan, 15-17 March, (2018).
- 485) Asuka Saito, Ganesh Kumar Mani, Satoshi Kimura, Kazuyoshi Tsuchiya, "Improvement of Thin Film Type pH Electrode for Detecting Blood Circulating Tumor Cell in Microfluidic Device", 2018 JSPE Spring Conference, Chuo University, Japan, 15-17 March (2017)
- 486) Y. Yamanouchi, Ganesh Kumar Mani, Yasutomo Uetsuji, Kazuyoshi Tsuchiya, "Design and Development of Valveless Pump for Artificial Auxiliary Heart Using Piezoelectric Material", IIP 2018 Information, Intelligence and Precision Equipment Division Lecture, Toyo University, Japan 14-15 March (2018).
- 487) K. Miyachi, Ganesh Kumar Mani, Kazuyoshi Tsuchiya, "Fabrication of Painless Microneedle with Polygon Cross-section", IIP 2018 Information, Intelligence and Precision Equipment Division Lecture, Toyo University, Japan, 14-15 March (2018).
- 488) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 高橋泰伽, 根本知己, 岡村陽介, "Fabrication of Water-Repellent Nanosheet for Coverslip-Free Deep Tissue Imaging", 第28回日本MRS年次大会, 福岡, 2018年12月18-20日.
- 489) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, "Fabrication of a Multilayered Porous Nanosheet and Drug Release Controlled by Pressing", 第28回日本MRS年次大会, 福岡, 2018年12月18-20日.
- 490) P. Mekwatanakarn, 吉田翔太, 岡村陽介, "Fabrication and Characterization of Biodegradable Microparticles Carrying Antibiotics for Pulmonary Administration", 第28回日本MRS年次大会, 福岡, 2018年12月18-20日.
- 491) W. Tuntanatewin, H. Zhang and Y. Okamura, "One-Pot Fabrication of Polymer Micro/Nano-Discs via Polymer Phase Separation", 第28回日本MRS年次大会, 福岡, 2018年12月18-20日.
- 492) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介, "Preparation of Polymer Discs as Novel Carriers for Turbidimetric Assay", 第28回日本MRS年次大会, 福岡, 2018年12月18-20日.
- 493) 草柳夏美, 鎗野目健二, 青木拓斗, 中川篤, 張宏, 岡村陽介, "Fabrication of Nanosheets Composed of Thermo-Responsive Shape Memory Polymers", 第28回日本MRS年次大会, 福岡, 2018年12月18-20日.
- 494) 岡村陽介, 張宏, 鎗野目健二, 高橋泰伽, 大友康平, 川上良介, 根本知己, "撥水性超薄膜を活用したカバーガラスフリー生体深部イメージング法の提案", 第40回日本バイオマテリアル学会大会, 兵庫, 2018年11月12-13日.
- 495) 土屋笙子, 松本拓也, 中川篤, 岡村陽介, "におい分子の揮発を制御する多糖超薄膜の創製と機能評価", 第40回日本バイオマテリアル学会大会, 兵庫, 2018年11月12-13日.
- 496) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 高橋泰伽, 根本知己, 岡村陽介, "撥水性超薄膜の調製とカバーガラスフリー生体深部イメージング法の確立", 第8回CSJ化学フェスタ2018, 東

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 京, 2018年10月23-25日.
- 497) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介, “血栓溶解能を有する生分解性ディスクの創製と機能評価”, 第8回CSJ化学フェスタ2018, 東京, 2018年10月23-25日.
- 498) 張宏, 岡村陽介, “スピコーティング法による高分子薄膜内の帯状相分離領域の形成機構”, 第67回高分子討論会, 北海道, 2018年9月12-14日.
- 499) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介, “ディスク状粒子の特性と新規凝集比濁用キャリアとしての検証”, 第67回高分子討論会, 北海道, 2018年9月12-14日.
- 500) 草柳夏美, 鎗野目健二, 青木拓斗, 中川篤, 張宏, 岡村陽介, “熱応答性形状記憶ポリマーからなる超薄膜の調製と物性評価”, 第67回高分子討論会, 北海道, 2018年9月12-14日.
- 501) 張宏, 岡村陽介, “A Real Freestanding Tensile Test on Polymer Blend Thin Films”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第9回学術講演会, 熊本, 2018年8月25日.
- 502) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 高橋泰伽, 根本知己, 岡村陽介, “カバーガラスフリーイメージングへの応用を目指した撥水性超薄膜の創製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第9回学術講演会, 熊本, 2018年8月25日.
- 503) 土屋笙子, 松本拓也, 中川篤, 岡村陽介, “におい分子の揮発を制御する多糖超薄膜の創製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第9回学術講演会, 熊本, 2018年8月25日.
- 504) 畑中朋美, Ramphai Khampeeraphan, 瀧本駿, 本杉奈美, 阿部如子, 竹下秀, 岡村陽介, 木村穰, “色素性乾皮症患者のQOL改善を目的とした紫外線吸収ナノシート製剤の創製”, 第27回日本臨床環境医学会学術集会, 三重, 2018年7月7-8日.
- 505) 草柳夏美, 鎗野目健二, 青木拓斗, 中川篤, 張宏, 岡村陽介, “熱応答性形状記憶ポリマーからなるナノシートの調製法の確立と物性評価”, 第13回相模ケイ素・材料フォーラム/第65回湘北地区懇話会, 神奈川, 2018年6月29日.
- 506) Pinyo Mekwatanakarn, 吉田翔太, 岡村陽介, “経肺投与を指向した抗生剤担持生分解性微粒子の調製と物性評価”, 第13回相模ケイ素・材料フォーラム/第65回湘北地区懇話会, 神奈川, 2018年6月29日.
- 507) 磯野亨, 鈴木大士, 安藤加奈, 岡村陽介, 長瀬裕, “PEO鎖を含有ポリイミドナノシートによる高気体透過性膜の表面改質”, 第13回相模ケイ素・材料フォーラム/第65回湘北地区懇話会, 神奈川, 2018年6月29日.
- 508) 宮下博壮, 野上祐貴, 海野将宇, 岡村陽介, 長瀬裕, “ホスホリルコリン基を有するポリウレタン共重合体の合成と生体適合性”, 第13回相模ケイ素・材料フォーラム/第65回湘北地区懇話会, 神奈川, 2018年6月29日.
- 509) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 小沢春香, 金丸達哉, 内田昌希, 夏目秀視, 岡村陽介, “経鼻投与を指向したフェノバルビタール内包生分解性粒子の創製と機能評価”, 第34回日本DDS学会学術集会, 長崎, 2018年6月21日.
- 510) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介, “生分解性ディスクの創製と高せん断応力下における血栓部位への接着挙動”, 第34回日本DDS学会学術集会, 長崎, 2018年6月21日.
- 511) 瀧本駿, Ramphai Khampeeraphan, 本杉奈美, 阿部如子, 竹下秀, 岡村陽介, 木村穰, 畑中朋美, “紫外線吸収能を有した層状超薄膜の創製と色素性乾皮症への適応”, 日本薬剤学会第33年会, 静岡, 2018年5月30日.
- 512) 二村友香, 樺山一哉, 朝比奈雄也, 花島慎弥, 北條裕信, 村田道雄, 深瀬浩一, “酸性糖脂質と膜貫通ペプチドの静電的相互作用解析”, 第10回光塾・箕面, 2018年12月11-12日.
- 513) 新井健太, 樺山一哉, 蟹江善美, 蟹江治, 深瀬浩一, “蛍光標識糖脂質を用いたライブセルイメージング解析”, 第10回光塾・箕面, 2018年12月11-12日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 514) 樺山一哉、新井健太、深瀬浩一、“厳密な入力制御によるライブセルイメージング”、第10回光塾、箕面、2018年12月11-12日.
- 515) 狩野裕考、新田昂大、藤居真優、樺山一哉、下山敦史、深瀬浩一、鈴木明身、井ノ口仁一、“ガングリオシドのアシル鎖構造によるToll-like receptor 4 活性化制御メカニズム”、第24回日本エンドトキシン・自然免疫研究会、横浜、2018年12月1日.*日本エンドトキシン・自然免疫研究会奨励賞・優秀賞（共著者として）
- 516) 樺山一哉、兼田加珠子、張子見、真鍋良幸、下山敦史、豊嶋厚史、篠原厚、深瀬浩一、“短寿命 α 線核種を利用した新規抗がん剤の創製”、第41回日本分子生物学会年会、横浜、2018年11月28-30日.
- 517) 二村友香、樺山一哉、朝比奈雄也、花島慎弥、北條裕信、村田道雄、深瀬浩一、“酸性糖脂質とインスリン受容体の膜貫通ペプチドの静電的相互作用解析”、第41回日本分子生物学会年会、横浜、2018年11月28-30日.
- 518) 新井健太、樺山一哉、蟹江善美、蟹江治、深瀬浩一、“蛍光標識ラクトシルセラミドを用いたライブセルイメージング解析”、第8回CSJ化学フェスタ2018、船堀、2018年10月23-25日.
- 519) 二村友香、樺山一哉、朝比奈雄也、花島慎弥、北條裕信、村田道雄、深瀬浩一、“インスリン受容体の膜貫通ペプチドを用いた酸性糖脂質との静電的相互作用”、第8回CSJ化学フェスタ2018、船堀、2018年10月23-25日.
- 520) 藤居真優、樺山一哉、下山敦史、狩野裕考、井ノ口仁一、大戸梅治、清水敏之、深瀬浩一、“自然免疫受容体の内在性リガンドとしての糖脂質GM3”、第8回CSJ化学フェスタ2018、船堀、2018年10月23-25日.
- 521) 新井健太、樺山一哉、小野純一郎、中村寛子、木村啓志、深瀬浩一、“マイクロ流体デバイスを用いた外科的糖尿病におけるイソフルラン作用メカニズム解析”、糖質科学合同セミナー、箱根、2018年10月20日.
- 522) 三浦彩音、樺山一哉、三宅秀斗、初村洋紀、真鍋良幸、山地俊之、花田賢太郎、深瀬浩一、“糖鎖の細胞膜提示システムの構築とその機能解析”、糖質科学合同セミナー、箱根、2018年10月20日.
- 523) 山本竜駒、波多野佳奈枝、樺山一哉、真鍋良幸、深瀬浩一、“糖鎖修飾による抗体の動態制御”、糖質科学合同セミナー、箱根、2018年10月20日.
- 524) 兼田加珠子、張子見、真鍋良幸、下山敦史、樺山一哉、白神宜史、金井好克、畑澤順、深瀬浩一、篠原厚、“アミノ酸トランスポーターLAT1を標的とする α 線がんミサイル療法の開発”、第91回日本生化学会大会、京都、2018年9月24-26日.
- 525) 藤居真優、樺山一哉、下山敦史、狩野裕考、井ノ口仁一、大戸梅治、清水敏之、深瀬浩一、“LPSと内在性糖脂質GM3による相乗的な免疫応答”、第12回バイオ関連シンポジウム、吹田、2018年9月9-11日.
- 526) 二瓶渉、永福正和、狩野裕考、稲森啓一郎、新井健太、樺山一哉、深瀬浩一、井ノ口仁一、“ガングリオシドは NPC1L1 を介したコレステロール吸収に重要な役割を果たす”、第37回日本糖質学会年会、仙台、2018年8月28-30日.
- 527) 狩野裕考、新田昂大、郷慎司、藤居真優、樺山一哉、下山敦史、深瀬浩一、安藤弘宗、石田秀治、鈴木明身、井ノ口仁一、“極長鎖GM3ガングリオシドを介したTLR4活性化がメタボリックシンドロームを発症させる”、第37回日本糖質学会年会、仙台、2018年8月28-30日.
- 528) 中里遼太、榛葉健汰、小野竜、藤井輝夫、酒井康行、木村啓志、“薬物動態予測のために生理学的パラメータを再現するOrgans-on-a-chip”、シンポジウム細胞アッセイ技術の現状と将来、茨城、2019年1月30日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 529) 串田隆志, 太友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経軸索アッセイ用マイクロデバイスを用いた軸索輸送の定量解析”, シンポジウム細胞アッセイ技術の現状と将来, 茨城, 2019年1月30日.
- 530) 小田雄一, 篠原満利恵, 飯生啓太, 新谷華梨, 進和美, 佐藤琢, 荒川大, 白木伸明, 立野知世, 杉浦慎治, 糸昭苑, 加藤将夫, 金森敏幸, 木村啓志, 酒井康行, “二臓器連結モデル型 Microphysiological System を用いた新鮮ヒト肝細胞とヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞の灌流共培養”, シンポジウム細胞アッセイ技術の現状と将来, 茨城, 2019年1月30日.
- 531) 鈴木智稀, 藤井輝夫, 酒井康行, 小森喜久夫, 木村啓志, “グルコースセンサ集積型マイクロ流体デバイスを用いた薬効毒性のオンライン評価”, シンポジウム細胞アッセイ技術の現状と将来, 茨城, 2019年1月30日.
- 532) 伊藤優治, 高木港, 木村啓志, “細胞培養環境の恒常性維持に向けた透析膜集積型 Organs-on-a-chip”, シンポジウム細胞アッセイ技術の現状と将来, 茨城, 2019年1月30日.
- 533) W. Huang, H. Kimura, “A Human Kidney Proximal Tubule Model Based-on Microphysiological System for Drug Screening”, シンポジウム細胞アッセイ技術の現状と将来, 茨城, 2019年1月30日.
- 534) 鈴木智稀, 小森喜久夫, 木村啓志, “グルコースセンサ集積型マイクロ流体デバイスを用いた細胞動態のオンライン計測 -第二報 細胞毒性試験への応用-”, 日本機械学会 マイクロ・ナノ工学部門主催 第9回マイクロ・ナノ工学シンポジウム, 北海道, 2018年11月31日.
- 535) 小田雄一, 篠原満利恵, 飯生啓太, 新谷華梨, 荒川大, 白木伸明, 立野知世, 杉浦慎治, 糸昭苑, 加藤将夫, 金森敏幸, 木村啓志, 酒井康行, “二臓器連結一圧力駆動型 Microphysiological Systemを用いたヒト肝細胞とヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞のリアルタイム灌流共培養”, 動物実験代替法学会, 熊本, 2018年11月24日.
- 536) 池田優作, 荒田幸伸, 佐甲靖志, 木村啓志, “A two-story structured microfluidic device (WormFlo) toward recording of C. elegans motion during lifespan at the video-rate”, 日本生物物理学会2018年度年次大会, 岡山, 2018年9月15日.
- 537) 榛葉健汰, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスを用いた局所刺激に対する細胞応答評価”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 2018年9月11日.
- 538) 横山奨, 池田裕太, 大河原聡史, 砂見雄太, 木村啓志, “インクジェット技術を用いた細胞培養用ゲル基板のパターニング”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 2018年9月10日.
- 539) 榛葉健汰, 小野竜, 木村啓志, “薬物動態予測に向けて生理学的パラメータを再現した Organs-on-a-chip”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第9回学術講演会(Tune9), 熊本, 2018年8月25日.
- 540) W. Huang, M. Warner, H. Sasaki, K. S. Furukawa, T. Ushida, “Response of articular cartilage exposed to excessive compressive stress at different speeds”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第9回学術講演会(Tune9), 熊本, 2018年8月25日.
- 541) 鈴木智稀, 小森喜久夫, 樋谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態オンライン計測に向けた自動校正機能を有するグルコースセンサ集積型マイクロ流体デバイス”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会第37回研究発表, 茨城, 2018年5月22日.
- 542) 鈴木智稀, 小森喜久夫, 木村啓志, “グルコースセンサ集積型マイクロ流体デバイスを用いた細胞動態のオンライン計測”, IIP2019情報・知能・精密機械部門講演会, 埼玉, 2019年3月20日.
- 543) 池田祐太, 橋本巨, 砂見雄太, “ロール・ツー・ロール・プリンテッドエレクトロニクス技術の発展を目的とした基礎検討”, IIP2019 情報・知能・精密機器部門 (IIP部門) 講演会, 埼玉, 3/20-21, 2019. (発表予定)
- 544) 田島伸一, 橋本巨, 砂見雄太, “多孔質ナノシートの大量創製に関する研究”, IIP2019 情報・知能・精密機器部門 (IIP部門) 講演会, 埼玉, 3/20-21, 2019. (発表予定)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 545) 玉田麻樹雄, 砂見雄太, 橋本巨, “多孔質炭素薄膜の細孔制御に関する研究”, 関東学生会第58回学生員卒業研究発表講演会, 東京, 3/18, 2019. (発表予定)
- 546) 西田武史, 砂見雄太, 橋本巨, “薄膜フィルムの物性とロール内部応力について”, 関東学生会第58回学生員卒業研究発表講演会, 東京, 3/18, 2019. (発表予定)
- 547) 上野友聖, 砂見雄太, “フィルム搬送時における欠陥発生の防止に関する基礎研究”, 関東学生会第58回学生員卒業研究発表講演会, 東京, 3/18, 2019. (発表予定)
- 548) 北澤祐太, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムとプリズム間の真実接触面積に及ぼす面圧と張力の影響”, 関東学生会第58回学生員卒業研究発表講演会, 東京, 3/18, 2019. (発表予定)
- 549) 若木祐太, 砂見雄太, “ダイカストにおける可視化実験およびX線CTを用いた内部欠陥評価”, 関東学生会第58回学生員卒業研究発表講演会, 3/18, 2019. (発表予定)
- 550) 仲野駿佑, S. Zhang, M. D. Ibrahim, 橋本巨, 砂見雄太, “ロール・ツー・ロール生産方式を用いて作製したPDLLA 超薄膜の皮膚応用における生体医用デバイスへの触覚スライディング挙動”, トライボロジー会議2018秋 伊勢, 伊勢, 11/7-9, 2018.
- 551) 後藤海里, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “トンボの翅表面に存在する微細構造が流体潤滑下の軸受摩擦に及ぼす影響”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 9/10-12, 2018.
- 552) 仲野駿佑, 砂見雄太, 榎谷和義, “マイクログラビア印刷方式を用いた非晶性高分子超薄膜の創製と物性評価”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 9/10-12, 2018.
- 553) 柏原侑輝, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “湯流れの改善を目的としたダイカストランナーの自由形態探索”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 9/10-12, 2018.
- 554) 杉山直輝, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “尿素SCR内における液滴径の計測と空気流れの可視化”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 9/10-12, 2018.
- 555) 池田祐太, 橋本巨, 砂見雄太, “ロール・ツー・ロール印刷技術を用いたフレキシブルデバイス作製の基礎検討”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 9/10-12, 2018.
- 556) 田島伸一, 橋本巨, 砂見雄太, “高分子超薄膜の高機能化に関する検討”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 9/10-12, 2018.
- 557) 横山奨, 池田祐太, 大河原聡史, 砂見雄太, 木村啓志, “インクジェット技術を用いた細胞培養用ゲル基板のパターンニング”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 9/10-12, 2018.
- 558) 柏原侑輝, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “ダイカストにおける空気巻き込み観測方法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第9回学術講演会(熊本), 熊本, 8/25, 2018.
- 559) 倉本文治, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ジャーナル軸受における油膜の速度勾配およびキャピテーションの可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第9回学術講演会(熊本), 熊本, 8/25, 2018.
- 560) 諏訪拓也, 落合成行, 砂見雄太, 橋本巨, “トラクションドライブにおけるローラ回転方向の違いによる油膜分布の二相流解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第9回学術講演会(熊本), 熊本, 8/25, 2018.
- 561) 西田武史, 砂見雄太, 橋本巨, “PETフィルムを用いたヤング率の温度依存性に関する実験的検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第9回学術講演会(熊本), 熊本, 8/25, 2018.
- 562) 仲野駿佑, S. Zhang, 砂見雄太, “R2R生産法を用いて作製したPDLLA 超薄膜の皮膚応用における生体医用デバイスへの触覚スライディング”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第9回学術講演会(熊本), 熊本, 8/25, 2018.
- 563) 中川草, “種々のバイオインフォマティクス解析で迫るウイルスと宿主の共進化”, 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 11/28-30, 2018.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 564) 中川草, “ホスファチジルイノシトール5-リン酸4-キナーゼ(PI5P4K)遺伝子ファミリーの分子進化解析”, 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 11/28-30, 2018.
- 565) T. Miyazawa, S. Nakagawa, K. Kitao, and K. Imakawa, “Exaptation of endogenous retroviruses as functional genes in mammalian placentas”, 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 11/28-30, 2018.
- 566) 松尾禎之, 中川草, Kirill Kryukov, 今西規, 広田喜一, “ナノポアシークエンサーを用いた病原細菌の迅速同定を可能とするオンサイト解析パイプラインの確立”, 第41回日本分子生物学会年会、横浜、11/28-30, 2018
- 567) 宮穂里江, 中川草, 宮沢孝幸, “ニワトリにおける細網内皮症ウイルスの感染受容体の同定”, 第41回日本分子生物学会年会、横浜、11/28-30, 2018.
- 568) 上田真保子, クリュコフ キリル, 三橋里美, 三橋弘明, 今西規, 中川草, “哺乳類のタンパク質をコードするトランスポゾンと比較ゲノム解析”, 第41回日本分子生物学会年会, 横浜, 11/28-30, 2018
- 569) 大野歩, 梅澤和夫, クリュコフ キリル, 中川草, 浅井さとみ, 宮地勇人, 今西規, “生菌抽出法による薬剤耐性菌の迅速なゲノム診断技術の開発”, 第41回日本分子生物学会年会、横浜、11/28-30, 2018
- 570) 小嶋将平, 川野秀一, 伊東潤平, 中川草, 堀江真行, 朝長啓造, “内在性RNAウイルス様配列の新規検索手法の開発と新たなウイルス様配列の同定”, 第41回日本分子生物学会年会、横浜、11/28-30, 2018
- 571) S. Nakagawa, M. Ueda, “Genome-wide expression analysis for endogenous viral elements in mammalian genomes.”, 第66回日本ウイルス学会学術集会、京都、10/28-30, 2018
- 572) Y. Konno, S. Nagaoka, I. Kimura, K. Yamamoto, Y. Kagawa, R. Kumata, H. Aso, M.T. Ueda, S. Nakagawa, T. Kobayashi, Y. Koyanagi, K. Sato, “New World feline APOBEC3 potently controls inter-genus lentiviral transmission.”, 第66回日本ウイルス学会学術集会、京都、10/28-30, 2018.
- 573) 坂口翔一, 中川草, 水谷哲也, 鈴木陽一, 中野隆史, “新規Jeilongウイルスのゲノム・系統解析”, 第71回 日本細菌学会 関西支部総会・学術講演会, 大阪, 10/28, 2018.
- 574) S. Nakagawa, M. Ueda, “gEVE: a database for viral “fossils” in mammalian genomes”, 環境ウイルス研究集会, 京都, 10/27, 2018
- 575) 中川草, 上田真保子, Kirill Kryukov, 三橋里美, 三橋弘明, 今西規, “真核生物ゲノムに内在化したウイルス様配列データベースgEVEを活用したトランスクリプトーム解析”, 生命医薬情報学連合大会 (IIBMP2018), 鶴岡, 9/19-21, 2018
- 576) 今西規, 中川草, 木村亮介, 瀧靖之, 安藤寿康, “個人ゲノム情報に基づくヒト顔形状の予測をめざして”, 生命医薬情報学連合大会 (IIBMP2018)、鶴岡、9/19-21, 2018.
- 577) 上田真保子, 三橋里美, 三橋弘明, 中川草, “哺乳類のトランスポゾンに由来するタンパク質コード配列の比較ゲノム解析”, 日本遺伝学会第90回大会, 奈良, 9/19-21, 2018.
- 578) 中川草, 上田真保子, 中野雄介, 安田二郎, 小柳義夫, 佐藤佳, 黒崎陽平, “公共データベースを活用したエボラウイルスGP遺伝子の感染効率に関与する塩基突然変異の同定”, 第161回日本獣医学会学術集会, 茨城, 9/11-13, 2018
- 579) 中川草, 上田真保子, 今川和彦, 宮沢孝幸, “転移因子に由来する遺伝子の進化”, 日本進化学会第20回大会, 東京, 8/22-24, 2018
- 580) 三橋里美, 中川草, 上田真保子, 今西規, 三橋弘明, フリス マーティン, “ナノポアシークエンサーを用いたD4Z4リピートの解析”, 日本筋学会第4回学術集会, 岡山, 8/10-11, 2018
- 581) 三井駿, 大友麻子, 野崎昌久, 小野鈴花, 佐藤海, 白川涼平, 足立弘明, 青木正志, 祖父江元, 秦野伸二, “全身性 SQSTM1/p62 高発現は SOD1^{H46R} 発現 ALS マウスモデルの発症を

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 早期化する” 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第9回学術講演会 (Tune9), 熊本, 2018年8月25日.
- 582) 佐藤海, 大友麻子, 上田真保子, 杉山純也, 小野鈴花, 三井駿, 中川草, 秦野伸二, “ALS2 疾患原因変異による自己相互作用ドメインの異常は、ALS2 の正常な多量体形成やエンド ソーム局在能を障害させる” 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第9回学術講演会 (Tune9), 熊本, 2018年8月25日.
- 583) 大友麻子, 串田隆志, 横山奨, 小野鈴花, 佐藤海, 三井駿, 上田真保子, 中川草, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデル細胞の作出” 海大学マイクロ・ナノ啓発会第9回学術講演会 (Tune9), 熊本, 2018年8月25日.
- 584) 野崎昌久, 大友麻子, 白川涼平, YongPing Chen, 濱祐太郎, 三井駿, 佐藤海, 小野鈴花, XuePing Chen, Hui-Fang Shang, 鈴木利保, 秦野伸二, “ALS家系で同定されたSQSTM1遺伝子変異は、SQSTM1/p62 陽性構造物の大きさと数を変化させる” 第41回日本分子生物学会年会、横浜、11/28-30, 2018.

2017年度 (国内学会等発表)

- 585) 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋“高分子水溶液の誘電緩和とエイジングによるエンタルピー緩和”, 高分子の物性測定と応用, 京都, 2018年3月2日.
- 586) 藤井慎季, 萬代健太, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “Poly(vinylpyrrolidone)アルコール溶液における液体からガラス状態までの高分子およびアルコールの誘電緩和”, 第55回高分子と水に関する討論会, 東京, 2017年11月30日.
- 587) 藤井慎季, 萬代健太, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋“誘電分光法によるPoly(vinyl pyrrolidone)アルコール溶液における分子ダイナミクス”, '17 SAS Symposium (29th), 神奈川, 2017年11月23,24日.
- 588) 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光測定によるPoly(vinyl methyl ether)水溶液の水と高分子の分子運動とガラス転移”, '17 SAS Symposium (29th), 神奈川, 2017年11月23,24日.
- 589) 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “ポリビニルメチルエーテル水溶液のエイジングと分子ダイナミクス”, 熱測定討論会, 福岡, 2017年11月5日.
- 590) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “氷Ihの誘電緩和時間”, H2Oを科学する 2017, 北海道, 2017年,9月14日.
- 591) 江口和也, 川口翼, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, Doreen Niether, Jana Hovancova, Simone Wiegand, “シクロデキストリンを用いた包接錯体のゲスト分子が熱物質拡散現象に与える効果” (Poster), 第34回シクロデキストリンシンポジウム, 愛知, 2017年8月31日,9月1日
- 592) I. Dueramae, F. Tanaka, N. Shinyashiki, S. Yagihara, R. Kita, “Gelation study of NiPAM monomer induced by UV photopolymerization”, The 40th Annual Meeting of the Japanese Society of Biorheology, Okayama, Japan, May 27, 28 (2017).
- 593) 江口和也, 川口翼, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, Doreen Niether, Jana Hovancova, Simone Wiegand, “温度勾配を駆動力としたアスピリン/シクロデキストリン包接錯体の分子輸送現象” (Poster), 第40回日本バイオレオロジー学会年会, 岡山, 2017年5月27日.
- 594) 中山耕史朗, 土井駿, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, 中川草, 笹川昇, “DNAの好熱・嫌熱的な分子輸送過程の多様性に与える塩基配列と分子量の効果” (Oral), 第40回日本バイオレオロジー学会年会, 岡山, 2017年5月27日.
- 595) 吉川祐介, 佐々木海渡, Mani Ganesh Kumar, 槌谷和義, “磁性微粒子を用いた体内発電手法

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- の確立”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日電気通信大学
- 596) 安藤 優, Mani Ganesh Kumar, 岡村陽介, 上辻靖智, 樋谷和義, トルマリン粉末を用いた焦電性ナノシートの創製, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 597) 鈴木俊也, Mani Ganesh Kumar, 樋谷和義, “共振法を用いた腱損傷部位のヤング率測定デバイスの開発”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 598) 小笠原祐基, Mani Ganesh Kumar, 樋谷和義, “導電性ゴム駆血帯の開発”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 599) 佐藤 克, Mani Ganesh Kumar, 木村啓志, 樋谷和義, “ニードル型グルコースセンサの開発”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 600) 熊切裕哉, Mani Ganesh Kumar, 岡村陽介, 樋谷和義, “PVDFを使用した貼付型センサの開発”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 601) 安田昂生, Mani Ganesh Kumar, 岡村陽介, 樋谷和義, “圧電効果によるスマートフォン用触感型パネルの開発”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 602) 藤井智也, Mani Ganesh Kumar, 岡村陽介, 樋谷和義, “ナノシートセンサ用結線手法の確立”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 603) 山本大貴, Mani Ganesh Kumar, 岡村陽介, 樋谷和義, “貼付型熱中症用pHセンサの創製手法の確立”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 604) 伊藤有記, 八十田 穰, Mani Ganesh Kumar, 樋谷和義, “ストレス負荷時における唾液pH測定”, 日本機械学会 関東支部 第57回学生員卒業研究発表会, 2018年3月16日, 電気通信大学
- 605) Mani GANESH KUMAR, 齋藤飛鳥, 八十田 穰, 樋谷和義, “Fabrication of Single Cell Sensor to Monitor Cell Metabolites”, 精密工学会大会学術講演会 春季大会, 2018年3月15—17日中央大学後楽園キャンパス
- 606) 齋藤飛鳥, Mani GANESH KUMAR, 木村啓志, 樋谷和義, “マイクロ流体デバイス内血中循環腫瘍細胞用薄膜 pH 電極の高機能化”, 精密工学会大会学術講演会 春季大会, 2018年3月15—17日中央大学後楽園キャンパス
- 607) 土肥颯一, 都田恒成, 梶原景正, 木村 穰, 樋谷和義, “単一細胞用マイクロニードル型 pH センサの開発”, 精密工学会大会学術講演会 春季大会, 2018年3月15—17日中央大学後楽園キャンパス
- 608) PONNUSAMY DHIVYA, MANI GANESH KUMAR, 齋藤飛鳥, 八十田 穰, 水流添 岳, 樋谷和義, “Ultra-flexible Freestanding ZnO Nanosheets: A Novel Material for Highly Sensitive Chemiresistive Sensors”, 精密工学会大会学術講演会 秋季大会, 2017年9月20—22日 大阪大学 豊中キャンパス
- 609) 八十田 穰, Mani Ganesh Kumar, 上辻靖智, 樋谷和義, “圧電性向上を目的とした B サイト添加元素を有するチタン酸バリウム薄膜創製手法の開発”, 精密工学会大会学術講演会 秋季大会, 2017年9月20—22日 大阪大学 豊中キャンパス
- 610) 齋藤飛鳥, Mani Ganesh Kumar, 木村啓志, 樋谷和義, “マイクロ流体デバイス内血中循環腫瘍細胞用薄膜 pH センサの開発”, 精密工学会大会学術講演会 秋季大会, 2017年9月20—22日 大阪大学 豊中キャンパス
- 611) 土肥颯一, 都田恒成, Mani Ganesh Kmar, 梶原景正, 木村 穰, 樋谷和義, “マイクロニ

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- ードル型 pH センサによる pH 測定及び単一細胞への穿刺手法の確立”, 精密工学会大会学術講演会 秋季大会, 2017年9月20—22日 大阪大学 豊中キャンパス
- 612) MANI GANESHKUMAR, PONNUSAMY DHIVYA, 八十田 穰, 齋藤飛鳥, 榎谷和義, “Microneedles Based Cellular Thermometer for Living Cells: A Novel Approach”, 精密工学会大会学術講演会 秋季大会, 2017年9月20—22日 大阪大学 豊中キャンパス
- 613) 宮地 健太郎, マニ ガネッシュクマール, 榎谷和義, “スパッタリング法による局所堆積を用いた多角形状無痛針の創製及び評価”, 日本機械学会情報・知能・精密機器部門, 2018年3月14日, 15日, 東洋大学 川越キャンパス
- 614) 山之内 優志, マニ ガネッシュクマール, 上辻 靖智, 榎谷和義, “圧電材料を用いた生理的接触のない補助人工心臓開発のためのバルブレスポンプ形状の最適化手法の確立”, 日本機械学会情報・知能・精密機器部門, 2018年3月14日, 15日, 東洋大学 川越キャンパス
- 615) 山之内 優志, Mani Ganesh Kumar, 榎谷和義, “FEM による圧電材料を用いた補助人工心臓開発のためのポンプ形状の最適化手法の確立”, 日本機械学会バイオエンジニアリング部門, 第30回バイオエンジニアリング講演会, 2017年12月14～15日, 京都大学
- 616) 宮地 健太郎, マニ ガネッシュクマール, 榎谷和義, “スパッタリング法による局所堆積を用いた多角形状マイクロ無痛針の創製及び評価日本機械学会バイオエンジニアリング部門, 第30回バイオエンジニアリング講演会, 2017年12月14～15日, 京都大学
- 617) 岡村陽介. “高分子超薄膜の開発とユニークな特性を利用した医療分野への応用展開”, 日本ゴム協会配合技術研究分科会, 東部ビル (港区), 2017年5月12日.
- 618) 岡村陽介. “面をもつユニークなナノ構造体の設計と医用展開 ～ナノシート・ナノディスク・ナノリボン～”, 城西大学薬学部特別講演会, 城西大学坂戸キャンパス (坂戸市), 2017年5月16日.
- 619) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 根本知己, 岡村陽介. “撥水性超薄膜の表面改質と生体組織イメージングツールへの応用”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.
- 620) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介. “ディスク状粒子の調製と新規凝集比濁用担体への応用”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.
- 621) 坪井亮, 金森審子, 岡村陽介. “ルテイン封入高分子超薄膜の調製法の確立と機能評価”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.
- 622) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. “水溶性薬剤を封入した多孔質層状超薄膜の創製と押圧放出特性”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.
- 623) 鈴木大士, 安藤加奈, 岡村陽介, 長瀬裕. “PEO グラフトポリアミドからなるナノシートを表面修飾した高透過性膜の膜構造と気体分離特性”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.
- 624) 梅田知宙, ボタコススレイメノヴァ, 小口真一, 岡村陽介, 長瀬裕. “高気体透過性膜へのイミダゾリウム基含有ナノシートを用いた表面改質”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.
- 625) 岡春樹, 荻野真理, 松永諒, 岡村陽介, 長瀬裕. “ホスホリルコリン基含有ポリイミドの合成とナノシートからなるコーティング剤への応用”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.
- 626) 磯野亨, 鈴木大士, 安藤加奈, 岡村陽介, 長瀬裕. “PEO鎖を主鎖に有するポリアミドの合成とCO₂分離膜への応用”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年5月29-31日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

日.

- 627) 宮下博壮, 樋口晃司, 岡村陽介, 長瀬裕. “ホスホリルコリン基を有するセグメント化ポリエステルウレタンの合成と生体適合性”, 第 66 回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017 年 5 月 29-31 日.
- 628) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 根本知己, 岡村陽介. “撥水性超薄膜の調製と生体組織イメージングツールへの応用”, 第 63 回湘北地区懇話会, 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス (平塚市), 2017 年 6 月 16 日.
- 629) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介. “ディスク状粒子の創製と新規凝集比濁用担体への応用”, 第 63 回湘北地区懇話会, 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス (平塚市), 2017 年 6 月 16 日.
- 630) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. “水溶性薬剤を封入した多孔質層状超薄膜の調製と押圧放出特性”, 第 63 回湘北地区懇話会, 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス (平塚市), 2017 年 6 月 16 日.
- 631) 五十嵐敦, 岡村陽介, 高野秀太, 稲垣豊, 住吉秀明. “人工真皮への応用を指向したコラーゲンナノシートの創製と機能評価”, 第 49 回日本結合組織学会学術大会, 三重県総合文化センター (津市), 2017 年 6 月 17 日.
- 632) 住吉秀明, 鈴木悠平, 柳川享世, 山口優依, 中野泰博, 五十嵐敦, 岡村陽介, 稲垣豊. “ミズクラゲコラーゲンによる HaCaT 細胞の遊走と細胞増殖促進効果の検証”, 第 49 回日本結合組織学会学術大会, 三重県総合文化センター (津市), 2017 年 6 月 17 日.
- 633) 岡村 陽介. “生体親和性を有する 2 次元ナノ材料の設計とユニークな特性 ~調製法・物性から医用展開まで~”, 富士フイルム先端コア技術研究所講演会, 富士フイルム先進研究所 (足柄上郡開成町), 2017 年 6 月 27 日.
- 634) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 小沢春香, 金丸達哉, 内田昌希, 夏目秀視, 岡村陽介. “経鼻吸収剤への応用を指向したフェノバルビタール内包ディスク状粒子の創製と接着・放出特性”, 第 33 回日本 DDS 学会学術集会, 京都市勧業館みやこめっせ (京都市), 2017 年 7 月 6-7 日.
- 635) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介. “生分解性ディスク状粒子の調製と高せん断応力下での接着挙動”, 第 33 回日本 DDS 学会学術集会, 京都市勧業館みやこめっせ (京都市), 2017 年 7 月 6-7 日.
- 636) 岡村陽介. “高分子超薄膜の創製と貼るナノ材料としての応用展開”, 砥粒加工学会第 14 回研究会, 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター (平塚市), 2017 年 7 月 28 日.
- 637) 坪井亮, 熊坂実優, 金森審子, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介. “ルテインの機能性を有した高分子超薄膜の調製法の確立と物性評価”, 第 12 回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017 年 8 月 30 日.
- 638) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. “蛋白質を担持した多孔質層状超薄膜の創製と押圧放出特性”, 第 12 回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017 年 8 月 30 日.
- 639) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 小沢春香, 金丸達哉, 内田昌希, 夏目秀視, 岡村陽介. “経鼻吸収用フェノバルビタール内包粒子の創製と機能評価”, 第 12 回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017 年 8 月 30 日.
- 640) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介. “血栓溶解能を付与したディスク状粒子の調製と高せん断応力下での接着挙動”, 第 12 回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017 年 8 月 30 日.
- 641) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介. “高分子ディスクの凝集特性と新規凝集比濁用

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 担体への応用”, 第 12 回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017 年 8 月 30 日.
- 642) 鈴木大士, 安藤加奈, 岡村陽介, 長瀬裕. “PEO 含有ポリマーのナノシート被覆による高気体透過膜の分離特性の改善”, 第 12 回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017 年 8 月 30 日.
- 643) 松永諒, 岡春樹, 岩野篤, 岡村陽介, 長瀬裕. “生体適合性を示すナノシートを用いた新規表面改質法”, 第 12 回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017 年 8 月 30 日.
- 644) 張宏, 増田愛美, 鎗野目健二, 長瀬裕, 川上良介, 根本知己, 岡村陽介. “保水・保定を実現する撥水性超薄膜の創製と生体組織イメージングへの応用”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 645) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介. “多孔質超薄膜の創製と浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用展開”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 646) 坂神大幹, 張宏, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 岡村陽介. “高分子超薄膜の密着性と標的界面の表面自由エネルギーとの相関”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 647) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介. “高分子ディスクの特徴と新規凝集比濁用担体への応用展開”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 648) 坪井亮, 熊坂実優, 金森審子, 岡村陽介. “高分子超薄膜へのルテイン内包技術の確立と機能評価”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 649) 土屋笙子, 中川篤, 岡村陽介. “におい分子吸脱着能を有する多糖超薄膜の創製と機能評価”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 650) B. Suleimenova, C. Umeda, Y. Okamura, Y. Nagase. “Synthesis of aromatic polymers containing imidazolium group to improve gas separation property”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 651) 松永諒, 岡春樹, 岩野篤, 岡村陽介, 長瀬裕. “生体適合性を示す高分子超薄膜を用いた新たな表面改質法の検討”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 652) 長瀬裕, B. Suleimenova, 梅田知宙, 安藤加奈, 鈴木大士, 磯野亨, 岡村陽介, 小口真一. “高分子ナノシートによる表面改質を利用した気体分離性能の改善”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 653) 鈴木大士, 安藤加奈, 岡村陽介, 長瀬裕. “優れた CO₂ 分離性を示すポリマーナノシートで表面改質した高透過性気体分離膜”, 第 66 回高分子討論会, 愛媛大学城北キャンパス (松山市), 2017 年 9 月 20-22 日.
- 654) 岡村陽介, 張宏, 増田愛美, 鎗野目健二, 長瀬裕, 川上良介, 根本知己. “フルオラスポリマーからなる超薄膜の創製と生体組織用高解像度イメージングツールへの応用”, フルオラス科学研究会第 10 回シンポジウム, 公益財団法人野口研究所 (板橋区), 2017 年 10 月 13 日.
- 655) 茂呂徹, 石原一彦, 岡村陽介, 宮本比呂志, 菖蒲池健夫, 村橋靖崇, 矢野文子, 齋藤琢, 田中栄. “MPC 処理ナノシートの細菌付着抑制効果”, 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会, 沖縄コンベンションセンター (宜野湾市), 2017 年 10 月 26 日.
- 656) 村橋靖崇, K.C. Huang, 矢野文子, 北浦義昭, 張成虎, 田中栄, 石原一彦, 岡村陽介, 茂呂徹,

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 齋藤琢. “頭蓋骨臨界骨欠損モデルにおける rhBMP-2 担持ナノシートの骨形成促進効果”, 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会, 沖縄コンベンションセンター (宜野湾市), 2017 年 10 月 26 日.
- 657) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介. “多孔質超薄膜の創製と浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用”, 東海大学総合医学研究所第 13 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2017 年 10 月 28 日.
- 658) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. “止血薬剤を内包した多孔質層状超薄膜の創製とその押圧放出特性”, 東海大学総合医学研究所第 13 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2017 年 10 月 28 日.
- 659) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 高橋泰伽, 川上良介, 根本知己, 岡村陽介. “撥水性超薄膜の表面改質と生体深部イメージングへの応用”, 東海大学総合医学研究所第 13 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2017 年 10 月 28 日.
- 660) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介. “多孔質超薄膜の創製と新規浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用”, 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017 年 11 月 20-21 日.
- 661) 五十嵐敦, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. “人工真皮への応用を指向したコラーゲンナノシートの創製と機能評価”, 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017 年 11 月 20-21 日.
- 662) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. “機能性蛋白質を封入した多孔質層状超薄膜の創製と押圧放出挙動”, 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017 年 11 月 20-21 日.
- 663) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 高橋泰伽, 根本知己, 岡村陽介. “生体組織イメージングへの応用を目指した撥水性超薄膜の表面改質”, 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017 年 11 月 20-21 日.
- 664) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 小沢春香, 金丸達哉, 内田昌希, 夏目秀視, 岡村陽介. “経鼻吸収剤への応用を指向したフェノバルビタール内包ディスクの創製と機能評価”, 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017 年 11 月 20-21 日.
- 665) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介. “高せん断応力下におけるディスク状粒子の接着挙動と血栓溶解能の付与”, 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017 年 11 月 20-21 日.
- 666) 坂神大幹, 張宏, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 岡村陽介. “Followability and adhesiveness of polymer ultra-thin films onto supported surfaces”, 第 27 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館他 (横浜市), 2017 年 12 月 5-7 日.
- 667) 岡村陽介, 張宏, 青木拓斗, 鎗野目健二, 波多野香奈枝, 樺山一哉, 川上良介, 根本知己. “生体組織・浮遊細胞の超薄膜ラッピング法の確立と高解像度イメージングへの貢献”, 第 24 回日本血液代替物学会年次大会, 早稲田大学西田早稲田キャンパス (新宿区), 2017 年 12 月 7 日.
- 668) 岡村陽介. “2 次元ナノ薄膜の不思議 ～貼って使う医用材料、イメージング材料への応用展開～”, 愛媛大学医学部 TRC セミナー, 愛媛大学重信キャンパス (東温市), 2018 年 1 月 22 日.
- 669) 岡村陽介. “高分子超薄膜の設計と貼る医療材料としての応用展開”, KISTEC 教育講座「医療機器産業参入のための基礎」アドバンストコース・第 9 回: 医工連携におけるエンジニアリングの新たな潮流 ～東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター編, かながわサイエンスパーク (川崎市), 2018 年 2 月 27 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 670) 青木拓斗, 張宏, 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 深瀬浩一, 岡村陽介. “多孔質超薄膜の創製と浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用展開”, 日本化学会第98春季年会, 日本大学理工学部船橋キャンパス (船橋市), 2018年3月20-23日.
- 671) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 高橋泰伽, 根本知己, 岡村陽介. “撥水性超薄膜の表面改質法の確立と生体深部イメージングへの応用展開”, 日本化学会第98春季年会, 日本大学理工学部船橋キャンパス (船橋市), 2018年3月20-23日.
- 672) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介. “ディスク状粒子の創製と新規凝集比濁用キャリアへの応用”, 日本化学会第98春季年会, 日本大学理工学部船橋キャンパス (船橋市), 2018年3月20-23日.
- 673) 土屋笙子, 中川篤, 岡村陽介. “多糖超薄膜の調製法の確立とにおい分子の徐放制御”, 日本化学会第98春季年会, 日本大学理工学部船橋キャンパス (船橋市), 2018年3月20-23日.
- 674) 坪井亮, 熊坂実優, 金森審子, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介. “眼病予防を指向したルテイン内包高分子超薄膜の調製と機能評価”, 日本化学会第98春季年会, 日本大学理工学部船橋キャンパス (船橋市), 2018年3月20-23日.
- 675) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. “止血薬剤を封入した多孔質層状超薄膜の調製と押圧放出挙動”, 日本化学会第98春季年会, 日本大学理工学部船橋キャンパス (船橋市), 2018年3月20-23日.
- 676) T. Takahashi, K. Yarinome, H. Zhang, R. Kawakami, Y. Okamura, and T. Nemoto. “Novel open skull method for in vivo two-photon imaging of living mouse brain by utilizing fluoropolymer nanosheets”, 第95回日本生理学会大会, サポートホール高松 (高松市), 2018年3月28-30日.
- 677) 樺山一哉, 兼田加珠子, 真鍋良幸, 下山敦史, 豊嶋厚史, 深瀬浩一, 篠原厚 (ポスター), 短寿命 α 線核種を利用した新規抗がん剤の創製, 日本化学会第98春季年会, 2017.3.20-23.
- 678) 内藤ひかり, 樺山一哉, 下山敦史, 深瀬浩一 (口頭), TLR4リガンドのライブセルイメージングおよびその機能評価, 日本化学会第98春季年会, 2017.3.20-23.
- 679) NAKANO, Mikito; HANASHIMA, Shinya; HARA, Toshiaki; MURATA, Michio; KABAYAMA, Kazuya; FUKASE, Koichi; ANDO, Hiromune; SUZUKI, Kenichi; SLOTTE, J. Peter (口頭), Ganglioside GM3 suppresses the oligomerization of EGFR TM domain in lipid bilayers, 日本化学会第98春季年会, 2017.3.20-23.
- 680) 三宅秀斗, 樺山一哉, 初村洋紀, 山地俊之, 花田賢太郎, 真鍋良幸, 深瀬浩一 (口頭), 膜タンパク質の合成糖鎖による修飾および生細胞における機能解析, 日本化学会第98春季年会
- 681) 土田紘也, 下山敦史, 樺山一哉, 田中克典, 深瀬浩一 (口頭), 共役イミンの[4+4]型二量化反応を用いた新規アクロレイン定量法の開発, 日本化学会第98春季年会, 2017.3.20-23.
- 682) 新井健太, 樺山一哉, 蟹江善美, 蟹江治, 深瀬浩一 (ポスター), 蛍光標識化糖脂質を用いた生細胞イメージング解析, 第43回レーザー顕微鏡研究会, 2017.1.19.
- 683) 内藤ひかり, 樺山一哉, 新井健太, 下山敦史, 深瀬浩一 (ポスター), TLR4リガンドのライブセルイメージング及びその機能評価, 第43回レーザー顕微鏡研究会, 2017.1.19.
- 684) Qi Feng, Kazuya Kabayama, Yoshiyuki Manabe, Asuka Miyamoto, Yoshie Kametani, Koichi Fukase (oral), Synthesis and functional studies of self-adjuvanting cancer vaccine containing B cell epitope derived from HER2, 第54回ペプチド討論会, 2017.11.20.
- 685) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 岡村陽介, 深瀬浩一 (ポスター), ナノシートを用いた浮遊細胞のライブセルイメージング解析, 第7回CSJ化学フェスタ2017, 2017.10.17-19.
- 686) 内藤ひかり, 横山康平, 下山敦史, 樺山一哉, 深瀬浩一 (ポスター), TLR4リガンドのライブセルイメージング及びその機能評価, 2017年度糖質科学合同セミナー (群馬県吾妻郡), 2017.9.9-10.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 687) 新井健太、蟹江善美、蟹江治、榎山一哉、深瀬浩一 (ポスター), LacCerBODIPY による細胞脂質の挙動解析, 2017 年度 糖質科学合同セミナー (群馬県吾妻郡), 2017.9.9-10 *ポスター発表賞受賞
- 688) 二村友香、榎山一哉、朝比奈雄也、花島慎弥、北條裕信、村田道雄、深瀬浩一 (口頭), インスリン受容体の膜貫通ペプチドを用いたガングリオシド GM3 との静電的相互作用解析, 2017 年度 糖質科学合同セミナー (群馬県吾妻郡), 2017.9.9-10.
- 689) 藤居真優、榎山一哉、松浦良史、下山敦史、狩野裕考、井ノ口仁一、大戸梅治、清水敏之、深瀬浩一 (ポスター), LPS と協奏的に作用する内在性糖脂質の作用機序解析, 2017 年度 糖質科学合同セミナー (群馬県吾妻郡), 2017.9.9-10.
- 690) 新井健太、蟹江治、榎山一哉、深瀬浩一 (ポスター), BODIPY 標識ラクトシルセラミドを用いた細胞膜脂質の動態解析, 第 11 回 バイオ関連化学シンポジウム (東京、東京大学弥生キャンパス), 2017.9.7-9.
- 691) 二村友香、榎山一哉、朝比奈雄也、花島慎弥、北條裕信、村田道雄、深瀬浩一 (ポスター), インスリン受容体の膜貫通ペプチドと酸性糖脂質の静電的相互作用解析, 第 37 回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」 (京都市), 2017.8.9.
- 692) 二村友香、榎山一哉、朝比奈雄也、花島慎弥、北條裕信、村田道雄、深瀬浩一 (ポスター), インスリン受容体の膜貫通ペプチドとガングリオシド GM3 の静電的相互作用解析, 第 49 回若手ペプチド夏の勉強会, 長崎ブルースカイホテル (長崎市), 2017.8.6.
- 693) 藤居真優、榎山一哉、下山敦史、狩野裕考、井ノ口仁一、大戸梅治、清水敏之、深瀬浩一 (ポスター), ガングリオシド GM3 は TLR4-MD-2 の多量体形成に関与する, 第 36 回日本糖質学会年会 (北海道旭川市), 2017.7.19-21.
- 694) 藤居真優、榎山一哉、下山敦史、狩野裕考、井ノ口仁一、大戸梅治、清水敏之、深瀬浩一 (ポスター), TLR4-MD-2 の多量体形成におけるガングリオシド GM3 の関与, 生体機能関連化学部会若手の会 第 29 回サマースクール (島根県松江市), 2017.7.10-11.
- 695) 池田優作, 荒田幸信, 木村啓志, “老化メカニズム解明に向けた線虫動態定量化のためのマイクロ流体デバイスの構築”, 関東学生会第 57 回学生員卒業研究発表講演会, 電気通信大学 (調布市), 2018 年 3 月 16 日.
- 696) 伊藤静哉, 木村啓志, “細胞培養環境の恒常性維持に向けた透析膜集積型デバイスの開発”, 関東学生会第 57 回学生員卒業研究発表講演会, 電気通信大学 (調布市), 2018 年 3 月 16 日.
- 697) 小野竜, 杉浦慎治, 藤井輝夫, 酒井康之, 木村啓志, “生理学的パラメータを再現する Organs-on-a-chip デバイスの構築”, シンポジウム: 細胞アッセイ技術の現状と将来, アステラス製薬株式会社つくば研究センター (つくば市), 2018 年 1 月 19 日.
- 698) 田中雄介, 塩浦拓実, 佐々木海渡, 木村啓志, “高次 in vitro 薬効毒性評価を実現する Tubule-on-a-chip の開発”, シンポジウム: 細胞アッセイ技術の現状と将来, アステラス製薬株式会社つくば研究センター (つくば市), 2018 年 1 月 19 日.
- 699) 榛葉健汰, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスを用いた局所的細胞回収”, シンポジウム: 細胞アッセイ技術の現状と将来, アステラス製薬株式会社つくば研究センター (つくば市), 2018 年 1 月 19 日.
- 700) 笠原大瑚, 住吉秀明, 遠藤整, 柳川享世, 中野泰博, 紙谷聡英, 木村啓志, 稲垣豊, “Zone 特異的肝細胞を用いた肝小葉モデルデバイスの構築”, 第 31 回肝類洞壁細胞研究会学術集会, 三重大学 (津市), 2017 年 11 月 24 日-25 日.
- 701) 笠原大瑚, 住吉秀明, 遠藤整, 柳川享世, 中野泰博, 紙谷聡英, 木村啓志, 稲垣豊, “Zone 特異的肝細胞を用いた肝小葉モデルデバイスの構築”, 第 13 回総合医学研究所研修会, 東海大学 (伊勢原市), 2017 年 10 月 28 日.
- 702) 山本直樹, 住吉秀明, 笠原大瑚, 柳川享世, 中野泰博, 木村啓志, 稲垣豊, “高酸素透過膜 (PDMS) を用いた機能的肝細胞培養の試み”, 第 13 回総合医学研究所研修会, 東海大学 (伊勢原

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 市), 2017年10月28日.
- 703) 渡邊千尋, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝宏, 瀧澤俊也, 木村啓志, “脳血管モデルに向けた血管内皮細胞の三次元培養”, 第13回総合医学研究所研修会, 東海大学 (伊勢原市), 2017年10月28日.
- 704) 串田隆志, 横山奨, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経細胞培養用開放型マイクロデバイスの開発”, 第13回総合医学研究所研修会, 東海大学 (伊勢原市), 2017年10月28日.
- 705) 串田隆志, 横山奨, 石田智之, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “開放型マイクロデバイスを用いた神経細胞軸索における遺伝子発現解析”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第36回研究会, 桐生市市民文化会館 (桐生市), 2017年10月4日-5日.
- 706) 田中雄介, 佐々木海渡, 木村啓志, “経上皮電気抵抗測定システムを集積した尿細管モデルデバイスの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第36回研究会, 桐生市市民文化会館 (桐生市), 2017年10月4日-5日.
- 707) 宮本隼佑, 喜多理王, 木村啓志, “熱泳動現象を応用した水分子同位体分離システムの構築”, 日本機械学会2017年度年次大会, 埼玉大学 (さいたま市), 2017年9月3日-6日.
- 708) 小野竜, 杉浦慎治, 藤井輝夫, 酒井康之, 木村啓志, “生理学的パラメータを再現するin vitro 薬物代謝モデルの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会第35回研究会, 東京工業大学 (目黒区), 2017年5月22日-23日.
- 709) 小田桐遼, 松下知憲, 砂見雄太, 落合成行, “バンプメタルメッシュフォイルを用いたスラストフォイル気体軸受の軸受特性”, トライボロジー会議 2017 春 東京国立オリンピック記念青少年総合センター (渋谷区), 2017年5月17日.
- 710) 甲斐仁智, 岡村陽介, 榎谷和義, 橋本巨, 落合成行, 砂見雄太, “表面修飾による微細構造を有する高分子超薄膜の創製に関する検討”, 日本機械学会 2017 年度年次大会, 埼玉大学 (さいたま市), 2017年9月4日.
- 711) 池田祐太, 砂見雄太, 榎谷和義, “インクジェット技術を用いたフレキシブルセンサの検討”, 日本機械学会 2017 年度年次大会, 埼玉大学 (さいたま市), 2017年9月4日.
- 712) 砂見雄太, “ダイカストの湯流れに関する研究, 及び実験器具と解析結果の紹介, 第7回おた研究・開発フェア, 大田区産業プラザ PiO (大田区), 2017年10月26日.
- 713) 柏原侑輝, 砂見雄太, “ダイカストにおける湯道形状と湯流れに関する研究”, 日本機械学会 2017 年度年次大会, 埼玉大学 (さいたま市), 2017年9月4日.
- 714) 柏原侑輝, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “ダイカストにおける3次元可視化手法の検討”, 高速度イメージングとフォトニクスに関する総合シンポジウム 2017, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017年11月17日.
- 715) 田島伸一, 橋本巨, 砂見雄太, “ナノシートの連続創成技術および高機能化に関する検討”, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学川越キャンパス (川越市), 2018年3月15日.
- 716) 池田祐太, 橋本巨, 砂見雄太, “ロール・ツー・ロール技術と印刷技術を用いたフレキシブルデバイス作製の基礎検討”, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学川越キャンパス (川越市), 2018年3月15日.
- 717) 甲斐仁智, Sheng Zhang, 橋本巨, 砂見雄太, “高分子超薄膜の触覚摩擦に関する実験的検討”, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学川越キャンパス (川越市), 2018年3月15日.
- 718) 寺本恭子, 落合成行, 砂見雄太, 橋本巨, “トンボの翅表面上にある微細突起の製作および微細突起を応用した円管の摩擦特性”, 日本機械学会関東学生会第56回学生員卒業研究発表講

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 演会, 電気通信大学 (調布市), 2018年3月16日.
- 719) 井河原勇弥, 砂見雄太, 橋本巨, “DNS によるトンボの羽ばたき運動によって生成される渦構造と空気力の検討”, 日本機械学会関東学生会第 57 回学生員卒業研究発表講演会, 電気通信大学 (調布市), 2018年3月16日.
- 720) 仲野駿佑, 砂見雄太, “グラビアロールを用いて作製した機能性高分子超薄膜の物性評価”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 電気通信大学 (調布市), 2018年3月16日.
- 721) 三井 駿, 大友 麻子, 野崎 昌久, 小野 鈴花, 佐藤 海, 白川 涼平, 足立 弘明, 青木 正志, 祖父江 元, Shang Hui-Fang, 秦野 伸二, “全身性 SQSTM1 高発現は SOD1H46R 発現 ALS マウスモデルの発症の早期化と発症後の生存延長をもたらす”, 第 40 回日本神経科学会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年7月21日.
- 722) 大友 麻子, 松井 香奈, 小野寺 和歌奈, 杉山 純也, 石田 智之, 白川 涼平, 佐藤 海, 三井 駿, 野崎 昌久, 小野 鈴花, 福田 光則, 秦野 伸二, “ALS2 結合タンパク質 Rab30 は、神経細胞においてエンドソームゴルジ体間の輸送に関与する”, 第 40 回日本神経科学会, 幕張メッセ (千葉市), , 2017年7月22日.
- 723) 白川 涼平, 野崎 昌久, 濱 祐太郎, 佐藤 海, 三井 駿, 小野 鈴花, 大友 麻子, Hui-Fang Shang, 秦野 伸二, “ALS患者由来SQSTM1変異体の神経細胞内局在及びその発現がオートファジーと細胞死に及ぼす影響”, 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2017年12月6日.
- 724) 三井 駿, 大友 麻子, 野崎 昌久, 小野 鈴花, 佐藤 海, 白川 涼平, 足立 弘明, 青木 正志, 祖父江 元, Hui-Fang Shang, 秦野 伸二, “全身性SQSTM1高発現はSOD1H46R発現ALSマウスモデルの発症の早期化と発症後の生存延長をもたらす”, 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2017年12月7日.
- 725) 大友 麻子, 松井 香奈, 小野寺 和歌奈, 串田 隆志, 白川 涼平, 三井 駿, 佐藤 海, 小野 鈴花, 野崎 昌久, 福田 光則, 秦野 伸二, “ALS2及びその新規結合因子Rab30の細胞内動態解析”, 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2017年12月7日.
- 726) 佐藤 海, 大友 麻子, 上田 真保子, 杉山 純也, 小野 鈴花, 三井 駿, 中川 草, 秦野 伸二, “N末端自己相互作用ドメインのALS2疾患原因変異は、ALS2の正常な多量体形成やエンドソーム局在を阻害する”, 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (, 神戸国際会議場 (神戸市), 2017年12月8日.
- 727) 中川草, “ホスファチジルイノシトール 5-リン酸 4-キナーゼ(PI5P4K)遺伝子ファミリーの分子進化”, 2017年度生命科学系学会合同年次大会、神戸、12/6 - 9, 2017
- 728) 上田真保子, 三橋里美, 三橋弘明, 今西規, 中川草, “細胞融合にかかわる内在性レトロウイルス由来遺伝子の同定”, 2017年度生命科学系学会合同年次大会、神戸、12/6 - 9, 2017
- 729) 谷利爵公, 中川草, 宮沢孝幸, “ヒト内在性レトロウイルス W の 3'末端によるシンシチン 1 の発現増強”, 2017年度生命科学系学会合同年次大会、神戸、12/6 - 9, 2017. Poster
- 730) S. Nakagawa, M. Ueda, K. Kirill, T. Imanishi, “Genome-wide analysis of endogenous viral elements in eukaryotic genomes”, 第 65 回日本ウイルス学会学術集会、大阪、10/28-30, 2017.
- 731) A. Gotoh Hashimoto, R. Yoshikawa, S. Nakagawa, M. Okamoto, T. Miyazawa, “Dual infection of two simian foamy virus serotypes in Japanese macaques”, 第 65 回日本ウイルス学会学術集会、大阪、10/28-30, 2017.
- 732) 中川草, “エボラウイルスの感染効率に関与するアミノ酸置換の発見とその生物学的意義の考察”, 第 6 回生命医薬情報学連合大会 (IIBMP 2017)、札幌、9/27-29, 2017

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 733) 下出紗弓, 中川草, 金村優香, 宮沢孝幸, “内在性レトロウイルスによるイエネコゲノム多様性の評価”, 第 160 回日本獣医学会学術集会、鹿児島、9/13-15, 2017
- 734) 中川草, 上田真保子, Kryukov Kirill, 今西規, “ウイルスが形作る生物進化”, 日本進化学会第 19 回大会、京都、8/24-26, 2017
- 735) 下出紗弓, 中川草, 金村優香, 宮沢孝幸, “内在性レトロウイルスを指標とした日本国内への欧米ネコ流入の評価”, 日本進化学会第 19 回大会、京都、8/24-26, 2017
- 736) 三橋里美, 中川草, “何分で病原菌を同定できるのか: ナノポアシーケンシング技術を活用したポータブルかつ迅速な微生物同定システム”, NGS 現場の会 第五回研究会, 仙台、5/22-24, 2017
- 737) 中川草, 上田真保子, “NGS を活用したゲノムに内在化するウイルス由来機能配列の探索”, NGS 現場の会 第五回研究会, 仙台、5/22-24, 2017, Poster

2016年度 (国内学会等発表)

- 738) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法による Poly (vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子のガラス転移 3”, 日本物理学会第 72 回年次大会, 大阪大学 (豊中市), 2017 年 3 月 17 日~20 日.
- 739) 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法による氷結した Poly(ethylene imine)水溶液の分子ダイナミクス”, 日本物理学会第 72 回年次大会, 大阪大学 (豊中市), 2017 年 3 月 17 日~20 日.
- 740) 塚越繁之, 江口和也, 中山耕史郎, 横山奨, 喜多理王, 木村啓志, “温度勾配環境がメダカ卵に及ぼす発生影響の調査のためのマイクロ流体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第 8 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 741) 荒井詩穂, 江口和也, 中山耕史郎, 諸星和, 木村啓志, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “熱泳動現象を利用した軽水と重水の分離”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第 8 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 742) 中山耕史郎, 甲斐仁智, 高野秀太, Isala Dueramae, 砂見雄太, 岡村陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “裁断化超薄膜分散液の流動特性の解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第 8 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 743) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ロードヴィッヒ・ソレー効果を利用した水分子同位体分離システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第 8 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 744) 佐々木海渡, 高塚将伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原 晋, “熱測定によるポリビニルメチルエーテルのエイジングキネティクス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第 8 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 745) 江口和也, 川口翼, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, D. Niether, J. Hovancova, S. Wiegand, “シクロデキストリンとアスピリンの包接錯体におけるロードヴィッヒ・ソレー効果”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第 8 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 746) 土井駿, 中山耕史郎, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, 中川草, 笹川昇, “水素結合が λ -DNA のソレー効果に及ぼす影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第 8 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 747) 川口翼, 高村優, 堀雄貴, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “液体分子の回転・並進拡散の相補的解析による動的構造の特徴づけ”, 第 54 回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 年 12 月 8 日.
- 748) 齋藤徹哉, 浅野晴香, 木川理子, 清水健太, 斉藤宏伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光法を用いたヒト皮膚中の水構造解析”, 第 54 回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016 年 12 月 8 日.
- 749) 斉藤宏伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “広帯域誘電分光法を用いた吸水性高分子フィルム中の水分子ダイナミクスとイオン吸着効果”, 第 54 回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016 年 12 月 8 日.
- 750) 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “部分的に氷結した Poly(ethylene imine)水溶液の高分子と氷および水の誘電緩和”, 第 54 回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016 年 12 月 8 日.
- 751) 前田巧, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “誘電分光法を用いた Poly(vinyl methyl ether)水溶液の液体構造”, 第 54 回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016 年 12 月 8 日.
- 752) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “液体からガラス状態における Poly(vinyl methyl ether)水溶液の水と高分子の誘電緩和”, 第 54 回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016 年 12 月 8 日.
- 753) 佐々木海渡, 安田隆人, 松井ゆりか, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “高分子水溶液中の氷の誘電緩和時間”, 第 54 回高分子と水に関する討論会, 東京, 2016 年 12 月 8 日.
- 754) 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “Poly(ethylene imine)水溶液の液体からガラス状態における水と高分子のダイナミクス”, 氷、水、クラスレートの物理化学に関する研究集会, 北海道, 2016 年 12 月 5 日.
- 755) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋 “広帯域誘電分光法による細孔中の過冷却水の分子ダイナミクス”, 氷、水、クラスレートの物理化学に関する研究集会, 北海道, 2016 年 12 月 5 日.
- 756) 井上紫央里, 松井ゆりか, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(ethylene imine)水溶液の液体からガラス状態における分子ダイナミクス”, '16 SAS Symposium, 神奈川, 2016 年 11 月 24 日
- 757) 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “リポソーム/水分散液における水分子のダイナミクス解析”, 第 55 回 NMR 討論会, 広島, 2016 年 11 月.
- 758) 青山剛志, 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 伊藤敦, 浅見耕史, “細胞分散系の PFG-NMR と誘電分光法による膜損傷に伴う水とイオンの運動性の変化”, 第 55 回 NMR 討論会, 広島, 2016 年 11 月.
- 759) 堀雄貴, 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “さまざまな低分子液体の PFG-NMR 法と誘電分光法における並進および回転拡散の評価”, 第 55 回 NMR 討論会, 広島, 2016 年 11 月.
- 760) 江口和也, 川口翼, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, D. Niether, J. Hovancova and S. Wiegand, “シクロデキストリンとアスピリンの包接錯体における熱拡散現象”, 第 12 回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川), 2016 年 10 月.
- 761) 荒井詩穂, 江口和也, 中山耕史朗, 木村啓志, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “熱拡散現象を利用した水と水同位体の分離法開発”, 第 12 回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川), 2016 年 10 月.
- 762) 江口和也, 川口翼, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, D. Niether, J. Hovancova and S. Wiegand, “シクロデキストリンとアスピリンの包接錯体における熱泳動”, 第 3 回 FCCA シンポ

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- ジウム FCCA グライコサイエンス若手フォーラム 2016, 神奈川, 2016 年 10 月.
- 763) 木村紗英, 安田隆人, 井上紫央里, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “フルクトース水溶液における氷の誘電緩和”, 第3回 FCCA シンポジウム FCCA グライコサイエンス若手フォーラム 2016, 神奈川, 2016 年 10 月 22 日.
- 764) 齋藤徹哉, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “流動する電解質水溶液の誘電測定電極表面におけるイオン挙動評価”, 第 65 回高分子討論会, 神奈川, 2016 年 9 月.
- 765) 庄司幸平, 齋藤徹哉, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 大園拓哉, 西村聡, 林正史, 田中久雄, “誘電分光法を用いた食用油および W/O エマルションの調理による aging process の評価”, 第 65 回高分子討論会, 神奈川, 2016 年 9 月.
- 766) 堀雄貴, 川口翼, 斉藤宏伸, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 須藤誠一, 鈴木養樹, “PFG-NMR による木材中における水分子の拡散異方性の研究”, 第 65 回高分子討論会, 神奈川, 2016 年 9 月.
- 767) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法による Poly (vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子のガラス転移 2”, 物理学会 2016 年秋季大会, 石川, 2016 年 9 月 13 日.
- 768) 井上紫央里, 松井ゆりか, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “広帯域誘電分光法による Poly(ethylene imine)水溶液のガラス転移”, 物理学会 2016 年秋季大会, 石川, 2016 年 9 月 13 日.
- 769) 荒井詩穂, 江口和也, 中山耕史朗, 木村啓志, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “ルートヴィッヒ・ソレー効果による水と水同位体の分離効率の研究”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 770) 江口和也, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, “極性溶媒中におけるシクロデキストリンのルートヴィッヒ・ソレー効果”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 771) 中山耕史朗, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “一粒子追跡法による水中でのナノ粒子の熱泳動力測定”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 772) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “ナノ細孔中の過冷却水の分子ダイナミクスII”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 773) 井上紫央里, 松井ゆりか, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(ethylene imine)水溶液のガラス転移と分子運動”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 774) 前田巧, 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(vinyl methyl ether)水溶液を用いた高分子と水の誘電緩和現象”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 775) 安田隆人, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “部分的に氷結したゼラチン水溶液における氷の誘電緩和”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 776) 高塚将伸, 前田巧, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “Poly(vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子の誘電緩和とガラス転移”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 777) I. Dueramae, K. Sasaki, R. Kita, “Dielectric Relaxation Process of Dextran Thin Films”, マイク

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- ロ・ナノ啓発会[TJunc]第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎(平塚市), 2016年8月9日.
- 778) 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, “PFG-NMR法による食品ゲル中での水の拡散挙動解析”, 第39回日本バイオレオロジー学会年会, 東京, 2016年6月19日.
- 779) 高村優, 宮本陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, “分子動力学法による高分子溶液中の水素結合ネットワークの解析”, 第39回日本バイオレオロジー学会年会, 東京, 2016年6月.
- 780) I. Dueramae, M. Yoneyama, N. Shinyashiki, S. Yagihara, and R. Kita, “Solution Properties of Acetylated Dextran Studied by Light Scattering and Optical Beam Deflection Method”, 第39回日本バイオレオロジー学会年会, 東京, 2016年6月19日.
- 781) 狩谷翔, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, “圧電材料を用いたスマートフォン用タッチパネルディスプレイの触感付与機構の開発”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 782) 土肥颯一, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, “FEMによる生体細胞へのマイクロニードル穿刺解析とその形状の最適化”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 783) 齋藤飛鳥, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “マイクロ流体デバイス内血中循環腫瘍細胞用pHセンサの開発”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 784) 鹿住礼, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “磁性微粒子を用いた生体内デバイス用発電手法の開発”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 785) 都田恒成, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, 木村穰, 梶原景正, “マイクロニードル型pHセンサによる脳脊髄液のpH測定”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 786) 山之内優志, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “FEMによる圧電材料を用いた補助人工心臓開発のための最適化手法の確立”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 787) 大島拳斗, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “二電極一体型低侵襲グルコースセンサの開発”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 788) 宮地健太郎, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “スパッタリングによる局所堆積を用いた多角形状断面を有するマイクロ無痛針の開発”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 789) 二川悠汰, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “生体組織における微小領域ヤング率測定方法の検討”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 790) 杉山将紀, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, “有限要素法を用いた中実型PGAマイクロニードルの最適化設計”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 791) 中島大輔, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “高分子ナノシートを用いた熱中症用パッチ型pHセンサの開発”, 機械学会関東学生会第学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス(東京都葛飾区), 3月16日, 2017.
- 792) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, “チタン酸バリウム薄膜創製における第一原理計算により探索されたBサイト添加元素の影響評価”, 精密工学会春季大会学術講

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 演会, 慶應義塾大学矢上キャンパス(横浜市), 3月6日-8日, 2017.
- 793) 水流添岳, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, “マウスピース型デバイスに搭載する pH 測定電極の開発・測定”, 精密工学会春季大会学術講演会, 慶應義塾大学矢上キャンパス(横浜市), 3月6日-8日, 2017.
- 794) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, "チタン酸バリウム薄膜中における B サイト添加元素 Nb の影響評価", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 795) 狩谷翔, 榎谷和義, "スマートフォン用タッチパネルディスプレイの触感機構の開発"東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 796) 土肥颯一, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "FEM によるマイクロニードルの生体細胞への穿刺解析及び形状最適化", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 797) 齋藤飛鳥, Ganesh Kumar Mani, 諸星和, 榎谷和義, "流体デバイスを用いた血中循環腫瘍細胞検出用 pH センサの開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 798) 鹿住礼, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "磁性微粒子を用いた生体内デバイス用発電手法の開発"東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 799) 都田恒成, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, 梶原景正, 木村穰, 岩尾佳代子, "高強度微小領域 pH センサによる生体内 pH の測定", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 800) 山之内優志, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, "圧電材料を用いた補助人工心臓開発のための FEM による最適化手法の確立", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 801) 大島拳斗, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "二電極法を用いた低侵襲針型グルコースセンサの創製", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 802) 宮地健太郎, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "スパッタリング法を用いた多角形状を有するマイクロ無痛針の開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 803) 水流添岳, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "マウスピース型デバイスに搭載する pH 測定用電極の開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 804) 二川悠汰, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "縦波伝搬速度を用いたヤング率測定シミュレーション", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 805) 杉山将紀, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, "FEM による PGA 中実型マイクロニードルの設計開発", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2017 月 2 月 25 日.
- 806) 水流添岳, 榎谷和義, Ganesh Kumar Mani, “マウスピース型デバイスに搭載する pH 測定セ

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- ンサの開発, 精密工学会秋季大会学術講演会”, 茨城大学水戸キャンパス(水戸市), 9月6日-8日, 2016.
- 807) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, “第一原理計算を用いた材料設計手法によるチタン酸バリウム薄膜の創製及び評価”, 精密工学会秋季大会学術講演会, 茨城大学水戸キャンパス(水戸市), 9月6日-8日, 2016.
- 808) Ganesh Kumar Mani, 高宮伸太郎, 八十田 穰, 榎谷和義, “Design and Fabrication of Single-Cell pH and Temperature Sensors on Minimally Invasive Microneedles”, 精密工学会秋季大会学術講演会, 茨城大学水戸キャンパス(水戸市), 9月6日-8日, 2016.
- 809) 八十田穰, Ganesh Kumar Mani, 上辻靖智, 榎谷和義, “第一原理計算を用いた材料設計手法による高機能チタン酸バリウム薄膜”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 810) Ganesh Kumar Mani, Attapon Keatudompon, Nakajima Daisuke, Yutaka Yasoda, Kazuyoshi Tsuchiya, "High sensitive chemiresistive sensor based on free standing ZnO nanosheets", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 811) 鹿住礼, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “磁性微粒子を用いた体内発電手法の確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 812) 山之内優志, 榎谷和義, “C型形状 PZT アクチュエータによる循環機構の駆動周波数の探索”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 813) 齋藤飛鳥, Ganesh Kumar Mani, 榎谷和義, “血中循環腫瘍細胞検出用 pH センサの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 814) 水流添岳, 榎谷和義, “マウスピース型デバイスによる口腔内 pH 測定”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 815) 高宮伸太郎, 金子大樹, 八十田穰, 佐々木海渡, 榎谷和義, “細胞用多機能センサの実現に向けた pH センサと温度センサの開発”, 日本生体医工学会大会, 富山国際会議場(富山市), 4月26日-28日, 2016.
- 816) 岡春樹, 荻野真里, 松永諒, 岡村陽介, 長瀬裕, “ホスホリルコリン基を有する生体適合性ポリイミドの合成とコーティング剤としての応用”, 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月25日.
- 817) 樋口晃司, 岩野篤, 森田浩平, 佐々木海渡, 新屋敷直木, 岡村陽介, 長瀬裕, “ホスホリルコリン基とソフトセグメントを有するポリマーフィルムの物性と生体適合性”, 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月25日.
- 818) ジャラットシーサグンピパット, 小田龍馬, 安藤加奈, 岡村陽介, 佐藤克典, 藤枝俊宣, 武岡真司, 長瀬裕, “ポリジメチルシロキサングラフトポリイミドからなるナノシートの性質”, 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月25日.
- 819) 鈴木大士, 安藤加奈, 岡村陽介, 長瀬裕, “高い CO₂/N₂ 分離特性を持つポリエチレンオキシドグラフトポリアミド膜の透過性の改善”, 第65回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016年5月27日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 820) 梅田知宙, 小田龍馬, 小口真一, 岡村陽介, 長瀬裕, “イミダゾリウム基含有ポリマー超薄膜と高透過性膜との複合膜の気体分離特性”, 第 65 回高分子学会年次大会, 神戸国際会議場 (神戸市), 2016 年 5 月 27 日.
- 821) 岡村陽介, 曾我部大輝, 中川篤, 長瀬裕, “血小板様ディスク状粒子の調製と 2 次元相互作用を活用した接着挙動”, 第 39 回日本バイオレオロジー学会年会, 東海大学校友会館 (千代田区), 2016 年 6 月 18 日.
- 822) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性ディスク状粒子の調製法の確立とユニークな薬剤放出挙動”, 第 39 回日本バイオレオロジー学会年会, 東海大学校友会館 (千代田区), 2016 年 6 月 18 日.
- 823) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, “裁断化超薄膜からなる粉末スプレーコーティングと新規癒着防止材への応用”, 第 11 回相模ケイ素・材料フォーラム/第 61 回湘北地区懇話会, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2016 年 8 月 1 日.
- 824) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性ディスク状粒子の調製法の確立とユニークな薬剤放出挙動”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 825) 張宏, 岡村陽介, “Fabrication of poly(lactic acid) microdiscs by polymer blend phase separation”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 826) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, “裁断化ナノシートの粉末化とスプレーコーティングによる癒着防止能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 827) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “ポリスチレンからなるナノシートの物性評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 828) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質シートの調製法の検討と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 829) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “人工皮膚への応用を指向したコラーゲンナノシートの調製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 830) 土屋笙子, 中川篤, 岡村陽介, “におい分子吸脱着能を有するキトサンナノシートの創製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 831) 和田諒, 中川篤, 岡村陽介, “機能性ポリスチレンナノファイバーの創製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 832) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 岡村陽介, “経鼻吸収剤を指向したフェノバルビタール内包高分子微粒子の作製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 833) 鎗野目健二, 青木拓斗, 齋藤大陸, 増田愛美, 張宏, 岡村陽介, “生体組織ラッピングに用いる撥水性ナノシートの表面改質”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 834) 瀧本駿, 五十嵐敦, 高野秀太, 小町卓也, 岡村陽介, “血液凝固蛋白質を内包した層状ナノシートの調製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tµne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 835) 安藤加奈, 鈴木大士, 小田龍馬, 岡村陽介, 長瀬裕, “CO₂ 分離膜への応用を指向したナノシ

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- ート複合膜の調製と気体分離特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 836) 荻野真里, 安藤加奈, 鈴木大士, 岡村陽介, 長瀬裕, “柔軟性と生体適合性を併せ持つポリアミドの合成”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第7回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016年8月9日.
- 837) 岡村陽介, 曾我部大輝, 石倉賢一, 中川篤, 長瀬裕, “真球微粒子を変形させて得るディスク状粒子の調製法と2次元相互作用の活用”, 第65回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016年9月15日.
- 838) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性高分子からなるディスク状粒子の調製とユニークな薬剤放出特性”, 第65回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016年9月15日.
- 839) 安藤加奈, 鈴木大士, 岡村陽介, 長瀬裕, “PEO グラフトポリアミドナノシートのコーティングによる高透過性 PDMS グラフトポリイミド膜の CO₂ 分離性の改善”, 第65回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016年9月15日.
- 840) 松永諒, 岡春樹, 岩野篤, 岡村陽介, 長瀬裕, “生体適合性高分子からなるナノシートを利用した表面改質”, 第65回高分子討論会, 神奈川大学 (横浜市), 2016年9月15日.
- 841) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性高分子からなるディスク状粒子の調製とユニークな薬剤放出特性”, 東海大学総合医学研究所第12回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016年10月29日.
- 842) 高野秀太, 木村啓志, 茂呂徹, 石原一彦, 岡村陽介, “薬剤担持ナノシートの調製法の確立と機能評価”, 東海大学総合医学研究所第12回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016年10月29日.
- 843) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “シート状構造体に対する貫通孔付与法の確立”, 東海大学総合医学研究所第12回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016年10月29日.
- 844) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “人工真皮への応用を目指したコラーゲンナノシートの調製法の確立”, 東海大学総合医学研究所第12回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016年10月29日.
- 845) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “層状超薄膜への蛋白質封入技術の確立とその押圧放出特性”, 東海大学総合医学研究所第12回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016年10月29日.
- 846) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質高分子超薄膜の創製と浮遊細胞ラッピング ~浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用~, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016年11月22日.
- 847) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, “裁断化ナノシートの粉末スプレーデバイスの創製と新規癒着防止材としての機能評価”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016年11月22日.
- 848) 荻野真里, 岡春樹, 松永諒, 安藤加奈, 鈴木大士, 岡村陽介, 長瀬裕, “医療用デバイスへのコーティングを目指した生体適合性ポリアミドの合成とナノシート化”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016年11月22日.
- 849) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “Followability of polymer ultra-thin films on rough and patterned surfaces”, 第26回日本MRS年次大会, 横浜市情報文化センター (横浜市), 2016年12月21日.
- 850) 清田祥生, 小田龍馬, 渡邊真幸, 小野誠司, 小口真一, 岡村陽介, 樋口昌史, 長瀬裕, 伊藤建, “Polymerizable ionic-liquid hybrids with polyoxometalate clusters”, 第26回日本MRS年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016年12月20日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 851) 松永諒, 岡春樹, 岩野篤, 岡村陽介, 長瀬裕, “Fabrication of biocompatible ultra-thin films and the application to surface modification”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016 年 12 月 20 日.
- 852) 梅田知宙, 小田龍馬, Suleimenova Botakoz, 小林研太, 小口真一, 岡村陽介, 長瀬裕, “Surface modification of gas permeable membrane by imidazoliumfunctionalized polymers”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016 年 12 月 20 日.
- 853) 安藤加奈, 鈴木大士, 梅田知宙, Suleimenova Botakoz, 小口真一, 岡村陽介, 長瀬裕, “Syntheses of copolyamides containing imidazolium group and oligo (ethylene oxide) segment and the application to gas separation membranes”, 第 26 回日本 MRS 年次大会, 波止場会館大会議室 (横浜市), 2016 年 12 月 20 日.
- 854) 多田真衣子, 岡村陽介, 中川篤, 山元文晴, 渡邊伸央, 井上茂亮, 猪口貞樹, “ナノ粒子・ナノディスクを用いた経気道的な敗血症治療戦略”, 日本集中治療医学会第 1 回中国四国支部学術集会, サポートホール高松 (高松市), 2017 年 2 月 18 日.
- 855) 中川篤, 岡村陽介, “生分解性微粒子の形状と薬剤放出挙動の相関”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 856) 張宏, 岡村陽介, “Shear flow and Marangoni instability induced phase separation morphology in polymer thin films”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 857) 高野秀太, 木村啓志, 石原一彦, 茂呂徹, 岡村陽介, “高分子超薄膜による蛋白質ラッピングと骨形成能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 858) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質超薄膜の創製と浮遊細胞イメージングへの展開”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 859) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “コラーゲン超薄膜の創製と人工真皮への応用展開”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 860) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “高分子超薄膜の接着性と微細凹凸界面に対する追従能の相関”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 861) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介, “ディスク状粒子の調製と新規凝集比濁担体への応用”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 862) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “蛋白質封入層状超薄膜の創製と押圧放出特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 863) 坪井亮, 金森審子, 岡村陽介, “ルテイン封入超薄膜の創製と紫外線吸収特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 864) 土屋笙子, 中川篤, 岡村陽介, “におい分子吸脱着能を有するキトサン超薄膜の創製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 865) 長島和希, 中川篤, 畑中朋美, 岡村陽介, “経鼻吸収剤を指向したフェノバルビタール内包

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 微粒子の創製と放出特性”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 866) 鎗野目健二, 張宏, 青木拓斗, 川上良介, 根本知己, 岡村陽介, “生体深部 *in vivo* イメージングへの応用を目指した撥水性超薄膜の表面改質”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 867) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介, “血栓クリーナーを指向した生分解性ディスク状粒子の創製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 868) 和田諒, 中川篤, 岡村陽介, “におい分子吸脱着能を有するポリスチレンナノファイバーの創製と機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 869) 五十嵐敦, 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, “コラーゲンナノシートの調製法の確立と人工真皮への応用”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶応義塾大学日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 16 日.
- 870) 坂神大幹, 張宏, 岡村陽介, “高分子超薄膜の接着性と微細形状表面に対する追従能の相関”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶応義塾大学日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 17 日.
- 871) 青木拓斗, 張宏, 岡村陽介, “多孔質高分子超薄膜の創製と浮遊細胞用ライブイメージングツールへの応用”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶応義塾大学日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 18 日.
- 872) 横山奨, 八十田穰, 榎谷和義, 木村啓志, “金超薄膜を用いた細胞トラクションフォース可視化技術の開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 7 回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 873) 石田智之, 大友麻子, 横山奨, 串田隆志, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 7 回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 874) 串田隆志, 横山奨, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞動態解析の効率化に向けたアッセイデバイスの開発 –微小スリット作製条件の最適化検討–”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 7 回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 875) 横山奨, 八十田穰, 榎谷和義, 木村啓志, “超薄膜を用いた細胞収縮力の可視化と定量化への試み”, 2016 年度日本機械学会年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡県福岡市), 2016 年 9 月 11 日~14 日.
- 876) 諸星和, 中山耕史朗, 江口和也, 横山奨, 榎谷和義, 喜多理王, 木村啓志, “ロードヴィッヒ・ソレー効果による重水-軽水分離のためのマイクロ流体デバイスの開発”, 2016 年度日本機械学会年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡県福岡市), 2016 年 9 月 11 日~14 日.
- 877) 横山奨, 串田隆志, 石田智之, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞態の効率的定量評価アッセイデバイスの開発”, 2016 年度第 12 回総合医学研究所研修会, p.6, 東海大学伊勢原キャンパス (神奈川県伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日.
- 878) 横山奨, 串田隆志, 石田智之, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロデバイスを用いた軸索輸送現象イメージング”, 第八回「光塾」, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (神奈川県横浜市), 2016 年 12 月 17 日~18 日.
- 879) 小野竜, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “Human-on-a-chip 構築に向けた代謝機能デバイスの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第 33 回研究会 (33rd CHEMINAS), 東京大学生

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 産技術研究所「コンベンションホール」(東京都目黒区), 2016年4月25日~26日.
- 880) 榛葉健汰, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第33回研究会 (33rd CHEMINAS), 東京大学生産技術研究所「コンベンションホール」(東京都目黒区), 2016年4月25日~26日.
- 881) 望月雄太, 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “オンチップグルコースセンサの電極形状と電子伝達体の利用に関する検討”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第33回研究会 (33rd CHEMINAS), 東京大学生産技術研究所「コンベンションホール」(東京都目黒区), 2016年4月25日~26日.
- 882) 榛葉健汰, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイス ~液性因子曝露実験によるデバイスの機能評価~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 883) 小野竜, 木村啓志, “マイクロ流路におけるECMコーティング法の確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 884) 望月雄太, 小森喜久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測のためのオンチップグルコースセンサの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 885) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ソレ-効果を利用したトリチウム分離システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 886) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “腎臓機能を再現するオンチップ生体モデルの構築 ~再吸収機能評価に関する検討~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 887) 濱裕哉, 伊東大樹, 桑畑周司, 小野竜, 木村啓志, 樺山一哉, “プラズマ照射培地中に発生するNO₃-、NO₂-、H₂O₂濃度の測定”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 888) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ルードヴィヒ・ソレ-効果を利用した重水分離システムの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 第34回研究会 (34th CHEMINAS), 幕張メッセ国際会議場「コンベンションホール」(千葉県千葉市), 2016年9月6日~7日.
- 889) T. Ishibashi, K. Yamaguchi, S. Shigenobu, Y. Takahashi, K. Shinha, H. Kimura, and K. Matsuno “Transcriptome analysis to identify genes responding to mechanical force in Drosophila embryos”, 12th Japanese Drosophila Research Conference, pxx, Rikkyo University (Tokyo, Japan), Sep. 9-11, 2016.
- 890) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用したマラリア原虫寄生赤血球の変形能評価”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 CHEMINAS 33rd, 東京大学生産技術研究所(東京都目黒区), 2016年4月25日-26日.
- 891) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用した赤血球の変形能計測デバイス ~電界強度に関する検討~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第7回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎 17号館2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 892) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する受精卵作製・培養マイクロデバイス

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- の開発”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会 CHEMINAS 33rd, 東京大学生産技術研究所(東京都目黒区), 2016年4月25日-26日.
- 893) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “受胎率向上を目指す体外受精卵作製・培養マイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第7回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 894) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “Neurovascular Unit 再現に向けた脳血管モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 895) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを応用した脳血管モデルの構築”, 第12回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 5号館 5階レストランサンデー (神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 896) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用した脳血管モデルの構築”, 第59回日本脳循環代謝学会学術集会, あわぎんホール (徳島県徳島市), 2016年11月11日-12日.
- 897) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリクターを活用した複合糖質合成システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第7回学術講演会, 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2016年8月9日.
- 898) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリクターシステムを活用した複合糖質合成”, 第35回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぽーと (高知県高知市), 2016年9月1日-3日.
- 899) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリクターシステムを活用した酵素的複合糖質合成システムの構築とその応用”, 第12回総合医学研究所研修会, 東海大学伊勢原校舎 5号館 5階レストランサンデー (神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 900) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリクターシステムを活用した複合糖質合成”, 日本化学会 第97春季年会(2017), 慶應義塾大学 日吉キャンパス, 2017年3月16日-19日.
- 901) 高橋雄也, 榛葉健太, 石橋朋希, 松野健治, 木村啓志, “ショウジョウバエ胚のライブイメージングに向けたマイクロ流体デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 902) 花上遼介, 笠原大瑚, 住吉秀明, 柳川享世, 中野泰博, 紙谷聡英, 木村啓志, 稲垣豊, “マイクロ流体デバイス内におけるマウス初代培養肝細胞接着法の検討”, 東海大学総合医学研究所第12回研修会 2016, 東海大学伊勢原キャンパス(神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 903) 鈴木智稀, 望月雄太, 小森善久夫, 樋谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態に向けたオンチップグルコースセンサの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第7回学術講演会 (Tune7), 東海大学湘南校舎 17号館 2階ネクサスホール (神奈川県秦野市), 2016年8月9日.
- 904) 石田智之, 荒木良介, 串田隆志, 杉山純也, 大友麻子, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 2016年度第12回総合医学研究所研修会, No.B1, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2016年10月29日.
- 905) 石田智之, 荒木良介, 串田隆志, 杉山純也, 大友麻子, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 第39回日本分子生物学会年会, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016年11月30~12月2日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 906) 石田智之, 荒木良介, 串田隆志, 杉山純也, 大友麻子, 横山奨, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 907) 串田隆志, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞動態解析の効率化に向けたマイクロデバイスの開発”, ロボティクス・関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017 年 3 月 16 日.
- 908) 横山奨, 串田隆志, 石田智之, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “軸索小胞輸送の定量評価に向けた開放型マイクロデバイスの開発および評価”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 909) 横山奨, 吉田翔太, 岡村陽介, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた血栓クリーナーの定量的機能評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 910) 串田隆志, 石田智之, 横山奨, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “神経細胞軸索内小胞動態解析の効率化に向けたマイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 911) 榛葉健汰, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスを用いた局所的細胞操作”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 912) 小野竜, 杉浦慎治, 藤井輝夫, 酒井康行, 木村啓志, “生体内パラメータを再現するオンチップ薬物代謝モデルの構築”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 913) 望月雄太, 小森喜久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの長寿命化に関する検討”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 914) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “再吸収機能を再現するオンチップ腎臓モデルの構築”, シンポジウム 細胞アッセイ技術と現状と将来, 東京大学生産技術研究所 「コンベンションホール」 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 31 日.
- 915) 榛葉健汰, 藤井輝夫, 木村啓志, “微小空間内の細胞操作に向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 916) 小野竜, 杉浦慎治, 藤井輝夫, 酒井康行, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用したオンチップ薬物代謝モデルの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 917) 望月雄太, 小森喜久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの酵素固定膜に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 918) 宮本隼佑, 亀崎勇暁, 諸星和, 喜多理王, 木村啓志, “ルードヴィヒ・ソラー効果を利用した水分子同位体分離システムの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

(Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.

- 919) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “2 細胞共培養系における腎臓モデルデバイス構築に向けた検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 920) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用した赤血球の変形能計測デバイス ~赤血球変形能の定量化検討~”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第 8 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 921) 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を応用した細胞引張試験デバイスにおける赤血球変形能の定量化検討”, IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス(東京都文京区), 2017 年 3 月 14 日-15 日.
- 922) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する体外受精卵作製マイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 8 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 923) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する体外受精卵作製マイクロデバイスの開発”, IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス(東京都文京区), 2017 年 3 月 14 日-15 日.
- 924) 蓼沼啓介, 湯澤公子, 中山平, 増田治史, 永田栄一郎, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を用いた単核球の評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tune] 第 8 回学術講演会, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 925) 大石岳史, 羽田勝二, 木村啓志, 稲津敏行, “マイクロバイオリアクターシステムを用いた複合糖質合成の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)第 8 回学術公演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 東海大学湘南校舎, 2017 年 2 月 25 日.
- 926) 高橋雄也, 榛葉健太, 石橋朋希, 松野健治, 木村啓志, “ショウジョウバエ胚の発生メカニズム解明に向けたマイクロ流体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 927) 高木港, 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “赤血球変形能計測デバイスの計測精度向上に向けた検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 928) 高木港, 額賀正行, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を利用した赤血球変形能計測デバイスの開発”, ロボティクス・関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017 年 3 月 16 日.
- 929) 田中雄介, 松本大輔, 木村啓志, “尿管モデルデバイスを用いた腎由来細胞の配向性評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 930) 松本大輔, 田中雄介, 木村啓志, “腎由来細胞を用いた腎機能再現デバイスの開発”, 関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017 年 3 月 16 日.
- 931) 塚越繁之, 木村啓志, “温度勾配による発生影響を調査するメダカ卵培養デバイス開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 932) 鈴木智稀, 望月雄太, 小森善久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態オンライン計測に向けたグルコースセンサ集積マイクロ流体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 933) 鈴木智稀, 望月雄太, 小森善久夫, 榎谷和義, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “グルコースセンサ集積マイクロ流体デバイスの開発”, ロボティクス・関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (東京都葛飾区), 2017 年 3 月 16 日.
- 934) 永井達也, 矢幡一英, 金子修, 額賀正行, 高木港, 木村啓志, “赤血球変形能計測デバイスにおける画像処理ソフトウェアの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 8 回学術講演会 (Tµne8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 935) 明戸洋介, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “PIV を用いたドライガスシールの空気流れの可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 936) 小田桐遼, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “スラストフォイル軸受における構造的弾性特性の研究”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 937) 木ノ下雅康, 酒井風馬, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “2 つの給油口を有するジャーナル油膜軸受すべり軸受内部の潤滑油流れの色相による可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 938) 前川恭一, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トラクション実験装置における転動体に作用する応力測定方法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 939) 加藤直也, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “HDD 用空気軸受スピンドルモータの開発における課題および解決策の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 940) 篠崎玄一, 橋本巨, 砂見雄太, 落合成行, “巻取りロール内部の応力測定を可能とする薄膜圧力センサの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 941) 甲斐仁智, 岡村陽介, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, リバースマイクログラビア印刷を用いたナノシートの創製, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日.
- 942) 小田桐遼, 砂見雄太, “スラストフォイル気体軸受を構成するフォイルの構造的弾性特性に関する研究”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.
- 943) 横山輝, 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “翅の微細構造がトンボの滑空飛行時における翅周りの流れに及ぼす影響”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.
- 944) 甲斐仁智, 砂見雄太, 榎谷和義, “マイクログラビア印刷を用いた高分子超薄膜の大量創製”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.
- 945) 今井貴博, 篠崎玄一, 砂見雄太, 橋本巨, “薄膜ウェブにおける熱粘弾性特性および厚みムラを考慮した巻取りロール内部の応力解析と巻取り条件の最適化”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 九州大学伊都キャンパス (福岡市), 2016 年 9 月 11 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 946) 倉本文治, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “ジャーナル油膜軸受を用いた流体潤滑下における軸方向から油膜の可視化”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 947) 松下知憲, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “メタルメッシュを用いたスラストフォイル気体軸受の実験的検討”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 948) 柏原侑輝, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “ダイカストの金型形状が湯流れに及ぼす影響”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 949) 池田祐太, 落合成行, 橋本巨, 砂見雄太, “印刷技術を用いたフレキシブルデバイスの検討”, 日本機械学会関東学生会第 56 回学生員卒業研究発表講演会, 東京理科大学葛飾キャンパス (葛飾区), 2016 年 3 月 16 日.
- 950) 田島伸一, 池田祐太, 橋本巨, 砂見雄太, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 951) 甲斐仁智, 岡村陽介, 槌谷和義, 砂見雄太, “表面修飾による高分子著薄膜の高機能化に関する検討”, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 952) 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 953) 横山輝, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 954) 山本周作, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 日本機械学会 IIP2017 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学白山キャンパス (文京区), 2017 年 3 月 14-15 日.
- 955) A. Otomo, R. Araki, S. Yokoyama, J. Wada, S. Hadano, H. Kimura, “Analysis of axonal transport in cultured neurons from ALS model mouse by using the microfluidic cell culture system”, 第 39 回日本神経科学学会年会, O1-G-4-4, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016 年 7 月 20 日~22 日 (発表日: 7 月 20 日).
- 956) S. Ono, A. Otomo, M. Fukuda, S. Hadano, “The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2/Alsin in recycling endosomes”, 第 39 回日本神経科学学会年会, O3-G-1-2, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016 年 7 月 20 日~22 日 (発表日: 7 月 23 日).
- 957) 松井香奈, 小野寺和歌奈, 大友麻子, 秦野伸二, “ALS2 とその新規結合候補分子 Rab30 の細胞内動態解析及び発現解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 7 回学術講演会, P082, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2016 年 8 月 9 日 (発表日: 8 月 9 日).
- 958) 石田智之, 大友麻子, 横山奨, 串田隆志, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 7 回学術講演会, P083, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2016 年 8 月 9 日 (発表日: 8 月 9 日).
- 959) 石田智之, 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 串田隆志, 杉山純也, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの解析”, 第 39 回日本分子生物学会年会, 1P-0852, 2016 年 11 月 30 日~12 月 2 日 (発表日 11 月 30 日).
- 960) 白川涼平, 濱祐太郎, 大友麻子, シャンホイ-ファン, 秦野伸二, “ALS 患者由来 SQSTM1/p62 変異体の神経細胞における局在と機能の解析”, 第 39 回日本分子生物学会年会, 1P-0546, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016 年 11 月 30 日~12 月 2 日 (発表日: 11 月 30 日).
- 961) 佐藤海, 鈴木-宇都宮恭子, 平塚結衣, 三井駿, 小野鈴花, 大友麻子, 秦野伸二, “ALS2

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 疾患原因変異体の高次構造および細胞内局在の変化は ALS2 関連運動ニューロン疾患の発症要因である”, 第 39 回日本分子生物学会年会, 2P-0578, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市), 2016 年 11 月 30 日~12 月 2 日 (発表日: 12 月 1 日).
- 962) 松井香奈, 小野寺和歌奈, 大友麻子, 福田光則, 秦野伸二, “新規 ALS2 結合候補分子 Rab30 の発現及び細胞内動態解析”, 第 39 回日本分子生物学会年会, 2P-0360, 2016 年 11 月 30 日~12 月 2 日 (発表日: 12 月 1 日).
- 963) 三井駿, 大友麻子, 野崎昌久, 小野鈴花, 佐藤海, 白川涼平, 足立弘明, 青木正志, 祖父江元, シャンホイ-ファン, 秦野伸二, “SQSTM1 の全身性高発現は変異 SOD1 発現 ALS マウスモデルの発症を早める”, 第 39 回日本分子生物学会年会, 2P-0575, 2016 年 11 月 30 日~12 月 2 日 (発表日: 12 月 1 日).
- 964) 上田真保子, 三橋里美, 今西規, 中川草, “細胞融合に関わる内在性レトロウイルス由来遺伝子の同定”, 第 8 回学術講演会 (Tune8), 東海大学湘南校舎 17 号館 2 階ネクサスホール (神奈川県平塚市), 2017 年 2 月 25 日.
- 965) 中川草, 上田真保子, “哺乳類ゲノムに内在化するウイルス由来の配列の比較トランスクリプトーム解析”, 第 39 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016 年 11 月 31 日-12 月 2 日.
- 966) 上田真保子, 黒崎陽平, 泉泰輔, 中野雄介, Oloniniy K. Olamide, 安田二郎, 小柳義夫, 佐藤佳, 中川草, “エボラウイルス糖蛋白質 (GP) の 82 番目と 544 番目のアミノ酸変異は感染効率に関与する”第 39 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016 年 11 月 31 日-12 月 2 日.
- 967) 橋本暁, 吉川祿助, 中川草, 岡本宗裕, 宮沢孝幸, “非病原性霊長類レトロウイルスのエンベロープ遺伝子の進化とアジアのマカク属サル移動経路の解明への応用”, 第 39 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016 年 11 月 31 日-12 月 2 日.
- 968) 森田一輝, 永松健, 中川草, 杉本潤, 川名敬, 大須賀穰, 藤井知行, “合胞体栄養膜細胞分化モデルを用いた内在性レトロウイルスの網羅的発現解析”, 第 24 回日本胎盤学会学術集会 第 34 回日本絨毛性疾患研究会, 和歌山, 2016 年 11 月 25 日-26 日.
- 969) 杉本潤, Danny Schust, 中川草, 小田高也, 陣野吉廣, “マウスサプレシン遺伝子の単離・同定”, 第 24 回日本胎盤学会学術集会 第 34 回日本絨毛性疾患研究会, 和歌山, 2016 年 11 月 25 日-26 日.
- 970) 中川草, 上田真保子, “哺乳類ゲノムに内在化するウイルス由来の配列データベース gEVE とその活用方法”日本遺伝学会 第 88 回大会, 三島, 2016 年 9 月 7 日-10 日.
- 971) 小出りえ, 坂口翔一, 桑原千恵子, 酒井沙知, 中川草, 谷利爵公, 浅井健一, 川上和夫, 宮沢孝幸, “ネコモルビリウイルスの交差中和試験による血清学的比較”, 第 159 回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016 年 9 月 6 日-8 日.
- 972) 坂口翔一, 大松勉, 田向健一, 杉山和寿, 中川草, Kirill Kryukov, 片山幸枝, 岡田貴志, 土赤忍, 岸本麻衣, 粉川幸樹, 今西規, 宮沢孝幸, 水谷哲也, “ネコパラミクソウイルスの国内初の検出”, 第 159 回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016 年 9 月 6 日-8 日.
- 973) 坂口翔一, 谷利爵公, 藤村正人, 中川草, 宮沢孝幸, “尿から分離されたネコフォーミーウイルスの性状および遺伝学的解析”, 第 159 回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016 年 9 月 6 日-8 日.
- 974) 吉川祿助, 坂口翔一, 中川草, 中村紳一朗, 阪脇廣美, 兼子明久, 三浦智行, 鈴木樹理, 岡本宗裕, 宮沢孝幸, “サルレトロウイルス 5 型感染によるニホンザル血小板減少症”, 第 159 回日本獣医学会学術集会, 神奈川, 2016 年 9 月 6 日-8 日.
- 975) 中川草, 上田真保子, “哺乳類ゲノムに内在化するウイルス由来の比較トランスクリプトーム解析”, 日本進化学会 第 18 回東京大会, 東京 (東京工業大学大岡山キャンパス), 2016 年 8

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

月 25 日-28 日.

- 976) 上田真保子, 黒崎陽平, 泉泰輔, 中野雄介, Oloniniy K. Olamide, 安田二郎, 小柳義夫, 佐藤佳, 中川草, “Functional mutations in spike glycoprotein of Zaire ebolavirus associated with an increase in infection efficiency”, 日本進化学会 第 18 回東京大会、東京、2016 年 8 月 25 日-28 日.
- 977) 上田真保子, 中川草, “哺乳類ゲノムにおける内在性レトロウイルス由来のプロモーター/エンハンサー配列の同定と比較ゲノム解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 7 回学術講演会, 神奈川, 2016 年 8 月 9 日.
- 978) 三宅秀斗, 樺山一哉, 真鍋良幸, 陳思宇, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一, “細胞表面における糖鎖機能解明を指向した合成糖鎖の細胞膜提示システムの開発”, 日本ケミカルバイオロジー学会年会 (第 11 回), 京都テルサ (京都), 2016 年 6 月 15-17 日.
- 979) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 岡村陽介, 深瀬浩一, “浮遊細胞のライブセルイメージング解析”, 日本ケミカルバイオロジー学会年会 (第 11 回), 京都テルサ (京都), 2016 年 6 月 15-17 日.
- 980) 樺山一哉, 三宅秀斗, 真鍋良幸, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一, “合成糖鎖の細胞膜提示システムによる糖脂質機能の解明”, 第 58 回 日本脂質生化学会, にぎわい交流館 AU (秋田), 2016 年 6 月 9-10 日.
- 981) 狩野裕考, 郷慎司, 新田昂大, Lucas Veillon, Anna Cattaneo, Marilena Letizia, 名取良浩, 吉村祐一, 安藤弘宗, 石田秀治, 樺山一哉, 下山敦史, 深瀬浩一, Maria Ciampa, Laura Mauri, Alessandro Prinetti, Sandro Sonnino, 鈴木明身, 井ノ口仁一, “内因性リガンドとしての極長鎖 GM3 ガングリオシドによる慢性炎症惹起機構”, 第 58 回 日本脂質生化学会, にぎわい交流館 AU (秋田), 2016 年 6 月 9-10 日.
- 982) 武部智之, 真鍋良幸, 笠原里美, Yang Xiaoxiao, 樺山一哉, 深瀬浩一, “コアフコース機能調節分子の開発とそれを用いた TGF- β シグナル制御と繊維化抑制”, 第 51 回天然物化学談話会, 湯沢東映ホテル (新潟), 2016 年 7 月 6-8 日.
- 983) 樺山一哉, 波多野佳奈枝, 岡村陽介, 深瀬浩一, “ナノシートを用いた浮遊系細胞のライブイメージング解析”, 第 11 回スフィンゴセラピー研究会, ホテルアローレ (石川), 2016 年 8 月 14-16 日.
- 984) 濱裕哉, 伊東大樹, 桑畑周司, 古見賢吾, 小野竜, 木村啓志, 樺山一哉, “プラズマ照射培地中に発生する NO₃⁻, NO₂⁻, H₂O₂ 濃度の測定”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T_μne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016 年 8 月 9 日.
- 985) 新井健太, 蟹江善美, 蟹江治, 樺山一哉, 深瀬浩一, “マイクロ-ナノ空間での糖脂質分子の拡散, 蛍光標識化ラクトシルスフィンゴシンを用いた細胞膜脂質の動態解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T_μne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016 年 8 月 9 日.
- 986) 伊東大樹, 濱裕哉, 桑畑周司, 古見賢吾, 小野竜, 木村啓志, 樺山一哉, “プラズマ照射培地による肺癌細胞の死滅”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T_μne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016 年 8 月 9 日.
- 987) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 岡村陽介, 深瀬浩一, “浮遊細胞のライブセルイメージング解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T_μne) 第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (神奈川), 2016 年 8 月 9 日.
- 988) 樺山一哉, “バイオケミストリーとケミカルバイオロジーの接点”, 第 35 回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぽーと (高知), 2016 年 9 月 1-3 日.
- 989) 三宅秀斗, 初村洋紀, 樺山一哉, 真鍋良幸, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一, “HaloTag テ

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- クノロジーによる生細胞への糖鎖提示とそれを用いた機能解析”, 第 35 回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぼーと (高知), 2016 年 9 月 1-3 日.
- 990) 新井健太, 蟹江善美, 蟹江治, 樺山一哉, 深瀬浩一, “蛍光標識化 lactosyl sphingosine による細胞膜脂質の動態解析”, 第 35 回日本糖質学会年会, 高知市文化プラザ かるぼーと (高知), 2016 年 9 月 1-3 日.
- 991) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 第 10 回バイオ関連シンポジウム, 石川県立音楽堂 (石川), 2016 年 9 月 7-9 日.
- 992) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 真鍋良幸, 岡村陽介, 深瀬浩一, “ライブセルイメージングによる蛍光標識抗体の動態解析”, 第 10 回バイオ関連シンポジウム, 石川県立音楽堂 (石川), 2016 年 9 月 7-9 日.
- 993) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 糖質科学合同セミナー, 東海大学三保研修館 (静岡), 2016 年 10 月 15-16 日.
- 994) 武部智之, 真鍋良幸, 笠原里美, Yang Xiaoxiao, 樺山一哉, 深瀬浩一, “FUT8 阻害剤の開発と細胞における機能評価”, 糖質科学合同セミナー, 東海大学三保研修館 (静岡), 2016 年 10 月 15-16 日.
- 995) 新井健太, 岡崎俊朗, 樺山一哉, “スフィンゴミエリン再構成細胞を用いた ICAM1 の機能解析” 糖質科学合同セミナー, 東海大学三保研修館 (静岡), 2016 年 10 月 15-16 日.
- 996) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 第 6 回 CSJ 化学フェスタ, タワーホール船堀 (東京), 2016 年 11 月 14-16 日.
- 997) 溝手啓介, 下山敦史, 松浦良史, 藤居真優, 井ノ口仁一, 樺山一哉, 深瀬浩一, “協奏的に作用する TLR4/MD-2 制御因子の機能”, 第 6 回 CSJ 化学フェスタ, タワーホール船堀 (東京), 2016 年 11 月 14-16 日.
- 998) 武部智之, 真鍋良幸, 笠原里美, Yang Xiaoxiao, 樺山一哉, 深瀬浩一, “FUT8 阻害剤の細胞における機能評価”, 第 6 回 CSJ 化学フェスタ, タワーホール船堀 (東京), 2016 年 11 月 14-16 日.
- 999) 波多野佳奈枝, 樺山一哉, 真鍋良幸, 深瀬浩一, “蛍光標識を用いた抗体のライブセルイメージング解析” 第 39 回分子生物学会年会, (神奈川), 2016 年 11 月 30 日-12 月 2 日.
- 1000) 下山敦史, 溝手啓介, 松浦良史, 藤居真優, 狩野裕考, 樺山一哉, 藤本ゆかり, 井ノ口仁一, 深瀬浩一, “協奏的に作用する TLR4/MD-2 制御因子の機能～免疫調節作用を有する寄生菌由来 LPS 部分構造を中心に～”, 第 22 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会, 鹿児島大学(鹿児島), 2016 年 12 月 2-3 日.
- 1001) 樺山一哉, 波多野佳奈枝, 岡村陽介, 深瀬浩一, “浮遊細胞のライブセルイメージング解析”, 第八回「光塾」, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (神奈川), 2016 年 12 月 17-18 日.
- 1002) 樺山一哉, “自然免疫リガンドのライブセルイメージング”, 糖鎖免疫 Glyco-immunology 2017, 東京医科歯科大学M&Dタワー (東京), 2017 年 1 月 25-26 日.
- 1003) FENG, Qi; KABAYAMA, Kazuya; MANABE, Yoshiyuki; KAMETANI, Yoshie; FUKASE, Koichi, “Comparative study of fully synthetic self-adjuvanting cancer vaccine candidates containing tandem repeats of B cell epitope from HER2”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶應義塾大学 日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 16-19 日.
- 1004) 横山康平, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 下山敦史, 樺山一哉, 深瀬浩一, “Toll 様受容体リガンドのライブセルイメージング解析”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶應義塾大学

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 16-19 日.

- 1005) Tsung-che Chang, Yoshiyuki Manabe, Yukari Fujimoto, Yoshie Kametani, Kazuuya Kabayama, Koichi Fukase, “Synthesis and Immunological Evaluation of Self-Adjuvanting *N*-Modified Clustered Sialyl-Tn Conjugate Vaccine Candidate”, 日本化学会第 97 春季年会, 慶應義塾大学 日吉キャンパス (横浜市), 2017 年 3 月 16-19 日.

2015年度 (国内学会等発表)

- 1006) 目黒貴行、岸広也、荒井詩穂、増田貴宏、中山耕史朗、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、ポリ (N-イソプロピルアクリルアミド) の分子量分別による GPC 検量線の検討、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会、東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.
- 1007) 高橋佑太郎、土井駿、増田貴宏、村文哉、八木原晋、新屋敷直木、喜多理王、光散乱法による様々な高分子の物性解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会、東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.
- 1008) 佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、ナノ細孔中の過冷却水の分子ダイナミクス、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会、東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.
- 1009) 深井俊樹、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、田中文彦、高分子/水/アルコール 3 成分系における曇点曲線から解析する共貧溶媒性、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 6 回学術講演会、東海大学清水キャンパス (清水市) 2016 年 2 月 20 日.
- 1010) 目黒貴行、岸広也、新屋敷直木、八木原晋、喜多理王、ポリ (N-イソプロピルアクリルアミド) の分子量分別による GPC 検量線の検討、第 64 回高分子討論会、東北大学 (仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 1011) 内田夏実、前田晃作、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、笹川昇、中川草、水溶性高分子のソレー効果の温度依存性、第 64 回高分子討論会、東北大学 (仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 1012) 中山耕史朗、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、さまざまな溶媒中におけるポリ (N-イソプロピルアクリルアミド) の熱拡散現象、第 64 回高分子討論会、東北大学 (仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 1013) 深井俊樹、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、田中文彦、混合溶媒中におけるポリ (N-イソプロピルアクリルアミド) の曇点曲線の測定から解析する共貧溶媒性、第 64 回高分子討論会、東北大学 (仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 1014) 植竹祐太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法によるポリ (N-イソプロピルアクリルアミド) 薄膜のガラス転移温度の解析、第 64 回高分子討論会、東北大学 (仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 1015) 山本まゆ、深井俊樹、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、田中文彦、PNiPAM 溶液におけるソレー効果の温度差依存性および分子量依存性の解析、第 64 回高分子討論会、東北大学 (仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 1016) 江口和也、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、糖類におけるルードビッヒソレー効果の温度、分子量、溶媒依存性、第 64 回高分子討論会、東北大学 (仙台市)、2015 年 09 月 16 日.
- 1017) 井上紫央里、佐々木海渡、松井ゆりか、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(ethylene imine) 水溶液のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015 年 08 月 25 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1018) 佐々木海渡、大浜巧、木下皓、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、部分的に氷結したタンパク質水溶液中の水のダイナミクスに関する誘電的研究、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1019) 山本まゆ、深井俊樹、中山耕史朗、新屋敷直木、八木原晋、田中文彦、喜多理王、水溶性の感熱性高分子を用いたソレー効果の温度依存性および分子量依存性、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1020) 江口和也、新屋敷直木、八木原晋、喜多理王、糖水溶液のロードビッチ・ソレー効果、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1021) 萬代健太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による 1-Propanol 水溶液における不凍溶液相のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1022) 高塚将伸、前田巧、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether)水溶液の水と高分子のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1023) 前田巧、高塚将伸、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether)水溶液の高分子と水のダイナミクス、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1024) 宮良政彦、高島いける、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法によるポリエチレングリコール水溶液の特異な融解現象、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1025) 大場有沙、佐々木海渡、松井ゆりか、坂神大幹、小町卓也、張宏、八十田穰、岡村陽介、槌谷和義、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電測定で見る高分子超薄膜のガラス転移、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1026) 松井ゆりか、萬代健太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl pyrrolidone)の水溶液と 1-propanol 溶液の誘電緩和時間、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1027) 中山耕史朗、新屋敷直木、八木原晋、喜多理王、温度勾配下におけるコロイドの輸送現象の画像処理を用いた解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第5回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015年 08月 25日。
- 1028) 喜多理王、単糖、オリゴ糖、多糖類のロードヴィッチ・ソレー効果、ゆらぎと構造の協奏「非平衡系における普遍法則の確立」 第2回公開シンポジウム、東京大学 (文京区)、2015年 05月 01日。
- 1029) 佐々木海渡、安田隆人、松井ゆりか、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、部分的に氷結した高分子水溶液中の氷 Ih の誘電緩和時間、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学 (仙台市)、2016年 3月 19日～22日。
- 1030) 高塚将伸、佐々木海渡、前田巧、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether)水溶液における水と高分子のガラス転移、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学 (仙台市)、2016年 3月 19日～22日。
- 1031) 萬代健太、佐々木海渡、松井ゆりか、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(vinyl pyrrolidone)の水溶液およびアルコール溶液のガラス転移、日本物理学会第71回年次大会、東北学院大学 (仙台市)、2016年 3月 19日～22日。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1032) 松井 ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷結した Poly(vinyl pyrrolidone)水溶液の水と高分子および氷の誘電緩和、日本物理学会第 71 回年次大会、東北学院大学 (仙台市)、2016 年 3 月 19 日～22 日.
- 1033) 井上紫央里、松井ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(ethylene imine) 水溶液の液体からガラス状態における誘電緩和、日本物理学会第 71 回年次大会、東北学院大学 (仙台市)、2016 年 3 月 19 日～22 日.
- 1034) 宮良政彦、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷結した poly(ethylene glycol) 水溶液の凍結と融解現象に関する誘電的研究、日本物理学会第 71 回年次大会、東北学院大学 (仙台市)、2016 年 3 月 19 日～22 日.
- 1035) 八木原晋、喜多理王、新屋敷直木、福崎稔、水素結合している水分子の大規模挙動、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター (横浜市)、2015 年 12 月 8 日～10 日.
- 1036) 田窪洗祐、八木原晋、新屋敷直木、喜多理王、佐藤駿介、川口翼、栗田太作、福崎稔、灰田宗孝、大橋三男、フィリングインに対する前頭葉の NIRS 測定、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター (横浜市)、2015 年 12 月 8 日～10 日.
- 1037) 斉藤宏伸、佐藤駿介、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、望月明、田中賢、広帯域誘電分光法を用いた高分子生体材料中の水構造解析、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター (横浜市)、2015 年 12 月 8 日～10 日.
- 1038) 清水健太、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、宮地伸英、低分子ヒドロゲル化剤(LA608) - 水混合系における分子ダイナミクスの誘電的研究、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター (横浜市)、2015 年 12 月 8 日～10 日.
- 1039) 川口翼、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、傾斜磁場勾配法を用いた ³¹P, ²H-NMR によるリポソーム/水分散系における拡散現象、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター (横浜市)、2015 年 12 月 8 日～10 日.
- 1040) 青山剛志、斉藤宏伸、川口翼、清水健太、八木原晋、新屋敷直木、喜多理王、福崎稔、浅見耕司、懸濁液中の細胞構造に起因する誘電緩和過程、第 25 回日本 MRS 年次大会、横浜情報文化センター (横浜市)、2015 年 12 月 8 日～10 日.
- 1041) 堀雄基、西堯宏、斉藤宏伸、川口翼、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、須藤誠一、鈴木養樹、広帯域誘電分光法と PFG-NMR 法による木材中の水構造観測と含水率依存性の評価、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1042) 斉藤宏伸、川口翼、庄司幸平、高村優、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、相補的測定手法を用いた低分子水溶液中の協同的分子ダイナミクスの研究、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1043) 青山剛志、川口翼、齋藤徹哉、清水健太、庄司幸平、八木原晋、新屋敷直木、喜多理王、福崎稔、増田治史、敗血症および水素水がマウス臓器の水構造に与える影響、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1044) 松井ゆりか、佐々木海渡、宮良政彦、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl pyrrolidone) 水溶液のガラス転移と誘電緩和時間、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1045) 前田巧、高塚将伸、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl methyl ether) 水溶液における高分子と水の誘電緩和現象、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1046) 高塚将伸、前田巧、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl methyl ether) 水溶液の誘電緩和とガラス転移、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

2015年12月11日.

- 1047) 井上紫央里、松井ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(ethylene imine)水溶液の液体からガラス状態における誘電緩和、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1048) 萬代健太、松井ゆりか、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、Poly(vinyl pyrrolidone) の水およびアルコール溶液におけるガラス転移に関する誘電的研究、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1049) 宮良政彦、高島いける、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷結した Poly(ethylene glycol)水溶液の融解に関する誘電的研究、第 53 回高分子と水に関する討論会、東京工業大学 (目黒区)、2015 年 12 月 11 日.
- 1050) 川口翼、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、福崎稔、PFG-NMR 法によるエマルション系の拡散計測、第 54 回 NMR 討論会、千葉工業大学津田沼キャンパス (習志野市)、2015 年 11 月 6 日~8 日.
- 1051) 佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、氷 Ih の誘電緩和、日本物理学会 2015 年秋季大会、関西大学千里山キャンパス (吹田市)、2015 年 9 月 16 日~19 日.
- 1052) 高塚将伸、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、誘電分光法による Poly(vinyl methyl ether)水溶液の水と溶質のガラス転移、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所 (柏市)、2015 年 7 月 30 日~8 月 1 日.
- 1053) 萬代建太、佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、広帯域誘電分光法による 1-プロパノール水系のガラス転移、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所 (柏市)、2015 年 7 月 30 日~8 月 1 日.
- 1054) 佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、部分的に氷結したゼラチン水溶液の α 緩和と不凍水量に関する誘電的研究、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所 (柏市)、2015 年 7 月 30 日~8 月 1 日.
- 1055) 佐々木海渡、喜多理王、新屋敷直木、八木原晋、水溶液中の水とアモルファス氷の誘電緩和、東京大学物性研究所短期研究会、東京大学物性研究所 (柏市)、2015 年 7 月 30 日~8 月 1 日.
- 1056) 大西康貴、長島朋弘、喜多理王、榎谷和義、岩森暁、ポリテトラフルオロエチレン (PTFE) を原材料とした真空蒸着膜の光学特性、日本材料科学会 平成 27 年度学術講演大会 日本工学院大学 (新宿区) 2015 年 6 月 5 日.
- 1057) 川田 健人、梶原 景正、木村 穰、岡村 陽介、榎谷 和義、高分子超薄膜による薬剤投与時の浸透傾向評価、精密工学会、精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2016 春季 Page.309-310、東京理科大学、2016 年 3 月 15-17 日.
- 1058) 木本英明、榎谷和義、スパッタリング法を用いた多角形断面を有する極細無痛針の創製、精密工学会、精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2016 春季 Page.319-320、東京理科大学、2016 年 3 月 15-17 日.
- 1059) 野尻晃成、榎谷和義、RF マグネトロンスパッタリング法を用いた流体デバイス内 pH センサの創製、日本機械学会 関東支部 第 55 回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016 年 3 月 10 日.
- 1060) 水流添岳、榎谷和義、口腔内 pH 測定用デバイスに搭載する電極の開発、日本機械学会 関東支部 第 55 回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016 年 3 月 10 日.
- 1061) 海老原崇紀、榎谷和義、PVDF を用いたシート型呼吸センサの開発、日本機械学会 関東支部 第 55 回学生員卒業研究発表会、東京工業大学、2016 年 3 月 10 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1062) 大塚亮, 榎谷和義, アキレス腱組織の微視的強度観察, 日本機械学会 関東支部 第 55 回学生員卒業研究発表会, 東京工業大学, 2016 年 3 月 10 日.
- 1063) 嘉村 優大, 榎谷 和義, 磁性微粒子を用いた体内発電方式, 日本機械学会 関東支部 第 55 回学生員卒業研究発表, 東京工業大学, 2016 年 3 月 10 日.
- 1064) 高宮 伸太郎, 榎谷 和義, 佐々木海渡, 細胞用多機能センサに向けた温度センサの開発と評価, 日本機械学会 関東支部 第 55 回学生員卒業研究発表会, 東京工業大学, 2016 年 3 月 10 日.
- 1065) 岡村 陽介, 増田 愛美, 奥山 一生, 保科 貴宏, 幸谷 愛, 長瀬 裕. 生体組織イメージング用撥水性超薄膜の創製 ～保水・保定を実現するナノラッピング～. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 1066) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. ディスク状粒子の簡易調製法の確立と 2 次元相互作用を利用した医用展開. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 28 日.
- 1067) 岩野 篤, 森田 浩平, 浅尾 幸平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 生体適合性ポリウレタンの合成とナノシートの作製およびコーティング. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 28 日.
- 1068) 手塚 基文, 岩野 篤, 森田 浩平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基とアルキル基を有するポリウレタンの合成と性質. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 1069) 荻野 真理, 浅尾 幸平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリアミドイミドの合成とナノシートの作製. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 1070) 安藤 加奈, 平 孝介, 小田 龍馬, 岡村 陽介, 長瀬 裕. PDMS グラフトポリイミド膜のナノシートコーティングによる CO₂ 分離性の改善. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 1071) 遠藤 雅則, 平山 みさき, 新井 裕喜, 岡村 陽介, 朝倉 哲郎. グリセリンを少量含む絹膜の作製と眼科分野への応用. 第 64 回高分子学会年次大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 2015 年 5 月 27 日.
- 1072) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状ナノシートの調製法の確立と肝臓用創傷被覆材への医用応用. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 1073) 安藤 加奈, 平 孝介, 小田 龍馬, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 高透過性膜のナノシートコーティングによる二酸化炭素分離特性の改善. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 1074) 荻野 真理, 浅尾 幸平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基含有ポリアミド-イミドの合成とナノシート評価. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 1075) 手塚 基文, 岩野 篤, 森田 浩平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基とアルキル基を側鎖に持つ生体適合性ポリウレタンの合成と性質. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.
- 1076) 樋口 晃司, 岩野 篤, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 生体適合性を有するブロック共重合体の合成と性質. 第 59 回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015 年 7 月 24 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1077) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化ナノシートのスプレーコーティングと新規癒着防止材への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 1078) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 2 次元相互作用可能なディスク状粒子の調製と接着挙動. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 1079) 畑中 朋美, 齋藤 享徳, Wesam R. Kadhun, 藤堂 浩明, 杉林 堅次, 小町 卓也, 岡村 陽介, 木村 穰. 生体適合性ナノシートを用いた皮膚適用ステロイド製剤の開発. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 1080) 渡邊 真幸, 小田 龍馬, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有ポリメタクリレート合成と物性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 1081) 樋口 晃司, 岩野 篤, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ブロック共重合体の合成と性質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 1082) 堀田 博明, 甲斐 仁智, 橋本 巨, 落合 成行, 岡村 陽介, 砂見 雄太. マイクログラビア方式におけるナノシートの膜厚制御. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 1083) 川田 建人, 梶原 景正, 木村 穰, 岡村 陽介, 樋谷 和義. 高分子超薄膜による注射針管内面の表面改質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T□ne) 第 5 回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 8 月 25 日.
- 1084) 岡村 陽介. 高分子ナノ・マイクロディスク ~新規製造法の提案と医療分野への挑戦~. イノベーションジャパン 2015 -大学見本市, 東京ビックサイト (江東区), 2015 年 8 月 27-28 日.
- 1085) 岡村 陽介. 高分子超薄膜の開発とユニークな特性を利用した医療領域への応用展開. 第 351 回ゴム技術フォーラム月例会, 日本ゴム協会東部ビル (港区), 2015 年 9 月 10 日.
- 1086) 曾我部 大輝, 中川 篤, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 真球微粒子の形状変換 ~ディスク状粒子の創製と 2 次元相互作用を活用した応用展開~. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 15 日.
- 1087) 小田 龍馬, 渡邊 真幸, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有ポリマーのナノシートコーティングによる PDMS グラフトポリイミド膜の気体分離特性の改善. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 16 日.
- 1088) 樋口 晃司, 岩野 篤, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基を有する生体適合性ブロック共重合体の合成と性質. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 16 日.
- 1089) 長瀬 裕, 岡村 陽介, 小口 真一, 岩野 篤, 荻野 真理, 小田 龍馬. 機能性高分子からなるナノシートを利用した表面改質. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 17 日.
- 1090) 渡邊 真幸, 小田 龍馬, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基を側鎖に持つメタクリレートポリマーの合成と物性. 第 64 回高分子討論会, 東北大学川内キャンパス (仙台市), 2015 年 9 月 17 日.
- 1091) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 武岡 真司, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の調製と臓器止血材への応用. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年 10 月 14 日.

- 1092) 手塚 基文, 樋口 諒, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 擬似細胞膜構造を有するポリウレタン共重合体の合成と生体適合性. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 14 日.
- 1093) 岩野 篤, 森田 浩平, 浅尾 幸平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 高度な生体適合性を示すポリウレタンの合成とナノシートコーティング材としての応用. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 14 日.
- 1094) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 真球粒子を変形させて得るディスク状粒子の調製と 2 次元相互作用の発現. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 15 日.
- 1095) 小田 龍馬, 渡邊 真幸, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ナノシートコーティングによる PDMS グラフトポリイミド膜の気体分離特性の改良. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015 年 10 月 15 日.
- 1096) 岡村 陽介. 面をもつ生体適合性ナノ材料の創製とユニークな特性 ~新規医用材料への挑戦~. 東海医学会講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 10 月 29 日.
- 1097) 岡村 陽介, 曾我部 大輝, 中川 篤, 廣澤 彰英, 長瀬 裕. ディスク状粒子の新規調製法の確立と 2 次元相互作用を活用したユニークな特性. 第 37 回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市) 2015 年 11 月 9 日.
- 1098) 岩野 篤, 森田 浩平, 松永 諒, 高野 秀太, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 高度な生体適合性を示すポリウレタンからなるナノシートの作製と表面改質材への応用. 第 37 回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市) 2015 年 11 月 9 日.
- 1099) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化超薄膜からなるスプレーコーティング法の確立と新規癒着防止材への医用展開. 第 37 回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市), 2015 年 11 月 10 日.
- 1100) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 武岡 真司, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と肝臓用止血材への医用展開. 第 37 回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市), 2015 年 11 月 10 日.
- 1101) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 武岡 真司, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と肝臓用創傷被覆材への医用展開. 東海大学総合医学研究所第 11 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 1102) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化超薄膜からなる粉末スプレーコーティングと新規癒着防止材への応用展開. 東海大学総合医学研究所第 11 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 1103) 中川 篤, 岡村 陽介. SPG 膜乳化法による機能性高分子微粒子の創製. 東海大学総合医学研究所第 11 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 1104) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. Fabrication of Disk-shaped particles and Their Unique Properties via Two-Dimensional Interactions. 第 25 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2015 年 12 月 9 日.
- 1105) 手塚 基文, 樋口 諒, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Syntheses of cell membrane-mimic polyurethanes and the biocompatibility. 第 25 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2015 年 12 月 9 日.
- 1106) 荻野 真理, 岡 春樹, 松永 諒, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Synthesis of poly(amide-imide) containing phosphorylcholine group and the fabrication of nanosheets. 第 25 回日本 MRS 年次大会, 横

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 浜市開港記念会館 (横浜市), 2015 年 12 月 9 日.
- 1107) 安藤 加奈, 平 孝介, 小田 龍馬, 鈴木 大士, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Improvement of separation property of highly gas permeable membrane by the coating of nanosheets composed of polar polymers. 第 25 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2015 年 12 月 9 日.
- 1108) 岡村 陽介. 面をもつナノ材料(シート・ディスク)の創製と医用展開. 第 8 回次世代医工学研究会, 東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設 (新宿区), 2016 年 1 月 29 日.
- 1109) 岡村 陽介. マテリアルの厚みで組織接着性を制御する ～高分子超薄膜の創製と医用展開～. 日本接着学会生体材料接着研究会, 東京医科歯科大学 (文京区), 2016 年 2 月 1 日.
- 1110) 岡村 陽介. 『高分子超薄膜から創成する次世代医用技術』創るチーム. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 19 日.
- 1111) 張 宏, 岡村 陽介. Morphological study on crystallization of polymer thin films and their adhesiveness. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1112) 中川 篤, 岡村 陽介. SPG 膜乳化法を基盤とするディスク状高分子微粒子の作製とモデル薬剤放出挙動. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1113) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の調製と創傷被覆材としての機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1114) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. ディスク状粒子の調製と 2 次元相互作用を利用した接着挙動. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1115) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 裁断化 CMC ナノシート粉末のスプレーコーティング法の確立と癒着防止能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1116) 五十嵐 敦, 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 岡村 陽介. コラーゲンからなるナノシートの調製法の確立. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1117) 坂神 大幹, 張 宏, 岡村 陽介. ナノシートに高接着性が発現する機序の解明. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1118) 信岡 昂平, 中川 篤, 岡村 陽介. 経鼻吸収剤への応用を目指した薬剤内包高分子微粒子の調製. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1119) 青木 拓斗, 張 宏, 岡村 陽介. 多孔質シートの調製法の検討. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1120) 齋藤 大陸, 増田 愛美, 張 宏, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 撥水性ナノシートの調製と生体組織ラッピング手法の確立. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1121) 畑中 朋美, 福島 孝昌, 齋藤 享徳, 藤堂 浩明, 杉林 堅次, 岡村 陽介, 木村 穰. 生体適合性ナノシートを用いた皮膚適用製剤の水溶性抗菌剤への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1122) 樋口 晃司, 岩野 篤, 森田 浩平, 佐々木 海渡, 新屋敷 直木, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基とソフトセグメントを含有するポリマーフィルムの物性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1123) ジャラットシーサグン ピパット, 小田 龍馬, 安藤 加奈, 岡村 陽介, 佐藤 克典, 藤枝 俊宣, 武岡 真司, 長瀬 裕. Properties of nanosheet composed of polydimethylsiloxane graft copolyimide. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1124) 渡邊 真幸, 小田 龍馬, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有メタクリレートポリマーの合成と表面改質材としての性能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1125) 鈴木 大士, 安藤 加奈, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ポリエチレンオキシド含有ポリアミド膜の気体透過性の改善. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1126) 梅田 知宙, 小田 龍馬, Botakoz Suleminova, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基含有ポリイミドの合成と分離膜への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1127) 樺山 一哉, 波多野 佳奈枝, 岡村 陽介, 深瀬 浩一. ナノシートを利用した浮遊細胞のイメージング解析. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1128) 川田 建人, 梶原 景正, 木村 穰, 岡村 陽介, 榎谷 和義. カルボキシメチルセルロース超薄膜による薬剤投与時の浸透傾向評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tµne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日.
- 1129) 岡村 陽介. テニユアトラック期間を振り返って. 第 6 回東海大学テニユアトラック制度シンポジウム, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 2 月 23 日.
- 1130) 横山康平, 河原佑紀, Qi Feng, 荒井洋平, 井貫晋輔, 藤本ゆかり, 樺山一哉, 深瀬浩一 自然免疫受容体リガンドの細胞内動態解析に向けて 日本ケミカルバイオロジー学会 第 10 回年会, 仙台, 2015 年 6 月 10 日~12 日
- 1131) 樺山一哉, 横山康平, 深瀬浩一 自然免疫受容体リガンドの細胞内動態解析 第 7 回 光塾, 広島, 2015 年 9 月 5 日~6 日
- 1132) 樺山一哉 ナノラッピングによる浮遊細胞のイメージング解析 糖質科学合同セミナー, 箱根, 2015 年 10 月 3 日~4 日
- 1133) 篠原厚, 深瀬浩一, 金田安史, 畑澤順, 中野貴志, 福田光宏, 吉村崇, 矢野恒夫, 豊嶋厚史, 高橋成人, 笠松良崇, 神田晃充, 樺山一哉, 下山敦史, 真鍋良幸 医理連携による進行がん治療のための国際医療拠点形成事業 理学研究フォーラム, 豊中, 2016 年 3 月 11 日
- 1134) 樺山一哉, 三宅秀斗, 真鍋良幸, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一 合成糖鎖の細胞膜提示システムによる糖鎖機能の解明 ERATO 村田脂質活性構造プロジェクト終了報告会, 豊中, 2016 年 3 月 17 日
- 1135) 笠原大瑚, 稲垣豊, 木村啓志, ”肝小葉構造再現を目指す酸素勾配形成デバイス”, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, P.202, 京都市勧業館「みやこめっせ」(京都府京都市), 2015 年 5 月 17 日-19 日 (発表日:5 月 19 日) .
- 1136) 千田翔太, 吉村拓真, 佐藤泰史, 藤森俊彦, 藤井輝夫, 木村啓志, “受精卵アッセイに向けた高効率抗体スクリーニングデバイス”, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, P.201, 京都

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 市勤業館「みやこめっせ」(京都府京都市), 2015年5月17-19日(発表日:5月19日)。
- 1137) 矢崎亮, 槌谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, ”細胞動態オンライン計測のためのオンチップグルコースセンサの開発”, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015, P.202, 京都市勤業館「みやこめっせ」(京都府京都市), 2015年5月17日-19日(発表日:5月19日)。
- 1138) 諸星和, 矢崎亮, 小野竜, 望月雄太, 中村寛子, 横山奨, 槌谷和義, 木村啓志, ”薬物動態のオンライン計測を目指す Body-on-a-chip デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.85, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日。
- 1139) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.91, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日。
- 1140) 笠原大瑚, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, “酸素勾配制御による肝小葉環境の再現に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.29, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日。
- 1141) 矢崎亮, 槌谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの流速依存性と酵素量の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.84, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日。
- 1142) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, ”誘電泳動現象を用いたマラリア感染赤血球の変形能計測デバイスの開発 —第二報 感染ステージ別の変形能観察—”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.96, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日。
- 1143) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “マイクロデバイスを用いた精子選別および媒精機能の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.83, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日。
- 1144) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を応用したオンチップ脳血管モデルの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第5回学術講演会, P.97, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年8月25日。
- 1145) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスによる一細胞刺激に向けた流体制御の確立”, 2015年度日本機会学会年次大会, 北海道大学工学部(北海道札幌市), 2015年9月13日-16日(発表日:9月15日, 口頭)。
- 1146) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “脳血管モデル構築に向けたマイクロ流体デバイスの開発”, 第27回日本脳循環代謝学会総会, P.161, 富山国際会議場(富山県富山市), 2015年10月30日。
- 1147) 笠原大瑚, 住吉秀明, 柳川享世, 中尾祥絵, 茂呂忠, 木村啓志, 稲垣豊, “微小環境制御による肝小葉構造の構築”, 第29回肝類洞壁細胞研究会学術集会, P.64, 秋田市にぎわい交流館 AU(秋田県秋田市), 2015年10月31日-11月1日。
- 1148) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立”, 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会, 2P0928, 神戸国際展示場(兵庫県神戸市), 2015年12月1-12月4日(発表日:12月2日, ポスター)。
- 1149) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロバイオリクターを用いた酵素的複合糖鎖合成”, 2015年度第11回総合医学研究所研修会, P.7, 東海大学伊勢原校舎(神奈川県伊勢原市), 2015年12月5日。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1150) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “マイクロ流体デバイス技術を用いた脳血管モデルの開発”, 第 11 回総合医学研究所研修会, P.4, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 1151) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “Development of a novel ALS model in vitro by using the microfluidic device-based cell culture system“, 2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会, No.08, 東海大学伊勢原校舎 (神奈川県伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 1152) 笠原大瑚, 住吉秀明, 柳川享世, 中尾祥絵, 茂呂忠, 木村啓志, 稲垣豊, “微小環境制御による肝小葉構造の構築”, 第 11 回総合医学研究所研修会, P.7, 東海大学伊勢原キャンパス (神奈川県伊勢原市), 2015 年 12 月 5 日.
- 1153) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する受精卵作製マイクロデバイスの開発”, 第 16 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, No. 111-7, 名古屋国際会議場 (名古屋市), 2015 年 12 月 16-19 日(発表日:12 月 16 日, 口頭).
- 1154) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球変形能計測デバイスの開発 (赤血球のヤング率の定量化)”, 日本機械学会第 28 回バイオエンジニアリング講演会, P.13, 東京工業大学大岡山キャンパス (東京都目黒区), 2016 年 1 月 10 日.
- 1155) 横山奨, 和田純希, 荒木良介, 大友麻子, 木村啓志, “神経細胞軸索輸送の定量化に向けた神経細胞極性制御デバイス”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P40, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 1156) 荒木良介, 大友麻子, 横山奨, 和田純希, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた神経疾患モデルの確立”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.33, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 1157) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “局所細胞刺激の実現に向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイス”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.42, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 1158) 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたオンチップグルコースセンサの開発”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.39, 東京大学生産技術研究所(東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 1159) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球の変形能計測デバイス”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.34, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 1160) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “Neurovascular Unit 構築に向けたマイクロ流体デバイスの開発”, 細胞アッセイ技術の現状と将来, P.38, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2016 年 1 月 19 日.
- 1161) 横山奨, 和田純希, 荒木良介, 大友麻子, 木村啓志, “神経細胞軸索輸送の定量化に向けた神経細胞極性制御デバイスの最適化”, マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.52, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2 月 20 日).
- 1162) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロバイオリアクターを用いた酵素的複合糖質合成システム”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.71, 東海大学清水校舎(静岡県静岡市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2 月 20 日).
- 1163) 額賀正行, 矢口友幸, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を活用した赤血球の変形能計測デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第 6 回学術講演会, P.51, 東海大学清水校舎 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日(発表日:2 月 20 日).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1164) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “高品質受精卵作製のための媒精用マイクロデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, P.29, 東海大学清水校舎(静岡県清水市), 2016年2月19-20日(発表日:2月19日).
- 1165) 蓼沼啓介, 湯沢公子, 中山平, 永田栄一郎, 増田治史, 浅原孝之, 瀧澤俊也, 木村啓志, “脳血管構造再現に向けた脳血管モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, P.69, 東海大学清水校舎(静岡県静岡市), 2016年2月19-20日(発表日:2月19日).
- 1166) 小野竜, 木村啓志, “薬物代謝を有する生体モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, P.58, 東海大学清水校舎(静岡県清水市), 2016年2月19-20日(発表日:2月20日).
- 1167) 望月雄太, 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “オンチップグルコースセンサの電極形状に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, P.59, 東海大学清水校舎(静岡県清水市), 2016年2月19-20日(発表日:2月20日).
- 1168) 田中雄介, 木村啓志, “排泄機能を有するオンチップ腎臓モデル構築のための検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, P.61, 東海大学清水校舎(静岡県清水市), 2016年2月19-20日(発表日:2月20日).
- 1169) 榛葉健次, 洞山正幸, 木村啓志, “細胞アッセイのためのマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, P.63, 東海大学清水校舎(静岡県清水市), 2016年2月19-20日(発表日:2月20日).
- 1170) 桑畑周司, 山口健志, 磯村雅夫, 木村啓志, 小野竜, 樺山一哉, “癌細胞への大気圧プラズマジェット照射”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tune]第6回学術講演会, P.99, 東海大学清水校舎(静岡県清水市), 2016年2月19-20日(発表日:2月20日).
- 1171) 小野竜, 木村啓志, “薬物代謝機能を有するオンチップ生体モデルの構築”, 関東学生会第55回学生員卒業研究発表講演会, 講演番号 105, 東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区), 2016年3月10日.
- 1172) 田中雄介, 木村啓志, “ヒト由来腎細胞を用いた腎臓機能再現デバイスの構築”, 関東学生会第55回学生員卒業研究発表講演会, 講演番号 203, 東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区), 2016年3月10日.
- 1173) 榛葉健次, 洞山正幸, 木村啓志, “細胞アッセイに向けたマイクロ流体プローブ集積型デバイスの構築”, 関東学生会第55回学生員卒業研究発表講演会, 講演番号 1118, 東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区), 2016年3月10日.
- 1174) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “複合糖質合成マイクロバイオリクターシステムの構築と応用”, 日本農芸化学会 2016年度札幌大会, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市), 2016年3月27-31日(発表日:3月30日).
- 1175) 三井駿, 久保瑞希, Pan Lei, 大友麻子, 小池 正人, 内山安男, 青木正志, 山本雅之, 石井哲郎, 柳川徹, H.F. Shang, 吉井文均, 秦野伸二, Loss of p62/SQSTM1 but not Nrf2 accelerates motor neuron degeneration in SOD1H46R transgenic mice, 第38回日本神経科学大会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場(神戸市) 2015年7月28日~31日.
- 1176) 佐藤海, 平塚結衣, 鈴木(宇都宮) 恭子, 大友麻子, 秦野伸二, Pathogenic mutations in ALS2 alter the oligomeric states of the ALS2 complex and its subcellular localization, 第38回日本神経科学大会, 神戸国際会議場・神戸国際展示場(神戸市) 2015年7月28日~31日.
- 1177) 井上陽子, 大友麻子, 秦野伸二, 遺伝子の配列情報から種間の多様性と共通性を理解する分子生物学の実験開発とその検証, 第39回日本科学教育学会年会, 山形大学(山形市) 2015

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年 08 月 21 日～23 日.

- 1178) 佐藤海、平塚結衣、大友麻子、秦野伸二、ALS2 疾患原因変異体は ALS2 複合体構造や細胞内局在を変化させる、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 25 日.
- 1179) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、ALS2 及び ALS2 結合低分子量 G タンパク質 Rab17 はリサイクリングエンドソームに局在する、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 26 日.
- 1180) 三井駿、久保瑞希、潘雷、大友麻子、秦野伸二、SOD1H46R 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 25 日.
- 1181) 白川涼平、濱祐太郎、大友麻子、秦野伸二、SQSTM1/p62 の神経細胞における局在解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会 第 5 回学術講演会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市) 2016 年 8 月 25 日.
- 1182) 荒木良介、大友麻子、横山奨、和田純希、秦野伸二、木村啓志、マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日.
- 1183) 三井駿、久保瑞希、潘雷、大友麻子、小池正人、内山安男、青木正志、山本雅之、石井哲郎、柳川徹、Hui-Fang Shang、吉井文均、秦野伸二、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会 SOD1H46R 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日.
- 1184) 佐藤海、平塚結衣、大友麻子、秦野伸二、ALS2 疾患原因変異体は ALS2 複合体構造や細胞内局在を変化させる、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日.
- 1185) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、ALS2 及び新規結合低分子量 G タンパク質 Rab17 はリサイクリングエンドソームに局在する、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日.
- 1186) 白川涼平、濱祐太郎、大友麻子、秦野伸二、SQSTM1/p62 及びその変異体の神経細胞における局在解析、BMB2015・第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会、神戸ポートアイランド (神戸市)、2015 年 12 月 1 日～4 日.
- 1187) 三井駿、久保瑞希、潘雷、大友麻子、小池正人、内山安男、青木正志、山本雅之、石井哲郎、柳川徹、Hui-Fang Shang、吉井文均、秦野伸二、SOD1H46R 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する、2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015 年 12 月 5 日.
- 1188) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、The novel ALS2-interacting small G protein Rab17 colocalizes with ALS2 in recycling endosomes、2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015 年 12 月 5 日.
- 1189) 佐藤海、平塚結衣、大友麻子、秦野伸二、ALS2 疾患原因変異体は ALS2 複合体構造や細胞内局在を変化させる、2015 年度第 11 回総合医学研究所研修会、東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市)、2015 年 12 月 5 日.
- 1190) 井上陽子、大友麻子、大貫優子、森屋宏美、高橋千香、秦野伸二、遺伝子の配列情報から見た種間の多様性と共通性の理解に向けた授業実践とその検証、日本生物教育学会第 100 回全

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 国大会、東京理科大学・神楽坂キャンパス（新宿区）、2016年1月10日～11日。
- 1191) 横山奨、和田純希、荒木良介、大友麻子、木村啓志、神経細胞軸索輸送の定量化に向けた神経細胞極性制御デバイス細胞アッセイ技術の現状と将来、東京大学生産技術研究所コンベンションホール（目黒区）、2016年1月19日。
- 1192) 荒木良介、大友麻子、横山奨、和田純希、秦野伸二、木村啓志、マイクロ流体デバイスを用いた神経疾患モデルの確立、東京大学生産技術研究所コンベンションホール（目黒区）、2016年1月19日。
- 1193) 長沢昂、落合成行、砂見雄太、橋本巨、秋元洋輝、“高面圧下におけるEHL接触部の可視化およびトラクション力測定装置の開発”，日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2015 秋 姫路，姫路商工会議所（兵庫県姫路市），2015年5月27-30日，（発表日:5月27日，ポスター）。
- 1194) 壽祐輔，砂見雄太，橋本巨，“画像認識によるトラフ抑制機構の構築”，日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2015 秋 姫路，姫路商工会議所（兵庫県姫路市），2015年5月27-30日，（発表日:5月28日，口頭）。
- 1195) 砂見雄太，酒井風馬，落合成行，橋本巨，“小型ジャーナル油膜すべり軸受における給油条件と安定性の関係”，日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2015 秋 姫路，姫路商工会議所（兵庫），2015年5月27-30日，（発表日:5月29日，口頭）。
- 1196) 生田目翔太，熊澤佑紀，壽祐輔，砂見雄太，落合成行，橋本巨，“画像認識を用いた折れしわ前兆現象の検出および発生抑制”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1197) 小田桐遼，砂見雄太，橋本巨，落合成行，“動圧スラストフォイル軸受における弾性特性の実験的検証と解析”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1198) 井上雅文，越川徹也，落合成行，橋本巨，砂見雄太，“ダイカストのゲート形状が及ぼす溶湯挙動への影響”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1199) 横山輝，三戸部充希，砂見雄太，落合成行，橋本巨，“トンボの滑空状態を模倣した2枚翅での可視化実験”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1200) 前川恭一，砂見雄太，橋本巨，落合成行，“トロイダルCVTにおけるEHL接触点の可視化実験環境の構築”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1201) 木ノ下雅康，砂見雄太，橋本巨，落合成行，“2つの給油口を有するジャーナル油膜すべり軸受内の潤滑油分布の色による可視化”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1202) 明戸洋介，砂見雄太，橋本巨，落合成行，“可視化実験によるドライガスシール逆回転時のシール特性の検証”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1203) 甲斐仁智，堀田博明，落合成行，橋本巨，岡村陽介，砂見雄太，“マイクログラビア方式におけるナノシートの膜厚制御”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015年8月25日，（発表日:8月25日，ポスター）。
- 1204) 中尚義，砂見雄太，落合成行，橋本巨，“トンボの翅の変形が空力特性に与える影響”，東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会，東海大学（神奈川県伊勢原市），2015

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 年 8 月 25 日, (発表日:8 月 25 日, ポスター).
- 1205) 鈴木太理, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ドライガスシールにおけるシール溝周辺流れの可視化”, 日本機械学会 2015 年度年次大会 第 21 回卒業研究コンテスト, 北海道大学 (北海道市北区), 2015 年 9 月 13-16 日, (発表日:9 月 14 日, 口頭).
- 1206) 今井貴博, 砂見雄太, “ロール内部の軸方向に生じる圧力分布を測定可能とする圧力センサの製作”, 日本機械学会 2015 年度年次大会 第 21 回卒業研究コンテスト, 北海道大学 (北海道市北区), 2015 年 9 月 13-16 日, (発表日:9 月 14 日, 口頭).
- 1207) 鈴木太理, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “熱変形を考慮したハーフトロイダル CVT の設計手法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日, (発表日:2 月 20 日, ポスター).
- 1208) 秋元洋輝, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “ドライガスシールにおける溝形状の変化が流れに及ぼす影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日, (発表日:2 月 20 日, ポスター).
- 1209) 長沢昂, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “ハーフトロイダル CVT の伝達率向上を目的としたトラクション接触面の可視化装置の開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日, (発表日:2 月 20 日, ポスター).
- 1210) 横山輝, 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボの滑空時における翅周りの流れの可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日, (発表日:2 月 20 日, ポスター).
- 1211) 山本周作, 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボのフェザリング運動が生成される空気力に及ぼす影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日, (発表日:2 月 20 日, ポスター).
- 1212) 今井貴博, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “巻き取りロール内部の応力解析を可能とするセンサの製作”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県清水市), 2016 年 2 月 19-20 日, (発表日:2 月 20 日, ポスター).
- 1213) 篠崎玄一, 橋本巨, 砂見雄太, “薄膜ウェブにおける巻き取りロールの内部応力測定”, 日本機械学会 関東学生会第 55 回学生員卒業研究発表講演会, 東京工業大学 (東京都目黒区), 2016 年 3 月 10 日, (発表日:3 月 10 日, 口頭).
- 1214) 小田桐遼, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “溝スラストフォイル気体軸受におけるフォイルの構造剛性に関する実験”, 日本機械学会 関東学生会第 55 回学生員卒業研究発表講演会, 東京工業大学 (東京都目黒区), 2016 年 3 月 10 日, (発表日:3 月 10 日, 口頭).
- 1215) 明戸洋介, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “溝形状が異なるドライガスシールの正・逆回転時における気体流れの可視化実験”, 日本機械学会 関東学生会第 55 回学生員卒業研究発表講演会, 東京工業大学 (東京都目黒区), 2016 年 3 月 10 日, (発表日:3 月 10 日, 口頭).
- 1216) 越川徹也, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, 渡邊仁, “ダイカストの型内に生じる流動現象のその場観察”, 日本機械学会 関東支部第 22 期総会・講演会, 東京工業大学 (東京都目黒区), 2016 年 3 月 10-11 日, (発表日:3 月 10 日, 口頭).
- 1217) 飯山誠也, 今井貴博, 砂見雄太, 橋本巨, “熱粘弾性特性および厚みムラを考慮した巻き取りロール内部の応力解析と巻き取り条件の最適化”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学 (東京都文京区), 2016 年 3 月 14-15 日, (発表日:3 月 15 日, 口頭).
- 1218) 橋本巨, 砂見雄太, “画像認識技術を用いた折れしわ前兆現象の自動防止システム”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学 (東京都文京区),

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

2016年3月14-15日, (発表日:3月15日, 口頭).

- 1219) 砂見雄太, 甲斐仁智, 堀田博明, 岡村陽介, 橋本巨, “マイクログラビア印刷方式を用いた高分子超薄膜の創製”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学 (東京都文京区), 2016年3月14-15日, (発表日:3月15日, 口頭).
- 1220) 原田啓, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “インナーロータ型スピンドルにおける空気軸受の特性解析”, 日本機械学会 IIP2016 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会, 東洋大学 (東京都文京区), 2016年3月14-15日, (発表日:3月15日, 口頭).
- 1221) 上田真保子, 泉泰輔, 佐藤佳, 中川草, エボラウイルス糖蛋白質 (GP) 遺伝子の分子進化解析, 第 38 回 日本分子生物学会年会・第 88 回 日本生化学会大会 合同大会, 神戸 (神戸ポートアイランド), 12/1-4, 2015
- 1222) 下出紗弓, 中川草, 宮沢孝幸, ネコ内在性レトロウイルスの獲得と宿主機能へ及ぼした影響, 第 38 回 日本分子生物学会年会・第 88 回 日本生化学会大会 合同大会, 神戸 (神戸ポートアイランド), 12/1-4, 2015
- 1223) 中川草, 上田真保子, 哺乳類のゲノムに内在化したウイルス由来の配列の発現解析, 第 38 回 日本分子生物学会年会・第 88 回 日本生化学会大会 合同大会, 神戸 (神戸ポートアイランド), 12/1-4, 2015
- 1224) 上田真保子, 中川草, 内在性ウイルス由来の配列のゲノム進化解析, 日本進化学会 第 17 回大会, 東京 (中央大学), 8/20-24, 2015
- 1225) 中川草, 上田真保子, gEVE, an endogenous viral elements (EVEs) database, facilitates the evolutionary studies of functional EVEs in various mammalian species, 日本進化学会 第 17 回大会, 東京 (中央大学), 8/20-24, 2015.

2014年度 (国内学会等発表)

- 1226) 岡村 陽介, 浅尾 幸平, 森田 浩平, 長瀬 裕. 裁断化高分子超薄膜の創製と水性表面改質材としてのパッチワークコーティング. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014年5月.
- 1227) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と創傷被覆材としての医療応用. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014年5月.
- 1228) 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イオン液体構造を含有するポリイミドの合成と分離膜への応用. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014年5月.
- 1229) 小田 龍馬, 平 孝介, 白石 明美, 岡村 陽介, 長瀬 裕. PDMS グラフトポリイミド膜のナノシートコーティングによる分離性の改善. 第 63 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場 (名古屋), 2014年5月.
- 1230) 岡村 陽介. 超薄膜・ナノ粒子の調製と評価方法. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 【Tjune】 第 3 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014年7月.
- 1231) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の調製と肝臓用創傷被覆材としての機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 【Tjune】 第 3 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014年7月.
- 1232) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. ディスク状粒子の新規調製法の確立と機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 【Tjune】 第 3 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014年7月.
- 1233) 小田 龍馬, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. ナノシート複合化 PDMS グラフトポリイミド膜の気体分離特性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 【Tjune】 第 3 回学術講演会, 東

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 海大学 (平塚市), 2014 年 7 月.
- 1234) 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イミダゾリウム基を有するポリイミドの合成とナノシート複合化膜の気体分離特性. 第 9 回相模ケイ素材料フォーラム, (公財)相模中央研究所 (綾瀬), 2014 年 8 月.
- 1235) 森田 浩平, 樋口 晃司, 佐々木 海渡, 新屋敷直木, 岡村 陽介, 岩野 篤, Wariya Sirithep, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基とポリカーボネートセグメントからなるポリウレタンエラストマーの合成と性質. 第 9 回相模ケイ素材料フォーラム, (公財)相模中央研究所 (綾瀬), 2014 年 8 月.
- 1236) 小田 龍馬, 高田 恭輔, 岡村 陽介, 稲津 敏行, 長瀬 裕. フルオラスコーティングした PDMS グラフトポリイミド膜の分離特性. フルオラス科学研究会第 7 回シンポジウム, 北海道大学 (札幌), 2014 年 9 月.
- 1237) 岡村 陽介, 増田 愛美, 小田 龍馬, 長瀬 裕. フッ素高分子からなる撥水性超薄膜の調製と物性評価. 第 63 回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014 年 9 月.
- 1238) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状ナノシートの調製法の確立と肝臓用創傷被覆材への応用. 第 63 回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014 年 9 月.
- 1239) 岩野 篤, 森田 浩平, Wariya Sirithep, 岡村 陽介, 長瀬 裕. 生体適合性と弾性を示すリン脂質極性基を有するポリウレタンの合成とナノシートの作製. 第 63 回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014 年 9 月.
- 1240) 森田 浩平, Wariya Sirithep, 岩野 篤, 樋口 晃司, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリエステル-ウレタンの合成と物性. 第 63 回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014 年 9 月.
- 1241) 浅尾 幸平, 荻野 真理, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリイミドからなる裁断化ナノシートの作製と血液適合性評価. 第 63 回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014 年 9 月.
- 1242) 長瀬 裕, 小田 龍馬, 安藤 加奈, 岡村 陽介. ナノシートコーティングによる高透過性膜における分離特性の改良. 第 63 回高分子討論会, 長崎大学 (長崎), 2014 年 9 月.
- 1243) 岡村 陽介. ユニークな特性を発現するナノ構造体と医用応用～医工連携体制における共同研究～. 東海大学総合医学研究所第 10 回研修会, 山水楼 (湯河原), 2014 年 10 月.
- 1244) 岡村 陽介, 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕. 層状高分子超薄膜の調製と肝臓用創傷被覆材への応用. 第 36 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2014 年 11 月.
- 1245) 浅尾 幸平, 岩野 篤, 森田 浩平, 岡村 陽介, 鈴木翔一郎, 武岡 真司, 長瀬 裕. リン脂質極性基含有ポリマーからなるナノシートの作製と表面改質材としての応用. 第 36 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2014 年 11 月.
- 1246) 岡村 陽介. ユニークな特性を発現する高分子超薄膜の開発と医用応用. 2014 年度 SAS 技術講演会, 東海大学 (平塚市), 2014 年 11 月.
- 1247) 増田 愛美, 長瀬 裕, 岡村 陽介. フッ素含有高分子からなる撥水性超薄膜の創製と機能評価. 第 58 回湘北地区懇話会, 神奈川大学 (横浜市), 2014 年 11 月.
- 1248) 増田 愛美, 長瀬 裕, 岡村 陽介. Preparation and Characterization of Fluorine-containing Polymer Ultra-thin Films with Water Repellency. 第 24 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2014 年 12 月.
- 1249) 小田 龍馬, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. Separation property of PDMS graft copolyimide membranes with nanosheet coating. 第 24 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2014 年 12 月.
- 1250) 岡村 陽介. 「創る」: 高分子超薄膜(ナノシート)の設計と創製. 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター 第 2 回講演会<キックオフセミナー>, 東海大学 (平塚市), 2015 年 2 月.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1251) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 層状高分子超薄膜の創製と医工連携体制による in vivo 止血能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1252) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. ディスク状粒子の新規調製法の確立と2次元相互作用による機能評価. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1253) 遠藤 友美, 小町 卓也, 樋口 昌史, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 微粒子内包層状高分子超薄膜の創製と貼る気体吸着分離材への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1254) 増田 愛美, 奥山 一生, 保科 貴宏, 幸谷 愛, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 撥水性高分子超薄膜を用いた生体組織ナノラッピングとイメージングツールへの応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1255) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. 癒着防止材を指向した裁断化高分子超薄膜の形態制御. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1256) 中川 篤, 岡村 陽介. SPG 膜乳化法を基盤とする機能性高分子マイクロ・ナノ材料の創製. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1257) 佐々木 海渡, 小町 卓也, 岡村 陽介, 喜多 理王, 新屋敷 直木, 八木原 晋. 広帯域誘電分光法によるポリ乳酸超薄膜のガラス転移温度. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1258) 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. イオン液体構造を含有するポリイミドの合成と分離膜への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1259) 手塚 基文, 岩野 篤, 森田 浩平, 岡村 陽介, 長瀬 裕. リン脂質極性基と疎水基を有するポリウレタンの合成と性質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1260) 高田 恭輔, 小田 龍馬, 岡村 陽介, 長瀬 裕. フルオラスコーティングによる高透過性膜のPervaporation特性の改質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1261) 浅尾 幸平, 荻野 真理, 鈴木翔一郎, 武岡 真司, 岡村 陽介, 長瀬 裕. PC 基含有ポリイミドナノシートの生体適合性材料としての応用研究. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1262) 森田 浩平, 佐々木 海渡, 新屋敷 直木, 岡村 陽介, 岩野 篤, Wariya Sirithep, 長瀬 裕. ホスホリルコリン基とソフトセグメントを含有するポリウレタンの合成と性質. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1263) 楊 路, 園部 敦, 浅尾 幸平, 小町 卓也, 岡村 陽介, 長瀬 裕, 木村 啓志. 高分子超薄膜被覆によりPDMS表面改質の特性. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第4回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015年2月.
- 1264) 岡村 陽介. 止血能を発現するナノ粒子(人工血小板)の設計と特徴. (一社)日本粉体工業技術協会 2014年度第2回造粒分科会 技術討論会, ライオン(株)伊豆高原研修センター (伊豆高原), 2015年3月.
- 1265) 微小領域 pH 測定用マイクロ pH センサの開発, 金子 大樹, 植谷 和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.753-754, 2015年3月17—19日東洋大学

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1266) 第一原理計算によるチタン酸バリウム B サイト添加元素の影響評価, 八十田 穰, 上辻靖智, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page. 1091-1092 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1267) 多角形状断面を有するマイクロ無痛針の剛性検討・比較, 木本 英明, 榎谷 和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.751-752, 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1268) 生体適合性に関するカーボンナノチューブのカイラリティ別評価, 飯森祥子, 梶原景正, 木村穰, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.779-780, 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1269) 針開発における蛍光試薬投与時の皮下浸透観察, 川田 健人, 榎谷 和義, 木村 穰, 梶原 景正, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.781-782, 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1270) 溝付加による中空管マイクロポンプ用アクチュエータの性能向上, 鈴木宏昌, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.581-582, 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1271) マイクロ無痛針の創製における熱分解中空化手法の開発, 深谷雄大,榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.755-756, 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1272) シミュレーションを用いた薄膜結晶成長の制御予測 伊藤慶, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.1093-1094, 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1273) C 型形状圧電アクチュエータを用いたユニットモデルの開発, 鳥潟昂志, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2015 春季 Page.583-584 2015 年 3 月 17—19 日東洋大学
- 1274) 微視的領域におけるアキレス腱強度評価, 染谷 直道, 梶原 景正, 木村 穰, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第 54 回学生員卒業研究発表会, Page. 1501 2015 年 3 月 20 日 横浜国立大学
- 1275) 第一原理計算による MgSiO₃ 圧電性向上を目的とした添加元素の探索, 露木 裕一朗, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第 54 回学生員卒業研究発表会, Page. 1210, 2015 年 3 月 20 日 横浜国立大学
- 1276) 高圧電性を示す PZT のための最適バッファ層の創製, 吉田 和樹, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第 54 回学生員卒業研究発表会, Page. 1313, 2015 年 3 月 20 日 横浜国立大学
- 1277) 圧電素子を用いたペースメーカー用発電装置の設計, 村田 智洋, 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第 54 回学生員卒業研究発表会, Page. 1315 2015 年 3 月 20 日 横浜国立大学
- 1278) α -アミラーゼ活性分析モニタを用いたストレス評価とストレス管理, 佐々木 智崇, 榎谷和義, 日本機械学会 関東支部 第 54 回学生員卒業研究発表会, Page.1711, 2015 年 3 月 20 日 横浜国立大学
- 1279) RF スパッタリング法を用いたバイオセンサの表面形状の創製, 丹野 順太 榎谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第 54 回学生員卒業研究発表会, Page.1602, 2015 年 3 月 20 日 横浜国立大学
- 1280) 熱分解を用いたマイクロ無痛針の中空化手法の開発, 深谷雄大, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.103-104, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1281) 中空管マイクロポンプにおける溝付加型 PZT アクチュエータの最良溝割合の探索, 鈴木宏昌, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.189-190, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1282) 第一原理計算によるチタン酸バリウムの添加元素の評価および圧電性予測, 八十田 穰, 上

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 辻靖智, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.393-394, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1283) 多角形状断面を有するマイクロ無痛針の剛性検討, 木本 英明, 榎谷 和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.105-106 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1284) 針開発における蛍光試薬投与時の皮下浸透観察, 川田 健人, 榎谷 和義, 木村 穰, 梶原 景正, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.131-132, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1285) 血液循環補助機構における C 型圧電アクチュエータの多重配置による変形挙動の均一化, 鳥潟昂志, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.187-188, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1286) 格子不整合シミュレーションを用いた薄膜の結晶成長予測, 伊藤慶, 榎谷和義, 上辻靖智, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.395-396, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1287) カーボンナノチューブのカイラリティに着目した生体適合性評価方法の提案, 飯森祥子, 梶原影正, 木村穰, 榎谷和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.129-130, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1288) RF マグネトロンスパッタリング法を応用したマイクロ pH センサの開発, 金子 大樹, 榎谷 和義, 精密工学会大会学術講演会講演論文集 Vol.2014 秋季 Page.111-112, 2014 年 9 月 16—18 日 鳥取大学
- 1289) 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 大下誠一, マイクロ・ナノバブルが水構造ダイナミクスに及ぼす影響, 日本物理学会第 70 回年次大会, 早稲田大学 (新宿区), 2015 年 3 月 21-24 日.
- 1290) 佐々木海渡, 宮良政彦, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, ポリビニルピロリドン水溶液のガラス転移に関する誘電的研究, 日本物理学会第 70 回年次大会, 早稲田大学 (新宿区), 2015 年 3 月 21-24 日.
- 1291) 大西康貴, 長島朋弘, 喜多理王, 榎谷和義, 岩森暁, 光学材料としてのポリテトラフルオロエチレン (PTFE) 真空蒸着膜の検討, 電気学会 誘電・絶縁材料研究会, 名古屋駅前イノベーションハブ(名古屋), 2014 年 12 月 9 日.
- 1292) 大西康貴, 長島朋弘, 喜多理王, 榎谷和義, 岩森暁, ポリテトラフルオロエチレン (PTFE) 真空蒸着膜の構造が光学特性に及ぼす影響, 日本真空学会 第 55 回連合講演会, 大阪府立大学 (大阪市), 2014 年 11 月 18—20 日.
- 1293) 植竹祐太, 内田夏実, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, Poly(N-isopropylacrylamide) のガラス転移点の分子量依存性の解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015 年 2 月 26 日.
- 1294) 岸広也, 目黒貴行, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 光散乱法による PNiPAM(ポリ N-イソプロピルアクリルアミド) のコイル・グロビュール転移の解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015 年 2 月 26 日.
- 1295) 山本まゆ, 深井俊樹, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, PNiPAM を用いた 3 成分系の相図決定による熱力学的考察と GPC 測定用の PNiPAM 検量線の作成, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015 年 2 月 26 日.
- 1296) 松井ゆりか, 佐々木海渡, 宮良政彦, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電緩和現象からみる高分子水溶液の協同運動性, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会, 東海大学 (平塚市), 2015 年 2 月 26 日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1297) 平田宇宙, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, レーザー装置を用いたポリマー溶液の不可逆的輸送現象の観測, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1298) 高塚将伸, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, Poly(vinyl methyl ether)水溶液のガラス転移と協同的な分子運動, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1299) 森川瞳, 千田翔太, 前田晃作, 木村啓志, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 流体デバイスにおける温度勾配下のメダカ卵の発生過程, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1300) 太田有紀, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電分光測定・熱測定・透過率測定を用いたデキストラン DMSO 溶液の経時変化解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1301) 江口和也, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 稲津敏行, 樺山一哉, シクロデキストリン水溶液の濃度勾配形成現象, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1302) 中山耕史朗, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 熱非平衡系における物質輸送研究のためのマイクロデバイス開発, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1303) 豊田大樹, 小田龍馬, 平孝介, 喜多理王, 八木原晋, 新屋敷直木, 長瀬裕, 光散乱法で見る有機溶媒中での機能性高分子【PHFDMA, PI-Im】の構造と物性, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1304) 村田飛鶴, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 藤田恭子, 大野弘幸, 臨界点近傍におけるイオン液体水溶液の振る舞い, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1305) 安田隆人, 佐々木海渡, 宮良政彦, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 低濃度ゼラチン水溶液における氷の誘電緩和現象, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1306) 藤田剛生, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 藤田恭子, 大野弘幸, コールドクリスタリゼーションをもつイオン液体の水溶液中における分子ダイナミクス解析, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1307) 前田晃作, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, エチレングリコール水溶液を用いた熱物質拡散の分子論的メカニズム解明, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1308) 萬代健太, 佐々木海渡, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, 誘電分光法による低温における1-propanol水溶液の分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1309) 釧先修平, 佐々木海渡, 八木原晋, 新屋敷直木, 喜多理王, ゼラチン水溶液のゾル-ゲル転移と不凍溶液相における誘電緩和, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1310) 高島いける, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 広帯域誘電分光法を用いた Poly(ethylene glycol)水溶液の融解過程における動的構造, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tµne】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1311) 宮良政彦, 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 誘電分光法によるスクロース水

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 溶液の分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1312) 佐々木海渡, 小町卓也, 岡村陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 広帯域誘電分光法によるポリ乳酸超薄膜のガラス転移温度, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2015年2月26日.
- 1313) 前田晃作, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, レーザー干渉法を用いたエチレングリコール水溶液の熱物質拡散測定, レーザー学会学術講演会第35回年次大会, 東海大学高輪校舎(品川区), 2015年1月11日.
- 1314) 前田晃作, 新屋敷直木, 八木原晋, Simone Wiegand, 喜多理王, 多価アルコールを用いた熱物質拡散現象への水素結合の影響, 第52回高分子と水に関する討論会, 東京工業大学(大岡山), 2014年12月9日.
- 1315) 佐藤駿介, 川口翼, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 福崎稔, 増田治史, 浅原孝之, in vivo 測定法を用いた生体組織の水構造解析, 第52回高分子と水に関する討論会, 東京工業大学(大岡山), 2014年12月9日.
- 1316) 宮本陽介, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 分子動力学法による水溶液中の分子ダイナミクスと水素結合ネットワーク, 第52回高分子と水に関する討論会, 東京工業大学(大岡山), 2014年12月9日.
- 1317) 藤田剛生, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, 税田祥平, 藤田恭子, 大野弘幸, 誘電分光法を用いたホスホコリン水溶液の分子ダイナミクス評価, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2014年7月24日.
- 1318) 萬代健太, 佐々木海渡, 新屋敷直木, 喜多理王, 八木原晋, 誘電分光法による 1-propanol 水溶液の分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2014年7月24日.
- 1319) 佐々木海渡, 喜多理王, 新屋敷直木, 八木原晋, ピコ秒からメガ秒のソフトマター分子ダイナミクス, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講演会, 東海大学(平塚市), 2014年7月24日.
- 1320) 喜多理王, ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析, 科研費新学術「ゆらぎと構造の協奏」公募班キックオフ研究会, 京都大学(京都市), 2014年4月26日.
- 1321) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 榎山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, "マイクロ流体制御による一細胞スケールでの液性刺激", 2014年度精密工学会秋季大会学術講演会, pp.135-136, 鳥取大学鳥取校舎(鳥取県鳥取市), 2014年9月16日-18日
- 1322) 矢崎亮, 鳶崎翔, 槌谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, "マイクログルコースセンサにおける酵素固定法の検討", 2014年度精密工学会秋季大会, pp.141-142, 鳥取大学鳥取校舎(鳥取県鳥取市), 2014年9月16日-18日
- 1323) 梅津大貴, 堀尾直史, 木村啓志, "濾過・再吸収機能を再現する腎臓モデルデバイスの構築", 日本機械学会関東学生会第54会学生員卒業研究講習会, P404, 横浜国立大学(神奈川県横浜市), 2015年3月20日
- 1324) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, "マイクロバイオリクターを活用した複合糖質合成", 日本化学会第95春季年会(2015) 日本大学 理工学部船橋キャンパス/薬学部, 2015年3月29日
- 1325) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 榎山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, "一細胞"スケールでの液性刺激を実現するマイクロ流体デバイス", 日本機会学会第6回マイクロ・ナノ工学シンポ

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- ジウム, 日本機会学会, pp.210-211, くにびきメッセ(島根県松江市), 2014年10月20日-22日
- 1326) 堀尾直史, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “薬剤代謝機能を再現する肝代謝モデルデバイスの構築”, シンポジウム: 細胞アッセイ技術の現状と将来, 細胞アッセイ研究会, P25, 東海大学生産技術研究所コンベンションホール, 2015年1月13日
- 1327) 永樂俊, 矢崎亮, 銚谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “異なる電極材料によるマイクログルコースセンサ性能の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第3回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第3回学術講演会, P34, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2014年7月24日
- 1328) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体プローブ集積型デバイスによる一細胞刺激”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第3回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.33, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2014年7月24日
- 1329) 新井健太, 蟹江善美, 洞山正幸, 木村啓志, 樺山一哉, 蟹江治, “化学工学的アプローチによる細胞脂質膜の動態解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第3回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.34, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2014年7月24日
- 1330) 額賀正行, 小川陽, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球の変形能計測デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, P42, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1331) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, “精子選別機能を有する媒精デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P57, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1332) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, “癒着防止材を指向した裁断化高分子超薄膜の形態制御”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P62, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1333) 石井翔, 洞山正幸, 樺山一哉, 木村啓志, “三次元重力分散型微小重力装置の重力変化に関する検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, P85, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1334) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを活用した糖鎖転移反応促進”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, P98, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1335) 蓼沼啓介, 田中潤太郎, 中山平, 永田栄一朗, 瀧澤俊也, 木村啓志, “オンチップ invitro 脳虚血モデルの構築に向けて”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tµne] 第4回学術講演会, P132, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1336) 梅津大貴, 堀尾直史, 木村啓志, “腎臓機能を再現する臓器モデルデバイスの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, P080, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1337) 武永光雄, 笠原大嗣, 稲垣豊, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスによる肝細胞培養”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 [Tµne] 第4回学術講演会, P115, 東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1338) 楊路, 園部敦, 浅尾幸平, 小町卓也, 岡村陽介, 長瀬裕, 木村啓志, “高分子超薄膜被覆により PDMS 表面改質の特性評価”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tµne]第4回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P127, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015年2月26日
- 1339) 中村寛子, 古目谷暢, 藤井輝夫, 小川毅彦, 木村啓志, “精巣組織片培養のためのマイクロ流

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 体デバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P104, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1340) 諸星和, 堀尾直史, 矢崎亮, 梅津大貴, 永楽駿, 榎谷和義, 木村啓志, ”オンチップグルコースセンサ集積型肝代謝モデルの構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P70, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1341) 堀尾直史, 酒井康行, 藤井輝夫, 木村啓志, “肝臓代謝機能を模倣する肝臓モデルデバイスの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, P120, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市)
- 1342) 荒木良介, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, ”マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.54, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1343) 笠原大瑚, 稲垣豊, 木村啓志, ”マイクロ流体デバイス内酸素勾配形成による肝小葉構造の構築”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.135, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1344) 千田翔太, 原太一, 塚本智史, 藤森俊彦, 木村啓志, “胚アッセイに向けた薬剤スクリーニングデバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, pp.88, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1345) 古市啓朗, 荒田幸信, 稲葉岳彦, 佐甲靖志, 木村啓志, ”細胞極性システムのサイズ不変性仮説の検証に向けたツールの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.50, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1346) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 榎山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, "高分解能液性刺激に向けたマイクロ流体デバイス", 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, p.110, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1347) 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, “細胞動態計測に向けたオンチップグルコースセンサの検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[Tμne]第 4 回学術講演会, p.125, 東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市), 2015 年 2 月 26 日
- 1348) 額賀正行, 小川陽, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球変形能計測デバイスの開発”, 日本機械学会関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 414, 横浜国立大学(横浜市), 2015 年 3 月 20 日
- 1349) 高橋翼, 中村寛子, 木村啓志, ”精子選別機能を有する媒精用マイクロデバイス”, 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, No.1105, 横浜国立大学(神奈川県横浜市), 2015 年 3 月 20 日
- 1350) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, ”マイクロ流体デバイスを活用した糖鎖転移反応促進”, 日本機械学会関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 1102, 横浜国立大学(横浜市), 2015 年 3 月 20 日
- 1351) 永楽駿, 矢崎亮, 榎谷和義, 藤井輝夫, 木村啓志, ”異なる電極材料によるマイクログルコースセンサ性能の検討”, 日本機械学会関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 413, 横浜国立大学(横浜市), 2015 年 3 月 20 日
- 1352) 鈴木太理, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “溝付きドライガスシールにおける気体流れの可視化実験”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 1353) 吉越彩香, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “2つの給油口を有する小型真円ジャーナル油膜すべり軸受の振動特性”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年 3 月

- 1354) 今村祥, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “空気潤滑を可能とする HDD 用スピンドルの開発”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 1355) 横井誉壮, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボの羽ばたき時のピッチングモーメント測定装置の作製”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 1356) 藤本英治郎, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間の摩擦特性に与えるローラ表面粗さの影響”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 1357) 今井貴博, 砂見雄太, 橋本巨, “巻き取りロール内部の応力分布を測定可能とする圧力センサの製作”, 日本機械学会 関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, 2015 年 3 月
- 1358) 藤本英治郎, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間の摩擦特性に及ぼすローラ表面粗さの影響”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会, 2015 年 2 月
- 1359) 飯山誠也, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “巻取りロールにおける軸方向の応力分布測定を可能とするセンサ製作方法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会, 2015 年 2 月
- 1360) 水戸部充希, 伊勢田祐也, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “インクジェット方式印刷による薄膜圧力センサーの開発”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 4 回学術講演会, 2015 年 2 月
- 1361) 小玉翔伍, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ドライガスシールのシール時における気体流れの可視化実験”, ‘14 SAS インテリジェントシンポジウム, 2014 年 11 月
- 1362) 藤原靖, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間のトライボロジー特性に関する基礎研究”, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2014 秋 盛岡, 2014 年 11 月
- 1363) 原田啓, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “小型流体軸受スピンドルの性能評価”, 日平成 26 年度 神奈川ものづくり技術交流会, 2014 年 10 月
- 1364) 水戸部充希, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “翅表面の圧力測定装置の作製”, 日平成 26 年度 神奈川ものづくり技術交流会, 2014 年 10 月
- 1365) 藤原靖, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間のトライボロジー特性に及ぼす雰囲気の影響”, 日本トライボロジー学会 第五回 トライボロジー 秋の学校 in 愛知, 2014 年 9 月
- 1366) 杉石光, 飯山誠也, 砂見雄太, 橋本巨, “巻取りロールの内部応力に及ぼす厚みムラの影響”, 日本機械学会 2014 年度年次大会, 2014 年 9 月
- 1367) 藤原靖, 砂見雄太, 橋本巨, “プラスチックフィルムと鋼ローラ間の摩擦特性に及ぼす雰囲気の影響”, 日本機械学会 2014 年度年次大会, 2014 年 9 月
- 1368) 酒井風馬, 砂見雄太, 橋本巨, “トンボの羽ばたき運動の変化と空気力の関係”, 日本機械学会 2014 年度年次大会 第 20 回卒業研究コンテスト, 2014 年 9 月
- 1369) 飯山誠也, 砂見雄太, 橋本巨, “多点センサを用いた巻取りロールの軸方向に対する応力分布測定”, 日本機械学会 2014 年度年次大会 第 20 回卒業研究コンテスト, 2014 年 9 月
- 1370) 横山大一郎, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ダイカスト鋳造法における適切な射出行程の確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 3 回学術講演会, 2014 年 7 月
- 1371) 井上達貴, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “断面形状の異なる人工翅を用いた定常揚力実験”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 3 回学術講演会, 2014 年 7 月
- 1372) 鈴木太理, 砂見雄太, 橋本巨, 落合成行, “最適化手法を用いたドライガスシールにおける

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 有効性の実験的検証”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第3回学術講演会, 2014年7月
- 1373) 落合成行, 佐々木勇人, 砂見雄太, 橋本巨, “溝形状最適化による非接触ドライガスシールの密封性能の向上 – 広範囲の運転条件下における最適溝形状の検討 –, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2014 春, 2014年5月
- 1374) 中尚義, 川村祐太郎, 砂見雄太, 橋本巨, “トンボの翅表面の微細突起構造が滑空飛行に及ぼす影響”, 日本トライボロジー学会 トライボロジー会議 2014 春, 2014年5月
- 1375) 秦野 伸二、潘 雷、大友 麻子、阿部 幸一郎、小池 正人、内山 安男、青木 正志、吉井 文均、石井 哲郎、柳川 徹、p62/SQSTM1 の機能喪失は ALS マウスモデルの疾患症状を悪化させる、日本実験動物科学技術さつぼろ 2014:第 61 回日本実験動物学会総会/第 48 回日本実験動物技術者協会総会、講演要旨集、口頭発表、p190(0088-S)、札幌(May 15-17).
- 1376) 佐藤海、大友麻子、秦野伸二、ALS2 変異体発現コンストラクトの構築と ALS2 変異体の機能解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第3回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P038)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 1377) 久保瑞希、潘雷、大友麻子、秦野伸二、ALS マウスモデルにおける疾患の発症と進行に伴うオートファジー活性の変化について、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第3回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P039)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 1378) 三井駿、潘雷、大友麻子、秦野伸二、ALS 発症に及ぼす p62/SQSTM1 の影響、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第3回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P040)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 1379) 小野寺和歌奈、大友麻子、福田光則、秦野伸二、ALS2 結合候補分子、低分子量 G タンパク質 Rab30 の細胞内動態解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第3回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P041)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 1380) 小野 鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二、HeLa 細胞における ALS2 と低分子量 G タンパク質 Rab17 の局在解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tjune】第3回学術講演会、プログラム&予稿集、11(P042)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Jul.24).
- 1381) 秦野 伸二、潘 雷、大友 麻子、阿部 幸一郎、小池 正人、内山 安男、青木 正志、石井 哲郎、柳川 徹、Hui-Fang Shang、吉井 文均、オートファジー基質である p62/SQSTM1 の機能喪失は ALS マウスモデルの疾患症状を悪化させる、O-I-1-1、口頭発表 (英語)、第 37 回日本神経科学大会(Neuroscience2014)、横浜(Sept-13)
- 1382) 秦野 伸二、王 亭、田中 政之、林 英樹、荻原 早苗、岡田 千沙、伊藤 誠敏、福西 菜穂子、飯田 裕美、中村 彩花、大友 麻子、大塚 正人、オートファジー動態の可視化を目的とした新規トランスジェニックマウスの作出、第 37 回日本分子生物学会年回、ポスター発表、266(2P-0944)、横浜(Nov 25-27).
- 1383) 藤谷 和子、大友 麻子、永山 勇人、立花 太郎、加藤 朋子、高田 修治、加藤 利佳、小寺 義男、高松 信彦、伊藤 道彦、Isolation and characterization of DMRT1-associated factors in *Xenopus male gonads*、第 37 回日本分子生物学会年回、口頭発表 : 106(3W-12-9)、ポスター発表 : 318(3P-0618)
- 1384) 小野寺 和歌奈、大友 麻子、福田 光則、秦野 伸二、筋萎縮性側索硬化症原因遺伝子産物 ALS2 に結合する新規調節因子 Rab30 の機能解析、第 37 回日本分子生物学会年回、ポスター発表、301(3P-0384)、横浜(Nov 25-27).
- 1385) 小野 鈴花、大友 麻子、福田 光則、秦野 伸二、ALS2 及び新規 ALS2 結合低分子量 G タンパク質 Rab17 の細胞内局在解析、第 37 回日本分子生物学会年回、ポスター発表、301(3P-0385)、横浜(Nov 25-27).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 1386) 井上陽子、大友麻子、佐藤忠之、林英樹、田中政之、谷回泰史、木村穰、秦野伸二(2015)「生物」高校生の理解を助ける遺伝子実験教材の開発 ～ DNA 配列の共通性と多様性に焦点をあてて～、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、31(P002)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 1387) 佐藤海、大友麻子、秦野伸二(2015)ALS2 変異体コンストラクトの構築と ALS2 変異体の機能解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、43(P013)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 1388) 久保瑞希、大友麻子、秦野伸二(2015) p62/sqstm1 欠損 ALS マウスモデルの疾患発症と進行に伴う遺伝子発現変化について、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、46(P016)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 1389) 荒木良介、大友麻子、秦野伸二、木村啓志(2015) マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、54(P024)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 1390) 三井駿、大友麻子、秦野伸二(2015)p62/SQSTM1 の欠損が ALS モデルマウスの発症を速める要因の探索、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、65(P034)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 1391) 小野鈴花、大友麻子、福田光則、秦野伸二(2015)ALS2 及び ALS2 結合低分子量 G タンパク質 Rab17 の細胞内局在、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、74(P043)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 1392) 小野寺和歌奈、大友麻子、福田光則、秦野伸二(2015)ALS2 結合候補分子、低分子量 G タンパク質 Rab30 の細胞内動態解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、75(P044)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 1393) 白川涼平、大友麻子、秦野伸二(2015)蛍光タンパク質を融合させた SQSTM1/p62 発現プラスミドの構築とその機能解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、112(P081)、東海大学湘南キャンパス/平塚(Feb 26).
- 1394) 濱祐太郎、大友麻子、秦野伸二(2015)ALS 患者由来 p62/SQSTM1 変異体のオートファジー関連機能の解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第4回学術講演会、プログラム&予稿集、130(P099)、東海大学湘南キャンパス/平塚 (Feb 26).
- 1395) 新井健太、蟹江善美、洞山正幸、木村啓志、樺山一哉、蟹江治、化学工学的アプローチによる細胞脂質膜の動態解析、東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第3回学術講習会・湘南7月24日(2014) *ポスター賞受賞
- 1396) 樺山一哉、三宅亜依、Tack Joong Kim、Han Sung Kim、宇宙環境利用を志向した脂質解析法の確立 第6回「光塾」・明石 9月6日(2014)
- 1397) 洞山正幸、大久保智樹、新井健太、樺山一哉、藤井輝夫、木村啓志、一細胞スケールの部位局所的な液性刺激を実現するマイクロ流体デバイス、第6回マイクロ・ナノ工学シンポジウム・松江 10月20日(2014)
- 1398) 中川草、哺乳類のゲノムに内在化するウイルス由来の配列の比較解析、第37回日本分子生物学会、横浜、2014年11月
- 1399) 下出紗弓、中川草、宮沢孝幸、ネコの進化過程における内在性レトロウイルスの獲得、第37回日本分子生物学会、横浜、2014年11月
- 1400) 中川草、次世代シーケンサを用いたウシ胎盤形成に関与する内在性ウイルス由来の遺伝子の分子進化解析、第3回生命医薬情報学連合大会、仙台、2014年10月
- 1401) 中川草、哺乳類のゲノムに内在化したウイルス由来の配列データベース、日本進化学会

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

第 16 回大阪大会，高槻，2014 年 8 月
1402) 中川草，内在性ウイルスのデータベース作成に向けて，第 17 回 日本レトロウイルス研究会夏期セミナー，熱海，2014 年 7 月

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

文理融合の柔軟なテーマから、教育・研究・卒業後進路の啓発、ニコンとの共催講演会、専門的な学術講演会など、学術的・教育的な交流を深めるために多岐にわたる大小さまざまな講演会シリーズを主催してきた。以下にそのタイトルと発表者を記す。

上記の講演会シリーズとは別に「コアタイムコーヒー（毎週 月、水、金 15:00 から）を開催中であり、これにより教職員、学生、企業人が自由な雰囲気での交流できる場を提供している。なお、これら講演会シリーズ等については随時ホームページで情報公開している。以下にイベント別・年度別に記す。これら情報は主に下記の URL にて情報公開中である。

東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター ホームページ

<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/>

東海大学マイクロ・ナノ啓発会 ホームページ

<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/>

東海大学イメージング研究センター ホームページ

<https://www.ticar.u-tokai.ac.jp/>

【国際シンポジウム】

- 1) The IRAGO Conference 2018 (共催 電気通信大学、豊橋技術科学大学、東海大学)
Interdisciplinary Research And Global Outlook(IRAGO)
Organized by, The University of Electro-Communications Tokyo, Toyohashi University of Technology, and Tokai University
November 1, 2018
Washington Hotel Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan
<http://iragoconference.jp/>
- 2) The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment 【Tune】 (共催)
December 14, 2018
Hawaii Tokai International Colledge, HTIC, USA
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/>
 - * Invited Talk 1
Dr. Margaret A Perkinson, PhD
Director, Center on Aging, University of Hawai'i at Manoa
“Promoting Quality of Life through Collaborative Practice”
 - * Invited Talk 2
Prof. Naoaki Ishii
School of Health Studies, Tokai University
“What is food that leads to health maintenance / promotion”
- 3) MNTC International Symposium 2017 (主催)
Micro/Nano Technology Center, International Symposium 2017
August 26-27, 2017
Shonan Campus, Tokai University, Japan
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/is2017/>
 - * Invited Talk 1
Prof. Jan K.G. Dhont
Forschungszentrum Juelich and Heinrich-Heine Universität Düsseldorf
“Shear-gradient induced mass transport -Non-uniform flow of glasses and gels-”

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

* Invited Talk 2

Prof. Adarsh Sandhu

University of Electro-Communications

“Magnetically Induced Manipulation of Functionalized Magnetic Nanoparticles for Point of Treatment Medical Diagnostics”

*Special Lecture 1

Prof. Yosuke OKAMURA, Tokai University.

“Freestanding Bio-friendly Nanosheets for Biomedical Applications”

*Special Lecture 2

Prof. Hiroshi KIMURA, Tokai University and Davied Geffen School of Medicine, UCLA

“Microfluidic Technology for Medical and Biological Applications”

- 4) The IRAGO Conference 2017 (共催 電気通信大学、豊橋技術科学大学、東海大学)

Interdisciplinary Research And Global Outlook

Organized by the University of Electro-Communications Tokyo, Toyohashi University of Technology and Tokai University

November 1-2, 2017

University of Electro-Communications, Chofu City, Tokyo

<http://www.iragoconference.jp/index2017.html>

- 5) 【私大戦略事業最終報告会（5年目）、兼 公開評価会】

平成 26 年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 最終報告会

“東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」”

2019 年 2 月 23 日 13:00～17:30

東海大学湘南キャンパス(平塚市) 19 号館 3 階 311 室 および 1 階ホール

http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=2&lang=ja

開会の辞 稲津 敏行 マイクロ・ナノ研究開発センター所長

副学長挨拶 梶井 龍太郎 東海大学副学長（企画・戦略担当）

来賓挨拶 井上 睦子 文部科学省高等教育局私学助成課長

成果発表

事業内容と成果の概略発表 喜多 理王

創るチーム成果発表 岡村 陽介

試すチーム成果発表 槌谷 和義

知るチーム成果発表 樺山 一哉

審査員講評

石野 史敏 東京医科歯科大学難治疾患研究所所長

石原 一彦 東京大学大学院工学研究科

谷下 一夫 早稲田大学 慶応大学名誉教授

ポスターセッション

閉会の辞 岩森 暁 東海大学産官学連携推進課課長

- 6) 【私大戦略事業中間（3年目）最終報告会、兼 公開評価会】

平成 26 年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 中間報告会

東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」

2017 年 2 月 25 日（土）9:50～12:30

東海大学湘南キャンパス（平塚市）6 号館 6B-101 室

https://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/shonan/news/detail/post_674.html

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

開会の辞 稲津 敏行 マイクロ・ナノ研究開発センター所長
副学長挨拶 吉田 一也 東海大学副学長 (研究担当)
事業概要説明 喜多 理王
創るチーム成果発表 岡村 陽介 砂見 雄太
試すチーム成果発表 木村 啓志 大友 麻子 槌谷 和義
知るチーム成果発表 樺山 一哉 中川 草 喜多 理王
審査員講評
石野 史敏 東京医科歯科大学難治疾患研究所所長
石原 一彦 東京大学大学院工学研究科
谷下 一夫 早稲田大学 慶応大学名誉教授
ポスターセッション
閉会の辞

【学術講演会、報告会、シンポジウム等】

http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja

2018 年度 (学術講演会、報告会、シンポジウム等)

- 7) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 54 回講演会
2019 年 3 月 20 日 15:30~18:00
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2019/02/MNTC_第54回講演会.pdf
福田 篤 助教 (東海大学 創造科学技術研究機構医学部門)
“ヒトES/iPS細胞の生物医学研究とは? ~ゲノム編集から病態モデリングまで~”
松前 義治 助教 (東海大学 工学部 応用化学科)
“マイクロ・ナノ電極を用いた単一細胞分析”
岸 圭介 (株式会社Root 代表取締役 CEO)
“仮想・現実統合型アグリビジネス「Root Farm」の意義と可能性”
- 8) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 53 回講演会
Veena Mounasamy (Center for Nano Technology and Advanced Biomaterials (CeNTAB),
SASTRA Deemed to be University)
“Template Free Synthesis of Vanadium Oxide Nanostructures for Chemiresistive Sensing
Application”
2018年10月22日 17:30~18:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/Seminar_53.pdf
- 9) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 52 回講演会
宮沢 正樹 講師 (東海大学 健康学部 健康マネジメント学科)
“細胞内鉄代謝制御系を標的とした癌治療の可能性”
2018 年 8 月 2 日 15:00~17:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/MNTC52_SP.pdf
- 10) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 51 回講演会
Dr. Rajan Kalpoondi Sekar (Centre for Nanotechnology & Advanced Biomaterials, Sastra
University)
“Microdevices : Ocean of opportunities for inter-disciplinary research”
2018 年 8 月 2 日 13:00~14:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/MNTC51_SP.pdf

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 11) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 50 回講演会
 Dr. Huang Wenjing (Post-doc Researcher Micro/Nano Technology Center)
 Cell biomechanics and egg-in-cube
 2018 年 5 月 15 日 16:00~17:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/MNTC50_PD-1.pdf
- 12) 東海大学イメージング研究センター研究成果講演会およびアートインサイエンス
 2018 年 12 月 21 日 14:30~16:00
 マイクロ・ナノ研究開発センター
<https://www.ticar.u-tokai.ac.jp/?p=1685>
 落合 成行 教授 (東海大学 工学部 機械工学科)
 “卓上 SEM を中心とした成果発表”
 三橋 弘明 講師 (東海大学 工学部 生命化学科)
 “共焦点レーザー顕微鏡の研究成果”
 前田 秀一 教授 (東海大学 工学部 光・画像工学科)
 “SMZ745 を使って得た成果”
 山花 京子 准教授 (東海大学 文化社会学部 アジア学科)
 “X-RAY で測定できた遺物たち”
 高尻 雅之 教授 (東海大学 工学部 材料科学科)
 “BW を使用して得た研究成果”
- 13) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第 9 回学術講演会 (共催)
 2018 年 8 月 24 日~25 日
 東海大学熊本校舎
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/?m=201805>
 *オーラルセッション
 喜多 理王 教授 (東海大学 理学部 物理学科、マイクロ・ナノ研究開発センター)
 “東海大学マイクロ・ナノ研究開発センターの現在と未来”
 南部 宥暢 (太陽化学株式会社)
 “グリーンテクノロジーを拓く～「食べる」を研鑽して環境・エネルギーへ挑む～”
 今井 早希 助教 (東海大学 農学部 応用動物科学科)
 “マウスの行動を制御する分子メカニズムの解明”
 今川 和彦 教授 (東海大学 総合農学研究所)
 “Integration of molecules to construct the processes of conceptus implanation to the material endometrium”
- 14) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 49 回講演会
 “エッペンドルフ株式会社によるマイクロピペットセミナー”
 2018 年 4 月 26 日金曜日 16:00~17:00 マイクロ・ナノ研究開発センター

2017 年度 (学術講演会、報告会、シンポジウム等)

- 15) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 48 回講演会
 東海大学 MNTC 特定研究員
 “MNTC 特定研究員による 2017 年度研究成果報告会”
 2018 年 3 月 23 日金曜日 10:00~14:00 於 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/vol48.pdf>
- 16) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 47 回講演会
 田中 克典 博士 (理化学研究所 田中生体機能合成化学研究室 主任研究員)
 “生体内合成化学治療”
 2018 年 3 月 23 日金曜日 16:00~17:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/vol47.pdf>
- 17) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 46 回講演会
 大矢 裕一 教授 (関西大学 先端科学技術推進機構医工薬連携研究センター長)
 “『人に届く』関大メディカルポリマーによる未来医療の創出”

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 2018年1月25日木曜日 15:00～16:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/vol46.pdf>
- 18) マイクロ・ナノ研究開発センター 第45回講演会
 Dr. Md. Shahiduzzaman (Post-doc Researcher Department of Chemistry, School of Science, Tokai University)
 “Planar Heterojunction Perovskite Solar Cells fabricated by Wet and Dry Process”
 2018年1月15日月曜日 17:00～18:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/12/2アートボード-1.pdf>
- 19) マイクロ・ナノ研究開発センター 第44回講演会
 Dr. Tsanka Dikova (Faculty of Dental Medicine, Medical University of Varna, Varna, Bulgaria)
 “NANO-ENGINEERED TITANIUM SURFACES FOR BIOMEDICAL APPLICATIONS”
 2017年12月11日 15:30～16:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/11/special44.pdf>
- 20) マイクロ・ナノ研究開発センター 第43回講演会
 坂口 翔一 博士 (東京農工大学 農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター 特別研究員・日本学術振興会 特別研究員)
 “猫はなぜ腎臓病になりやすいのか - ネコモルビリウイルスと慢性腎不全の関係 -”
 2017年11月17日金曜日 11:00～12:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/SPECIAL43.pdf>
- 21) マイクロ・ナノ研究開発センター 第42回講演会
 Prof. dr. Xiangqiong Zeng (Shanghai Advanced Research Institute, Chinese Academy of Sciences)
 “Skin tribology and water based lubrication”
 2017年10月31日火曜日 14:00～15:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/SPECIAL42.pdf>
- 22) マイクロ・ナノ研究開発センター 第41回講演会
 Dr. Tsvetina Dobrovska (Institute of Physical Chemistry, Bulgarian Academy of Sciences)
 “Pattern Formation during Electrodeposition of Alloys”
 2017年10月13日金曜日 15:30～16:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/seminar41.pdf>
- 23) マイクロ・ナノ研究開発センター 第40回講演会
 竹馬 俊介 講師 (慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学)
 “クロマチン制御因子 TRIM28 による T 細胞免疫の制御”
 2017年9月8日金曜日 14:00～15:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/09/special_40.pdf
- 24) マイクロ・ナノ研究開発センター 第39回講演会
 Dr. Sheng ZHENG (東海大学 MNTC ポストドクター)
 Dr. Dhivya PONNUSAMY (東海大学 MNTC 訪問研究員)
 “着任セミナー”
 2017年7月7日金曜日 16:00～17:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/07/PD_vol39.pdf
- 25) マイクロ・ナノ研究開発センター 第38回講演会
 富田 誠 講師 (東海大学教養学部美術学科デザイン学課程)
 “「Visualize Your Research」みんなが作れる研究内容の図解ワークショップ”
 2017年7月4日火曜日 15:00～18:00
 2017年7月11日火曜日 15:00～18:00
 於 マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/07/MNTC38.pdf>
- 26) マイクロ・ナノ研究開発センター 第37回講演会
 中川 敬章 氏 (中川産業株式会社代表取締役副社長)
 “中川産業株式会社による企業紹介 (キャリアトーク)”
 2017年7月1日土曜日 11:15～12:30
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/career-talk4_v2.pdf

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 27) マイクロ・ナノ研究開発センター 第36回講演会
 Dr. Metini Janyasupab (Department of Electronics Engineering, Faculty of Engineering King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, Bangkok, Thailand)
 “Development of Non-Enzymatic Electrochemical Based Biosensor for Breast Cancer Metastasis and Prognosis”
 2017年5月31日水曜日 15:00～16:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/MNTC_vol36.pdf
- 28) マイクロ・ナノ研究開発センター 第35回講演会
 山田 鉄兵 准教授 (九州大学大学院工学研究院応用化学部門)
 “熱化学電池についての最近の研究成果について”
 2017年5月25日木曜日 15:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/05/vol.35.pdf>
- 29) マイクロ・ナノ研究開発センター 第34回講演会
 エッペンドルフ株式会社によるマイクロピペットセミナー
 2017年5月15日月曜日 17:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/06/2017ピペットセミナー.pdf>

2016年度（学術講演会、報告会、シンポジウム等）

- 30) マイクロ・ナノ研究開発センター 第33回講演会 <PD講演会>
 マイクロ・ナノ研究開発センターPD/RAによる研究成果報告
 2017年3月22日水曜日 10:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/第33回PD講演会.pdf>
- 31) マイクロ・ナノ研究開発センター 第32回講演会 <特別セミナー>
 藤本 恭一 氏 (名古屋工業大学先進セラミックス研究センター特任研究員)
 「ナノ中空粒子の世界とその合成方法の紹介」
 2017年3月13日月曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/03/SPECIAL32.pdf>
- 32) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第8回学術講演会（共催）
 日時 2017年2月25日（土）
 場所 東海大学湘南校舎6号館6B-101, 17号館ネクサスホール
 ＊オーラルセッション
 ＊基調講演
 『文理融合研究の推進に向けて—文系と理系の興味が出会うとき—』
 山花 京子 准教授（東海大学文学部アジア文明学科）
 『理系の一研究者が体験した(体験中)の文理融合研究の面白さと課題』
 秋山 泰伸 教授（東海大学工学部応用化学科）
 ＊特別講演
 『洗浄論争とオリジナル—近代保存修復学と光学調査の射程』
 田口 かおり 講師（東海大学創造科学技術研究機構）
 ＊ポスターセッション&企業展示
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/?m=201611>
- 33) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第7回学術講演会（共催）
 日時 2016年8月9日（火）
 場所 東海大学湘南校舎17号館ネクサスホール
 ＊オーラルセッション
 ＊基調講演
 『クライオ電子顕微鏡で見る繊毛の分子構築メカニズム』
 吉川 雅英 教授（東京大学医学系生体構造学分野）
 『非接触測定、非接触非破壊検査へのニコンとしての挑戦』
 圓谷 寛夫 氏（株式会社ニコン 産業機器事業部 部長）
 ＊ポスターセッション
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/?m=201606>

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 34) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 31 回講演会 <特別セミナー>
 Ir. Dr. M. Danial Ibrahim (Universiti Malaysia Sarawak)
 “Innovating Research in Academia with Industrial Research”
 2017 年 7 月 8 日水曜日 18:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/SPECIAL31.pdf>
- 35) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 30 回講演会 <特別セミナー>
 Dr. Alex Rozhin (Aston University)
 “Functionalized carbon-based nanomaterials as nano-ink for printable photonic applications”
 2016 年 11 月 17 日金曜日 16:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/special_30.pdf
- 36) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 29 回講演会 <特別セミナー>
 Dr. R. Jhon Bosco Balaguru (SASTRA University/インド)
 “Nano-Bio-Sensors for Food & Water Quality Applications”
 2016 年 11 月 14 日月曜日 16:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/special_29.pdf
- 37) マイクロ・ナノ研究開発センター講演会 <特別セミナー>
 Dr. Simone Wiegand (ユーリッヒ研究所/ドイツ)
 “Use of thermal gradients in soft matter systems”
 2016 年 9 月 29 日木曜日 17:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja
- 38) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 28 回講演会
 計測エンジニアリングシステム株式会社による
 「汎用物理シミュレーションソフト COMSOL 紹介セミナー」
 2016 年 8 月 10 日金曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/comsol_セミナー.pdf
- 39) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 27 回講演会
 野澤 和世 氏 (ランスタッド株式会社)
 キャリアトーク “大学院に進んで研究を頑張る学生さんのために～II”
 2016 年 8 月 5 日金曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/キャリアトーク_vol3.pdf
- 40) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 26 回講演会< Social Chat Salon >
 加瀬 大 氏 (東海大学新聞編集部)
 “大学の勉強って何の役に立つ?”
 2016 年 7 月 15 日金曜日 17:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/MNTC_第26回講演会_SCS.pdf
- 41) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 25 回講演会
 野澤 和世 氏 (ランスタッド株式会社)
 キャリアトーク “大学院に進んで研究を頑張る学生さんのために”
 2015 年 6 月 3 日金曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/キャリアトーク_vol2.pdf
- 42) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 24 回講演会<特別セミナー>
 Dr. C. P. Vardhani (Osmania University, Hyderabad)
 “Development of Photonic Integrated Optical Devices and Components”
 2016 年 5 月 19 日木曜日 16:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/special_第24回MNTC講演会.pdf
- 43) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 23 回講演会
 エッペンドルフ株式会社によるマイクロピペットセミナー
 2016 年 5 月 16 日月曜日 17:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/ピペットセミナー.pdf>

2015 年度 (学術講演会、報告会、シンポジウム等)

- 44) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 22 回講演会

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- PD・RA7名による研究成果報告
「東海大学MNTC 特定研究員」
2016年3月9日水曜日 13:00～17:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/PD_第22回MNTC講演会.pdf
- 45) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第6回学術講演会 (共催)
日時 2016年2月19日(金)～20日(土)
場所 東海大学海洋学部海洋科学博物館講堂(東海大学清水キャンパス)
オーラルセッション
清水校舎 海洋学部
脇田和美 准教授 (海洋文明学科)
飯島美夏 准教授 (水産学科)
西川 淳 教授 (海洋生物学科)
野原健司 講師 (海洋生物学科)
坂上憲光 准教授 (航海工学科)
森坂匡通 講師 (海洋研究所)
湘南・伊勢原校舎 マイクロ・ナノ研究開発センター
喜多理王 教授 (物理学科)
岡村陽介 准教授 (応用化学科)
木村啓志 准教授 (機械工学科)
樺山一哉 准教授 (大阪大学理学研究科)
三橋弘明 准教授 (生命化学科)
阿部幸一郎准教授 (医学部基礎医学系)
ポスターセッション
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/?m=201511>
- 46) マイクロ・ナノ研究開発センター 第21回講演会
山下健太さん(東海大学工学部動力機械工学科2年次)
「世界の頂点を目指す戦い」
2015年12月11日金曜日 16:00～17:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/SCS%E7%AC%AC21%E5%9B%9E%E8%AC%9B%E6%BC%94%E4%BC%9A.pdf
- 47) マイクロ・ナノ研究開発センター 第20回講演会
坂本 純二 博士(公益財団法人九州先端科学技術研究所ナノテク研究室)
「紐からシートへ: 二次元高分子の合成と構造制御」
2015年12月11日金曜日 16:00～17:30 マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/special%E7%AC%AC20%E5%9B%9E%E8%AC%9B%E6%BC%94%E4%BC%9A-.pdf
- 48) マイクロ・ナノ研究開発センター 第19回講演会
保坂華子准教授(東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科)
「自由に考えるクリティカル・シンキングのすすめ」
2015年11月24日火曜日 13:25～14:55 マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/SCS%E7%AC%AC19%E5%9B%9E%E8%AC%9B%E6%BC%94%E4%BC%9A.pdf
- 49) マイクロ・ナノ研究開発センター 第18回講演会
Dr. Ganesh Kumar Mani (MNTC 特定研究員)
PD 着任セミナー
2015年11月4日水曜日 15:00～17:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja
- 50) マイクロ・ナノ研究開発センター 第17回講演会
遠藤誠二教授(東海大学政治経済学部経済学科)
「English 101: Secret Weapons」 Social Chat Salon Vol.5
2015年10月7日水曜日 17:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 51) マイクロ・ナノ研究開発センター 第16回講演会
岡嶋孝治教授 (北海道大学大学院情報科学研究科)
「細胞の物理学：プローブ顕微鏡による細胞の物性計測」特別セミナー Vol.3
2015年9月2日金曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/special_3_2.pdf
- 52) マイクロ・ナノ研究開発センター 第15回講演会
Dr.Simone Wiegand (ユーリッヒ研究所/ドイツ)
Thermophoresis: how it can be used in Soft Matter systems
2015年8月28日金曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/SPECIAL-vol.2_2.pdf
- 53) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tune】第5回学術講演会 (共催)
日時 2015年8月25日火曜日 13:00～
場所 伊勢原校舎松前記念講堂・望星台レストラン(医学部伊勢原キャンパス)
オーラルセッション
猪子英俊教授 (東海大学名誉教授)
渡辺亮助教 (京都大学 IPS 研究所)
山本義郎教授 (東海大学理学部数学科)
今西規教授 (東海大学医学部基礎医学系)
伊勢原校舎松前記念講堂・望星台レストラン
2015年8月25日火曜日 13:00～
<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/?m=201506>
- 54) ニコンバイオイメージングセミナー
(マイクロ・ナノ研究開発センター 第14回講演会)
～細胞イメージング技術が切り拓く医工連携研究の最前線～
本セミナーではこの分野を牽引されている2名の講師をお招きし、全反射顕微鏡を用いた生命機能解析や創薬研究の最先端の事例について講演していただきます。同時にバイオ関連研究の機器開発において高い技術力を誇り、また豊富な経験を有する企業による展示会を行います。
飯塚 怜 助教 (東京大学大学院薬学系研究科)
「エバネッセント光を利用した1分子蛍光イメージング」
畠山 裕康 助教 (東北大学大学院医工学研究科)
「一分子計測で迫る糖輸送体分子の細胞内輸送システム」
企業展示ブースと紹介プレゼン
2015年8月3日月曜日 13:00～17:30
湘南校舎17号館2階ネクサスホール
(協賛・出展企業)
アズワン(株)・アンドール・テクノロジーLtd、エルピクセル(株)、オリエンタル技研工業(株)、倉敷紡績(株)、ジーエルサイエンス(株)、島津サイエンス東日本(株)、ストレックス(株)、住商ファーマインターナショナル(株)、(株)ニコインステック、(株)フローベル、メルク(株)、モレキュラーデバイスジャパン(株)、理科研(株)、ワケンビーテック(株)
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2015/07/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%82%A4%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%BB%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC.pdf
- 55) マイクロ・ナノ研究開発センター 第13回講演会
野澤 和世 氏 (ランスタッド株式会社)
Career Talk Vol.1 「大学院で研究する皆さんへ」
2015年7月22日水曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja
- 56) マイクロ・ナノ研究開発センター 第12回講演会
佐々木 海渡 氏 (MNTC 特定研究員)
Social Chat Salon Vol.4 「MNTCにおける高分子超薄膜の電気計測のこれから」
2015年7月16日木曜日 17:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/scs%E3%82%AB%E3%82%A4%E3%83%8

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

[8.pdf](#)

- 57) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 11 回講演会
太田博之氏 (イルミナ株式会社)
「次世代シーケンサ MiSeq 活用セミナー」
2015 年 7 月 8 日水曜日 18:00～19:00 マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/MiSeqSeminar.pdf
- 58) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 10 回講演会
橋本 巨 教授 (工学部機械工学科教授)
イブニングセミナーVol.3 「院生からプロ教員への道のり～若手研究者へのメッセージ～」
2015 年 7 月 3 日金曜日 17:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/%E3%82%A4%E3%83%96%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%BB%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BCvol.3.pdf
- 59) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 9 回講演会
木元 道博 氏 (研究推進部産官学連携センターPM)
ランチョンセミナー Vol.1 「企業の R&D 戦略、知財戦略について」
2015 年 6 月 22 日月曜日 12:35～ マイクロ・ナノ研究開発センター
http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja
- 60) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 8 回講演会
武岡 真司 教授 (早稲田大学先進理工学部 生命医科学科)
特別セミナー Vol.1 「高分子ナノシートのユニークな物性と それを利用した応用展開」
2015 年 6 月 12 日金曜日 16:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/SPECIAL-vol.1.pdf
- 61) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 7 回講演会
鈴木 裕一 氏 (教育支援センター技術支援課)
Social Chat Salon Vol.3 「室内環境と作業効率」
2015 年 5 月 29 日金曜日 17:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/11/SCS20150529_suzuki.pdf
- 62) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 6 回講演会
萱場隆人氏 (健康推進センター保健師)
Social Chat Salon Vol.2 「お酒の適量を知っていますか？」
2015 年 5 月 15 日金曜日 17:30～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2015/05/SCS20150515.pdf
- 63) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 5 回講演会
加藤 英晃 先生 (工学部動力機械工学科)
Social Chat Salon Vol.1 「マジックと心理工学」
2015 年 4 月 20 日月曜日 17:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/SCS20150420_a.pdf
- 64) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 4 回講演会
橋本 巨 先生 (工学部機械工学科教授)
イブニングセミナーVol.2 「院生からプロ教員への道のり～若手研究者へのメッセージ～」
2015 年 4 月 28 日火曜日 17:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/%E3%82%A4%E3%83%96%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%BB%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC2.pdf
- 65) マイクロ・ナノ研究開発センター 第 3 回講演会
PD3 名による講演・勉強会
張 宏 博士
横山 奨 博士
Isala Dueramae Ph.D
2015 年 4 月 17 日金曜日 15:00～ マイクロ・ナノ研究開発センター
www.mnc.u-tokai.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/PD%E7%AC%AC3%E5%9B%9E%E8%AC%9B%E6%BC%94%E4%BC%9A.pdf

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

2014 年度（学術講演会、報告会、シンポジウム等）

66) キックオフセミナー

2015 年 2 月 26 日（木） 9:00~12:10

湘南校舎 6 号館 6B-101

「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」

挨拶	副学長（研究担当）	吉田 一也
研究プロジェクト概要説明	研究代表者	喜多理王
研究内容説明		喜多理王、岡村陽介、砂見雄太、 槌谷和義、木村啓志、大友麻子、 樺山一哉、中川草

終わりに 社会連携イノベーションセンター所長 稲津敏行

http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja

67) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【tune】 第4回学術講演会（共催）

日時 2015 年 2 月 26 日 13:00~

場所 湘南校舎 6 号館 6B-101・コムスクエア 2 階

東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune)】は、東海大学の医理工など各分野で展開されているマイクロ・ナノサイズ領域における研究内容の相互理解を深めるため、学術講演会を開催いたします。

特別講演 小島直也先生（東海大学研究推進部部長・工学部生命化学科教授）

口頭発表 学内共同研究に関する成果発表

ポスター発表 学生・教員による研究成果発表

<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/?m=201412>

68) イブニングセミナー

Vol.1 2015 年 2 月 12 日(木)

於 マイクロ・ナノ研究開発センター

橋本 巨 先生（東海大学工学部教授）

「ウェブハンドリング技術を中心とした産学連携について ～若手研究者へ向けて～」

http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?page_id=34&lang=ja

69) マイクロ・ナノ研究開発センター開所式 / 施設見学会 / 交流会

2015 年 1 月 16 日（金） 於 マイクロ・ナノ研究開発センター

<http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/?p=242&lang=ja>

70) マイクロ・ナノ研究開発センター 第1回講演会

2014 年 9 月 24 日（水）湘南校舎 18 号館 1 階サイエンスフォーラム

特定研究員 中川 篤 博士、
高橋（上田）真保子 博士、
楊 路 博士

<http://tokaiedu.sakura.ne.jp/tnp/view.php?d=868>

71) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【tune】 第3回学術講演会（共催）

日時 2014 年 7 月 24 日

場所 湘南校舎 14 号館 1 階 14-103・地下カフェラウンジ

東海大学マイクロ・ナノ啓発会【Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune)】は、東海大学の医理工など各分野で展開されているマイクロ・ナノサイズ領域における研究内容の相互理解を深めるため、学術講演会を開催いたします。第3回は各研究室の技術・機器紹介として、特色ある研究室を主催されている 12 名の先生からのご発表と、基調講演、特別講演を行います。

特別講演 鈴木明身先生、原木岳史氏・宮本泰男氏、佐藤忠之氏

基調講演 平山令明先生、亀岡京子先生

http://www.mnc.u-tokai.ac.jp/tune/?page_id=611

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<これから実施する予定のもの>

- 72) マイクロ・ナノ研究開発センター第 55 回講演会
キックオフ会 「私大戦略事業終了後に新メンバーを迎えて」
マイクロ・ナノ研究開発センター
2019 年 5 月 11 日 (土)
- 73) マイクロ・ナノ研究開発センター第 56 回講演会
「THE 大学ランキングと大学の研究情報発信 ―論文引用件数の状況を中心に―」
東海大学グローバル推進本部長 山口 滋 教授
2019 年 6 月 7 日 (金) 17:30~18:30
12 号館 1 階マイクロ・ナノ研究開発センター
- 74) 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 【Tune】 第 11 回学術講演会 (共催)
東海大学札幌キャンパス
2019 年 8 月 24 日 (土)
- 75) IRAGO2019 (電気通信大学、豊橋技術科学大学、東海大学 共催)
電気通信大学 (府中市)
2019 年 10 月 29 日 (火)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

14 その他の研究成果等

【知的財産関連 特許申請・取得】

- 1) 砂見雄太, 横山奨, 池田祐太,
“細胞パターンニング基板および細胞パターンニング基板の製造方法”, 特願 2018-152656.
- 2) 砂見雄太, ゼンシエン, 李涛, 呂國偉,
“知覚ファイバースキン”, 特願 2018-027696.
- 3) 藤井輝夫, 木村啓志, 小川毅彦, 古目谷暢.
“組織片の機能を発現・維持する方法および組織片培養デバイス”, 特許第 6439115 号, 2018 年 11 月 30 日.
- 4) 茂呂徹, 岡村陽介, 石原一彦, 齋藤琢, 矢野文子, 田中栄, 高野秀太.
薬剤担持薄膜, 特願 2017-165297, 2017 年 8 月 30 日出願.
- 5) 岡村陽介, 中川篤, 土屋笙子, 長瀬裕, 樋口昌史, 伊藤建, 小口真一.
芳香分子を担持でき、該担持した芳香分子を徐放できる担体が固定された薄膜, 特願 2017-169144, 2017 年 9 月 4 日出願.
- 6) 岡村陽介, 張宏, 鎗野目健二.
超薄膜から成る生体組織被覆用材料、及びそれで被覆された生体組織, 特願 2017-238482, 2017 年 12 月 13 日出願.
- 7) 深瀬浩一、篠原厚、金井好克、樺山一哉、兼田加珠子、張子見、真鍋良幸、下山敦史、白神宜史、畑澤順、
211At 標識化アミノ酸誘導体を含む医薬組成物及びその製造方法 出願 2018 年.3 月 16 日
- 8) 岡晃, 大塚正人, 大友麻子, 池田志孝,
変異型蛋白質、及び該変異型蛋白質を発現し円形脱毛を発症する遺伝子改変マウス, 特願 2017-182249.
- 9) 岡村陽介, 青木拓斗, 張宏,
「浮遊系細胞保定用多孔質超薄膜とその製造方法」,
特願 2016-225434, 2016 年 11 月 18 日出願.
- 10) 藤井輝夫, 土肥浩太郎, 木村啓志,
「細胞培養装置」,
特願 2016-176338, 2016 年 9 月 9 日出願.
- 11) 喜多理王, 木村啓志, 諸星和,
「水素同位体を含む水の分離方法」,
特願 2016-109028, 2016 年 5 月 31 日出願.
- 12) 岡村陽介, 長瀬裕, 曾我部大輝, 中川篤,
「異形高分子粒子の製造方法」,
特願 2015-086663, 2015 年 4 月 21 日出願, 特開 2016-204491, 2016 年 12 月 8 日公開.
- 13) 藤井輝夫, 木村啓志, 小川毅彦, 古目谷暢,
「組織片の機能を発現・維持する方法および組織片培養デバイス」,
特願 2014-119858, 2014 年 6 月 10 日出願, 特開 2015-231354, 2015 年 12 月 24 日公開.
- 14) 岡村陽介, 長瀬 裕, 小町 卓也, 保地 基典, 後藤 ユキ, 荒金 徹.
「高分子積層体」,
特願 2015-526780, 2015 年 4 月 20 日出願, 再表 2015/163289, 2017 年 4 月 13 日再公表.
[米国] 15/305460, 2015 年 4 月 20 日出願, US2017/0043062, 2017 年 2 月 16 日公表.
[欧州] 15783466.4, 2015 年 4 月 20 日出願, 3135315, 2017 年 3 月 1 日公表.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

【受賞等】 *1*2*3*5

- 1) 江口和也, Isala Dueramae, 砂見雄太, 岡村陽介, 喜多理王, 優秀ポスター賞, “ポリ乳酸裁断化超薄膜分散液の粘性率測定と評価”, 第41回日本バイオレオロジー学会年会, 名古屋, 2018年6月16,17日. (受賞者 江口和也)
- 2) K. Eguchi, N. Shinyashiki, S. Yagihara, R. Kita. Best poster prize, “Effect of changing guest molecule on thermodiffusion of cyclodextrin inclusion complex”, 13th International Meeting in Thermodiffusion (IMT13), Imperial College London, England, September 11-14 (2018). (受賞者 江口和也)
- 3) G.K. Mani, S. Asuka, Y. Yasoda, K. Tsuchiya, Best Presentation Award, “Fabrication of Single Cell Sensor to Monitor Cell Metabolites”, 2018 JSPE Spring Conference, Chuo University, Japan, 15-17 March (2018). (受賞者 G.K. Mani)
- 4) Y. Tsuyuki, T. Hasegawa, H. Hasegawa, K. Tsuchiya, Best Poster Award, “Development of noncontact deckle for papermaking”, 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College Hawaii, USA, December 14th (2018). (受賞者 Y. Tsuyuki)
- 5) K. Miyachi, G.K. Mani, K. Tsuchiya, Best Poster Award, “Fabrication and evaluation of round--edged square microneedle”, ICFMA2018, Daiichi Institute of Technology, Japan, 11th-20th January (2019). (受賞者 K. Miyachi)
- 6) 草柳夏美, 鎗野目健二, 青木拓斗, 中川篤, 張宏, 岡村陽介, 優秀ポスター賞, “熱応答性形状記憶ポリマーからなるナノシートの調製法の確立と物性評価”, 第13回相模ケイ素・材料フォーラム/第65回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス, 横浜市, 2018年6月29日. (受賞者 草柳夏美)
- 7) 岡村陽介, 張宏, 鎗野目健二, 高橋泰伽, 大友康平, 川上良介, 根本知己, ハイライト講演賞, “撥水性超薄膜を活用したカバーガラスフリー生体深部イメージング法の提案”, 第40回日本バイオマテリアル学会大会, 神戸国際会議場, 神戸, 2018年11月12日. (受賞者 岡村陽介)
- 8) K. Nagashima, A. Nakagawa, T. Hatanaka, H. Ozawa, T. Kanemaru, M. Uchida, H. Natsume, and Y. Okamura. Best Poster Award, “Fabrication and Evaluation of Biodegradable Particles Encapsulated Phenobarbital for Nasal Administration”, The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment (Tune10), Hawaii Tokai International College, Hawaii, USA, December 14th (2018). (受賞者 K. Nagashima)
- 9) 吉田翔太. アートインサイエンス最優秀賞, “粒子形状と血栓溶解薬剤と流動分布の関係と…それから血栓部位モデルデバイス”, 東海大学イメージング研究センター. 2018年12月21日. (受賞者 吉田翔太)
- 10) 狩野裕考, 新田昂大, 藤居真優, 樺山一哉, 下山敦史, 深瀬浩一, 鈴木明身, 井ノ口仁一, 日本エンドトキシン・自然免疫研究会奨励賞・優秀賞, “ガングリオシドのアシル鎖構造によるToll-like receptor 4 活性化制御メカニズム”, 第24回日本エンドトキシン・自然免疫研究会, 横浜, 2018年12月1日. (受賞者 狩野裕考)
- 11) 池田祐太, 橋本巨, 砂見雄太, 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞, “ロール・ツー・ロール印刷技術を用いたフレキシブルデバイス作製の基礎検討”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 2018年9月10-12日. (受賞者 池田祐太)
- 12) 田島伸一, 橋本巨, 砂見雄太, IIP 部門一般表彰 ベストプレゼンテーション表彰, “高分子超薄膜の高機能化に関する検討”, 日本機械学会2018年度年次大会, 大阪, 2018年9月10-12日 (受賞者 田島伸一)
- 13) 今西規, 中川草, 木村亮介, 瀧靖之, 安藤寿康, 優秀口頭発表賞, “個人ゲノム情報に基づくヒト顔形状の予測をめざして”, 生命医薬情報学連合大会 (IIBMP2018), 鶴岡, 2018年9月19-21日.

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 14) 木村啓志, 松前重義学術奨励賞, “マイクロ流体デバイスの医療・バイオ応用に関する研究”, 学校法人東海大学 2017年度松前重義賞, 東海大学校友会館 (霞ヶ関), 2018年1月17日.
- 15) 中川草, “日本進化学会 研究奨励賞”, 日本進化学会, 2017年8月
- 16) 砂見雄太, “薄膜プラスチックに対応したウェブハンドリング技術に関する研究”, 日本機械学会奨励賞 (研究), 2017年4月20日.
- 17) 江口和也, 川口翼, 新屋敷直木, 八木原晋, 喜多理王, Doreen Niether, Jana Hovancova, Simone Wiegand, 優秀ポスター賞, “温度勾配を駆動力としたアスピリン/シクロデキストリン包摂錯体の分子輸送現象”, 第40回日本バイオレオロジー学会年会, 岡山, 2017年5月27日. (受賞者の共著者として)
- 18) Ag/AgIO₃ 参照電極を用いた固体電極微小 pH センサの開発, 平成29年度 ものづくり技術交流会 ポスター賞 八十田穰(榎谷研所属)
- 19) 五十嵐敦, 岡村陽介, 高野秀太, 稲垣豊, 住吉秀明. JSMBM 2017 Young Investigator Award, “人工真皮への応用を指向したコラーゲンナノシートの創製と機能評価”, 第49回日本結合組織学会学術大会, 三重県総合文化センター (津市), 2017年6月17日. (受賞者の責任著者として)
- 20) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. 優秀ポスター賞, “水溶性薬剤を封入した多孔質層状超薄膜の創製と押圧放出特性”, 第66回高分子学会年次大会, 幕張メッセ (千葉市), 2017年6月21日. (受賞者の責任著者として)
- 21) S. Tsuchiya, A. Nakagawa and Y. Okamura. Best Poster Award, “Fabrication and Evaluation of Polysaccharide Nanosheets Carrying Cyclic Oligosaccharides”, MNTC International Symposium 2017 (MNTCIS2017), Kanagawa/Japan, August 27, 2017. (受賞者の責任著者として)
- 22) 鎗野目健二, フォトコンテスト 1位, MNTC International Symposium 2017 (MNTCIS2017), Kanagawa/Japan, August 27, 2017. (受賞者の責任著者として)
- 23) 石倉賢一, 曾我部大輝, 中川篤, 岡村陽介. 優秀ポスター賞, “高分子ディスクの凝集特性と新規凝集比濁用担体への応用”, 第12回相模ケイ素・材料フォーラム, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2017年8月30日. (受賞者の責任著者として)
- 24) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介. ハイライト講演賞, “機能性蛋白質を封入した多孔質層状超薄膜の創製と押圧放出挙動”, 第39回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017年11月21日. (受賞者の責任著者として)
- 25) 吉田翔太, 中川篤, 横山奨, 木村啓志, 岡村陽介. 優秀研究ポスター賞, “高せん断応力下におけるディスク状粒子の接着挙動と血栓溶解能の付与”, 第39回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀 (江戸川区), 2017年11月21日. (受賞者の責任著者として)
- 26) T. Takahashi, K. Yarinome, H. Zhang, R. Kawakami, Y. Okamura, and T. Nemoto. The Best Poster Award, “In vivo two-photon imaging of living mouse brain by utilizing novel fluoropolymer PEO-CYTOP nanosheets”, 11th International Symposium on Nanomedicine 2017 (ISNM2017), Sendai/Japan, December 14, 2017. (受賞者の共著者として)
- 27) T. Isono, T. Suzuki, Y. Okamura, and Y. Nagase. Best poster Award, “Synthesis of Polymers Containing PEO Chains in the Main Chain and the Application to CO₂ Separation Membrane”, The 15th Pacific Polymer Conference (PPC-15), Xiamen/China, December 10-14, 2017. (受賞者の共著者として)
- 28) T. Suwa, M. Ochiai, Y. Sunami, H. Hashimoto, Two-phase Flow Analysis of Oil Film Distribution on Roller Surface in Traction Drive, 5th Malaysia-Japan Tribology Symposium (MJTS2017), Excellent Poster Award Malaysia, August 29, 2017. (共著者として) .
- 29) 岡村 陽介 2016年度バイオマテリアル科学奨励賞 “生分解性超薄膜の創製と貼るナノ材料としての医用展開”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 2016年11

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

月 21 日. *4*5

- 30) 都田恒成, 榎谷和義, 優秀発表賞, “マイクロニードル型 pH センサによる生体内 pH の測定”, I-Mint(Inter-University Meeting on Micro / Nano Technologies), 2016 年 12 月 2 日. (共著者として)
- 31) 山之内優志, 榎谷和義, 優秀発表賞, “血液循環補助機構に用いる C 型形状 PZT ユニットの駆動周波数決定”, I-Mint(Inter-University Meeting on Micro / Nano Technologies), 2016 年 12 月 2 日. (共著者として)
- 32) 甲斐仁智, 砂見雄太, 榎谷和義, 優秀発表賞, “マイクログラビア印刷を用いた高分子超薄膜の大量創製”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 2016 年 9 月 11 日. (共著者として)
- 33) 岡村陽介, 2016 年度バイオマテリアル科学奨励賞, “生分解性超薄膜の創製と貼るナノ材料としての医用展開”, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場 (福岡市), 2016 年 11 月 21 日.
- 34) M. Ogino, K. Asao, H. Oka, R. Matsunaga, Y. Okamura, and, Y. Nagase, McGill University Merit Trainee Award, “Syntheses of biocompatible polyimide and poly(amide-imide) containing phosphorylcholine moiety and the coating ability of the nanosheets”, 10th World Biomaterials Congress (WBC2016), Montreal/Canada, May 18, 2016. (受賞者の共著者として)
- 35) 高野秀太, 住吉秀明, 稲垣豊, 木村啓志, 岡村陽介, 優秀ポスター賞, “裁断化超薄膜からなる粉末スプレーコーティングと新規癒着防止材への応用”, 第 11 回相模ケイ素・材料フォーラム/第 61 回湘北地区懇話会, 相模中央化学研究所 (綾瀬市), 2016 年 8 月 1 日. (受賞者の責任著者として)
- 36) 土屋笙子, 中川篤, 岡村陽介, ベストポスター賞, “におい分子吸脱着能を有するキトサンナノシートの創製”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(T μ ne)第 7 回学術講演会, 東海大学湘南キャンパス (平塚市), 2016 年 8 月 9 日. (受賞者の責任著者として)
- 37) 中川篤, 岡村陽介, 優秀ポスター賞, “生分解性高分子からなるディスク状粒子の調製とユニークな薬剤放出特性”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日. (受賞者の責任著者として)
- 38) 瀧本駿, 小町卓也, 住吉秀明, 稲垣豊, 岡村陽介, Young Investigator Award, “層状超薄膜への蛋白質封入技術の確立とその押圧放出特性”, 東海大学総合医学研究所第 12 回研修会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2016 年 10 月 29 日. (受賞者の責任著者として)
- 39) 宮本隼佑, 喜多理王, 木村啓志, 優秀発表賞, “ルードヴィヒ・ソレー効果を利用した重水分離システムの構築”, 化学とマイクロ・ナノシステム学会, 幕張メッセ国際会議場 (美浜区), 2016 年 9 月 6-7 日. (受賞者の責任著者・共著者として)
- 40) 小田桐遼, 砂見雄太, 優秀発表賞, “スラストフォイル気体軸受を構成するフォイルの構造的弾性特性に関する研究”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 2016 年 9 月 11 日. (共著者として)
- 41) 甲斐仁智, 砂見雄太, 榎谷和義, 優秀発表賞, “マイクログラビア印刷を用いた高分子超薄膜の大量創製”, 日本機械学会 2016 年度年次大会, 2016 年 9 月 11 日. (共著者として)
- 42) 三宅秀斗, 初村洋紀, 樺山一哉, 真鍋良幸, 山地俊之, 花田賢太郎, 深瀬浩一, 日本糖質学会ポスター賞, “HaloTag テクノロジーによる生細胞への糖鎖提示とそれを用いた機能解析”, 第 35 回日本糖質学会年会, 2016 年 9 月 1-3 日. (共著者として)
- 43) 溝手啓介, 下山敦史, 松浦良史, 藤居真優, 井ノ口仁一, 樺山一哉, 深瀬浩一, 優秀ポスター発表賞, “協奏的に作用する TLR4/MD-2 制御因子の機能”, 第 6 回 CSJ 化学フェスタ, タワーホール船堀 (東京), 2016 年 11 月 14-16 日. (共著者として)
- 44) 蓼沼啓介, 木村啓志他, ベストポスター賞, “マイクロ流体デバイス内における血管内皮細胞を用いた管腔構造の形成”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(T μ ne)第 8 回学術講演会, 東海大学湘南

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- キャンパス (平塚市), 2017年2月25日。(受賞者の責任著者として)
- 45) 砂見 雄太 Best Paper Award, H. Hashimoto and Y. Sunami, “Optimization of Winding Conditions for Preventing Roll Defects Caused by Thermal-Viscoelastic Property”, Proceedings of 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment, June 16, 2015.
 - 46) 砂見 雄太 日本機械学会 2015年度情報・知能・精密機器部門 優秀講演奨励賞, “Tribological Characteristics between Thin Plastic Film and Steel Roller”, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment, Mar. 15, 2016
 - 47) 岡村 陽介 Best Young Investigator Poster Award: Yosuke Okamura, Takuya Komachi, Ami Masuda, Shinji Takeoka, Yu Nagase, “Fabrication of bio-friendly nanosheets for biomedical applications”, The 5th Asian Biomaterials Congress, Taipei/Taiwan, May 9, 2015.
 - 48) 砂見 雄太 Bronze Award, Yana Shaheera Binti Yunos, Yuta Sunami, Mohd Danial Ibrahim, Micro-fluidics Flow Technology Improvement in Medical Industry Application, The International Engineering Invention and Innovation Exhibition 2015, (2015), Apr. 19, 2015
 - 49) 砂見 雄太 Outstanding Paper Award, H. Naka, Y. Sunami, H. Hashimoto, “Development of the Artificial Wing Suitable for Flapping Micro Air Vehicle Based on Dragonfly Wing”, The 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Crech Republic, Sep. 2, 2014.
 - 50) 岡村 陽介 平成 26 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 「生分解性超薄膜の創製と医療材料への応用に関する研究」 文部科学省 2014年4月.
 - 51) 川田健人, 岡村陽介, 梶原景正, 木村穰, 樋谷和義, ポスター賞, 第5回 Tune 東海大学マイクロ・ナノ啓発会, 伊勢原校舎. (受賞者の研究指導・共著者として)
 - 52) 八十田穰, 樋谷和義, 神奈川県ものづくり技術交流会, 2015年度 ポスター賞. 神奈川県産業技術センター (受賞者の研究指導・共著者として)
 - 53) 八十田穰, 樋谷和義, 東海大学 環境・エネルギー研究会の第1回学術講演会 ポスター賞 (受賞者の研究指導・共著者として)
 - 54) 大塚亮, 樋谷和義, 日本機械学会関東学生会ベスト・プレゼンテーション・アワード (受賞者の研究指導・共著者として)
 - 55) Hideaki KIMOTO and Kazuyoshi TSUCHIYA, ICFMA International conference on Functional Materials and Applications 2015, Ritsumeikan University, Best Paper Award (受賞者の研究指導・共著者として)
 - 56) Yosuke Okamura, Takuya Komachi, Ami Masuda, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Best Young Investigator Poster Award, “Fabrication of bio-friendly nanosheets for biomedical applications”, The 5th Asian Biomaterials Congress, Taipei/Taiwan, May 9, 2015.
 - 57) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 優秀ポスター賞, 層状ナノシートの調製法の確立と肝臓用創傷被覆材への医用応用. 第59回湘北地区懇話会, 東京工業大学すずかけ台キャンパス (横浜市), 2015年7月24日. (受賞者の研究指導・責任著者として)
 - 58) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. ベストポスター賞, 裁断化ナノシートのスプレーコーティングと新規癒着防止材への応用. 東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) 第5回学術講演会, 東海大学伊勢原キャンパス (伊勢原市), 2015年8月25日. (受賞者の責任著者として)
 - 59) 小町 卓也, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 武岡 真司, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 優秀ポスター発表賞, 層状高分子超薄膜の調製と臓器止血材への応用. 第5回CSJ化学フェスタ2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015年10月14日. (受賞者の研究指導・責任著者として)
 - 60) 曾我部 大輝, 長瀬 裕, 岡村 陽介. 優秀ポスター発表賞, 真球粒子を変形させて得るディスク状粒子の調製と2次元相互作用の発現. 第5回CSJ化学フェスタ2015, タワーホール船堀 (江戸川区), 2015年10月15日. (受賞者の研究指導・責任著者として)
 - 61) 高野 秀太, 住吉 秀明, 稲垣 豊, 木村 啓志, 岡村 陽介. ハイライト講演賞, 裁断化超薄膜からなるスプレーコーティング法の確立と新規癒着防止材への医用展開. 第37回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ (京都市), 2015年11月10日. (受賞者の責任著者として)
 - 62) 青木 拓斗, 張 宏, 岡村 陽介. ベストポスター賞, 多孔質シートの調製法の検討. 東海大学マイ

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- クロ・ナノ啓発会 (T μ ne) 第 6 回学術講演会, 東海大学清水キャンパス (静岡市), 2016 年 2 月 20 日. (受賞者の研究指導・責任著者として)
- 63) ベストプレゼンテーション賞: 田中雄介, 木村啓志, “ヒト由来腎細胞を用いた腎臓機能再現デバイスの構築”, 関東学生会第 55 回学生員卒業研究発表講演会, 2016 年 3 月 10 日
- 64) 日本機械学会 2015 年度情報・知能・精密機器部門 優秀講演奨励賞, “Tribological Characteristics between Thin Plastic Film and Steel Roller”, 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment, 2016 年 3 月 15 日.
- 65) ベストポスター賞, 横山輝, 中尚義, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “トンボの滑空時における翅周りの流れの可視化”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[T μ ne] 第 6 回学術講演会, 東海大学 (静岡県清水市), 2015 年 2 月 20 日, (共著者として).
- 66) Best Paper Award, Hiromu Hashimoto and Yuta Sunami, “Optimization of Winding Conditions for Preventing Roll Defects Caused by Thermal-Viscoelastic Property”, Proceedings of 2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment, Kobe/Japan, 2015 年 6 月 16 日, (共著者として).
- 67) Bronze Award, Yana Shaheera Binti Yunos, Yuta Sunami, Mohd Danial Ibrahim, Micro-fluidics Flow Technology Improvement in Medical Industry Application, The International Engineering Invention and Innovation Exhibition 2015, (2015), 2015 年 4 月 19 日, (共著者として).
- 68) Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase. Young Scientist Awards SILVER AWARD. “Development of Size-controlled Biodegradable Polymer Nanosheets and Their Biomedical Applications”, International Union of Materials Research Societies -International Conference in Asia 2014 (IUMRS-ICA2014), Fukuoka University/Fukuoka, Aug. 2015.
- 69) 増田 愛美, 長瀬 裕, 岡村 陽介. MRS-J 奨励賞, Preparation and Characterization of Fluorine-containing Polymer Ultra-thin Films with Water Repellency, 第 24 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2014 年 12 月. (受賞者の研究指導として)
- 70) 小田 龍馬, 平 孝介, 小口 真一, 岡村 陽介, 長瀬 裕. MRS-J 奨励賞, Separation property of PDMS graft copolyimide membranes with nanosheet coating. 第 24 回日本 MRS 年次大会, 横浜市開港記念会館 (横浜市), 2014 年 12 月. (受賞者の共著者として)
- 71) RF スパッタリング法を用いたバイオセンサの表面形状の創製, 丹野 順太 植谷 和義, 日本機械学会 関東支部 第 54 回学生員卒業研究発表会, Page.1602, 2015 年 3 月 20 日 横浜国立大学 (受賞者の研究指導として)
- 72) Yohei Nakayama, Rio Kita, POSTER PRIZE, IMT11 Meeting, Bayonne 02-06 June 2014, France. (受賞者の研究指導・共著者として)
- 73) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “マイクロ流体制御による一細胞スケールでの液性刺激”, 2014 年度精密工学会秋季大会学術講演会, 精密工学会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の研究指導・共著者として)
- 74) 新井健太, 蟹江善美, 洞山正幸, 木村啓志, 樺山一哉, 蟹江治, “化学工学的アプローチによる細胞脂質膜の動態解析”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[T μ ne]第 3 回学術講演会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の共著者として)
- 75) 荒木良介, 大友麻子, 秦野伸二, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを用いた ALS 疾患モデルの確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[T μ ne]第 4 回学術講演会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の研究指導・共著者として)
- 76) 洞山正幸, 大久保智樹, 新井健太, 樺山一哉, 藤井輝夫, 木村啓志, “高分解能液性刺激に向けたマイクロ流体デバイス”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会[T μ ne]第 4 回学術講演会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の研究指導・共著者として)
- 77) 大石岳史, 羽田勝二, 稲津敏行, 木村啓志, “マイクロ流体デバイスを活用した糖鎖転移反応促進”, 日本機械学会関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の研究指導・共著者として)
- 78) 額賀正行, 小川陽, 金秀炫, 矢幡一英, 藤井輝夫, 金子修, 木村啓志, “誘電泳動現象を用いた赤血球変形能計測デバイスの開発”, 日本機械学会関東学生会第 54 回学生員卒業研究発表講演会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の研究指導・共著者として)
- 79) Hisayoshi Naka, Yuta Sunami, Hiromu Hashimoto, “Development of the Artificial Wing Suitable for Flapping Micro Air Vehicle Based on Dragonfly Wing”, Proceedings of the 3rd International Conference on Design Engineering and Science, Vol. 2, pp. 78-83, (2014), Outstanding Paper Award 受

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

賞

- 80) 杉石光, 飯山誠也, 砂見雄太, 橋本巨, “巻取りロールの内部応力に及ぼす厚みムラの影響”, 日本機械学会 2014 年度年次大会, フェロー賞受賞 (受賞者の共著者として)
- 81) 飯山誠也, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “巻取りロールにおける軸方向の応力分布測定を可能とするセンサ製作方法の検討”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T μ ne】第 4 回学術講演会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の共著者として)
- 82) 小玉翔伍, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ドライガスシールのシール時における気体流れの可視化実験”, ‘14 SAS インテリジェントシンポジウム, ポスター賞受賞 (受賞者の共著者として)
- 83) 飯山誠也, 砂見雄太, 橋本巨, “多点センサを用いた巻取りロールの軸方向に対する応力分布測定”, 日本機械学会 2014 年度年次大会 第 20 回卒業研究コンテスト, 最優秀賞受賞 (受賞者の共著者として)
- 84) 酒井風馬, 砂見雄太, 橋本巨, “トンボの羽ばたき運動の変化と空気力の関係”, 日本機械学会 2014 年度年次大会 第 20 回卒業研究コンテスト, 優秀賞受賞 (受賞者の共著者として)
- 85) 横山大一郎, 砂見雄太, 落合成行, 橋本巨, “ダイカスト鋳造法における適切な射出行程の確立”, 東海大学マイクロ・ナノ啓発会【T μ ne】第 3 回学術講演会, ベストプレゼンテーション賞受賞 (受賞者の研究指導・共著者として)
- 86) Sayuri Shimode. Idexx IFRRS awards, International Feline Retrovirus Research Symposium & International Society for Companion Animal Infectious Disease. October 19 to 22, 2014, ON, Canada (受賞者の共著者として)

【報道発表等】

【報道発表等】 *1*2*3*4*5*6*7

2018 年度 (報道発表)

- 1) 日経産業新聞 2018 年 4 月 11 日 8 頁*4*5*6
 “解剖-先端拠点”
 “東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター”
 “生体材料を軸に医療貢献”
 本センターが日経産業新聞「解剖-先端拠点」にて紹介されました。研究内容や本センターの目指す姿などが紹介されています。
- 2) 東海大学新聞 5 月 1 日号
 “マイクロ流体デバイスを開発”
 “ヒトの臓器機能を人工的に再現”
 “工学部機械工学科 木村啓志 准教授”
 血管や肝臓、腎臓などの機能を模したマイクロ流体デバイスの開発に関する木村啓志准教授の研究内容が紹介されました。
<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1553>
- 3) 東海大学ウェブサイト 2018 年 06 月 14 日
 “マイクロ・ナノ研究開発センターのゼン研究員、砂見講師と橋本教授らが執筆した論文が国際ジャーナル「Scientific Reports」に掲載されました”
 マイクロ・ナノ研究開発センターのショオン・ゼン (Sheng Zhang) 研究員と砂見雄太講師、橋本巨教授がこのほど、トンボの翅 (はね) の上部にある結節が飛行能力に大きな影響を持っていることを発見。その成果をまとめた論文がオンラインの科学雑誌『Scientific Reports』に 4 月 10 日付で掲載されました。

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/scientific_reports.html

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 4) 朝日新聞 DIGITAL 2018年6月24日 *4*5*6
 “【大学力】東海大学 | 関東の大学力”
 東海大学の紹介記事にて、異分野連携による先進的な研究の例としてマイクロ・ナノ研究開発センターが紹介されました。
http://www.asahi.com/ad/power_of_university/kanto/2018/tokai/
- 5) 東海大学ウェブサイト 2018年7月21日
 “イメージング研究センターが「装置講習・中級編」を開催しました”
 湘南キャンパスのイメージング研究センターでは7月5、6日に、ニコンインステック株式会社の専門技術者がさまざまな光学機器の使い方をレクチャーする「装置講習・中級編」を開催しました。ニコンインステックとの産学連携包括協定に基づいて2016年に開設された本センターには、X線CTをはじめとする産業用の機器のほか、白色干渉顕微鏡や正立顕微鏡などの各種顕微鏡をそろえており、学生や教員だけでなく、企業や学外の研究者も、所定の基礎講習を受講すれば利用できます。今回の講習会は、センター開設以来、利用者数は年々増加している一方、より高度な使い方を学ぶ機会がほしいとの要望が多く寄せられたことから、ニコンインステックの協力を得て初めて実施したものです。
https://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_77.html
- 6) 東海大学ウェブサイト 2018年7月27日
 “海外の高校生を対象に湘南キャンパスツアーを実施しました”
 中国・ラオス・コロンビアの高校生約50人を対象に、東海大学湘南キャンパスの最先端の機器や学生活動を学ぶキャンパスツアーの一環としてマイクロ・ナノ研究開発センターが紹介されました。
https://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/shonan/news/detail/post_1179.html
- 7) 東海大学新聞 2018年8月1日号 *4*5*6
 “アンデスの失われた技術に挑む”
 “文理融合の研究が始動”
 アンデスの人々は文字を残さなかったことから、多くの遺物は製法も用途もほとんど謎に包まれており、山花准教授が所属する文明研究所とマイクロ・ナノ研究開発センターの文理融合により謎の解明を目指す研究が紹介されました。また山花准教授はイメージング研究センター(TICAR)の装置で遺物の分析を行っています。
<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1588>
- 8) 日経産業新聞 2018年8月21日 16頁
 “携帯サイズで遺伝子解読”
 “感染症の現場で即判定”
 今西教授、中川講師の患者の血液から抽出したDNAを使って、2時間以内に細菌の種類を判定する技術などが紹介されました。
- 9) 東海大学ウェブサイト 2018年9月5日
 “東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)の第9回学術講演会を開催しました”
 東海大学マイクロ・ナノ啓発会(Tune)の第9回学術講演会を、8月24、25日に熊本キャンパスで開催しました。東海大学の医学・理学・工学などの各分野で展開されているマイクロ・ナノサイズ領域における研究内容の相互理解を深め、学内外との共同研究につなげることを目的に若手研究者が中心となって本会を開いています。今回は学生や教職員ら約150名が参加しました。

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/tune9.html>

10) 東海大学ウェブサイト 2018年9月7日

“インド・サストラ大学で研修プログラムを実施しました”

マイクロ・ナノ研究開発センターでは8月5日から13日まで、インド・サストラ大学のナノテクノロジー&アドバンストバイオマテリアルセンター (CeNTAB) で本学を対象にした研修プログラムを実施しました。両センターが昨年締結した教育研究に関する覚書に基づいて初めて行ったもので、工学部の学生と大学院生11名が参加しました。

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_319.html

11) 東海大学新聞 2018年10月1日号

“東海大学新聞10月号に東海大学イメージング研究センターの特集記事が掲載されました。”

誰も見たことのない世界の可視化に挑み、若手研究者の育成にも貢献する。東海大学と㈱ニコンインステックの産学連携で、2016年8月に開設された湘南校舎のイメージング研究センターが3年目を迎えた。マイクロ・ナノ研究開発センターのもとで運用され、利用登録者数は年々増加。企業や研究機関など学外からの利用も増えている。その一方で、理工系学部を中心に学部生や大学院生の研究利用も活発だ。センターでの研究の様子を訪ねた。

<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1622>

12) 東海大学ウェブサイト 2018年10月29日

“岡村准教授、張研究員の研究グループの論文が国際ジャーナル「Journal of Materials Chemistry B」のHot Papersに選ばれました”

工学部応用化学科の岡村陽介准教授（マイクロ・ナノ研究開発センター）、張宏研究員（マイクロ・ナノ研究開発センター）らが執筆した論文「Porous nanosheet wrapping for live imaging of suspension cells」が、10月2日公開の英国王立化学会の学術誌「Journal of Materials Chemistry B」（DOI:10.1039/c8tb01943f）に掲載されました。この論文は、青木拓斗さん（東海大学大学院工学研究科応用理化学専攻2018年3月修了）、大阪大学大学院理学研究科の深瀬浩一教授、樺山一哉准教授（マイクロ・ナノ研究開発センター兼務）、波多野佳奈枝さん（2018年3月修了）、東北大学多元物質科学研究所の中川勝教授とともに手掛けた研究成果をまとめたもので、同誌の編集部が選ぶ今年の注目論文「Hop Papers」にも選ばれました。

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/journal_of_materials_chemistry_b_hot_papers.html

13) 東海大学ウェブサイト 2018年11月19日

“「IRAGO Conference 2018」を開催しました”

東海大学では11月1日に東京・新宿区の新宿ワシントンホテルで、「IRAGO Conference 2018」を開催しました。この催しは、国内外の研究機関や企業で活躍する研究者・学生が最新の研究動向に触れ、ネットワークをつくる機会として電気通信大学と豊橋工科大学、本学が共同で毎年開催しているものです。今回は、本学から山田清志学長をはじめ、マイクロ・ナノ研究開発センターの喜多理王教授（理学部物理学科）、槌谷和義教授（工学部精密工学科）が運営委員として企画・運営に携わっています。

https://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/irago_conference_2018.html

14) 東海大学新聞 12月1日号1頁*7

“大学発ベンチャーを設立”

“マイクロ・ナノの技術を社会に還元”

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

“革新的な超薄膜で顕微鏡の限界を打ち破る”

東海大学が取り組んできた高い機能性を持つ高分子超薄膜の研究成果を社会に還元する大学発ベンチャー「株式会社チューン」（本店 神奈川県厚木市）が11月2日に設立された。文部科学省の平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受けた東海大学のマイクロ・ナノ研究開発センター(MNTC)による研究の一端が結実したもの。企業などと連携して機能性高分子超薄膜を販売し、収益を学生や若手研究者の育成に生かす計画。

<http://tokainewspress.com/view.php?d=1650>

15) 東海大学ウェブサイト 2019年1月16日

“東海大学マイクロ・ナノ啓発会の第10回講演会を開催しました”

東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) の第10回学術講演会を、12月14日にハワイ東海インターナショナルカレッジで開催しました。東海大学の医学・理学・工学などの各分野で展開されているマイクロ・ナノサイズ領域における研究内容の相互理解を深め、学内外との共同研究につなげることを目的に若手研究者が中心となって本会を開いています。今回はハワイ大学と本学の学生や教職員、市民ら約70名が参加しました。

<https://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/10.html>

16) Tokai university website Jan. 16, 2019

“10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment Held”

The 10th Meeting of Tokai University Micro/Nano Enlightenment [Tune] was held on December 14 at Hawaii Tokai International College. This meeting, centered on young researchers, is aimed at deepening understanding of micro/nano-sized research across Tokai University's various medical, scientific, and engineering fields, leading to joint research within and outside the university. Around 70 people participated, including students, faculty, and staff from the University of Hawaii and Tokai University as well as members of the public.

https://www.u-tokai.ac.jp/english/news/detail/10th_meeting_of_tokai_university_micronano_enlightenment_held.html

17) 東海大学ウェブサイト 2019年1月18日

“イメージング研究センター研究成果講演会と「アート イン サイエンス」の表彰式を実施しました”

東海大学イメージング研究センターの研究成果講演会と「アート イン サイエンス」の表彰式を12月21日に、湘南キャンパスで実施しました。研究成果講演会は、イメージング研究センターに導入されている光学機器を活用した研究成果を共有し、研究者間の連携促進につなげることを目的に昨年から開催しています。一方のアート イン サイエンスは、機器を使って撮影した画像をアートの視点から評価する催しで、同じく昨年から実施しています。イベントには多数の学生や教職員のほか、イメージング研究センターの連携先であるニコン株式会社とニコンインステック株式会社の社員らも参加しました。

https://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_94.html

18) 東海大学新聞 2019年2月1日号

“マイクロ・ナノ啓発会 節目の講演会をハワイで開く”

“イメージング研究センター 研究成果を報告”

東海大学マイクロ・ナノ啓発会 (Tune) の第10回学術講演会が昨年12月14日に、

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）で開催された。

東海大学イメージング研究センターの研究成果講演会が、昨年12月21日に湘南校舎で開催された。

<http://tokaiedu.sakura.ne.jp/tnp/view.php?d=1691>

19) 東海大学ウェブサイト 2019年2月20日

“「テクニカルショウヨコハマ 2019」に出展しました”

産官学連携センターでは、2月6日から8日までパシフィコ横浜で開催された「テクニカルショウ ヨコハマ 2019（第40回工業技術見本市）」に出展しました。このイベントは、公益財団法人神奈川県産業振興センターや神奈川県などが毎年開催している神奈川県下最大級の工業技術・製品に関する総合見本市です。本学は、研究開発ゾーン「IDEC 横浜 産学・企業間連携コーナー」で3件の研究を紹介。ブースには連日多くの企業の研究者や技術者らが訪れ、各研究の内容や今後の展開などについて意見を交わしました。

https://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/2019_1.html

20) 東海大学ウェブサイト 2019年3月4日

“マイクロ・ナノ研究開発センターの最終報告会を開催しましたマイクロ・ナノ研究開発センターの最終年度報告会を開催しました”

東海大学マイクロ・ナノ研究開発センターでは2月23日に湘南キャンパスで、最終年度報告会を実施しました。文部科学省の平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成事業の採択を受けた研究プロジェクト「高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」（代表者＝理学部物理学科・喜多理王教授）の採択期間が最終年度を迎えることから、これまでの成果を学内外に報告するとともに、外部審査員による評価を受ける機会として実施したもので、文部科学省高等教育局私学助成課長の井上睦子氏を来賓に迎え、同センターの連携企業や学内関係者、学生ら約120名が参加しました。

https://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_96.html

2017年度（報道発表）

21) 東海大学ウェブサイト 2017年5月11日

“工学部機械工学科（マイクロ・ナノ研究開発センター）の砂見講師が日本機械学会奨励賞（研究）を受賞しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_203.html

22) 東海大学新聞 2017年6月1日

“機械学会奨励賞を受賞”

<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1370>

23) 東海大学ウェブサイト 2017年6月22日

“日本バイオレオロジー学会で大学院生が優秀ポスター賞を受賞しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/science/news/detail/post_36.html

24) 東海大学ウェブサイト 2017年7月10日

“大学院生が高分子学会年次大会で受賞しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_220.html

25) 東海大学ウェブサイト 2017年7月10日

“大学院生が日本結合組織学会学術集会で Young Investigator Award を受賞しました”

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/young_investigator_award.html
- 26) 東海大学ウェブサイト 2017年7月11日
“マイクロ・ナノ研究開発センターのガネシュ・クマール・マニ研究員が精密工学会のベストプレゼンテーション賞を受賞しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_221.html
- 27) 東海大学ウェブサイト 2017年7月11日
“工学部鎚谷教授の研究室でインドからの派遣研究員を受け入れています”
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_222.html
- 28) 東海大学ウェブサイト 2017年7月20日
“マイクロ・ナノ研究開発センターで教養学部の富田講師がワークショップを行いました”
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/news/detail/post_40.html
- 29) 日本医療研究開発機構公式ウェブサイト 2017年7月20日
“細菌感染症の診断に応用可能な迅速なゲノム解析システムの開発に成功—細菌種の同定時間を大幅削減。ポータブル化により災害現場や感染症多発地域での活用にも期待—”
http://www.amed.go.jp/news/release_20170720-02.html
- 30) 東海大学ウェブサイト 2017年7月20日
“医学部の今西教授らの研究グループがバクテリアのゲノムを短時間で解析し、特定する基礎技術の構築に成功しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/news/detail/post_43.html
- 31) マイナビニュース 2017年7月20日*5
“東海大、細菌感染症診断に向けた迅速なゲノム解析システムを開発”
<http://news.mynavi.jp/news/2017/07/20/231/>
- 32) 日本の研究.com 2017年7月20日
“細菌感染症の診断に応用可能な迅速なゲノム解析システムの開発に成功—細菌種の同定時間を大幅削減。ポータブル化により災害現場や感染症多発地域での活用にも期待—”
<https://research-er.jp/articles/view/60744>
- 33) 化学工業日報 2017年7月21日
“細菌種を短時間判定”
- 34) 日経バイオテク ONLINE 2017年7月21日*5
“東海大学、感染症の原因菌種同定を迅速化するゲノム解析システムを開発”
<https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/news/p1/17/07/21/02984/>
- 35) QLife Pro 医療 NEWS 2017年7月24日
“細菌感染症の診断に応用可能なゲノム解析システムを開発—東海大”
<http://www.qlifepro.com/news/20170724/developed-genome-analysis-system.html>
- 36) 大学ジャーナル ONLINE 2017年7月24日
“細菌感染症の診断に応用可能なゲノム解析システムを開発—東海大”
<http://univ-journal.jp/15091/>
- 37) 科学新聞 2017年7月28日
“感染症診断に威力ポータブル細菌解析システム”
- 38) 日経産業新聞 2017年8月9日
“感染症2時間で診断—東海大、携帯型装置で—”
- 39) PRWeb August 21, 2017

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- “Tokai University research: Nanomaterial wrap for improved tissue imaging”
<http://www.prweb.com/releases/2017/08/prweb14606522.htm>
- 40) 物質・デバイス領域共同研究拠点 HP 2017年8月21日
 “生体組織の乾燥とブレを防ぎ、高解像度でのイメージングを実現する、新発想の観察試料作成技術「撥水性超薄膜ラッピング法」を確立”
<http://five-star.tagen.tohoku.ac.jp/news/result/detail.php?id=269>
- 41) 東海大学ウェブサイト 2017年8月21日
 “岡村准教授の研究グループが、生体組織の乾燥とぶれを防ぎつつ、高解像度での観察を可能にする新技术を確立しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_48.html
- 42) 化学工業日報 2017年8月22日
 生体組織撥水薄膜でラップ
- 43) 北海道大学電子科学研究所 HP 2017年8月30日
 “生体組織の乾燥とブレを防ぎ、高解像度でのイメージングを実現する、新発想の観察試料作成技術「撥水性超薄膜ラッピング法」を確立 —研究者のノウハウだけに頼らない生体組織の観察試料作成が可能に—”
<https://www.es.hokudai.ac.jp/result/2017-08-21-mcb/>
- 44) 科学新聞 2017年9月1日*¹
 “撥水性超薄膜で生体組織をラッピング 乾燥・ブレ防止で鮮明なイメージング実現—東海大・北大グループ 新発想の観察試料作製技術確立—”
- 45) 東海大学新聞 WEB 2017年9月1日
 “4年目を迎え大きな成果”
<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1421>
- 46) 日経産業新聞 2017年9月6日*¹
 “臓器形状保ち観察 —東海大と北大 透明膜の縮み防ぐノウハウだけに頼らない生体組織の観察試料作成が可能に—”
- 47) 東海大学ウェブサイト 2017年9月7日
 “インド・SASTRA 大学の研究所とマイクロ・ナノ研究開発センターが覚書を締結しました”
<http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/sastra.html>
- 48) 東海大学ウェブサイト 2017年9月7日
 “中川助教が日本進化学会の研究奨励賞を受賞しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/news/detail/post_47.html
- 49) 東海大学ウェブサイト 2017年9月12日
 “マイクロ・ナノ研究開発センター国際シンポジウム2017を実施しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/2017_4.html
- 50) 東海大学ウェブサイト 2017年9月14日
 “「イノベーション・ジャパン2017」に出展しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/2017_5.html
- 51) 毎日新聞 東海イズム 2017年10月2日
 超薄ナノシートの新たな活用法を開発 生体組織を鮮明に画像化する「イメージング技術」に貢献
http://mainichi.jp/sp/tokaism/opinion/con75_1.html
- 52) 東海大学ウェブサイト 2017年11月8日

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

“「第 7 回おた研究・開発フェア 産学連携・新技術展」に研究成果を出展しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_56.html

53) 毎日新聞 東海イズム 2018 年 1 月 15 日

“4 年目を迎え大きな成果”

<http://mainichi.jp/sp/tokaism/laboratory/68.html>

54) 東海大学ウェブサイト 2018 年 1 月 18 日

“大学院工学研究科の石倉さんが「第 12 回相模ケイ素材料フォーラム」で受賞しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/12_2.html

55) 東海大学新聞 2018 年 2 月 1 日

“学術・文化・スポーツの功績をたたえ多彩な分野の活躍を表彰”

56) 学園広報誌 VISTA 2018 年 2 月号

“2017 年度松前重義学術奨励賞受賞者インタビュー”

57) 東海大学ウェブサイト 2018 年 2 月 26 日

“木村啓志准教授が松前重義学術奨励賞を受賞しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_282.html

58) 東海大学ウェブサイト 2018 年 3 月 13 日

“マイクロ・ナノ研究開発センターの教員が「医工連携におけるエンジニアリングの新たな潮流」で講演しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_67.html

59) 秦野市商工会議所講演会 2018 年 3 月 15 日

“秦野市・秦野商工会議所工業部会・東海大学 平成 29 年度産学公連携推進事業「東海大学イメージング研究センターにおける産学連携」を開催しました”

2016 年度（報道発表）

60) 日刊工業新聞 2017 年 2 月 7 日 23 面

“エボラ感染拡大の仕組み解明 東海大”

61) 日経産業新聞 2017 年 1 月 19 日 8 面

“異変で感染しやすく、エボラウイルス、東海大など確認”

62) 東海大学 公式ウェブサイト 2017 年 1 月 18 日

“工学部応用化学科の岡村陽介准教授が日本バイオマテリアル学会の科学奨励賞を受賞しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/news/detail/post_184.html

63) 東海大学 公式ウェブサイト 2017 年 1 月 13 日

“医学部・中川助教らの研究グループがエボラウイルスの感染効率上昇に寄与する塩基突然変異を同定しました”

http://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/news/detail/post_34.html

64) 東海大学 報道発表 2017 年 1 月 13 日

“ザールエボラウイルス糖タンパク質の 82 番目と 544 番目のアミノ酸変異が感染効率の上昇に関与していることを確認”

65) TBS テレビ：未来の起源 2016 年 12 月 25 日 夜 10:54～ 放送*2

「ヒトの体内を手のひらの中に」 木村啓志 （マイクロ・ナノ研究開発センター）

66) 毎日新聞 WEB マガジン東海イズム 2016 年 10 月 17 日

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

“クローズアップ研究室 “先端研究と地域の発展を支える””
<http://mainichi.jp/sp/tokaism/laboratory/57.html>

67) CONVERTECH INTERNATIONAL SEP/OCT 2016 VOL.1 NO.1
 “Biocompatible Ultra-Thin Polymer Films: A Mass Production Technology to Revolutionize the Medical Field”

68) 日経テクノロジーオンライン 2016年9月26日*1*5
 “医療応用を目指す、R2R印刷で作るナノシート ICFPE2016 報告”
<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/news/16/092404222/?rt=nocnt>

69) コンバーティング総合情報誌 コンバーテック 2016年9月15日*6
 “分解能 1pm の白色干渉顕微鏡等のイメージング機器を設置-基礎研究から製品開発までカバーする開かれた拠点に-”

70) 東海大学 公式ウェブサイト 2016年9月15日
 “産学パートナーシップ創造展に出展しました”
http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/shonan/news/detail/post_547.html

71) 東海大学 国際プレス発表 prweb SEPTEMBER 8, 2016
 “Tokai University, Japan launches interdisciplinary Micro/Nano Technology Center (MNTC) for research based on polymer nanosheets”
<http://www.prweb.com/releases/2016/09/prweb13665079.htm>

72) 東海大学新聞 2016年9月1日 10面
 研究室おじゃまします“幅広い領域の光学機器を導入 先端研究と地域の発展を支える”
<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1242>

73) 東海大学新聞 2016年9月1日 1面
 “「見ること」に特化した新拠点 イメージング研究センター開設”
<http://www.tokainewspress.com/view.php?d=1231>

74) 科学新聞 2016年8月26日 1面*6
 “東海大にイメージング研究センター”

75) ラボキャブ-先端研究者のためのソリューション-vol.16 2016年8月25日
 “マイクロ・ナノ研究開発センターの研究紹介”

76) 東海大学公式ウェブサイト 2016年8月12日
 “ニコンインステックとの産学連携包括協定締結式と東海大学イメージング研究センターの内覧会を行いました”
http://www.u-tokai.ac.jp/research/news/detail/post_20.html

77) 日刊工業新聞 2016年8月10日*6
 “東海大、ニコンと協定”

78) オプトロニクスオンライン 2016年8月9日*6
 “東海大、ニコンの協力でイメージング研究センターを開設”
<http://www.optronics-media.com/news/20160809/43617/>

79) 東海大学 国際プレス発表 prweb August 5, 2016
 “Tokai University research: Ice dielectric response studies find preparation is key”
<http://uk.prweb.com/releases/2016/08/prweb13596675.htm>

80) コンバーティング総合情報誌コンバーテック 2016年6月15日
 “厚 60nm、幅 100mm の PLLA 超薄膜を RTR プロセスで-多層化で接着性と強度を両立、止血用途での活用も-”

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 81) 毎日新聞 WEB マガジン東海イズム 2016年6月1日*¹
 “目指すは「針と糸いらすのばんそうこう」小さな世界の大きな挑戦”
http://mainichi.jp/sp/tokaism/opinion/con59_1.html
- 82) 東海大学 学園メールマガジン<スクエア>第718号 2016年6月1日
 “ハゼ科魚類キヌバリとチャガラの核 DNA とミトコンドリア DNA を用いた種分化の解析”
<http://www.pr.tokai.ac.jp/square/700/718/71801.html>
- 83) 宮内庁報道発表 2016年5月*⁵
 “ハゼ科魚類キヌバリとチャガラの核 DNA とミトコンドリア DNA を用いた種分化の解析”
<http://www.kunaicho.go.jp/page/ronbun/show/1>
 このたび天皇陛下は、日本周辺に生息する2種のハゼ科魚類、キヌバリとその近縁のチャガラの核 DNA とミトコンドリア DNA を用いた種分化の解析に関する論文を、秋篠宮殿下、国立遺伝学研究所の五條堀孝特任教授、復旦大学の長谷川政美教授、京都大学の中坊徹次名誉教授を始めとする共同研究者によりオランダ発行の国際遺伝学雑誌「Gene (ジーン)」に発表された。本プロジェクトメンバー中川草が共著者として参加。
- 84) 中日新聞 2016年4月1日 29面
 別種からウイルス感染 犬山・ニホンザル大量死

2015年度(報道発表)

- 85) 東海大学 TOKAI UNIVERSITY GUIDE BOOK 2016, pp. 24-25
 「研究最前線、マイクロ・ナノの世界から広がる世界」
- 86) 東海大学産学連携フォーラム 2015 GUIDE BOOK (Dec. 16, 2015), pp. 5-6.
 「研究の峰」事例 幅広い分野の若手研究者が集い次世代医用技術の創出を目指す
- 87) TOKAI Vol. 80, pp. 6~7, 2015年10月1日
 「特集～明日を担う研究者の育成、研究の峰事例」
- 88) 東海大学 湘南校舎ニュース 2015年8月17日
 「マイクロ・ナノ研究開発センターが医療機器産業参入セミナーに出展しました」
- 89) NHK「サイエンス ZERO」、2015年8月2日 放送
 ニャンとも不思議！ 遺伝子が明かすネコの秘密、
 Shimode, S., Nakagawa, S., Miyazawa, T. (2015) Multiple invasions of infectious retrovirus in cat genomes. *Scientific Reports* 5, 8164 に関する特集
- 90) 東海大学新聞 2015年7月1日
 「大学の“研究の峰”形成へ、異分野間の共同研究を促進」
- 91) 東海大学 新聞 2015年4月1日
 「高分子超薄膜研究の最先端を披露／マイクロ・ナノの可能性を探る／キックオフセミナーを開催」

2014年度(報道発表)

- 92) 科学技術振興機構 JST サイエンスポータル Science Portal 2015年2月4日
 (<http://scienceportal.jst.go.jp/>)
 ニュース速報「世界史とネコの移動を遺伝的に実証」、中川草
- 93) 京都新聞 2015年2月3日 1面および25項

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

ネコ移動史 解明へ／ウイルス感染痕跡に着目 品種の分岐 裏付け／京大グループが手法、中川草

94) Yahoo Japan トップページ 2015年2月3日
「うちのネコはどこ起源？判別法」、中川草

95) The Yomiuri Shimbun February 9, 2015
Secret of cat migration discovered、中川草

96) マイナビニュース 2015年2月3日
「ネコはどのように世界を移動し、多品種化したのか-京大が解明のカギを発見」中川草

97) 産経新聞 関西版 2015年2月3日 一面、26頁
「ネコのルーツ 分かるニャ」、中川草

98) フジテレビ NEWS JAPAN 放送 2015年2月3日
ネコで発見1リケジョも貢献/「1万年の旅」解明へ、中川草

99) 東京新聞 2015年2月3日 朝刊 15ページ
「ネコの広がる歴史 解明へ／京大など 遺伝子利用、手法開発」、中川草

100) 日本経済新聞 2015年2月3日
「ネコの品種分化、ゲノムに裏付け、京大が手法開発」、中川草

101) 日本経済新聞社 2015年2月3日プレスリリースサービス
「感染性レトロウイルスの度重なるネコゲノムへの侵略／ネコの移動の歴史を探る手がかりとなるレトロウイルス感染の痕跡を発見」、中川草

102) 日本経済新聞 電子版 2015年2月3日
「ネコの品種分化、ゲノムに裏付け、京大が手法開発」、中川草

103) 毎日新聞 大阪夕刊 2015年2月3日 10頁 社会面
「ネコ：世界移動、ゲノムで追跡 京大チーム、品種多様性を解明」、中川草

104) 日経産業新聞 2014年11月12日 朝刊
「口内pH電極で測定」、樋谷和義

105) 日本経済新聞 2014年10月6日 夕刊1頁
「東海大・東大／チップに人体再現／薬効をチェック」、木村啓志

106) 日本経済新聞 2014年10月2日 朝刊
「知の明日を築く／東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター／超薄膜、異分野集い応用」

107) ラジオ FM やまと (ブリージング・スカイ 「お茶の間の大学」)
2014年10月29日第51回： “東海大学マイクロナノ啓発会“ってなあに？
2014年11月5日第52回： 東海大学マイクロナノ啓発会は何を創ろうとしているの？
2014年11月12日第53回： 東海大学マイクロナノ啓発会リーダー喜多理王先生にインタビュー！
2014年11月19日第54回： 東海大学マイクロナノ啓発会 樋谷和義先生にインタビュー！
2014年11月26日第55回： 来月完成！「東海大学マイクロナノ研究開発センター」とは

108) 東海大学 VISTA vol. 256 2015年2月号
「湘南キャンパス12号館にマイクロ・ナノ研究開発センターを設置」

109) 東海大学新聞 2015年2月1日
「マイクロ・ナノ研究開発センターが完成／高分子超薄膜研究の拠点に」

110) 東海大学新聞 2014年10月1日
「医工連携で次世代時術開／マイクロ・ナノ研究を推進へ」
<http://tokaiedu.sakura.ne.jp/tnp/view.php?d=868>

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 111) 東海大学新聞 2014年9月1日
「マイクロ・ナノの第3回学術講演会／研究者間の連携と相互理解を深める」
- 112) 東海大学 VISTA vol. 250 2014年8月号
「文部科学省 平成26年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に東海大学の研究プロジェクトが採択/プロジェクト名： 高分子超薄膜から創成する次世代医用技術」
- 113) 伊勢原タイム 2014年8月22日
「医理工+産官学連携の実践／東海大学マイクロ・ナノ啓発会」
- 114) 東海大学新聞, 2014年8月
「研究室おじゃまします！ ナノサイズの特性を活かして未来の“絆創膏”を作り出す」, 岡村 陽介.
- 115) Press release in 248th American Chemical Society National Meeting, Aug. 2014.
“Like cling wrap, new biomaterial can coat tricky burn wounds and block out infection”, Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase.
(<http://www.acs.org/content/acs/en/pressroom/newsreleases/2014/august/like-cling-wrap-new-biomaterial-can-coat-tricky-burn-wounds-and-block-out-infection.html>)
- 116) Feature in Plastics Today in USA, Aug. 2014.
“PLLA-based wound dressings conform and adhere to irregular body surfaces”, Yosuke Okamura, Shinji Takeoka, Yu Nagase. (<http://www.plasticstoday.com/articles/PLLA-based-wound-dressings-conform-and-adhere-irregular-body-surfaces-140811>)
- 117) 東海大学新聞, 2014年5月.
「ナノ寸法の超薄膜創製と応用に評価 岡村講師に文科大臣表彰」, 岡村 陽介.
- 118) 東海大学 VISTA, 246号, p.19, 2014年4月.
「未来を担う TOKAI の研究者①: ユニークな特性を発現するナノバイオマテリアルの構築と医用展開」, 岡村 陽介.

【獲得研究費】

2018年度 <科学研究費助成事業>

- 1) 喜多理王 (研究代表者)
基盤研究 (C) (2017~2019年度)
「高分子溶液における温度勾配を外場とする不可逆的拡散現象の普遍性と多様性」
- 2) 岡村陽介 (研究代表者)
新学術領域研究 (公募) (2018~2019年度)
「撥水性ナノ薄膜の創製とカバーガラスフリー生体深部イメージングへの応用展開」
- 3) 岡村陽介 (研究分担者)
基盤研究 (C) (2018~2020年度)
「ミズクラゲに由来する皮膚再生促進因子の解明と優れた皮膚再生医療への応用」
- 4) 岡村陽介 (研究代表者)
基盤研究 (C) (2017~2019年度)
「におい分子を自在に操る“貼るナノ透明体”の創製と実装化」
- 5) 岡村陽介 (研究分担者)
基盤研究 (C) (2016~2018年度)
「薬剤担持ナノシートと MPC のナノ表面処理を応用した新規骨折治療法に関する基礎研究」

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 6) 岡村陽介 (研究分担者)
基盤研究 (C) (2016~2018 年度)
「Bio-friendly nanosheets loaded with laser-generated nano-containers that release metal ions to accelerate wound healing」
- 7) 樺山一哉 (研究代表者)
基盤研究 (C) (2018~2020 年度)
「ウイルス感染細胞モデルにおける脂質ラフト解析」
- 8) 樺山一哉 (研究分担者)
基盤研究 (A) (2016~2020 年度)
「細胞表面糖鎖による免疫制御機構の解明とその利用」
- 9) 木村啓志 (研究代表者)
基盤研究 (B) (2018~2022 年度)
「生理学的パラメータを模倣した機能集積型 Body-on-a-chip の構築」
- 10) 木村啓志 (研究分担者)
新学術領域研究 (2018~2022 年度)
「配偶子インテグリティの構築」
- 11) 木村啓志 (研究分担者)
新学術領域研究 (2018~2022 年度)
「普遍的な in vitro 精子産生系の開発」
- 12) 砂見雄太 (研究代表者)
若手研究 (2018~2019 月年度)
「機能性ナノシートの連続創製とそのトライボロジー特性」
- 13) 中川草 (研究代表者)
新学術領域研究 (2017~2018 年度)
「真核生物に内在化したレトロウイルス以外のウイルス様配列のマルチオミクス解析」
- 14) 中川草 (研究分担者)
基盤研究 (C) (2018~2020 年度)
「顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー病態に関与する内在性レトロウイルスの探索」
- 15) 中川草 (研究分担者)
基盤研究 (A) (2016~2018 年度)
「顔形状を規定するゲノム変異の網羅的探索によるゲノム・モンタージュ技術の開発」
- 16) 上田真保子 (研究代表者)
挑戦的研究(萌芽) (2017~2019 年度)
「細胞融合にかかわる内在性レトロウイルス由来遺伝子の同定および機能解析」
- 17) 上田真保子 (研究分担者)
基盤研究 (B) (2017~2019 年度)
「グリカンの揺らぎを標的にした新規レトロウイルスワクチンの開発」

2018 年度 <科学研究費助成事業以外>

- 18) 岡村陽介 (研究代表者), 張宏 (研究分担者)
平成 30 年度物質・デバイス領域共同研究拠点共同研究課題 展開共同研究 A・北海道大学 (2018 年度) 「課題番号: 20183007, 撥水性ナノ薄膜の機能改質と生体深部カバーガラスフリーイメージングへの展開」

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 19) 岡村陽介 (研究分担者)
東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」(2018～2020年度)
「新しい皮膚欠損創傷充填グラフト、再生促進剤の開発」
- 20) 樺山一哉 (研究分担者)
概算要求プロジェクト(2015～2019年度)
「医理連携による進行がん治療のための国際医療拠点形成事業」
- 21) 樺山一哉 (研究分担者)
研究成果展開事業産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)
平成29年度新規研究領域・共創コンソーシアム(2017～2021年度)
「量子アプリ共創コンソーシアム」
- 22) 木村啓志 (研究分担者)
再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業(AMED)(2017～2021年度)
「階層的共培養を基礎とする Liver/Gat on-a-chip の開発：インビトロ腸肝循環評価を目指した高度な代謝と極性輸送の再現」
- 23) 木村啓志 (研究分担者)
再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業(AMED)(2017～2021年度)
「創薬における高次 in vitro 評価系としての Kidney-on-a-chip の開発」
- 24) 木村啓志 (研究分担者)
再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業(AMED)(2017～2021年度)
「精子形成を支える幹細胞のホメオスタシスと機能低下」
- 25) 砂見雄太 (研究代表者)
公益財団法人天田財団 一般研究助成<塑性加工>(2016～2018年度)
「表面修飾による高分子超薄膜の高機能化とその応用」
- 26) 中川草 (研究代表者)
2018年度東海大学医学部研究助成金(2018年度)
「大規模塩基配列情報と立体構造モデルを活用した人獣共通感染症ウイルスの適応進化解析」
- 27) 中川草 (研究代表者)
京都大学ウイルス・再生医科学研究所共同研究資金(2018年度)
「大規模塩基配列を活用したレンチウイルスと宿主因子の共進化メカニズムの解明」
- 28) 中川草 (研究分担者)
東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」(2016～2018年度)
「ゲノム編集動物作製基盤技術の確立と病態解析モデル作製への応用」
- 29) 中川草 (研究分担者)
武田科学振興財団 特定研究助成(2018～2020年度)
「迅速ゲノム解析と人工知能を用いた感染症診断支援システムの開発」
- 30) 中川草 (研究分担者)
日立財団「倉田奨励金」(2018年度)
「細菌感染症の迅速・高精度なゲノム診断技術の実用化研究」
- 2018年度<企業共同研究>
- 31) 喜多理王, 砂見雄太 企業共同研究
- 32) 喜多理王 (代表) 企業共同研究

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

- 33) 岡村陽介、砂見雄太 企業共同研究
 34) 喜多理王 (代表) 企業共同研究
 35) 樋谷和義 (代表) 企業共同研究
 36) 樋谷和義 (代表) 企業共同研究
 37) 岡村陽介 (代表) 企業共同研究
 38) 樺山一哉 (代表) 企業共同研究
 39) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究
 40) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究
 41) 中川草 (分担) 企業共同研究

2017 年度<科学研究費助成事業>

- 42) 喜多理王 (研究代表者)
 基盤研究 (C) (2017~2019 年度)
 「高分子溶液における温度勾配を外場とする不可逆的拡散現象の普遍性と多様性」
- 43) 岡村陽介 (研究代表者)
 基盤研究 (C) (2017~2019 年度)
 「におい分子を自在に操る“貼るナノ透明体”の創製と実装化」
- 44) 岡村陽介 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2016~2018 年度)
 「薬剤担持ナノシートと MPC のナノ表面処理を応用した新規骨折治療法に関する基礎研究」
- 45) 岡村陽介 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2016~2018 年度)
 「Bio-friendly nanosheets loaded with laser-generated nano-containers that release metal ions to accelerate wound healing」
- 46) 岡村陽介 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2015~2017 年度)
 「細胞外マトリックスを標的とする新たな治療技術の開発」
- 47) 樺山一哉 (分担) 代表: 深瀬浩一
 基盤研究 A
 「細胞表層糖鎖による免疫制御機構の解明とその利用」
- 48) 樺山一哉 (分担) 代表: 小野純一郎
 基盤研究 C
 「生体膜マイクロドメインと膜受容体の可視化による揮発性麻酔薬の作用機序の解明」
- 49) 木村啓志 (研究分担者)
 新学術領域研究 (2014~2017 年度)
 「in vitro において継続的に精子を産生する新規培養系の開発」
- 50) 砂見雄太 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2015~2017 年度)
 「R2RPE 技術の確立を目指したウェブハンドリング技術の高度化に関する研究」
- 51) 中川草 (研究代表者)
 新学術領域研究 (2017~2018 年度)
 「真核生物に内在化したレトロウイルス以外のウイルス様配列のマルチオミクス解析」

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

52) 中川草 (研究代表者)

若手研究 (B) (2016~2017 年度)

「大量塩基配列データを用いた機能性内在性ウイルス配列の比較ゲノム解析」

53) 中川草 (研究分担者)

基盤研究 (A) (2016~2018 年度)

「顔形状を規定するゲノム変異の網羅的探索によるゲノム・モンタージュ技術の開発」

54) 上田真保子 (研究代表者)

挑戦的研究(萌芽) (2017~2019 年度)

「細胞融合にかかわる内在性レトロウイルス由来遺伝子の同定および機能解析」

55) 横山奨 (研究代表者)

若手研究 (B) (2017~2018 年度)

「新薬開発コスト低減を目指した力学的薬効評価技術の開発」

2017 年度<科学研究費助成事業以外>

56) 喜多理王 (研究代表者), 木村啓志 (研究分担者)

東海大学連合後援会研究助成 (2015~2017 年度)

「汚染水に含まれるトリチウムの分離法開発」

57) 岡村陽介 (研究代表者), 張宏 (研究分担者)

平成 29 年度物質・デバイス領域共同研究拠点共同研究課題 展開共同研究 A・北海道大学

「課題番号: 20173007, カバーガラスいらすの生体深部イメージング用撥水性ナノ薄膜の創製と応用展開」

58) 樺山一哉 (研究分担者)

研究成果展開事業産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA)

平成 29 年度新規研究領域・共創コンソーシアム (2017~2021 年度)

「量子アプリ共創コンソーシアム」

59) 樺山一哉 (研究分担者)

概算要求プロジェクト (2015~2019 年度)

医理連携による進行がん治療のための国際医療拠点形成事業

60) 木村啓志 (研究分担者)

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」(2015~2017 年度)

「ヒト iPS 細胞由来肝組織を用いた疾患治療法の確立」

61) 木村啓志 (研究代表者), 喜多理王 (研究分担者)

公益財団法人 JKA 平成 28 年度研究補助 (2016~2017 年度)

「放射能汚染水中のトリチウム分離技術の開発研究補助事業」

62) 木村啓志 (研究分担者)

再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業(AMED) (2017~2021 年度)

「階層的共培養を基礎とする Liver/Gat on-a-chip の開発: インビトロ腸肝循環評価を目指した高度な代謝と極性輸送の再現」

63) 木村啓志 (研究分担者)

再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業(AMED) (2017~2021 年度)

「創薬における高次 in vitro 評価系としての Kidney-on-a-chip の開発」

64) 木村啓志 (研究分担者)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業(AMED) (2017～2021 年度)

「精子形成を支える幹細胞のホメオスタシスと機能低下」

65) 砂見雄太 (研究代表者)

公益財団法人天田財団 一般研究助成<塑性加工> (2016～2018 年度)

「表面修飾による高分子超薄膜の高機能化とその応用」

66) 砂見雄太 (研究代表者)

公益財団法人 JKA 平成 28 年度研究補助 (2016～2017 年度)

「極薄プラスチックフィルムの摩擦特性とその搬送技術の高度化」

67) 大友麻子 (分担研究者)

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」(2015～2017 年度)

「医療応用を目的とした霊長類におけるアロの認識と拒絶・受容機構の解明」

68) 中川草 (研究代表者)

2017 年度東海大学医学部研究助成金

「エボラウイルスの病原性と関係する突然変異の解析」

69) 中川草 (研究代表者)

京都大学ウイルス研究所共同研究資金 (2017 年度)

「大量塩基配列データを用いた機能性内在性ウイルス配列の比較ゲノム解析」

70) 中川草 (研究分担者)

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」(2016～2018 年度)

「ゲノム編集動物作製基盤技術の確立と病態解析モデル作製への応用」

71) 横山奨 (研究代表者)

公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団 (2017 年度)

「IN VITRO THROMBUS MODEL BASED ON MICROFLUIDICS FOR NANO DISC DDS EVALUATION」

2017 年度<企業共同研究>

60) 喜多理王 (代表) 企業共同研究

61) 喜多理王 (代表) 企業共同研究

62) 槌谷和義 (代表) 企業共同研究

63) 岡村陽介 (代表) 企業共同研究

64) 岡村陽介 (代表) 企業共同研究

65) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究

66) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究

67) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究

68) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究

69) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究

70) 砂見雄太 (分担) 企業共同研究

71) 砂見雄太 (代表) 企業委託研究

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

2016 年度<科学研究費助成事業>

- 72) 樋谷和義 (研究代表者)
 挑戦的萌芽研究 (2015~2016 年度)
 「細胞内・表面センシングを対象とした多機能性微小プローブ型センサの開発」
- 73) 岡村陽介 (研究代表者)
 若手研究 (B) (2015~2016 年度)
 「真球ナノ粒子の形状変換法の確立と 2 次元相互作用を活用した医用展開」
- 74) 岡村陽介 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2015~2017 年度)
 「細胞外マトリックスを標的とする新たな治療技術の開発」
- 75) 岡村陽介 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2016~2018 年度)
 「Bio-friendly nanosheets loaded with laser-generated nano-containers that release metal ions to accelerate wound healing」
- 76) 岡村陽介 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2016~2018 年度)
 「薬剤担持ナノシートと MPC のナノ表面処理を応用した新規骨折治療法に関する基礎研究」
- 77) 木村啓志 (研究分担者)
 新学術領域研究 (2014~2017 年度)
 「in vitro において継続的に精子を産生する新規培養系の開発」
- 78) 木村啓志 (研究代表者)
 基盤研究 (C) (2014~2016 年度)
 「受精率向上を目指す体外受精卵培養マイクロシステムの開発」
- 79) 木村啓志 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2014~2016 年度)
 「新規血管再生促進性培養細胞移植による脳梗塞治療法の開発」
- 80) 砂見雄太 (研究代表者)
 若手研究 (B) (2015~2016 年度)
 「画像認識技術を用いたウェブ搬送時における不具合防止システムの開発」
- 81) 砂見雄太 (研究分担者)
 基盤研究 (C) (2015~2017 年度)
 「R 2 R P E 技術の確立を目指したウェブハンドリング技術の高度化に関する研究」
- 82) 大友麻子 (研究分担者)
 基盤研究 (B) (2014~2016 年度)
 「運動ニューロンの恒常性維持に関わる分子機構の解明」
- 83) 中川草 (研究代表者)
 若手研究 (B) (2016~2017 年度)
 「大量塩基配列データを用いた機能性内在性ウイルス配列の比較ゲノム解析」
- 84) 中川草 (研究分担者)
 基盤研究 (A) (2016~2018 年度)
 「顔形状を規定するゲノム変異の網羅的探索によるゲノム・モンタージュ技術の開発」
- 85) 樺山一哉 (研究分担者)
 基盤研究 (A) (2016~2019 年度)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

「細胞表層糖鎖による免疫制御機構の解明とその利用」

86) 樺山一哉 (研究分担者)

基盤研究 (C) (2015~2017 年度)

「生体膜マイクロドメインと膜受容体の可視化による揮発性麻酔薬の作用機序の解明」

2016 年度<科学研究費助成事業以外>

87) 喜多理王 (研究代表者), 木村啓志 (研究分担者)

東海大学連合後援会 研究助成 (2015~2017 年度)

「汚染水に含まれるトリチウムの分離法開発」

88) 槌谷和義 (研究代表者)

国立研究開発法人科学技術振興機構 マッチングプランナープログラム探索試験 (2015~2016 年度)

「耐久性に優れた固体 pH センサの開発と評価」

89) 岡村陽介 (研究代表者), 張宏 (研究分担者)

国立研究開発法人科学技術振興機構 マッチングプランナープログラム探索試験 (2015~2016 年度)

「保水・保定を実現する生体組織イメージング用撥水性超薄膜の創製」

90) 岡村陽介 (研究分担者)

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」 (2014~2016 年度)

「血液接触性医療材料における血栓付着メカニズムの解明 -血小板活性化微細構造可視モデルの構築と新規材料の創生-」

91) 岡村陽介 (研究分担者)

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」 (2014~2016 年度)

「高プロトン伝導性無機-有機ハイブリッド材料を用いた次世代型燃料電池の創製」

92) 岡村陽介 (研究代表者)

平成 28 年度物質・デバイス領域共同研究拠点 基盤共同研究・北海道大学 (2016 年度)

「課題番号: 20161027, カバーガラスいらずの生体組織イメージング用超薄膜の開発に関する研究」

93) 木村啓志 (研究分担者)

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」 (2015~2017 年度)

「ヒト iPS 細胞由来肝組織を用いた疾患治療法の確立」

94) 木村啓志 (研究代表者), 喜多理王 (研究分担者)

機械工業振興補助事業 (2016~2017 年度)

「放射能汚染水中のトリチウム分離技術の開発研究補助事業」

95) 砂見雄太 (研究代表者)

公益財団法人天田財団 一般研究助成<塑性加工> (2016 (12 月) ~2018 年度)

「表面修飾による高分子超薄膜の高機能化とその応用」

96) 砂見雄太 (研究代表者)

公益財団法人 JKA 平成 28 年度研究補助 (2016~2017 年度)

「極薄プラスチックフィルムの摩擦特性とその搬送技術の高度化」

97) 砂見雄太 (研究分担者)

公益財団法人 JKA 平成 28 年度研究補助 (2016 年度)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

「薄膜プラスチックの熱粘弾性特性と厚みムラを考慮した巻取り技術」

98) 大友麻子 (研究代表者)

2015 年度東海大学医学部研究助成金・重点的研究領域 (2015～2016 年度)

「運動ニューロンの極性と軸索伸長制御を可能とする新規培養系の確立」

99) 中川草 (研究代表者)

京都大学ウイルス研究所共同研究資金 (2016 年度)

「大量塩基配列データを用いた機能性内在性ウイルス配列の比較ゲノム解析」

100) 中川草 (研究分担)

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」 (2016～2018 年度)

「ゲノム編集動物作製基盤技術の確立と病態解析モデル作製への応用」

2016 年度<企業共同研究>

- | | |
|----------------|--------|
| 101) 喜多理王 (代表) | 企業共同研究 |
| 102) 喜多理王 (分担) | 企業共同研究 |
| 103) 槌谷和義 (代表) | 企業共同研究 |
| 104) 槌谷和義 (代表) | 企業共同研究 |
| 105) 槌谷和義 (代表) | 企業共同研究 |
| 106) 槌谷和義 (代表) | 企業共同研究 |
| 107) 岡村陽介、砂見雄太 | 企業共同研究 |
| 108) 岡村陽介 (代表) | 企業共同研究 |
| 109) 木村啓志 (代表) | 企業共同研究 |
| 110) 砂見雄太 (代表) | 企業共同研究 |
| 111) 砂見雄太 (代表) | 企業共同研究 |
| 112) 砂見雄太 (代表) | 企業共同研究 |
| 113) 砂見雄太 (代表) | 企業共同研究 |

2015 年度<科学研究費助成事業>

114) 喜多理王 (研究代表者)

新学術領域研究(公募研究) (2014～2015 年度)

「ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析」

115) 喜多理王 (研究代表者)

基盤研究 (B) (2012～2015 年度)

「温度勾配を外場とする高分子の不可逆的分子拡散の解析」

116) 槌谷和義 (研究代表者)

挑戦的萌芽研究

「細胞内・表面センシングを対象とした多機能性微小プローブ型センサの開発」

117) 岡村 陽介 (研究代表者).

新学術領域研究 (公募研究), (2014～2015 年度)

高分子超薄膜を用いた未活性浮遊細胞固定技術 “ナノラッピング” の確立と機能解明.

118) 岡村 陽介 (研究代表者).

若手研究(B), (2015～2016 年度)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

真球ナノ粒子の形状変換法の確立と 2 次元相互作用を活用した医用展開.

119) 岡村 陽介 (分担研究者).

基盤研究(C), (2015~2017 年度)

細胞外マトリックスを標的とする新たな治療技術の開発.

120) 木村啓志 (分担)、小川毅彦 (代表)

新学術領域研究(研究領域提案型)(分担) (2014~2017 年度)

「in vitro において継続的に精子を産生する新規培養系の開発」

121) 木村啓志 (代表)

基盤研究 (C) (2014~2016 年度)

「受精率向上を目指す体外受精卵培養マイクロシステムの開発」

122) 木村啓志 (分担)、瀧澤俊也 (代表)

基盤研究 (C) (2014~2016 年度)

「新規血管再生促進性培養細胞移植による脳梗塞治療法の開発」

123) 大友麻子 (研究代表者)

若手研究(B) (2013~2015 年度)

「家族性筋萎縮性側索硬化症 2 型疾患 iPS 細胞の樹立と ALS2 疾患モデル細胞の作出」

124) 大友麻子 (研究分担者)

基盤研究 (B) (2014~2016 年度)

「運動ニューロンの恒常性維持に関わる分子機構の解明」

125) 砂見雄太 (代表)

若手研究 (B) (2015~2016 年度)

「画像認識技術を用いたウェブ搬送時における不具合防止システムの開発」

126) 砂見雄太 (分担)、橋本巨 (代表)

基盤研究 (C) (2015~2017 年度)

「R 2 R P E 技術の確立を目指したウェブハンドリング技術の高度化に関する研究」

2015 年度<科学研究費助成事業以外>

127) 喜多理王、木村啓志

東海大学連合後援会 研究助成 (2015~2017 年度)

「汚染水に含まれるトリチウムの分離法開発」

128) 槌谷和義

平成 27 年度 マッチングプランナー・プログラム「探索試験」

「耐久性に優れた固体 pH センサの開発と評価」

129) 岡村 陽介 (研究代表者)、張 宏 (研究分担者).

科学技術振興機構 研究成果展開事業マッチングプランナー プログラム「探索試験」, (2015~2016 年度)

保水・保定を実現する生体組織イメージング用撥水性超薄膜の創製.

130) 岡村 陽介 (分担研究者).

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」, (2014~2016 年度)

131) 血液接触性医療材料における血栓付着メカニズムの解明 -血小板活性化微細構造可視モデルの構築と新規材料の創生-

132) 岡村 陽介 (分担研究者).

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

東海大学総合研究機構「プロジェクト研究」, (2014～2016 年度)

高プロトン伝導性無機-有機ハイブリッド材料を用いた次世代型燃料電池の創製.

133) 岡村 陽介 (研究代表者).

平成 27 年度物質・デバイス領域共同研究拠点, (2015 年度)

熱ナノインプリント技術を利用した高分子超薄膜への貫通孔付与に関する研究 (課題番号: 2015096).

134) 木村啓志 (分担)、紙谷聡英、加川建弘、住吉秀明

東海大学 総合研究機構「プロジェクト研究」 (2015～2017 年度)

「ヒト iPS 細胞由来肝組織を用いた疾患治療法の確立」

135) 木村啓志

長崎大学熱帯医学研究拠点一般共同研究 (2015 年度)

「マラリア感染赤血球の機械的性質及び生物学的指標評価デバイスの構築」

136) 大友麻子

東海大学医学部研究助成金・重点領域研究 (2015～2016 年度)

「運動ニューロンの極性と軸索伸長制御を可能とする新規培養系の確立」

137) 砂見雄太

公益財団法人 カシオ科学振興財団 第 33 回 (平成 27 年度) 研究助成

138) 中川草

京都大学ウイルス研究所共同研究資金

139) 中川草

2015 年度東海大学医学部研究助成金 萌芽的研究助成

2015 年度<企業共同研究>

140) 喜多理王 (代表) 企業共同研究

141) 喜多理王 (分担) 企業共同研究

142) 岡村陽介 (代表) 企業共同研究

143) 木村啓志 (代表) 企業共同研究

144) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究

145) 砂見雄太 (代表) 企業共同研究

2014 年度<科学研究費助成事業>

146) 喜多理王 (研究代表者)

基盤研究 (B) (2012～2015 年度)

「温度勾配を外場とする高分子の不可逆的分子拡散の解析」

147) 喜多理王 (研究代表者)

新学術領域研究 (2014～2015 年度)

「ソレー係数測定による温度勾配を外場とするソフトマテリアルの非平衡物性解析」

148) 槌谷和義 (研究代表者)

基盤研究 (C) (2012～2014 年度)

「新しい極微小領域 pH センサの開発」

149) 岡村陽介 (研究代表者)

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

新学術領域研究 (2014～2015 年度)

「高分子超薄膜を用いた未活性浮遊細胞固定技術“ナノラッピング”の確立と機能解明」

150) 岡村陽介 (研究代表者)

若手研究 (B) (2013～2014 年度)

「高分子超薄膜の裁断化とナノパッチワーク吸着特性を利用した新規癒着防止材への応用」

151) 木村啓志 (研究代表者)

新学術領域研究 (2013～2014 年度)

「細胞間相互作用の解明に向けたマイクロ流体プローブ集積型アッセイツールの構築」

152) 木村啓志 (研究代表者)

基盤研究 (C) (2014～2016 年度)

「受精率向上を目指す体外受精卵培養マイクロシステムの開発」

153) 大友麻子 (研究代表者)

若手研究 (B) (2013～2015 年度)

「家族性筋萎縮性側索硬化症 2 型疾患 iPS 細胞の樹立と ALS2 疾患モデル細胞の作出」

154) 砂見雄太 (研究代表者)

研究活動スタート支援 (2013～2014 年度)

「ウェブハンドリング技術の高度化を目的とした基礎研究」

155) 中川草 (研究代表者)

研究活動スタート支援 (2013～2014 年度)

「哺乳類 29 種の内在性ウイルス配列の比較ゲノム進化解析」

2014 年度<科学研究費助成事業以外>

156) 岡村陽介

向科学技術振興財団 平成 25 年度研究助成 (2014 年度)

「特定物質を吸着する高分子超薄膜 “貼るナノ吸着分離材” の開発」

2014 年度<企業共同研究>

157) 喜多理王 (代表) 企業共同研究

158) 喜多理王 (分担) 企業共同研究

159) 喜多理王 (分担) 企業共同研究

160) 槌谷和義 (代表) 企業共同研究

161) 槌谷和義 (代表) 企業共同研究

162) 槌谷和義 (代表) 企業共同研究

163) 岡村陽介 (代表) 企業共同研究

164) 木村啓志 (代表) 企業共同研究

165) 木村啓志 (代表) 企業共同研究

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし

法人番号	131053
プロジェクト番号	S1411010

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 担 負	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 26 年度	施 設	94,284	54,284	40,000				
	装 置	39,411	20,911	18,500				
	設 備	18,800	9,875	8,925				
	研究費	95,623	36,229	24,283		35,111		
平成 27 年度	施 設							
	装 置	0						
	設 備	75,000	25,391	49,609				
	研究費	161,980	76,036	24,552		61,392		
平成 28 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	144,179	64,232	22,202		57,745		
平成 29 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	124,815	40,175	20,929		63,711		
平成 30 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	152,619	36,635	21,274		94,710		
総 額	施 設	94,284	54,284	40,000	0	0	0	0
	装 置	39,411	20,911	18,500	0	0	0	0
	設 備	93,800	35,266	58,534	0	0	0	0
	研究費	679,216	253,307	113,240	0	312,669	0	0
総 計	906,711	363,768	230,274	0	312,669	0	0	

法人番号

131053

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
マイクロ・ナノ研究開発センター	平成26	385m ²	5	150	94,284	40,000	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
クリーンルーム設備	平成26	クラス1000	1	17520 h	23,205	11,000	私学助成
恒温恒湿室設備	平成26	DW-1-5/RH-L	1	17520 h	16,205	7,500	私学助成
				h			
				h			
(研究設備)							
ミューコーター	平成26	μ350	1	1750 h	9,800	5,762	私学助成
オールインワン顕微鏡システム	平成26	BZ-X700	1	3600 h	9,000	3,163	私学助成
卓上型マスクレス・リングラファイ装置	平成27	μ PG101	1	800 h	20,000	13,333	私学助成
リアクティブイオンエッチング装置	平成27	RIE-10NRT	1	1200 h	20,000	12,943	私学助成
デスクトップ型次世代シーケンサー	平成27	MiseqシステムSY-410-1003	1	104 回	15,000	10,000	私学助成
全反射エバネッセント顕微鏡(TIRF)	平成27	Ti-E-TIRF-T4システム	1	1120 h	20,000	13,333	私学助成
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			

18 研究費の支出状況 (千円)

年 度	平成 26 年度	創るチーム	※共通予算からの支出は3チームで按分	
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	2,459	実験材料、施設備品	1,250	理化学機材、試薬、細胞等
光熱水費	203	電気代		電気代*3チームで按分
通信運搬費				
印刷製本費	12	印刷代		セミナーチラシ*3チームで按分
旅費交通費	80	国内出張		研究打合せ
報酬・委託料	84	講演料、委託費		WEBサイト製作、講師謝金
(機器備品修繕費等)	44	会合費		会議、研究打合せ
計	2,882			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	12	事務補助		時給890円、年間時間数41.5時間 実人数2人
教育研究経費支出				*全体に関わる業務のため按分
計	12			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	14,681		600	冷却遠心機、PC等
図 書				
計	14,681			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	2,360		2,360	学内1人
研究支援推進経費				
計	2,360			

		法人番号		131053
年 度	平成 26 年度 試すチーム			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	3,009	実験材料、施設備品	1,800	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	203	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費	13	印刷代		セミナーチラシ
旅 費 交 通 費	82	国内出張	1	学会発表
報 酬 ・ 委 託 料	84	講演料、委託費		WEBサイト製作、講師謝金
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	349	装置修繕、学会参加費	300	ランプ交換
計	3,740			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)	12	事務補助		時給890円、年間時間数41.5時間 実人数 2人
教育研究経費支出				* 全体に関わる業務のため按分
計	12			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	14,465		2,268	画像連結用100mmXY電動ステージ
図 書				
計	14,465			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	2,316		2,316	学内(外国人)1人
研究支援推進経費				
計	2,316			

年 度	平成 26 年度 知るチーム			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	3,109	実験材料、施設備品	1,900	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	203	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費				
印 刷 製 本 費	12	印刷代		セミナーチラシ
旅 費 交 通 費	87	国内出張	6	学会発表
報 酬 ・ 委 託 料	85	講演料、委託費		WEBサイト製作、講師謝金
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	58	学会参加費、会合費	13	学会参加費
計	3,554			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)	13	事務補助		時給890円、年間時間数41.5時間 実人数 2人
教育研究経費支出				* 全体に関わる業務のため按分
計	13			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	14,035		201	解析用PC
図 書				
計	14,035			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	2,442		2,442	学内1人
研究支援推進経費				
計	2,442			

法人番号

131053

年 度	平成 27 年度 創るチーム			※共通予算からの支出は3チームで按分	
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	6,184	実験材料、施設備品	3,736	理化学機材、試薬、細胞等	
光 熱 水 費	1,154	電気代		電気代 * 3チームで按分	
通 信 運 搬 費	6	送料			
印 刷 製 本 費	0				
旅 費 交 通 費	1,973	国内出張	1,847	学会発表、研究打合せ等	
報 酬 ・ 委 託 料	795	講演料、委託費	181	英文校閲	
()	569	修繕費、学会参加費	491	装置修理、研究打合せ	
計	10,681				
ア ル パ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	46	事務補助		時給920円、年間時間数127時間 実人数1人	
教育研究経費支出				* 全体に関わる業務のため按分	
計	46				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	10,220		5,625	インクジェットエンジン、PC等	
図 書					
計	10,220				
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント					
ポスト・ドクター	9,350		9,350	学内2人うち1人は外国人	
研究支援推進経費					
計	9,350				
年 度 平成 27 年度 試すチーム					
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	13,942	実験材料、施設備品	11,494	理化学機材、試薬、細胞等	
光 熱 水 費	1,154	電気代		電気代 * 3チームで按分	
通 信 運 搬 費	9	送料	3	フィルム送付	
印 刷 製 本 費	18	印刷代	18	フィルム印刷	
旅 費 交 通 費	1,420	国内外出張	1,294	学会発表、研究打合せ等	
報 酬 ・ 委 託 料	664	講演料、委託費	50	クリーニング等	
(機器備品修繕費等)	524	修繕費、学会参加費	446	装置修理、学会参加費	
計	17,731				
ア ル パ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	1,724	事務補助		時給1000円×2.791時間/年、706時間/年 時給920円、105時間/年、910円 40時間/年	
教育研究経費支出				時給920円、127時間/年 * 全体に関わる業務のため按分	
計	1,724			実人数 4人+1人	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	7,847		3,152	手動式マイティプレス、PC等	
図 書					
計	7,847				
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント					
ポスト・ドクター	6,890		6,890	学内2人うち1人は外国人	
研究支援推進経費					
計	6,890				

法人番号

131053

年 度	平成 27 年度 知るチーム		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	6,990	実験材料、施設備品	4,542
光 熱 水 費	1,153	電気代	
通 信 運 搬 費	21	送料	15
印 刷 製 本 費	0		0
旅 費 交 通 費	3,173	国内外出張	3,047
報 酬 ・ 委 託 料	1,159	講演料、委託費	545
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	863	修繕費、学会参加費	785
計	13,359		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	46	事務補助	1,678
教 育 研 究 経 費 支 出			時給920円、年間時間数127時間 実人数 1人
計	46		* 全体に関わる業務のため按分
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	10,817		6,122
図 書			
計	10,817		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	2,405		2,405
ポスト・ドクター	9,472		9,472
研究支援推進経費			
計	11,877		

年 度	平成 28 年度 創るチーム ※共通予算からの支出は3チームで按分		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	5,175	実験材料、施設備品	3,210
光 熱 水 費	1,223	電気代	
通 信 運 搬 費	14	送料	
印 刷 製 本 費	509		
旅 費 交 通 費	1,290	国内外出張	1,328
報 酬 ・ 委 託 料	1,175	講演料、委託費	
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	590	修繕費、学会参加費	587
計	9,976		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	168	事務補助	168
教 育 研 究 経 費 支 出			時給930円×3、年間時間数547時間 実人数3人
計	168		* 全体に関わる業務のため按分
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	5,750		3,548
図 書			
計	5,750		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	4,760		4,760
研究支援推進経費			
計	4,760		

法人番号

131053

年 度	平成 28 年度 試すチーム		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	10,156	実験材料、施設備品	8,192
光 熱 水 費	1,223	電気代	
通 信 運 搬 費	31	送料	18
印 刷 製 本 費	510	印刷費	
旅 費 交 通 費	2,751	国内外出張	2,790
報 酬・委 託 料	1,237	講演料、委託費	62
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	1,150	修繕費、学会参加費	1,147
計	17,058		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	1,481	事務補助 実人数2人+3人	1,313
教 育 研 究 経 費 支 出			時給1000円、672時間/年、時給940円、762時間/年 時給930円、547時間/年 *全体に関わる業務のため按分
計	1,481		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	4,069		1,867
図 書			
計	4,069		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	9,659		9,659
研究支援推進経費			学内2人うち1人は外国人
計	9,659		

年 度	平成 28 年度 知るチーム		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	6,618	実験材料、施設備品	4,653
光 熱 水 費	1,222	電気代	
通 信 運 搬 費	14	送料	
印 刷 製 本 費	1,180		671
旅 費 交 通 費	3,783	国内外出張	3,820
報 酬・委 託 料	1,952	講演料、委託費	777
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	612	修繕費、学会参加費	608
計	15,381		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	169	事務補助	168
教 育 研 究 経 費 支 出			時給930円×3,年間時間数547時間 実人数3人 *全体に関わる業務のため按分
計	169		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	6,032		3,829
図 書			
計	6,032		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	2,398		2,398
ポスト・ドクター	9,533		9,533
研究支援推進経費			学内1人 学内2人うち1人は外国人
計	11,931		

法人番号

131053

年 度	平成 29 年度 創るチーム			※共通予算からの支出は3チームで按分
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	4,170	実験材料、施設備品	2,487	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	1,158	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費	14	送料	14	試薬送付
印 刷 製 本 費	1,083	印刷代	824	論文投稿費
旅 費 交 通 費	1,371	国内外出張	1,178	学会発表、研究打合せ等
報 酬 ・ 委 託 料	226	講演料、委託費	34	英文校閲
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	834	修繕費、学会参加費	449	装置修理、学会参加費
計	8,856			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	670	事務補助	670	時給960円167.5時間/年、時給930円152.5時間/年、1人、時給930円、127.5時間/年、1人。 時給1000円×1、1590時間/年
教 育 研 究 経 費 支 出				* 全体に関わる業務のため按分
計	670			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	3,808		1,376	卓上微量高速遠心分離機、変位測定ユニット、PC等
図 書				
計	3,808			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	13,720		13,720	3人(うち外国人2人)
研究支援推進経費				
計	13,720			

年 度	平成 29 年度 試すチーム			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	6,119	実験材料、施設備品	4,436	理化学機材、試薬、細胞等
光 熱 水 費	1,158	電気代		電気代 * 3チームで按分
通 信 運 搬 費	55	送料	31	試薬、フィルム送付
印 刷 製 本 費	700	印刷代	441	論文投稿費
旅 費 交 通 費	2,476	国内外出張	2,283	学会発表、研究打合せ等
報 酬 ・ 委 託 料	373	講演料、委託費	181	英文校閲、クリーニング等
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	1,237	修繕費、学会参加費	852	装置修理、学会参加費
計	12,118			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	1,924	事務補助2人	1,254	時給1000円×2、648.5時間/年、605時間/年
教 育 研 究 経 費 支 出		実人数2人+3人	670	時給960円167.5時間/年、時給930円152.5時間/年、1人、時給930円、127.5時間/年、1人。 時給1000円×1、1590時間/年
計	1,924			* 全体に関わる業務のため按分
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	2,986		554	PC等
図 書				
計	2,986			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	4,769		4,769	外国人1人
研究支援推進経費				
計	4,769			

法人番号

131053

年 度	平成 29 年度 知るチーム		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	6,855	実験材料、施設備品	5,172
光 熱 水 費	1,157	電気代	
通 信 運 搬 費	20	送料	7
印 刷 製 本 費	421	印刷代	162
旅 費 交 通 費	1,785	国内外出張	1,592
報 酬・委 託 料	1,190	講演料、委託費	998
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	942	修繕費、学会参加費	557
計	12,370		
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	670	事務補助	670
教育研究経費支出			時給960円167.5時間/年、時給930円152.5時間/年、1人、時給930円、127.5時間/年、1人、 時給1000円×1、1590時間/年
計	670		*全体に関わる業務のため按分
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	3,384		952
図 書			
計	3,384		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	14,337		14,337
研究支援推進経費			3人(うち外国人1人)
計	14,337		

年 度	平成 30 年度 創るチーム			※共通予算からの支出は3チームで按分
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	
主 な 内 容				
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	4,648	実験材料、施設備品	2,711	
光 熱 水 費	1,103	電気代		
通 信 運 搬 費	23	送料		
印 刷 製 本 費	601	印刷代	382	
旅 費 交 通 費	3,660	国内外出張	3,510	
報 酬・委 託 料	183	講演料、委託費	76	
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	1,190	修繕費、学会参加費	629	
計	11,408			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	915	事務補助1人 3人	73	
教育研究経費支出			842	
計	915		時給990円×1、年間時間数76.4時間 時給1000円×2、1100時間/年、1140時間/年 時給960円150時間/年、時給990円143.4時間/年 1人 *全体に関わる業務のため按分	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,354		205	
図 書				
計	1,354			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	13,720		13,720	
研究支援推進経費			学内2人うち1人は外国人	
計	13,720			

法人番号

131053

年 度	平成 30 年度 試すチーム		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	4,719	実験材料、施設備品	2,771
光 熱 水 費	1,103	電気代	
通 信 運 搬 費	26	送料	3
印 刷 製 本 費	220	印刷代	
旅 費 交 通 費	4,955	国内外出張	4,805
報 酬・委 託 料	180	講演料、委託費	73
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	993	修繕費、学会参加費	432
計	12,196		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	2,780	実験補助3人 事務3人	1,938 842
教育研究経費支出			時給1000円、680.5時間/年、730時間/年、時給990円360時間/年、時給960円176時間/年、1人
計	2,780		時給1000円×2、1100時間/年、1140時間/年 時給960円150時間/年、時給990円143.4時間/年 1人 *全体に関わる業務のため按分
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,575		426
図 書			
計	1,575		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	4,769		4,769
研究支援推進経費			外国人1人
計	4,769		

年 度	平成 30 年度 知るチーム		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	6,905	実験材料、施設備品	4,958
光 熱 水 費	1,104	電気代	
通 信 運 搬 費	23	送料	
印 刷 製 本 費	492	印刷代	272
旅 費 交 通 費	3,754	国内外出張	3,604
報 酬・委 託 料	170	講演料、委託費	63
(機 器 備 品 修 繕 費 等)	951	修繕費、学会参加費	391
計	13,399		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	845	事務補助1人 3人	3 842
教育研究経費支出			時給960円、4時間/年 時給1000円×2、1100時間/年、1140時間/年
計	845		時給960円150時間/年、時給990円143.4時間/年 1人 *全体に関わる業務のため按分
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	2,932		1,783
図 書			
計	2,932		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	14,337		14,337
研究支援推進経費			3人(うち外国人1人)
計	14,337		